高松市埋蔵文化財調査報告第73集

新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）

2004年3月
高松市教育委員会
四電ビジネス株式会社

例　　言

1　本書は，新ヨンデンビル別館（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で，高松市丸の内に所在する高松城跡(松平大膳家上屋敷跡)の調査報告を収録した。

2　発掘調査については高松市教育委員会が実施し，整理作業は委託業務とした。

3　調査から報告書に至るまで，下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意としたい。

小川望，片桐孝浩，日下正剛，小林謙一，乗松真也，松本和彦，佐藤竜馬，蔵本晋司，御厨義道，森村健一，森村紀代，両角まり，井上喜久男，伊藤　晃，香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　讃岐文化遺産研究会（順不同，敬称略）

4　高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）の調査は，小川賢（文化振興課文化財専門員），中西克也（讃岐文化遺産研究会）が行い，大朝利和の補佐を得た。

5　以下を委託業務で行った。

遺跡の測量及び図化：四航航空
遺物実測及び整理作業：片桐節子
遺物実測：アイシン精機株式会社
木製品及び漆器保存処理：株式会社吉田生物研究所
遺物写真撮影：杉本和樹（西大寺フォト）

6　第４章自然科学的分析，漆器鑑定は北野信彦氏（くらしき作陽大学）に依頼した。

7　本書の執筆は，第１章第１節及び第２章を川畑聰（文化振興課文化財専門員），第５章第２節を片桐節子，その他は小川が行った。編集は小川，片桐で分担し行った。

8　本文の挿図として，高松市都市計画図２千５百分の１「高松市街北部」を一部改変して使用した。

9　発掘調査で得られた資料は，高松市教育委員会で保管している。

10　本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を表す。

11　土壌及び土器観察の色調表現は，新版 標準土色帖（農林水産省技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修)による。

12　本報告書に掲載する遺物観察表の略記は，以下のように記す。

遺物種別

磁：磁器質製品　陶：陶質製品　土師質：土師質製品　石：石製品

目　　次

第１章　調査の経緯と経過

第１節　　調査の経緯 ･････････････････ ２Ｐ
第２節　　調査の経過 ･････････････････ ３Ｐ

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１節　　地理的環境 ･････････････････ ５Ｐ
第２節　　歴史的環境 ･････････････････ ５Ｐ

第３章　調査の結果

第１節　　主要遺構の概要 ･････････････ ８Ｐ
第２節　　基本土層 ･･････････････････ 10Ｐ
第３節　　遺構・遺物 ･････････････････ 29Ｐ

第４章　自然科学的分析

･････････････････ 335Ｐ

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷 ･････････････ 350Ｐ
第２節 絵図・文献から見た大膳家の歴史と屋敷地の変遷 ･････ 355Ｐ

挿図目次

第１図　調査範囲図
第２図　遺跡位置図
第３図　高松城跡周辺主要調査地位置図
第４図　第５面遺構配置図
第５図　第４面遺構配置図
第６図　第３面遺構配置図
第７図　第２面遺構配置図
第８図　第１面遺構配置図
第９図　基本土層模式図
第10図　Ｂ区東西（上段）・南北（下段）方向トレンチ土層図
第11図　Ｃ区南北方向トレンチ土層図
第12図　Ｃ－Ｄ区東西方向トレンチ土層図（その１）
第13図　Ｃ－Ｄ区東西方向トレンチ土層図（その２）
第14図　Ｅ区西壁土層図
第15図　Ｆ区南北方向土層図
第16図　Ａ区第４・５面セクション土層図
第17図　Ｆ区北壁（上段）・Ａ区第２面（中段）第３面（下段）セクション土層図
第18図　ＳＢ5001・5002平面・断面図
第19図　ＳＢ5003・5004平面・断面図
第20図　ＳＨ5001・5002平面・断面図
第21図　出土弥生土器実測図
第22図　出土弥生土器観察表
第23図　ＳＫ4001・ＳＤ4001平面・土層図
第24図　ＳＤ4001出土遺物実測図・観察表
第25図　ＳＫ4001出土遺物実測図・観察表
第26図　ＳＸ4001平面・断面図
第27図　ＳＸ4001出土遺物実測図（その１）
第28図　ＳＸ4001出土遺物観察表
第29図　ＳＸ4001出土遺物実測図・観察表（その２）
第30図　ＳＸ4001出土遺物実測図・観察表（その３）
第31図　ＳＸ4001出土遺物実測図・観察表（その４）
第32図　ＳＸ3002平面・断面図
第33図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その１）
第34図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その２）
第35図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その３）
第36図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その４）
第37図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その５）
第38図　ＳＸ3002出土遺物実測図（その６）
第39図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その７）
第40図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その８）
第41図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その９）
第42図　ＳＸ3002出土遺物実測図（その10）
第43図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その11）
第44図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その12）
第45図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その13）
第46図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その14）
第47図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その15）
第48図　ＳＸ3002出土遺物実測図（その16）
第49図　ＳＸ3002出土遺物観察表
第50図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その17）
第51図　ＳＸ3002出土遺物実測図（その18）
第52図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その19）
第53図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その20）
第54図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その21）
第55図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その22）
第56図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その23）
第57図　ＳＸ3002出土遺物実測図・観察表（その24）
第58図　ＳＸ3003・3007平面・土層図
第59図　ＳＸ3003出土遺物実測図・観察表（その１）
第60図　ＳＸ3003出土遺物実測図・観察表（その２）
第61図　ＳＸ3003出土遺物実測図・観察表（その３）
第62図　Ｅ区ＳＸ3007平面・土層図
第63図　Ｆ区ＳＸ3007平面・土層図
第64図　ＳＸ3007出土遺物実測図・観察表（その１）
第65図　ＳＸ3007出土遺物実測図・観察表（その２）
第66図　ＳＸ3004・3005・3006平面図
第67図　ＳＸ3004出土遺物実測図（その１）
第68図　ＳＸ3004出土遺物観察表
第69図　ＳＸ3004出土遺物実測図・観察表（その２）
第70図　ＳＸ3004出土遺物実測図・観察表（その３）
第71図　ＳＸ3004出土遺物実測図・観察表（その４）
第72図　ＳＸ3004出土遺物実測図（その５）
第73図　ＳＸ3004出土遺物実測図・観察表（その６）
第74図　ＳＸ3004出土遺物実測図（その７）
第75図　ＳＸ3004出土遺物観察表
第76図　ＳＸ3005出土遺物実測図（その１）
第77図　ＳＸ3005出土遺物観察表
第78図　ＳＸ3005出土遺物実測図・観察表（その２）
第79図　ＳＸ3005出土遺物実測図・観察表（その３）
第80図　ＳＸ3005出土遺物実測図・観察表（その４）
第81図　ＳＸ3005出土遺物実測図（その５）
第82図　ＳＸ3005出土遺物実測図（その６）
第83図　ＳＸ3005出土遺物観察表
第84図　ＳＸ3006出土遺物実測図（その１）

第85図　SX3006出土遺物観察表
第86図　SX3006出土遺物実測図・観察表（その２）
第87図　SE3004・3005・SD3007平面・土層図
第88図　SP3162・SE3004出土遺物実測図・観察表
第89図　SE3005出土遺物実測図・観察表（その１）
第90図　SE3005出土遺物実測図（その２）
第91図　SE3005出土遺物観察表
第92図　SD3007出土遺物実測図・観察表
第93図　SK3014平面･断面図
第94図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その１）
第95図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その２）
第96図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その３）
第97図　SK3018・3019・SX3002平面・土層図
第98図　SK3019出土遺物実測図・観察表
第99図　SK3019出土遺物観察表
第100図　SK3021平面・断面図
第101図　SK3021出土遺物実測図（その１）
第102図　SK3021出土遺物観察表
第103図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その２）
第104図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その３）
第105図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その４）
第106図　SK3022平面・断面図
第107図　SK3022出土遺物実測図・観察表
第108図　SK3028平面・土層図
第109図　SK3028出土遺物実測図
第110図　SK3028出土遺物観察表
第111図　SD3009平面･土層図
第112図　SD3009出土遺物実測図・観察表
第113図　SD3010平面図
第114図　上水施設平面･断面図
第115図　箱桝１設置状況
第116図　箱桝２検出状況
第117図　箱桝２設置状況
第118図　SE3003平面・断面図
第119図　上水道出土遺物実測図・観察表（その１）
第120図　上水道出土遺物実測図（その２）
第121図　上水道出土遺物実測図・観察表（その３）
第122図　SE3002平面・土層図
第123図　SE3002出土遺物実測図・観察表
第124図　SE3003・SP3163出土遺物実測図・観察表
第125図　SE3001平面・土層図
第126図　SE3001・SD3001・SP3328・SE3006出土遺物実測図・観察表
第127図　SE3006平面・土層図
第128図　SD3001・3006・SK3011平面・断面図
第129図　SD3006上層部埋納遺構遺物実測図・観察表
第130図　SP3318・SK3011・SP3258・3249出土遺物実測図・観察表
第131図　SE3007出土遺物実測図・観察表
第132図　SE3007平面・土層図
第133図　SX2008・2010平面･断面図
第134図　SX3001・杭列平面・断面図
第135図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その１）
第136図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その２）
第137図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その３）
第138図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その４）
第139図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その５）
第140図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その６）
第141図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その７）
第142図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その８）
第143図　SX2008出土遺物実測図（その９）
第144図　SX2008出土遺物実測図（その10）
第145図　SX2008出土遺物観察表
第146図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その11）
第147図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その12）
第148図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その13）
第149図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その14）
第150図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その15）
第151図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その16）
第152図　SX2008出土遺物実測図（その17）
第153図　SX2008出土遺物実測図（その18）
第154図　SX2008出土遺物観察表
第155図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その19）
第156図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その20）
第157図　SX2008出土遺物実測図（その21）
第158図　SX2008出土遺物観察表
第159図　SX2008出土遺物実測図（その22）
第160図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その23）
第161図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その24）
第162図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その25）
第163図　SX2008出土遺物実測図（その26）
第164図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その27）
第165図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その28）
第166図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その29）
第167図　SX2008出土遺物実測図（その30）
第168図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その31）
第169図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その32）
第170図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その33）
第171図　SX2008出土遺物実測図（その34）
第172図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その35）
第173図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その36）
第174図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その37）

第175図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その38）
第176図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その39）
第177図　SX2008出土遺物実測図（その40）
第178図　SX2008出土遺物観察表
第179図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その41）
第180図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その42）
第181図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その43）
第182図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その44）
第183図　SX2008出土遺物実測図（その45）
第184図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その46）
第185図　SX2008出土遺物実測図（その47）
第186図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その48）
第187図　SX2008出土遺物実測図（その49）
第188図　SX2010平面・断面図
第189図　SX2010出土遺物実測図・観察表
第190図　A区遺構平面・土層図
第191図　SE2001－①・②平面・土層図
第192図　SE2001出土遺物実測図・観察表（その１）
第193図　SE2001出土遺物実測図（その２）
第194図　SE2001出土遺物観察表
第195図　SK2001・2002平面・断面図
第196図　SP2001・2002平面・断面図
第197図　SE2002平面・土層図
第198図　SX2006・SK2001・2002出土遺物実測図・観察表
第199図　SE2002出土遺物実測図（その１）
第200図　SE2002出土遺物実測図（その２）
第201図　SE2002出土遺物観察表
第202図　第２面A－C区北部遺構平面図
第203図　第２面A－C区北部遺構土層図
第204図　SK2006・2005・2007出土遺物実測図
第205図　SK2006・2005・2007・2009出土遺物実測図・観察表
第206図　SD2007・SP2030・SK2011・SP2062・SK2007出土遺物実測図・観察表
第207図　SK2004・2019・SP2048・2026・2268・SK2017・2018・2014・SD2011・SK2023出土遺物実測図
第208図　SK2004・2019・SP2048・2026・2268・SK2017・2018・2014・SD2001・SK2023出土遺物観察表
第209図　SP2146・SX2005出土遺物実測図・観察表
第210図　C区北端部遺構平面図
第211図　第２面D区西半遺構平面・土層図
第212図　E区遺構平面図
第213図　SK2072・2073平面・土層図
第214図　瓦列・SD2009・2063平面・断面図
第215図　SD2009・SK2036・2050・2081・2082・2063出土遺物実測図・観察表
第216図　SK2073・2072・2052出土遺物実測図・観察表
第217図　瓦列出土遺物実測図（その１）
第218図　瓦列出土遺物実測図（その２）
第219図　瓦列出土遺物実測図・観察表（その３）
第220図　SK2085・SP2080・SK2084出土遺物実測図・観察表
第221図　SK2084・2085平面・断面図
第222図　SK2038・2039・2041・2071遺構平面・土層図
第223図　SK2038出土遺物実測図・観察表
第224図　SK2094平面・断面図
第225図　SK2041・2071・2039・2094出土遺物実測図・観察表
第226図　SK2097平面・断面・土層図
第227図　SK2097出土遺物実測図
第228図　SK2097出土遺物観察表
第229図　SK2095平面・断面図
第230図　SK2095出土遺物実測図・観察表（その１）
第231図　SK2095出土遺物実測図（その２）
第232図　SK2095出土遺物観察表
第233図　SK2076平面・土層図
第234図　SK2076出土遺物実測図（その１）
第235図　SK2076出土遺物実測図（その２）
第236図　SK2076出土遺物観察表
第237図　SK2076出土遺物実測図・観察表（その３）
第238図　SK2074平面図
第239図　SK2074出土遺物実測図・観察表
第240図　SE2003平面・土層図
第241図　SD2010・2011・SE2003出土遺物実測図・観察表
第242図　第２面上層屋敷境平面図
第243図　第２面下層屋敷境平面図
第244図　SA2001・2002・SD1003・SK2023・2020断面・土層図
第245図　SB2001平面・断面図
第246図　SB2002平面図・断面図
第247図　SD2003出土遺物実測図・観察表
第248図　SD2003出土遺物実測図・観察表
第249図　SD2006平面・断面図
第250図　SP2294平面・断面図
第251図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その１）
第252図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その２）

第253図　SD2006出土遺物実測図（その３）
第254図　SD2006出土遺物実測図（その４）
第255図　SD2006出土遺物観察表
第256図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その５）
第257図　SD2006出土遺物実測図（その６）
第258図　SD2006出土遺物実測図（その７）
第259図　SD2006出土遺物観察表
第260図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その８）
第261図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その９）
第262図　SD2006出土遺物実測図・観察表（その10）
第263図　SD2004・2005平面・断面図
第264図　SD2004・2005出土遺物実測図・観察表
第265図　SK2028・SP2294出土遺物実測図・観察表
第266図　SX2003・2004平面・土層図
第267図　SX2002・2004出土遺物実測図・観察表
第268図　第１面屋敷境平面図
第269図　第１面Ｅ区遺構平面・断面図
第270図　SA1001・SK1009土層図
第271図　SB1002平面・断面土層図
第272図　SA1001・SZ－１出土遺物実測図・観察表
第273図　SB1002検出中出土遺物実測図・観察表
第274図　SD1003出土遺物実測図・観察表（その１）
第275図　SD1003出土遺物実測図（その２）
第276図　SD1003出土遺物観察表
第277図　SB1001平面・断面図
第278図　SB1001出土遺物実測図・観察表（その１）
第279図　SB1001出土遺物実測図・観察表（その２）
第280図　SZ1001上面・立面図
第281図　SZ1001出土遺物実測図・観察表
第282図　SX1005出土遺物実測図
第283図　SX1003平面・土層図
第284図　SX1004平面・土層図
第285図　SX1003・1004出土遺物実測図・観察表（その１）
第286図　SX1003・1004出土遺物実測図・観察表（その２）
第287図　SX1030・1031・1032平面・断面図
第288図　SK1030・1032出土遺物実測図・観察表
第289図　SK1030・1031・1032出土遺物実測図・観察表
第290図　SK1009・2020・1002・SP1013・1023・SX1001・1002出土遺物実測図・観察表
第291図　SK1006平面・断面図
第292図　SK1017平面・土層図
第293図　SK1018平面・土層図
第294図　SK1020平面・断面図
第295図　SK1024・1006出土遺物実測図
第296図　SK1024・1006・1026・SP1041・SD1002・SP1049出土遺物実測図・観察表
第297図　SK1017出土遺物実測図・観察表
第298図　SK1018出土遺物実測図・観察表
第299図　SK1020出土遺物実測図・観察表
第300図　Ｃ区南西部第３面整地層出土遺物実測図・観察表
第301図　Ａ区第３面整地層出土遺物実測図・観察表
第302図　道路整地出土遺物実測
第303図　道路整地出土遺物実測図・観察表
第304図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図・観察表（その１）
第305図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図（その２）
第306図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図・観察表（その３）
第307図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図・観察表（その４）
第308図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図・観察表（その５）
第309図　機械掘削・人力掘削中出土遺物実測図（その６）
第310図　機械掘削・人力掘削中出土遺物観察表
第311図　遺構変遷図（その１）
第312図　遺構変遷図（その２）
第313図　遺構変遷図（その３）
第314図　『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』
第315図　『讃岐国高松城図寛永十七年生駒家封地没収大洲藩主加藤泰興預当時』
第316図　『高松城下図屏風』
第317図　『高松城下図』(享保年間)
第318図　『東讃高松絵図』

図版目次

図版１　調査区遠景（南西方向から）
調査区近景（南方向から）
図版２　第３面調査区全景
図版３　第２面調査区全景
図版４　第１面調査区全景（四電ビルより）
第２回門石列完掘状況（北方向より）
図版５　第５面Ａ－Ｃ区柱穴群（南方向から）
弥生柱穴群断面
ＳＫ4001断面
ＳＫ4001（南方向から）
ＳＫ4001断面
ＳＤ4001（南方向から）
ＳＸ4001断面
ＳＸ4001（東方向から）
図版６　Ｆ区第３面完掘（南方向から）
Ｅ区第３面完掘（南方向から）
第４面Ａ－Ｃ区全景（北方向から）
ＳＸ3002（東方向から）
ＳＸ3002断面
ＳＸ3002断面
ＳＸ3002遺物出土状況
ＳＸ3002遺物出土状況
図版７　ＳＸ3002遺物出土状況
ＳＸ3002遺物出土状況
ＳＤ3004（東方向から）
ＳＤ3004竹樋跡（東方向から）
ＳＤ3011（東方向から）
ＳＥ3005・ＳＤ3007・ＳＸ3002（南方向から）
ＳＤ3006・3011（南方向から）
図版８　ＳＤ3006・3011
ＳＤ3004・3006
ＳＤ3004断面
ＳＤ3006遺物出土状況
ＳＤ3004桝
ＳＤ3004桝
ＳＤ3004桝
ＳＤ3004・ＳＥ3003（南方向から）
図版９　ＳＥ3002と竹樋（東方向から）
ＳＥ3001（南方向から）
ＳＥ3003断面
ＳＥ3006（北方向から）
ＳＥ3004
ＳＥ3004・3005
図版10　ＳＥ3007（東方向から）
ＳＸ3003（西方向から）
ＳＤ3009（南方向から）
ＳＥ3005・ＳＤ3007
ＳＥ3005・ＳＤ3007
ＳＸ3007断面（東方向から）
ＳＤ3010（北東方向から）
Ｅ区ＳＸ3007（東方向から）
ＳＫ3028断面（南方向から）
ＳＫ3014断面
図版11　焼土層除去後柱穴列（東方向から）
第２面Ｆ区（北方向から）
ＳＢ2001柱穴列断面（東方向から）
第２面Ｄ区
ＳＢ2001断面
ＳＢ2001断面
ＳＥ2001（西方向から）
図版12　ＳＥ2002完掘（南方向から）
ＳＥ2003（北方向から）
ＳＤ2006断面（西方向から）
ＳＤ2006（東方向から）
ＳＰ2294（南方向から）
ＳＤ2003（西方向から）
ＳＤ2010（東方向から）
ＳＤ2011（東方向から）
図版13　ＳＸ2008（北東方向から）
ＳＫ2076
瓦列１
瓦列２
ＳＺ1001（西方向から）
ＳＢ1001（西方向から）
ＳＸ1003（南方向から）
ＳＸ1004（東方向から）
図版14　ＳＢ1002断面
ＳＢ1002断面
ＳＡ1001（西側）
ＳＡ1001（東側）
ＳＢ1002（南方向から）
Ｅ区ＳＤ1003（東方向から）
ＳＤ1003（東方向から）
ＳＤ1003（西方向から）
図版15　Ｂ区植木鉢
Ｂ区植木鉢

Ｂ区東壁断面
Ｂ区南壁断面
Ｆ区道整地断面
Ｆ区道断面（東壁）
東西道
第２面Ｂ区炭化層検出状況
図版16　ＳＸ3002出土中国製品
ＳＸ3002出土肥前系陶器
図版17　ＳＸ3002出土肥前系陶器
ＳＸ3002出土肥前系陶器
図版18　ＳＸ3002出土肥前系陶器
ＳＸ3002出土陶器
図版19　ＳＸ3002出土瀬戸・美濃系陶器
ＳＸ3002出土備前系陶器
図版20　ＳＸ3002出土土師器
ＳＸ3002出土土師器
図版21　ＳＸ3003出土遺物
ＳＸ3004出土陶器
図版22　ＳＸ3004出土磁器
ＳＸ3004出土陶器
図版23　ＳＸ3005出土遺物
ＳＸ3005出土遺物
図版24　ＳＸ3006出土遺物
ＳＸ3006出土遺物
図版25　ＳＸ3004・3005出土土師器
ＳＸ3007出土遺物
図版26　ＳＥ3004出土遺物
ＳＥ3005出土遺物
図版27　ＳＤ3007出土遺物
ＳＫ3014出土遺物
図版28　ＳＫ3021出土陶器
ＳＫ3021出土磁器
図版29　ＳＫ3021出土土師器
ＳＫ3021出土遺物
図版30　ＳＤ4001出土遺物
ＳＫ4001出土遺物
図版31　ＳＸ2008出土磁器
ＳＸ2008出土磁器
図版32　ＳＸ2008出土瀬戸・美濃系陶器
ＳＸ2008出土備前系陶器
図版33　ＳＸ2008出土京・信楽系陶器
ＳＸ2008出土焼塩壷
図版34　ＳＸ2008出土土師器
ＳＤ2006出土陶器
図版35　ＳＤ2006出土磁器
ＳＤ2006出土磁器
図版36　ＳＤ2006出土磁器
ＳＤ2006出土備前系陶器
図版37　ＳＤ2006出土焼塩壷
ＳＤ2006出土土師器
図版38　ＳＤ2003出土遺物
ＳＤ1003出土遺物
図版39　理兵衛焼製品
源内焼製品
図版40　富田焼・理兵衛焼製品
弥生土器
図版41　調査区内出土焼塩壷
擂鉢
図版42　出土陶磁器類
図版43　出土陶磁器類
図版44　出土漆器
図版45　出土漆器
図版46　出土漆器
図版47　出土漆器
図版48　上水道継手・井戸枠
図版49　出土下駄
出土箸
図版50　出土木製品
出土木簡
出土瓦
図版51　出土軒丸瓦
出土軒丸瓦
図版52　出土軒平瓦
出土道具瓦
図版53　『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』
図版54　『讃岐国高松城図寛永十七年生駒家封地没収大洲藩主加藤泰興預当時』
図版55　『高松城下図屏風』
図版56　『高松城下図』（享保年間）
図版57　『高松市街古図』
図版58　『讃岐高松城下絵図』
図版59　『東讃高松絵図』

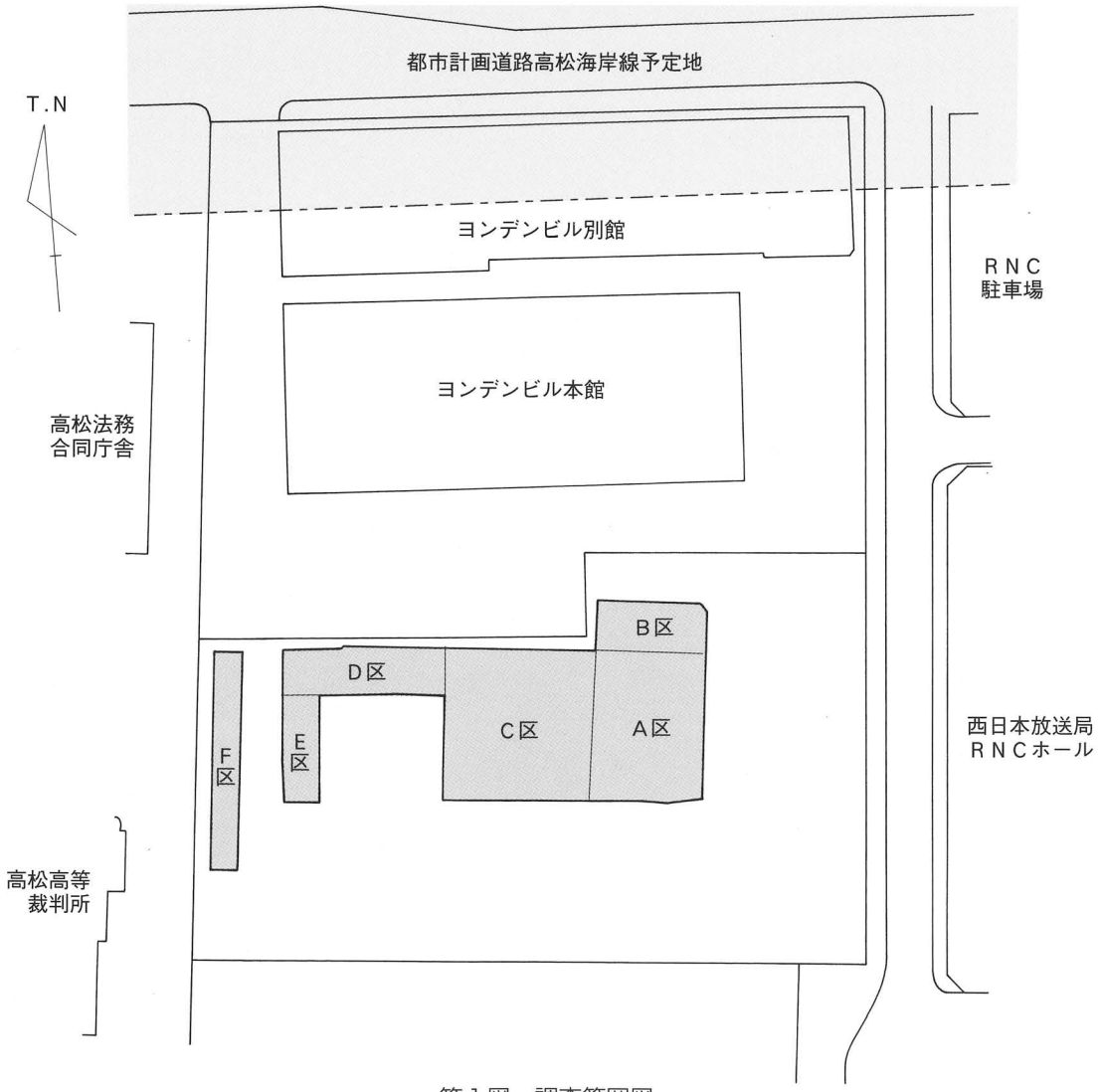
第１章　調査の経緯と経過

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１章第１節　調査の経緯

都市計画道路高松海岸線の拡幅計画により，ヨンデンビル別館が立ち退くこととなり高松北警察署跡地への移転により空地となる高松家庭裁判所用地に移転することとなった。移転予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地であることから，香川県教育委員会の示唆により，四電産業株式会社（現在は四電ビジネス株式会社）及び高松家庭裁判所と高松市教育委員会とで埋蔵文化財の取扱について協議を行った。結果，「現状では周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが，包蔵地に隣接しており，高松城跡に関係する遺構が存在する可能性が高く，工事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に重大な影響を及ぼす可能性もあるため，工事着手前に試掘調査を実施し遺跡の有無を確認することが望ましい。」ということで合意に達した。

これを受けて，四電産業株式会社及び高松家庭裁判所から，高松市教育委員会に対し埋蔵文化財確認調査の依頼があり，平成12年７月13・14日に高松市教育委員会が試掘調査を実施した。試掘調査は，家庭裁判所の機能を損なわない範囲でのみ実施し，弥生時代の包含層，江戸時代の遺構面２面と遺構・遺物が確認された。高松市教育委員会は，試掘調査結果を香川県教育委員会に報告し，当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地となった。次いで，平成14年３月に家庭裁判所の建物



第１図　調査範囲図

を撤去するのに伴い，香川県教育委員会が立会調査を実施し，建物が建っていた範囲には埋蔵文化財が包蔵されていないことが確認された。この間，四電産業株式会社は建物設計を進め，平成14年４月１日に香川県教育委員会へ「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の届出」を提出し，事前に発掘調査を実施するよう指導があった。

そこで試掘・立会調査結果をもとに，高松市教育委員会と四電産業株式会社とで協議を行った結果，新ヨンデンビル別館と駐輪場建設予定地のうち，家庭裁判所建物部分を除いた約1520㎡について工事着手前に発掘調査を実施することで合意し，平成14年４月１日に両者の間で埋蔵文化財調査協定書を締結した。業務名は「新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務」とし，高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い，その費用負担および契約・支払事務については四電産業株式会社が行うこととした。

発掘調査の実施にあたり，試掘調査の範囲が限られていたので，確認のために調査予定地全域にトレンチを設定し掘削したところ，調査の必要な範囲が約1520㎡から約970㎡に減少するとともに，調査の必要な主要遺構面が２面から３面に増加した。このため再協議を実施し，総調査面積がほとんど変更ないことから，協定書等を変更することなく，発掘調査を進めることになった。なお，協定上は４月15日～８月31日を発掘調査期間としていたが，弥生時代の遺構面が新たに確認されるなどしたため，終了は工事の影響のない９月１日までとなった。また，整理は，９月１日～平成16年３月31日に高松市教育委員会文化振興課円座整理事務所で実施した。

参考文献

『高松市内遺跡発掘調査概報 －平成12年度国庫補助事業－』高松市教育委員会 2001

第１章第２節　調査の経過

発掘調査の範囲については，上記した経緯により第１図で示す箇所で行った。遺構検出及び遺物の取り上げ等の作業時に，調査地をＡ～Ｆ区に分割し呼称しており，本報告にあたっても同調査区名を用いる。調査の実施状況については，下記の調査日誌のとおりである。６，７月は，梅雨，台風の接近により，幾度か調査地が水没し復旧に手間取る等，遅れぎみの進捗状況であったが，８月は晴天が続き，作業員及び関係者の尽力によって，９月１日に調査を完了することができた。

調査日誌

4/15（金）　平成12年度試掘調査の再確認。
4/17（水）　予備確認調査。
4/18（木）　調査範囲確定。機械掘削。
5/ 7（火）　ベルトコンベアー設置。人力掘削開始。
5/16（木）　SB1001検出。
6/ 1（土）　第１面写真測量。
6/ 3（月）　報道機関に調査現場公開，四電関係者による現場見学会（翌日まで）。
6/ 6（木）　香川大学学生による調査現場見学会
6/13（木）　第２面まで機械掘削，遺構面精査，遺構検出。
6/20（木）　雨模様の天候が続き，作業が捗らず。本日雨天により作業中止。
7/ 5（金）　SA2001，SB2001検出。

7/ 9（水）　台風接近。
7/11（木）　水取り作業，遺構面復旧作業。
7/17（水）　SX2008遺構掘削。陶磁器をはじめ多量の遺物が出土した。
7/20（土）　第２面写真測量。
7/24（水）　焼土除去，礎石確認。
7/26（金）　第３面まで機械掘削。高松市歴史資料館引率の小学生，グループ見学会。
8/ 5（月）　SX3002遺構掘削。
8/ 8（木）　SX3002出土骨を高松北警察署に鑑識を依頼する。
8/20（火）　西日本放送局取材。
8/21（水）　第３面写真測量。
8/22（木）　第４面まで機械掘削。
8/26（月）　第４面遺構掘削。
8/29（木）　弥生土器包含層まで機械掘削。
8/30（金）　第５面遺構検出，遺構掘削。
9/ 1（日）　第５面遺構図面作成終了。

整理作業については，委託業務としたものも含め下記の工程で行った。

平成14年度工程表

区分＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発掘調査												
土器洗浄												
接合・復元												
実測												
木製品写真撮影												

平成15年度工程表

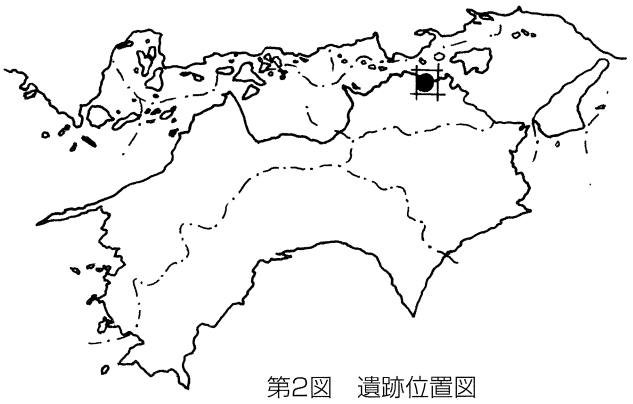
区分＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実測												
出土遺物写真撮影												
トレース												
レイアウト												
報告書執筆，編集												
出土遺物収納保管												

第２章第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に，低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地，東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km，南北16kmの範囲に及んでいる。また，この平野は，讃岐山脈から流下し，北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。さて，高松城の城下町として発展した高松市街地は，香東川の東流路が瀬戸内海に注ぐ河口の中洲や砂堆上に立地している。このため，城下町は高松城築城と同時にこの中洲や砂堆を大規模に埋め立てて形成されたと考えられている。香東川は，現在，石清尾山塊の西を直線に北流する西流路のみだが，17世紀初頭，高松藩に招かれた西嶋八兵衛の河川改修によって一本化されたものである。なお，17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

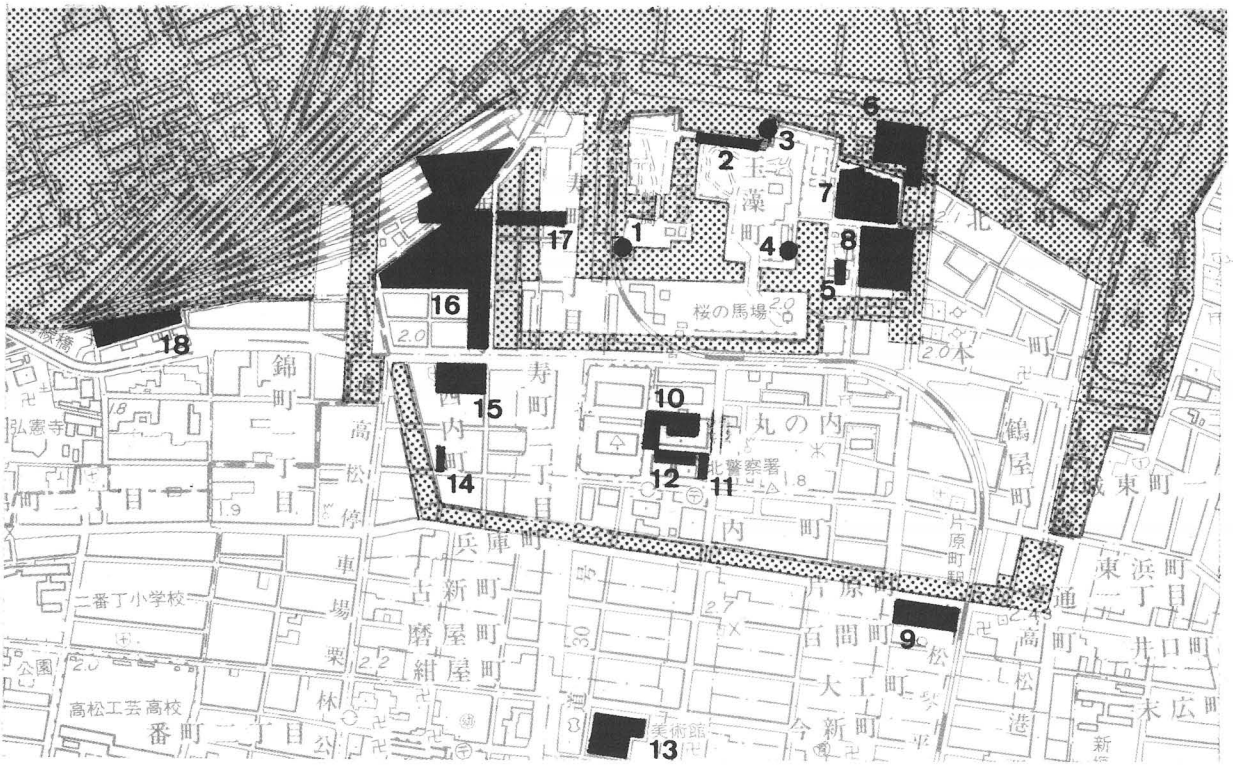
第２章第２節　歴史的環境

高松市街地の下に埋没している中洲や砂堆上に初めて人の活動が認められるのは，弥生時代後期である。当該調査区で，ベースとなる砂層上面より柱穴とともに弥生土器が多く出土し，付近に集落が存在していた可能性が指摘できる。次いで古墳時代では，少量の須恵器片や円筒埴輪片の出土が各所で見られるが，遺構の確認は皆無である。確実に遺構として確認できるのは，当該調査区で検出した平安時代前期の溝で，この時期には狭い範囲ながら比較的安定した場所もあったと推定される。この地域の土地が安定し，人が恒常的に居住できるようになるのは平安時代後期と考えられる。当時，この地域は篦原郷と呼ばれ，安楽寿院領である野原庄が高松城跡の南方に所在していた。野原庄は，白河院の勅使田が応徳年間頃（11世紀末葉）に立券されたものである。康治２年（1143）８月19日の太政官符によれば野原庄の四至が条里によって表記されていることから，土地が安定し条里地割または条里呼称がこの地まで普及していたと考えられる。さらに時代が下ると，荘園としての機能以外にも，文安２年（1445）の「兵庫北関入船納帳」には船籍地として名前が記載されていることから，中世においては港町としての機能を有していたと考えられる。時代は遡るが，高松城跡西の丸西側の発掘調査では，11世紀後半～13世紀前半の護岸施設とともに県外から搬入された土器が高い比率で出土している。さらに，西側に位置する浜ノ町遺跡では，白磁四耳壺を埋納していた13世紀後半から14世紀前半の集落跡が確認されている。一方，西の丸下層では，16世紀に属する「野原濱村無量壽院」と線刻された丸瓦が，瓦や五輪塔とともに溝より出土し，高松城築城により移転させられた寺院跡を寺伝どおり確認している。一方，高松城跡東の丸地区に目を転じると，16世紀後半以前の漁民の墓群が検出されている。城跡より南東方向にある片原町遺跡においては，15～16世紀に属するＬ字形の大溝を検出しており，これは居館の外側にめぐらしていた堀の一部と考えられている。このように，高松市街地下において，古代末から中世の集落等が確認され，文献に見えるように，かつて港町が栄えていたと考えられる。この砂堆や中洲上に中世都市が立地する状況は，博多や草戸千軒町遺跡にも見られるよ



第2図　遺跡位置図

うに全国的な傾向であり、これらの都市をつなぐ交易が行われていたのであろう。このような時代背景のもとに，高松城がこの地に築かれ，城下町が整備されたと考えられる。さて，この高松城および城下町を造ったのが，豊臣秀吉の家臣であった生駒親正である。豊臣秀吉の四国征伐により，天正13年（1585）長宗我部元親が降伏し，讃岐国は仙石秀久・十河存保に与えられ，その後尾藤知宣の領国となったが，天正15年（1587）生駒親正が入封し，讃岐17万石を領した。高松城は，生駒親正の居城として，翌天正16年から築城され，数ヵ年を要して完成された水城である。水城と呼ばれる由縁は，北の守りを瀬戸内海にゆだねるだけでなく，堀には海水が導かれているからである。また，南方には大手（旧太鼓門）を構え，城の南側に城下町が展開する「後堅固」の城でもある。城の構造は，内堀・中堀・外堀といった三重の堀をめぐらし，内堀より内側には本丸・二ノ丸・三ノ丸などの曲輪を配している。本丸は，さらに堀によって他の曲輪と独立しており，本丸と二ノ丸をつなぐ鞘橋を落とすことによって敵の侵入を防ぐ構造となっている。寛永17年（1640）御家騒動により生駒氏は出羽国矢島に転封となり，寛永19年に代わって松平頼重が高松城主となり，東讃岐12万石を領した。松平頼重は，城の改修を度々行っているが，寛文11年（1671）頃の大規模な改修では，東ノ丸を造成するとともに，月見櫓・続櫓・渡櫓などを造り，北に設けた水手御門より直接海へ出入りができるようにしている。その後，松平氏は高松城主として明治維新を迎える。一方，高松城は昭和29年（1954）に松平氏より高松市に譲渡され，翌年玉藻公園として市民に開放されるとともに，史跡として国指定され文化財の保護が図られている。



1 高松城跡地久櫓台　2 高松城跡三ノ丸石垣　3 高松城跡水手御門　4 高松城跡三ノ丸（他目的トイレ）
5 高松城跡作事丸　6 高松城跡（旧）艮櫓台突堤　7 高松城跡東ノ丸（県民ホール）　8 高松城跡東ノ丸（県歴史博物館）　9 片原町遺跡　10高松城跡（新ヨンデンビル別館）11高松城跡（弁護士会館）
12高松城跡（家庭裁判所）13紺屋町遺跡　14高松城跡（ＰＴＡ会館）　15高松城跡西ノ丸（高松北警察署）
16高松城跡西ノ丸（サンポート高松）　17高松城跡中堀（高松駅南線）　18浜ノ町遺跡

第3図　高松城跡周辺主要調査地位置図（縮尺１/10,000）

第３章　調査の成果

第３章第１節　遺構の概要　（第４～８図）

調査では５面で遺構検出を行ない，弥生時代～明治時代に至る遺構・遺物が確認された。大概では，第１面が19世紀代，第２面が18世紀代，第３面が17世紀代となっている。第４面は，調査地南東部で整地の状況により第３面で検出できなかった17世紀代及び古代の遺構を確認している。第５面は，安全面を考慮し東部のみでの確認となったが，弥生時代のピット群を検出している。

第１面（第８図）：試掘時に確認されたＳＢ1002の礎石を再確認することから調査を始め，調査範囲を同確認標高まで重機により掘削した。途中，近現代の撹乱は，この時点で遺構に影響しない範囲において除去した。また礎石，石列で，高松空襲時の戦災痕と連続する整地上のものは，旧県庁舎の所産として除去した。近世所産のものとほぼ標高を違えず認められ，出来るだけ確認を行い除去したが，ＳＸ1005（近代建築基礎）の様に，判別できなかったものもある。当初，幕末～明治期の遺構については調査を行わない方針であったが，調査地全体でこのような判別は不可能であったことと，主要遺構の多くが江戸期に開削され明治期に廃絶することが確認されたため，調査の対象とした。第１面の調査結果では，屋敷境の施設にＳＤ1003（区画溝），ＳＢ1002（門），ＳＡ1001（長屋）が，また整地の状況からＳＤ1003の南に東西方向の道路が存在することが考えられる。幕末期の城下を描いた『東讃高松絵図（弘化年間高松城下絵図）』には，相当する屋敷割りと道が描かれているが，明治27年に香川県庁舎が建設された後にこの地割りを見ることができず，明治27年には廃絶する屋敷地割りと推察できる。屋敷内では調査地の北西部にＳＢ1001，ＳＺ1001があり，調査地の北側に主要な建物が位置していたと考えられる。その他では，ＳＡ1001（長屋）に北面するＳＸ1003，1004，また北東部で埋甕が認められる程度であり調査地の中央部一帯には施設等の遺構は確認されず，裏庭としての性格が推察される。

第２面（第７図）：第２面としたが，調査地全域で明確に同一面となる整地面が存在するものではなく，第２面に特徴的な焼土粒，炭化物を含む整地及び主要な遺構を検出できるまで機械掘削を行い，確認した遺構面である。また調査地南部及び西部の道路部分に推定される範囲については当面より確認とした他，第１面で除去できなかった撹乱直下の遺構やＳＥ2001，2002等，調査の工程上から確認を後回しとしたものを含む。調査地の中央南部では，狭い範囲ながら焼土層が認められ，これを前後とし，屋敷の区画溝がＳＤ2003からＳＤ1003へと付け替えられる。その焼土の下面でＳＢ2002（第266図）を確認した。屋敷境の施設にＳＢ2001（門），ＳＡ2001（長屋）があるが，基本的には第１面のものに踏襲されるもので，焼土層より後出するものと想定している。ＳＡ2001に付随すると考えられる石列遺構（ＳＤ2004，2005）の直下で，ＳＤ2006が検出されており，17世紀末葉にまとまる遺物より第２面の上限が推定される。焼土粒を含んだ整地は，調査地の西部を中心に断片的に認められた他，調査地の北東部では窪地が存在し，炭化層の堆積が認められた。火災が想定される遺構面であるが，断片的にしか痕跡を確認できず，また出土遺物も希薄なため詳細な時期については明確ではない。第２面の下限が窺えるものに大型の廃棄土坑ＳＸ2008があり，19世紀前葉までの遺物を多量に含む。埋土には土壁と考えられる特徴的な土塊を含み，北東部の窪地でも最上部の整地層として認められ，当整地を基盤とし第１面の遺構（埋甕）が構築される。屋敷地の外では，Ｆ区の確認を当遺構面より行った。当調査区については，事前の確認調査で整地の状況から当遺構面の以後も道路として考えられ，現有の南北道路に踏襲されるものと推察される。確認面では，南部の整地状況が以北の道路状の整地と明瞭に異なり，その末端部に区画溝と考えられる東西方向の溝ＳＤ2010を確認した。東西方向の道路との

関係から，この南北方向の道路がクランクしていたと考えられ，この確認面を境に十字状となったと推定される。この状況は『高松城下図屏風』（17世紀中葉頃）ではクランク状に，後出の『高松城下図』（享保年間）では十字に描かれ，この間の変化と考えられる。

第3面（第6図）：当遺構面では近世の最終確認面とし，自然堆積層の上面で検出することを目的として機械掘削を行った。しかし東部では，近世整地層を残した状態で遺構検出している。この整地は，SX3002以東の屋敷内全域に認められる大規模なもので，有機物等を含まず，当初，自然堆積と誤認したためである。遺構検出後，下位にSX4001が存在すること，SX3002を一部覆うことが明らかとなった。当整地は上位検出のSX3004・3005，および下位検出のSX4001により17世紀中葉の所産と考えられ，また整地の規模から生駒時代～松平時代への転換期（1640・50年代）での屋敷の変遷に関連する整地と推定される。当整地上では，北東部に位置するSX3004・3005やSD3004・3006（上水道施設），SE3006等を確認した。出土遺物によれば17世紀後半～18世紀前葉の所産となり，第2面の上限とほぼ一致する。しかし削平を受けた状況が想定され，また散漫な遺構の検出状況から，当整地上面が生活面となるようには認められない。出土遺物では，SX3005より木簡資料が得られ，木簡により当地が彦坂織部邸であったことが分かった。調査地の中央部では，東部の整地上面で確認されたSD3004（上水道）が西方に伸び，SE3003へと接続している。SX3001は上位面検出のSX2008の下部に相当し，底面にSE3002，西岸でSE3003が位置する。また壁面に沿い杭列が認められ，北東部の窪地（SX3004・3005）と併せ，池の存在が推定される。SX3002は生駒時代のゴミ溜状遺構と考えられるが，底面の状況やSD3007，SX3007等の配置関係から，複数の遺構が重複し存在していた可能性がある。西部では，SK3021，3028等，17世紀前葉～中葉の遺構が認められ，これに先行する大溝（SX3007，SD3009）が検出された。現状で認められる城下の地割りと大きく異なり，城下整備の直前或は初段階の地割りを示す可能性がある。また調査地南部では，SE3004，3005，SD3007が検出されているが，16世紀代末葉の遺物包含層（整地層）が被覆しており，当期に廃絶する中世段階の遺構と考えられる。

第4面（第5図）：上述の調査地東部の整地層（17世紀中葉）を除去し，SX4001及びSE3001を検出した。SE3001については，試掘結果により存在が判明していた遺構であるが，第3面で一部掘り下げ確認したため当遺構番号となっている。SX4001は，長方形を呈し，南面を後出のSD2003に規制されて検出される等，当該期の地割を反映する可能性が考えられる。その西部，SX3002までの間で，北へ下る落ち込みを確認した。最上層部に上述の整地層が被覆するが，本来の埋土はSX3002・4001に先行する。急傾斜となる落ち込みから人為的な所産と考えられるが，遺物が出土せず，また明確な遺構とすべき所見も得られなかった。南部では，古代期の遺構と考えられるSD4001，SK4001を検出している。

第5面（第4図）：試掘結果から，弥生時代の遺物包含層が確認された標高0.2～0.3mの砂堆上面まで機械掘削を行ない，ピット群を確認した。検出は調査地東部が中心となったが，中央部付近ではややシルト質の堆積層となりピットは認められなかった。中央部は，後世の井戸の配置からも北方向へ伸びる旧河道の存在が窺われ，ピットが確認された地点は小規模な微高地であった可能性が考えられる。

第３章第２節　基本土層（第９図）

高松城下は海浜部に整備された城下町であり，調査時の土層観察においても自然堆積層と考えられる砂質土を基盤に遺構や整地が重複し認められた。調査地の土層は遺構や整地の状況により変化に富んだ堆積状況を示し，詳細については不明な点もあるが，特徴的な遺構及び整地から調査地全体の状況がある程度は推定される。第９図で，各セクション図（第10～17図）とエレベーション図を用い調査地の堆積状況を示した。

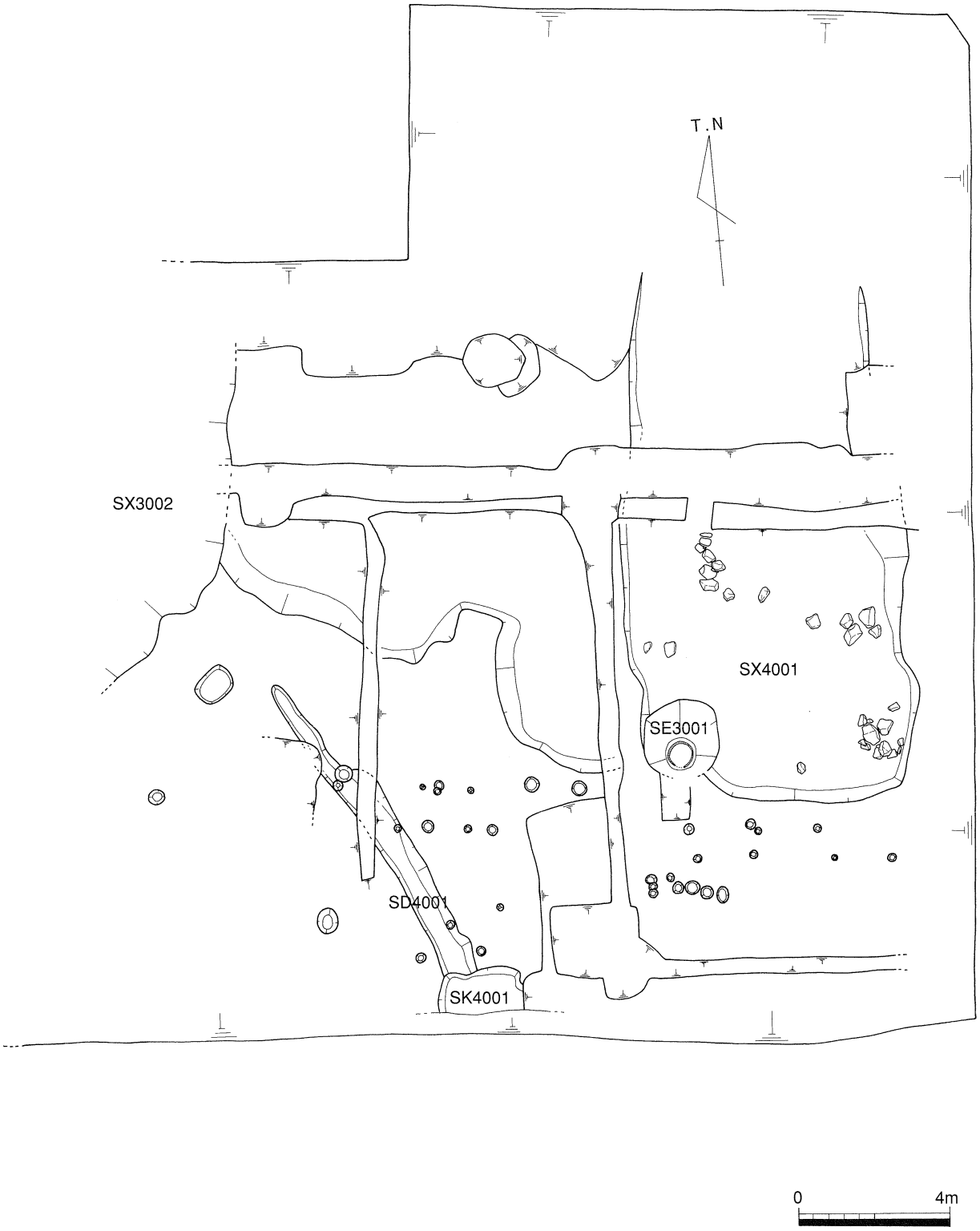
自然堆積層が，調査地の西部及び南部を中心として認められる。自然層上面に中世以前の遺構が構築されると考えられるが，Ｂラインの南部で９世紀代の溝（ＳＤ4001）が，標高約１ｍ付近で開削されており，当時の生活面がかなり上位に推定される。近世の生活面に考えられるＣラインの焼土面と数十cm程度しか差がなく，これ以後の遺構は削平を受ける可能性が推定される。調査地を東西に横断するＤ，Ｅラインでは，西半部は標高約１ｍ付近で自然層が認められるが，東半は近世所産の堆積で占められる。調査地の中央から北東にかけては，池状遺構，廃棄土坑等（ＳＸ4001・3002・3004・3005・2008）といった遺構・遺物の集中する箇所で，結果として低地状の様相として認められる。

Ｃラインの南部では，16世紀末葉の整地層が認められた。当整地の下位には，井戸（ＳＥ3004・3005）及び溝（ＳＤ3007）が確認されており，中世段階の集落の所在が想定される。この中世末葉の整地を切り込むのが，ＳＫ3014，ＳＸ3002の17世紀前葉の遺構であるが，後出の屋敷境（ＳＤ2003）を南北に挟みこの時期以降の堆積状況が異なっており，既に道路と屋敷境が存在した可能性も考えられる。道路の存在が調査地の南部及び西部（Ｆ区）で，それぞれ東西及び南北方向のものが想定される。堆積状況が屋敷の区画溝（ＳＤ1003，2003）を境に明瞭に異なり，道路部分が水平状の堆積を示し，上位では砂及びシルト質土による築地状の堆積が認められる。Ｇラインは，Ｆ区の検出面以下の土層図であるが，ＳＤ2010を挟んで堆積状況が異なり，以北が道路，以南が屋敷地に想定される。これ以後の堆積は，全域が水平状の堆積として認められており，現有道路に踏襲されるものと考えられる。ＳＤ2010は，ＳＤ2003と確認される標高が，ほぼ同等となり同時期の廃絶が推定される。またＳＤ2003は，Ａラインで17世紀中葉に比定される整地を基盤に構築されているとみられ，これ以降は道路及びその側溝による地割りが存在していたと考えられる。

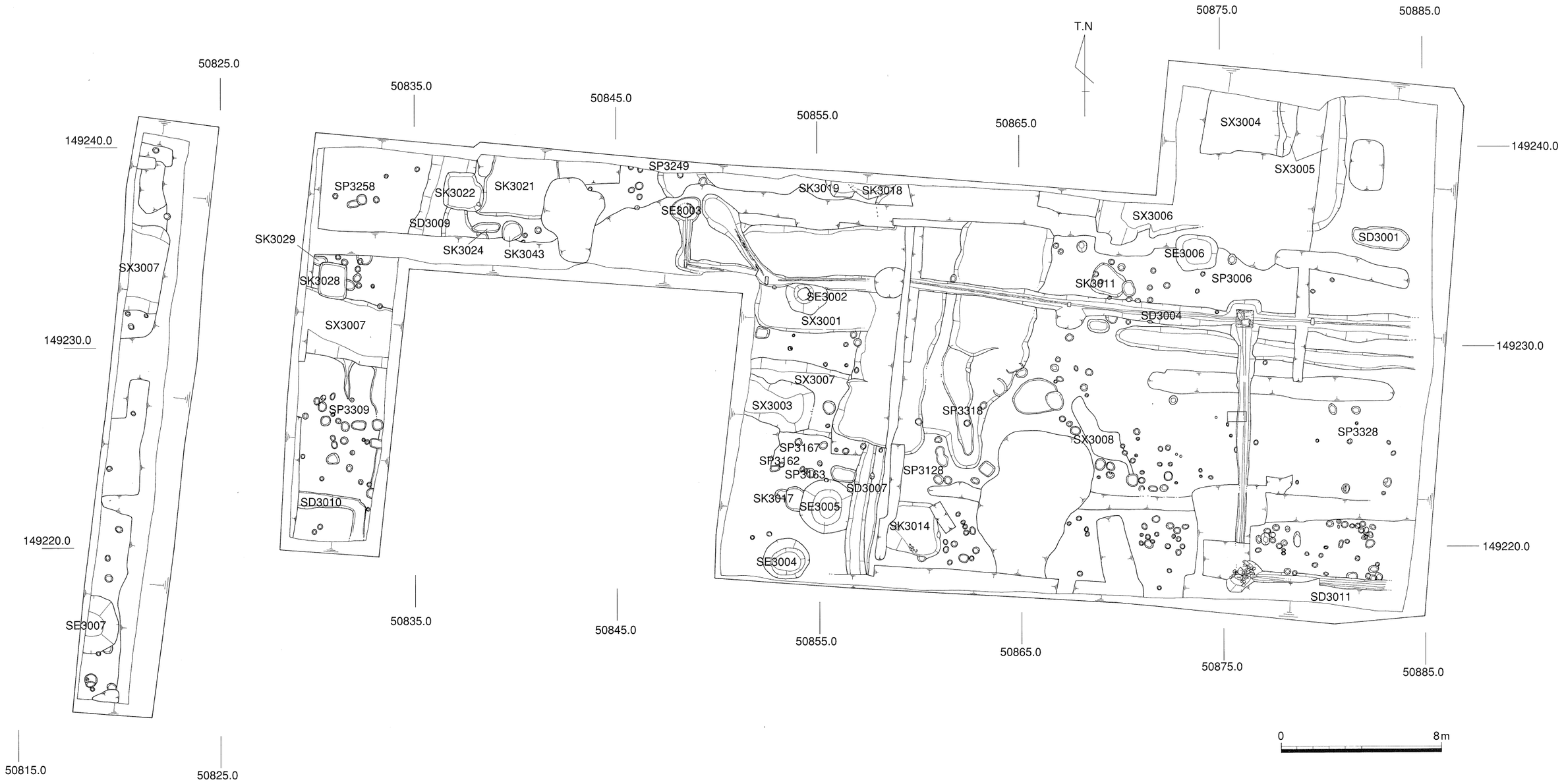
このＡラインの整地は，ＳＸ3005とＳＸ4001との間層として厚い砂礫層の堆積が認められ，上述のように規模及び所属時期から，生駒時代から松平時代への画期となる整地層（17世紀中葉）として比定される。調査地の北東部については，松平時代においてもＳＸ3004・3005・2008の大形遺構が認められ窪地状となっており，最上層部で認められる土壁，瓦片を含んだ整地（19世紀前葉頃）により最終的に埋没する。

Ｃラインの屋敷境付近に焼土が遺存し，その他の地点では明瞭な火災跡とは言えないが，第２面確認時で調査地の北部（Ｅライン西部）及び西部（Ｆライン）に焼土粒を含む整地の他，北東部（Ｄ，Ａライン）の窪地内において炭化層が認められた。Ｃライン付近で屋敷の区画溝，ＳＤ2003とＳＤ1003との間に焼土が観察されており，両遺構の出土遺物から18世紀前葉頃に付け替えられたことが推定される。当該期には城下全域を焼き尽くしたと伝えられる高松大火（1718年）があり，この火災により当屋敷が消失したことは文献に見られる。調査結果では火災との関連を示す明瞭な遺構・遺物ついては希薄な状況であるが，主要な画期に想定されるため一応，土層図（第９図）では火災跡の可能性がある堆積層及び遺構を太線で示した。

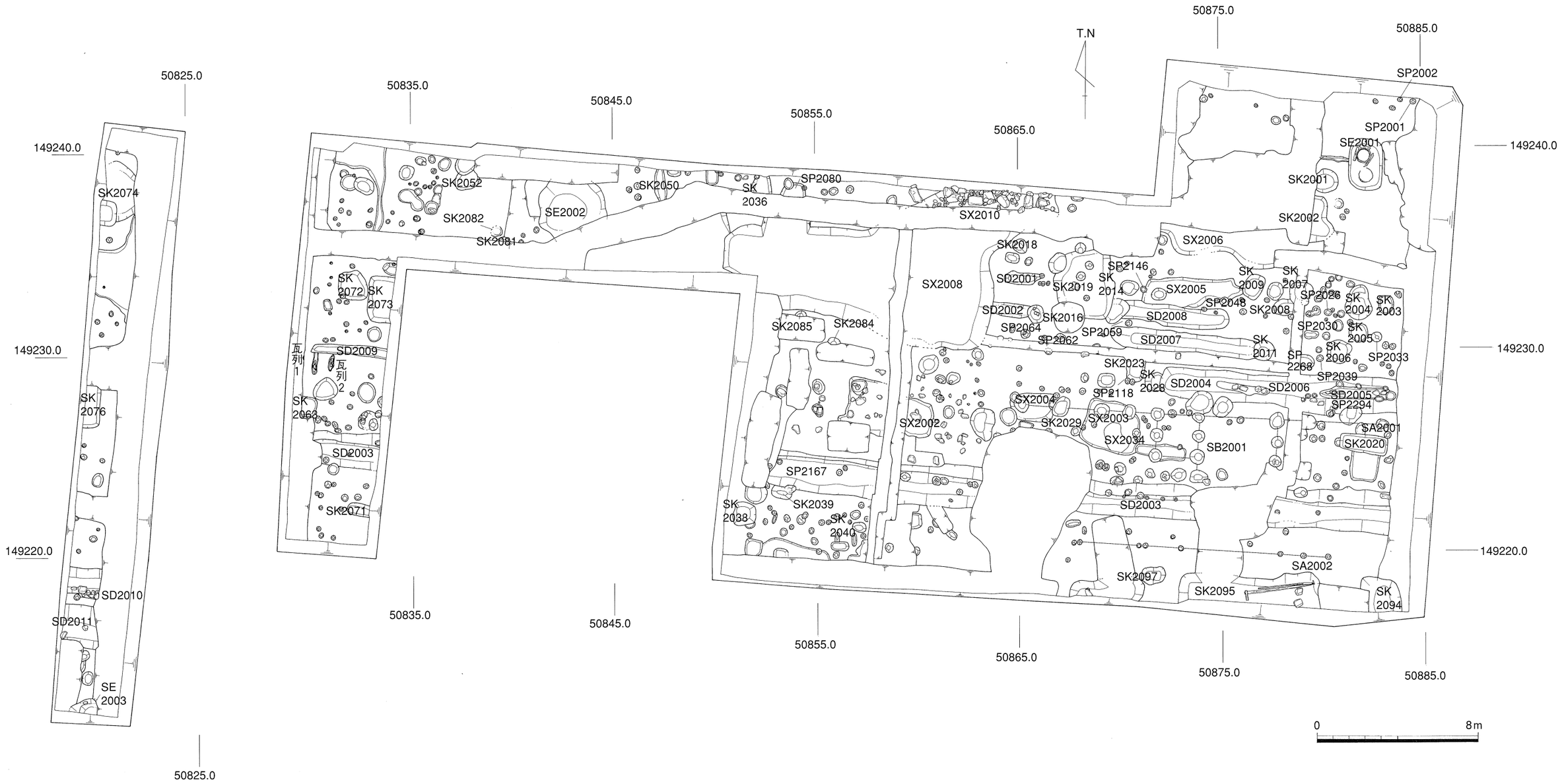
第４図　第５面遺構配置図



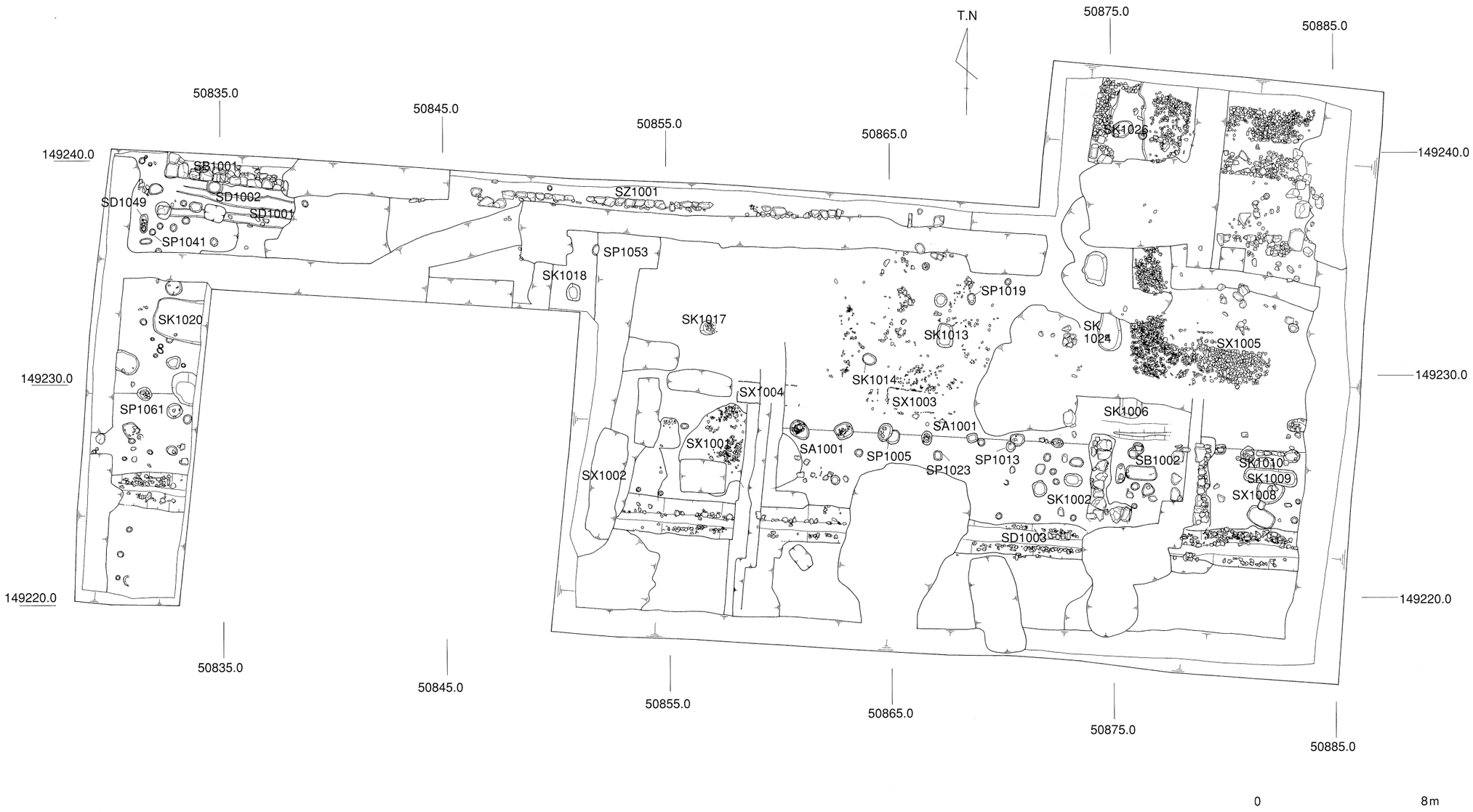
第５図　第４面遺構配置図



第６図　第３面遺構配置図



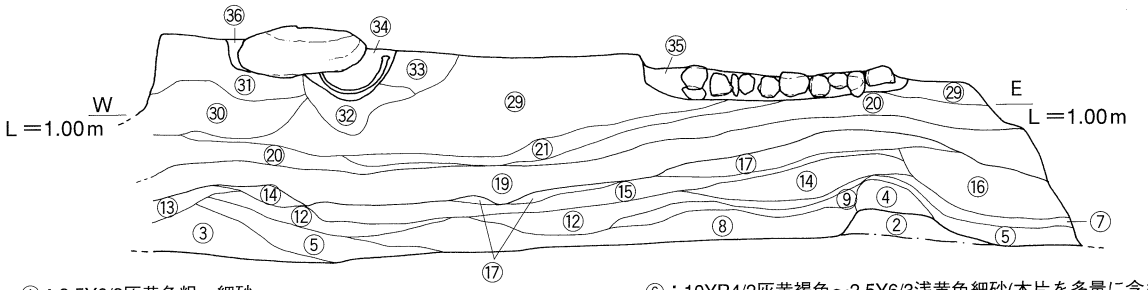
第７図　第２面遺構配置図

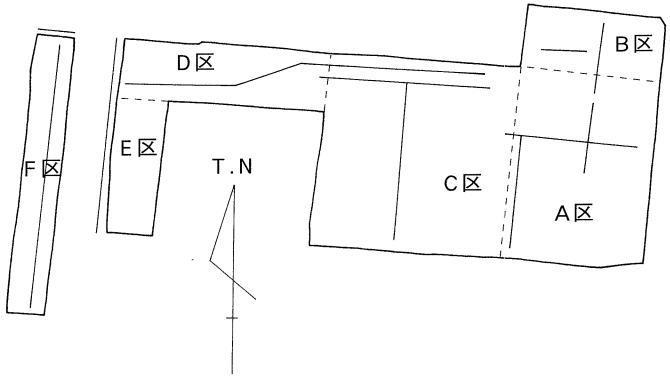


第８図　第１面遺構配置図

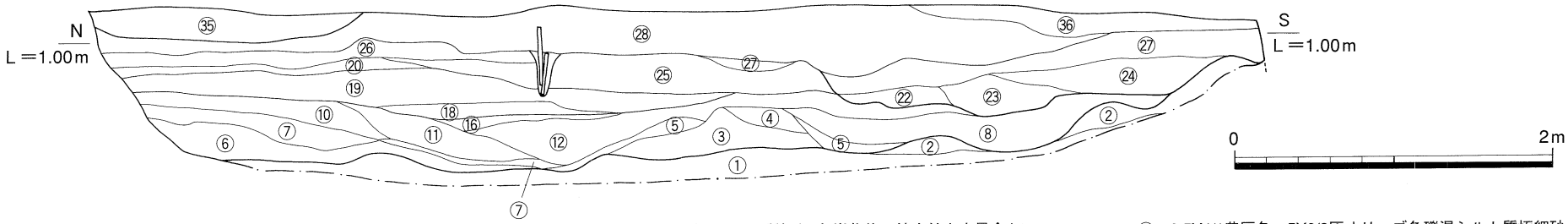
SZ1001
SE2002
SD3009
SK3023
SK3043
SK2036
SK2035
SK3019
SK3018
SX3002
SX2010
SX3005
SX3004
SK2074
SX3007
SD1003
SD2003
SD3010
SD2010
SD2011
SE2003
SX2008
SX1004
SX1001
SX2002
SD3004
SD3007
SK3014
SD2008
SD2007
SK2023
SD4001
SX3006
SK2001・2002
SX4001
SE3001
SD2006
SZ-1
SD3011
T.N
火災想定面
焼土層
遺構埋土
中世末葉整地層
17世紀中葉整地層
自然堆積層
屋敷
道
Ⅲ期以降 道
Ⅲ期以前 屋敷

第9図　基本土層模式図



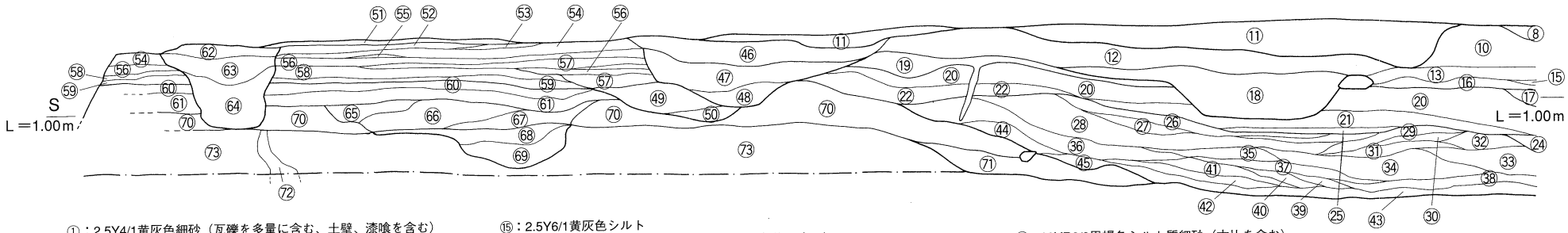


①：2.5Y6/2灰黄色粗～細砂
②：2.5Y6/3にぶい黄色礫混細砂
③：①に炭化物、木片を少量含む
④：②に炭化物、木片を少量含む
⑤：N2/0黒色礫混シルト(炭化物、木片を多量に含む)
⑥：10YR4/2灰黄褐色～2.5Y6/3浅黄色細砂(木片を多量に含む)
⑦：N2/0黒色シルト～2.57/3浅黄色細砂のラミナ
⑧：10YR4/1褐灰色砂混シルト(炭化物、木片を含む)
⑨：5Y5/4オリーブ色細砂(⑧を含む)
⑩：2.5Y5/1黄灰色シルト(2.5Y6/2灰黄色細砂混り、ややにごる)

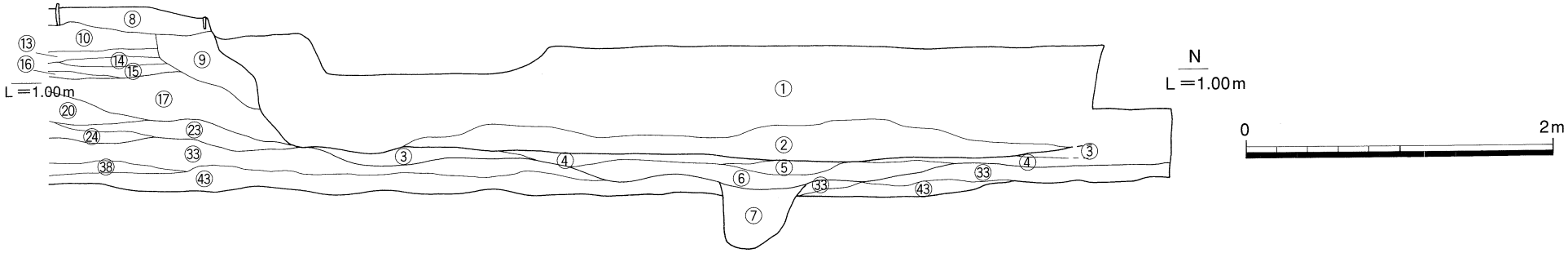


⑪：2.5Y4/1黄灰色シルト～シルト質粘土(炭化物、木片を含む)
⑫：2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂(炭化物を含む)
⑬：10YR4/1褐灰色シルト(炭化物を含む)
⑭：5Y6/2灰オリーブ色粗砂(しまらない)
⑮：10YR5/1褐灰色粗砂～シルト質細砂(炭化物を含む)
⑯：5Y6/2灰オリーブ色～10YR5/1褐灰色粗砂(小石を含む)
⑰：10YR4/1褐灰色細砂(炭化物を含む)
③～⑰SX3004．3005埋土
⑱：2.5Y5/1黄灰色シルトからシルト質粘土(小石を含む)
⑲：5Y6/4オリーブ黄色礫混シルト(小石、炭化物を含む、ややにごる)
⑳：2.5Y4/1黄灰色粗砂混シルト質極細砂(炭化物、焼土粒を少量含む)
⑳の下位、⑲との間に1～2cmの炭化層
㉑：2.5Y4/1黄灰色極細砂(粗砂混じる。炭化物を少量含む)
㉒：2.5Y6/6明黄褐色砂混2.5Y4/1黄灰色シルト
㉓：㉒に礫、石が混じる
㉔：㉒に瓦を多く含む(SK2002埋土？)
㉕：2.5Y4/1黄灰色砂混シルト質極細砂(2.5Y6/6明黄褐色シルトを塊状に含む)
㉖：2.5Y6/4オリーブ黄色シルト(固くしまる)
㉗：2.5Y4/1黄灰色極細砂(ややにごる)
㉘：2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細砂(瓦片、礫を少量含み、にごる)
㉙：2.5Y4/1黄灰色～5Y6/2灰オリーブ色礫混シルト質極細砂
(土壁、瓦、小石を含む)
㉚：㉙に瓦、小石が多量に混じる
㉛：2.5Y4/2暗灰黄色礫混極細砂
㉜：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質細砂
㉝：2.5Y4/1黄灰色礫混極細砂(土壁を含む)
㉞：2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細砂(土壁を含む、埋甕3埋土)
㉟：2.5Y4/1黄灰色～2.5Y6/3オリーブ黄色シルト質極細砂
(小石、礫を多量に含む、集石溝)
㊱：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質極細砂

第10図　B区東西（上段）・南北（下段）方向トレンチ土層図

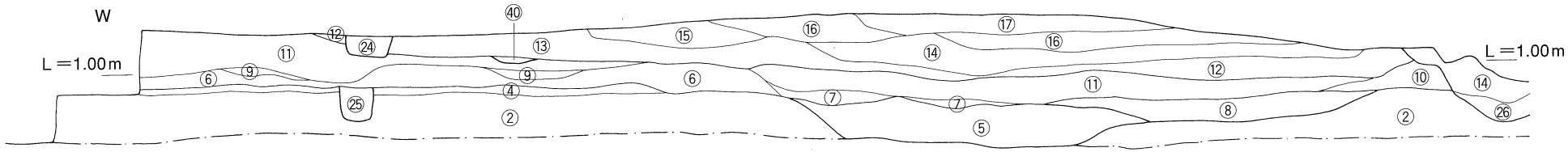


①：2.5Y4/1黄灰色細砂（瓦礫を多量に含む、土壁、漆喰を含む）
②：2.5Y5/1黄灰色細砂（下位はシルト質で炭化物を含む）
①、②SX2008埋土
③：5Y6/2灰オリーブシルト質粘土
④：10YR4/1褐灰色～3/1黒褐色シルト（炭化物、遺物遺体を含む）
⑤：10YR6/1褐灰色シルト
⑥：10Y3/1オリーブ黒色粘土（炭化物、木片を少量含む）
⑦：5Y2/1黒色礫混シルト（SD3004、竹樋埋土）
⑧：2.5Y5/3黄褐色極細砂（しまる）
⑨：2.5Y4/2暗灰黄色極細砂（小礫を含み、しまる）
⑩：2.5Y5/2暗灰黄シルト（小礫、炭化物を少量含む）
⑪：2.5Y6/6明黄褐色シルト質極細砂（瓦片を多量に含む、近代整地）
SX1001、SX1002埋土
⑫：2.5Y5/3黄褐色シルト質細砂
⑬：2.5Y5/4黄褐色シルト質細砂（Fe沈着）
⑭：2.5Y7/1灰白色シルト質粘土
⑮：2.5Y6/1黄灰色シルト
⑯：2.5Y5/3黄褐色シルト質細砂（焼土粒、炭化物を含む）
⑰：2.5Y5/2暗灰黄色シルト質極細砂
⑱：2.5Y5/3黄褐色シルト～砂質シルト（焼土粒、炭化物を少量含む、SX2002埋土）
⑲：10R4/4赤褐色土（焼土層）
⑳：2.5Y6/2灰黄色シルト
㉑：2.5Y4/1黄灰色シルト（やや砂質、炭化物を少量含む）
㉒：2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂（しまる）
㉓：2.5Y6/3にぶい黄色砂礫混シルト
㉔：2.5Y6/3にぶい黄色シルト質細砂（ややしまる）
㉕：2.5Y6/3にぶい黄色極細砂
㉖：2.5Y黄灰色シルト質極細砂
㉗：2.5Y6/2灰黄色礫混シルト質細砂（炭化物を含む）
㉘：10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂（炭化物を少量含む、しまらない）
㉙：2.5Y2/1黒色シルト質細砂（炭化物を少量含む）
㉚：N4/0灰色細砂混N2/0黒色シルト（炭化物を多量に含む）
㉛：10YR2/3黒褐色シルト質細砂（木片を含む）
㉜：10YR6/1褐灰色砂混シルト
㉝：7.5YR2/1黒色～3/2黒褐色砂混シルト（木片、炭化物を多量に含む、泥炭化）
㉞：N4/0灰色砂混シルト（しまらない、木片、炭化物を少量含む）
㉟：N4/0灰色シルト
㊱：10YR5/1褐灰色シルト質極細砂（やや粘質、炭化物を少量含む、にぶい黄色砂を塊状に含む）
㊲：10YR4/1褐灰色シルト、2.5Y6/2灰黄色粗砂のラミナ
㊳：10YR2/2黒褐色シルト質粘土（木片を多量に含む、泥炭化）
㊴：10YR4/1褐灰色砂混シルト
㊵：2.5Y6/2灰黄色粗砂
㊶：7.5YR4/1褐灰色シルト（灰黄色細砂混じる、炭化物を少量含む）
㊷：7.5YR5/1褐灰色シルト質粘土
㊸：5B5/1青灰色～10YR2/2黒褐色シルト質粘土（木片を含み泥炭化、グライ化）

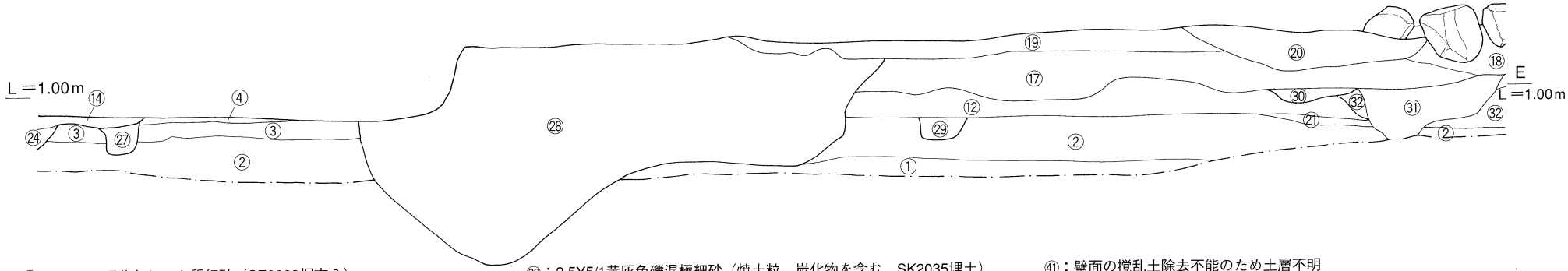


㊹：7.5YR6/1褐灰色シルト質細砂
㊺：5Y5/2灰オリーブ色シルト
㉖～㊺SX3002埋土
㊻：2.5Y5/4黄褐色シルト質極細砂（2.5Y7/2灰黄色粘土を塊状に含む、埋め戻し土）
㊼：2.5Y5/2暗灰黄色砂礫混極細砂（石塊、瓦を多量に含む）
㊽：2.5Y5/1灰黄色礫混シルト質極細砂
㊻～㊽SD1003埋土
㊾：2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂
㊿：2.5Y5/1黄灰色極細砂（やや砂質）
㊾、㊿SD2003埋土
(51)：2.5Y6/2灰黄色極細砂
(52)：2.5Y4/2暗灰黄色細砂（小石、礫混じる）
(53)：2.5Y6/2灰黄色極細砂
(54)：2.5Y5/2暗灰黄色シルト質極細砂
(55)：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂
(56)：2.5Y4/2暗灰黄色細砂
(57)：2.5Y4/1黄灰色細砂
(58)：2.5Y5/2暗灰黄色シルト～シルト質極細砂（固くしまる）
(59)：2.5Y6/2灰黄色細砂（固くしまる）
(60)：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
(56)～(60)の間層に5mm程のしまる砂層がある
(61)：2.5Y5/2暗灰黄色粗砂混シルト
(51)～(61)道路整地
(62)：2.5Y4/1黄灰色礫混細砂（瓦片、漆喰を含む）
(63)：2.5Y5/1黄灰色極細砂
(64)：2.5Y5/2暗灰黄色細砂（瓦礫を含む）
(62)～(64)SK2046埋土
(65)：2.5Y6/2灰黄色砂混シルト（ややしまる）
(66)：2.5Y5/1黄灰色礫混シルト質極細砂
(67)：(66)に5Y6/4オリーブ黄色細砂が混じる
(68)：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂
(69)：5Y5/1灰色粗砂混10YR4/1褐灰色シルト質極細砂
(65)～(69)SK3014埋土
(70)：2.5Y6/1黄灰色シルト
(71)：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂（SD3007埋土）
(72)：5Y4/1灰色砂質シルト（噴砂痕）
(73)：5Y6/1灰色細砂～極細砂（Fe沈着、自然層）

第11図　C区南北方向トレンチ土層図



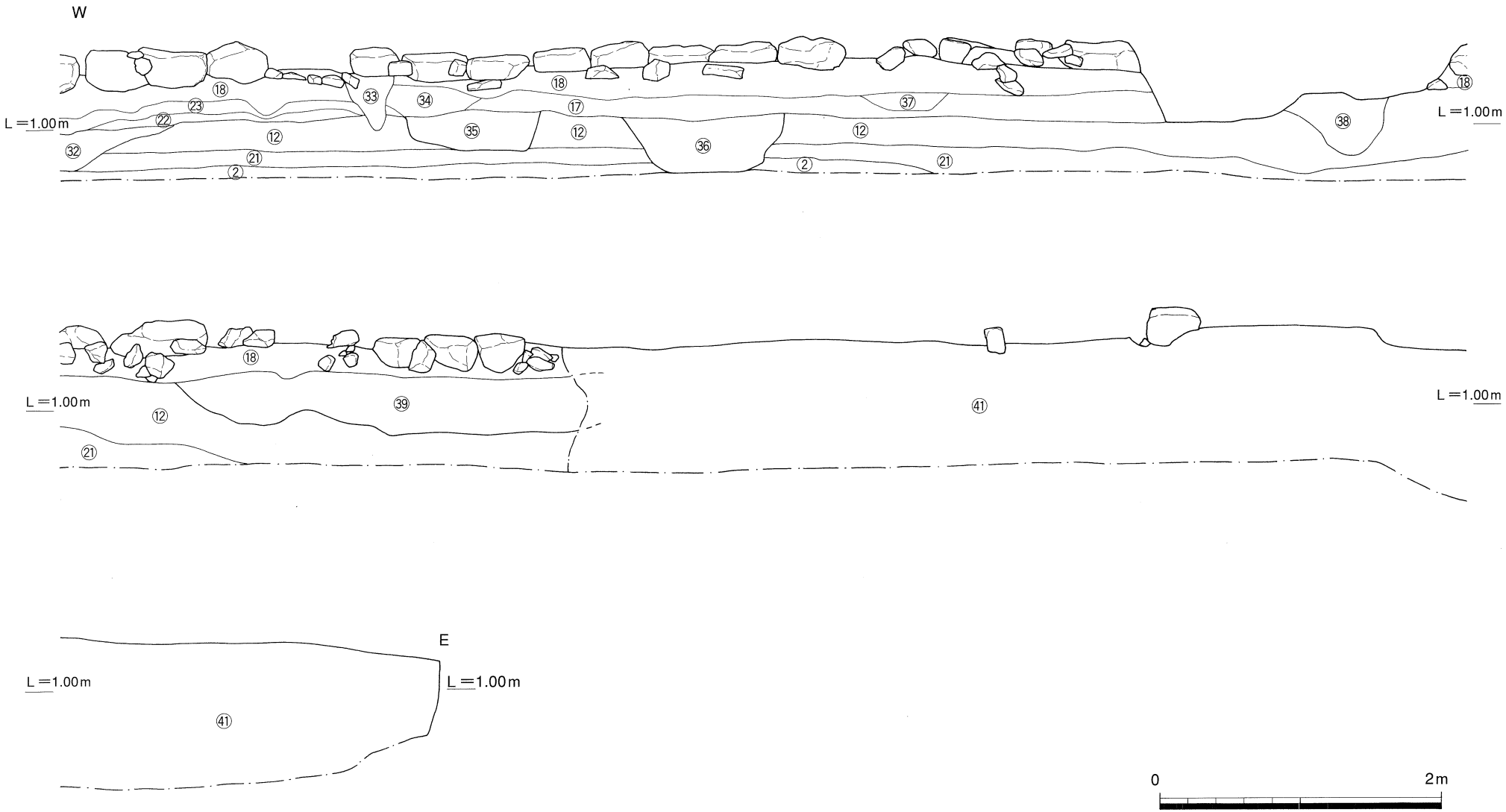
①：10Y7/1灰色シルト・細砂のラミナ
②：5Y7/2灰白色粗砂
③：5Y6/1灰白色シルト～シルト質極細砂
④：10YR5/1褐灰色シルト～シルト質極細砂
⑤：N5/0灰色～2.5Y5/1黄灰色礫混シルト質極細砂（SD3009埋土）
⑥：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂（炭化物を少量含む）
⑦：⑤に⑥が塊状に混じる
⑧：2.5Y4/1黄灰色砂混シルト
（5Y6/4オリーブ黄色極細砂を塊状に含む、SK3023埋土）
⑨：5Y7/6黄色シルト質極細砂
⑩：2.5Y6/3にぶい黄色シルト（固くしまる）
⑪：5Y6/3オリーブ黄色シルト～シルト質極細砂（固くしまる）
⑫：2.5Y5/2暗灰黄色極細砂（しまる）
⑬：2.5Y5/2暗灰黄色極細砂（焼土粒を少量含む）
⑭：2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色シルト質極細砂（炭化物を少量含む）
⑮：2.5Y5/2暗灰黄色礫混極細砂（焼土粒を少量含む、しまらない）
⑯：2.5Y5/1黄灰色礫混極細砂
（5Y6/3オリーブ黄色シルト質極細砂を塊状に含む）
⑰：2.5Y6/2灰黄色礫混極細砂（炭化物、焼土粒を少量含む）
⑱：5Y5/1灰色礫混シルト質極細砂
（漆喰、炭化物を少量含む、植物根による撹乱あり）
⑲：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質極細砂（炭化物を含む）
⑳：5Y6/3オリーブ黄色礫混極細砂（小石を含む）
㉑：2.5Y7/4浅黄色礫混細砂
㉒：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質極細砂（焼土粒、10Y3/2黒褐色土を含む）
㉓：2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂（焼土粒、炭化物を少量含む）
㉔：2.5Y5/2暗灰黄色砂混シルト質極細砂
㉕：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂
㉖：2.5Y4/1黄灰色シルト
（5Y6/4オリーブ黄色極細砂を塊状に含む、SK3043埋土）
㉗：10YR4/1褐灰色粗砂混シルト質極細砂（③混じる、SP2194埋土）
㉘：2.5Y5/1黄灰色礫混シルト質細砂
（やや砂質、小石、炭化物を含む、SE2002埋土）
㉙：10YR4/1褐灰色砂混シルト質極細砂（①が混じる）
㉚：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂（焼土粒、炭化物を少量含む）



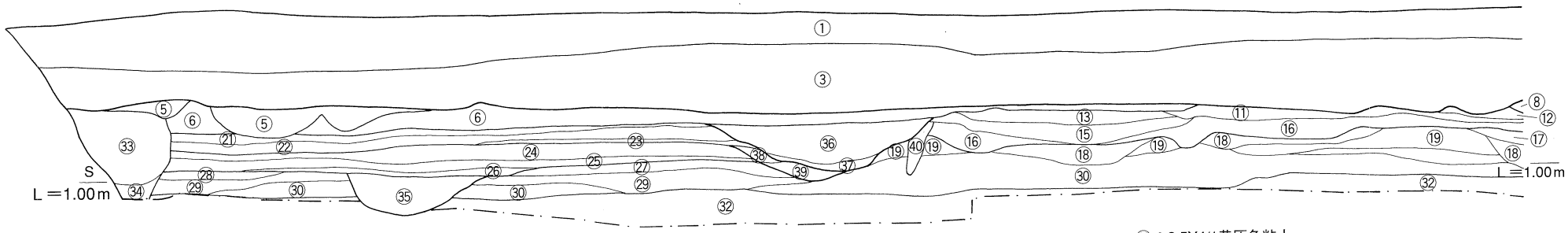
㉛：2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂（SE3003掘方？）
㉜：2.5Y5/1黄灰色細砂（SK3019埋土）
㉝：2.5Y5/2暗灰黄色礫混細砂
㉞：2.5Y5/2暗灰黄色砂礫
㉟：2.5Y5/1黄灰色礫混極細砂（焼土粒、炭化物を含む、SK2036埋土）
㊱：2.5Y5/1黄灰色礫混極細砂（焼土粒、炭化物を含む、SK2035埋土）
㊲：5Y5/1灰色礫混シルト質極細砂（瓦、小石を含む）
㊳：2.5Y5/1黄灰色小石混シルト質極細砂
㊴：2.5Y5/2暗灰色極細砂（石を多量に含む、SX2010埋土）
㊵：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質極細砂
㊶：壁面の撹乱土除去不能のため土層不明

0　2m

第12図　C－D区東西方向トレンチ土層図（その1）



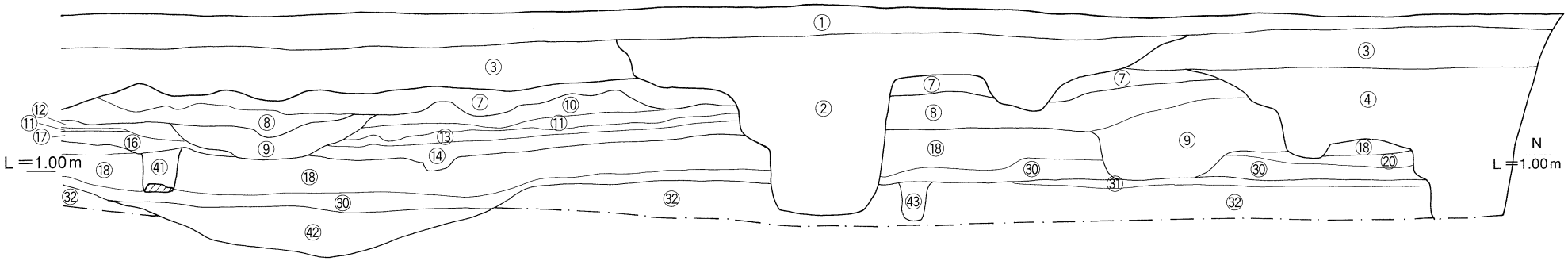
第13図　C－D区東西方向トレンチ土層図（その２）



①：花崗土
②：配管（コンクリート製）跡
③：バラス
④：2.5Y4/1黄灰色～5/2暗灰黄色礫混シルト（瓦礫を多量に含む）
⑤：N3/0暗灰色～2/0黒色砂礫（焼土、バラスを含む、一戦災痕）
⑥：2.5Y4/2暗灰黄色礫混シルト～シルト質粘土
⑦：10Y3/2オリーブ黒色礫混シルト質極細砂
⑧：2.5Y6/6明黄褐色シルト質粘土
⑨：2.5Y5/2暗灰黄色礫混シルト質極細砂（5Y3/1オリーブ黒色粘土を塊状に含む）
①～⑨近・現代堆積層

⑩：2.5Y5/2暗灰黄色礫混シルト質極細砂
⑪：5Y3/2オリーブ黒色～5Y6/1灰色粘土
⑫：2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色礫混シルト質極細砂（炭化物、焼土粒を含む）
⑬：2.5Y5/2暗灰黄色細砂～粗砂
⑭：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂
⑮：2.5Y6/3にぶい黄色～8/2灰白色極細砂（固くしまる）
⑯：2.5Y4/1黄灰色～10YR4/2灰褐色シルト質極細砂（焼土粒を多量に含む）
⑰：5Y6/4オリーブ黄色極細砂混N6/1灰色シルト質粘土
⑱：2.5Y7/1～5Y7/2灰白色シルト（固くしまる、Fe沈着）
⑲：2.5Y6/4にぶい黄色極細砂混2.5Y5/1黄灰色シルト

⑳：2.5Y4/1黄灰色粘土
（2.5Y7/1灰白色粘土を塊状に含む、固くしまる）
㉑：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト（小石を含む、固くしまる）
㉒：2.5Y6/3にぶい黄色礫混粗砂
㉓：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト（固くしまる）
㉔：2.5Y5/2暗灰黄色砂礫混シルト（固くしまる）
㉕：2.5Y6/1黄灰色極細砂～粘土
㉖：2.5Y4/1黄灰色砂混粘土
㉗：2.5Y6/3にぶい黄色極細砂
㉘：2.5Y6/1黄灰色～6/3にぶい黄色粘土
㉑～㉘道路整地

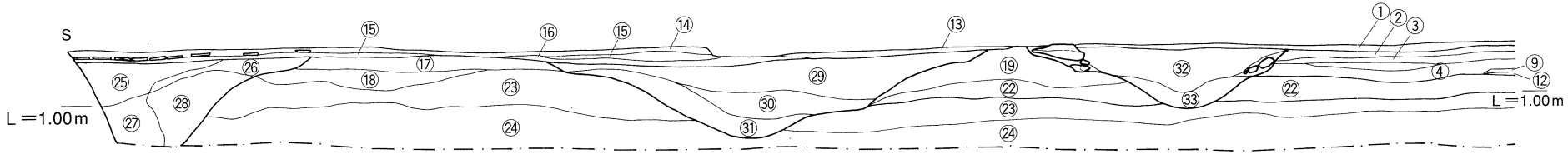


㉙：5Y6/2灰オリーブ色細砂混2.5Y5/1黄灰色シルト
㉚：2.5Y6/1黄灰色～10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（炭化物を少量含む）
㉛：2.5Y6/4にぶい黄色～6/6明黄褐色極細砂（固くしまる）
㉜：5Y7/2灰白色粗砂～細砂
㉝：5Y5/1灰色シルト質極細砂（石を多量に含む）
㉞：2.5Y7/3浅黄色粗砂
㉟：2.5Y5/1黄灰色シルト（SD3010埋土）
㊱：2.5Y5/2暗灰黄色礫混シルト質極細砂（2.5Y6/6明黄褐色粘土を塊状に含む）
石塊、瓦片を多量に含む

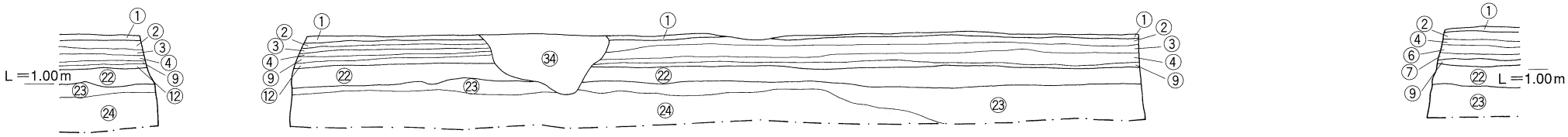
㊲：2.5Y6/2灰黄色極細砂
㊱、㊲SD1003埋土
㊳：2.5Y5/1黄灰色～10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂（しまらない、炭化物を少量含む）
㊴：2.5Y5/1黄灰色極細砂
㊳、㊴SD2003埋土
㊵：2.5Y6/2灰黄色極細砂（焼土を少量含む）
㊶：10YR4/2褐灰色極細砂
㊷：SX3007埋土
㊸：2.5Y6/1黄褐色砂混シルト

0　2m

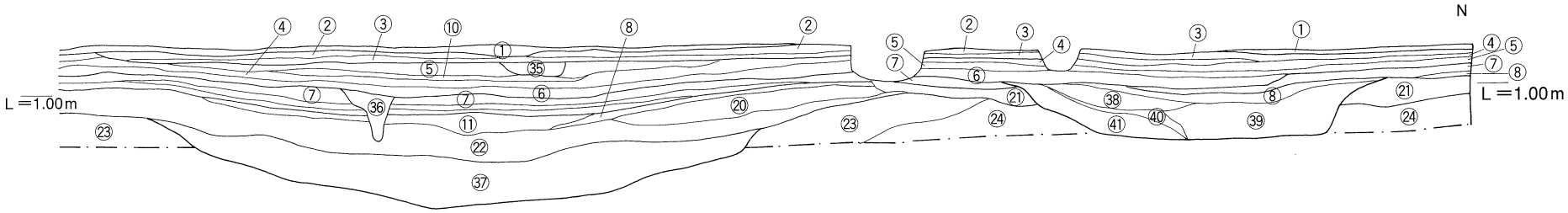
第14図　E区西壁土層図



①：5Y6/2灰オリーブ色細砂
②：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト（小石混じる）
③：2.5Y6/4にぶい黄色砂礫
④：2.5Y4/1黄灰色シルト（小石混じる、固くしまる）
⑤：2.5Y6/4にぶい黄色粗～細砂（Fe沈着）
⑥：5Y6/2灰オリーブ色礫混シルト質極細砂
⑦：2.5Y6/8にぶい黄色粗～細砂
⑧：2.5Y4/1黄灰色から3/1黒褐色シルト（小石をまばらに含む）
⑨：5Y6/4オリーブ黄色細砂
⑩：2.5Y5/2暗灰黄色粗砂～細砂
⑪：10YR4/2灰黄褐色極細砂とN5/6灰色シルトの互層
⑫：2.5Y4/2暗灰黄色礫混シルト
⑬：5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物を含む）
⑭：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト質極細砂（SE2003上部に瓦を敷く）
⑮：5Y3/2オリーブ黒色シルト（焼土粒、炭化物を少量含む）
⑯：2.5Y6/2灰黄色細砂
①～⑯道路整地
⑰：2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細砂
⑱：2.5Y5/1黄灰色砂混シルト質極細砂
⑲：5Y6/4オリーブ黄色細砂混2.5Y5/1黄灰色シルト
⑳：2.5Y6/1黄灰色シルト（炭化物を少量含む）



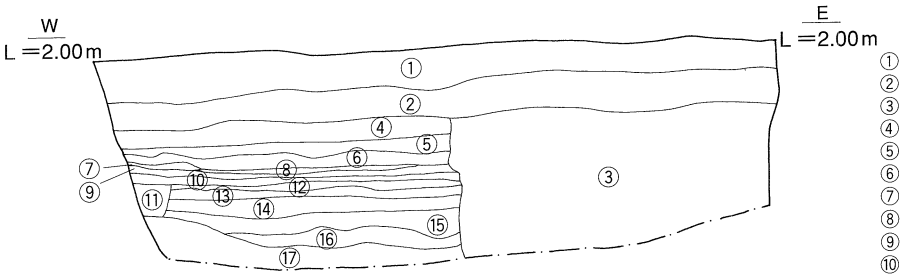
㉑：N5/0灰色シルト～シルト質極細砂（しまらない）
㉒：N6/0灰色シルト（やや砂質）
㉓：2.5Y6/2灰黄色細砂～極細砂
㉔：7.5Y6/2灰オリーブ色砂礫（小石を含む）
㉕：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
（2.5Y6/4にぶい黄色細砂を塊状に含む）
㉖：2.5Y5/2暗灰黄色粗砂（炭化物を少量含む）
㉗：5Y6/4オリーブ黄色細砂混2.5Y5/1黄灰色シルト
（しまらない、焼土粒、炭化物を少量含む）
㉘：2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂（小石を多量に含む）
㉕、㉘SE2003埋土
㉙：2.5Y4/2暗灰黄色シルト質極細砂
（2.5Y6/6明黄褐色極細砂を現状に含む）
㉚：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂（2.5Y6/6明黄褐色極細砂を塊状に含む）
㉛：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
㉙～㉛SD2011埋土
㉜：10YR5/2灰黄褐色から2.5Y4/1黄灰色シルト質極細砂（炭化物を含む）
㉝：5Y6/4オリーブ黄色細砂混2.5Y6/1黄灰色砂質シルト
㉜、㉝SD2010埋土



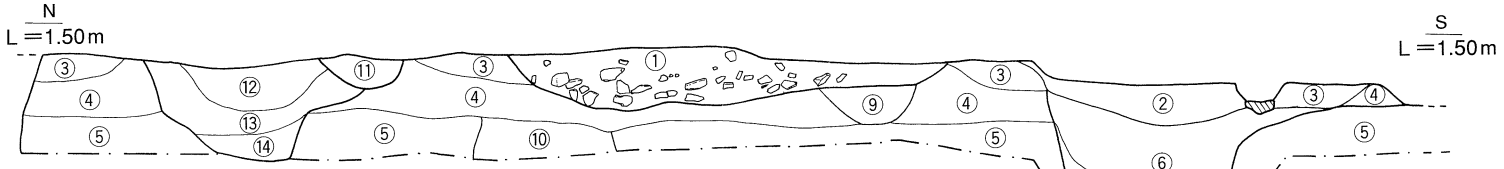
㉞：2.5Y5/2灰オリーブ色粗砂（小石を多量に含む）
㉟：2.5Y5/2暗灰黄色シルト（瓦片、小石を含む）
㊱：2.5Y6/2灰黄色砂混シルト
㊲：SX3007埋土
㊳：2.5Y6/4にぶい黄色粗砂
㊴：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト～シルト質極細砂
㊵：10YR3/1黒褐色シルト（炭化物を含む）
㊶：2.5Y6/1黄灰色シルト質極細砂（小石混じる）　㊳～㊶SK2074埋土

0　2m

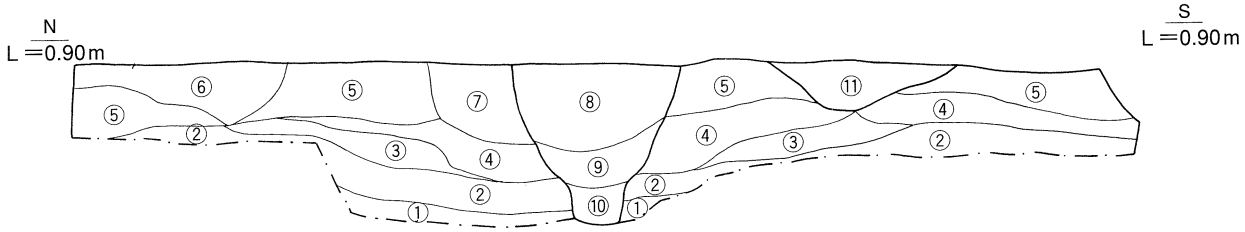
第15図　F区南北方向土層図



①：花崗土
②：バラス
③：バラス（旧排水管跡）
④：5Y4/1灰色粘土混5Y6/2灰オリーブ色シルト質極細砂
⑤：アスファルト
⑥：焼土十バラス
⑦：2.5Y4/1黄灰色礫混シルト
⑧：2.5Y6/3にぶい黄色細砂（ややしまる）
⑨：2.5Y4/1黄灰色シルト混2.5Y6/3にぶい黄色シルト
⑩：2.5Y4/1黄灰色砂混シルト（固くしまる）
⑪：⑫に多量の小石を含む
⑫：2.5Y4/1黄灰色シルト混5Y7/2灰白色細砂
⑬：2.5Y6/3にぶい黄色（ややしまる）
⑭：2.5Y4/1黄灰色砂混シルト（ややしまる）
⑦～⑭道路整地
⑮：2.5Y5/1黄灰色シルト（2.5Y6/3にぶい黄色極細砂を塊状に含む）
⑯：2.5Y5/1黄灰色～10YR5/1褐灰色砂混シルト
⑮、⑯遺構？
⑰：2.5Y6/2灰黄色～6/1黄灰色極細砂

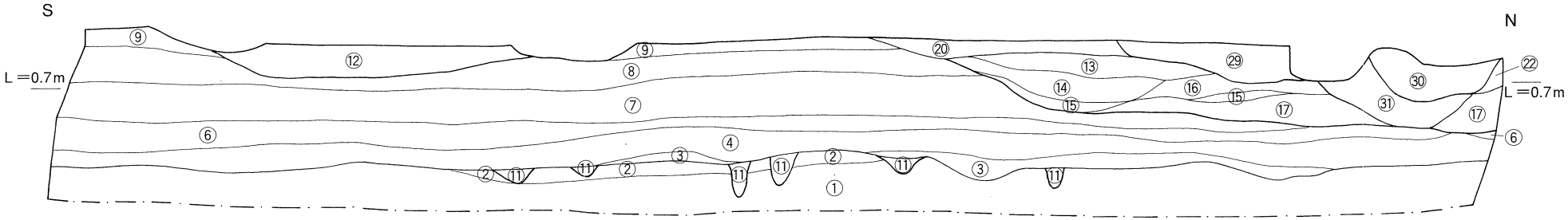


①：10YR6/3にぶい黄橙色シルト質細砂（粘性なし、集石溝）
②：2.5Y6/1灰白色シルト質細砂
③：10YR7/1灰白色シルト質細砂
④：2.5Y7/1十7/4灰白色十浅黄色細砂（炭を若干含む）
⑤：2.5Y7/4浅黄色細砂
⑥：2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂（礫、粗砂、焼土を若干含む）
⑦：⑤十⑥
⑧：10YR4/1褐灰色粗砂（ややシルト質）
⑥～⑧SD2006埋土
⑨：5Y6/1十7/1灰色十灰白色細砂
⑩：2.5Y7/3十7/1浅黄色十灰白色粗砂（SD3004埋土？）
⑪：5Y7/2灰白色シルト質細砂
⑫：2.5Y6/2十7/4灰黄色十浅黄色シルト質細砂（焼土、炭を若干含む）
⑬：2.5Y6/1黄灰色シルト質細砂（焼土、炭を若干含む）
⑭：2.5Y7/1十8/3灰白色十浅黄色粗砂
⑫～⑭SK2007埋土
⑮：2.5Y7/1十7/4灰白色十浅黄色細砂（炭を若干含む）

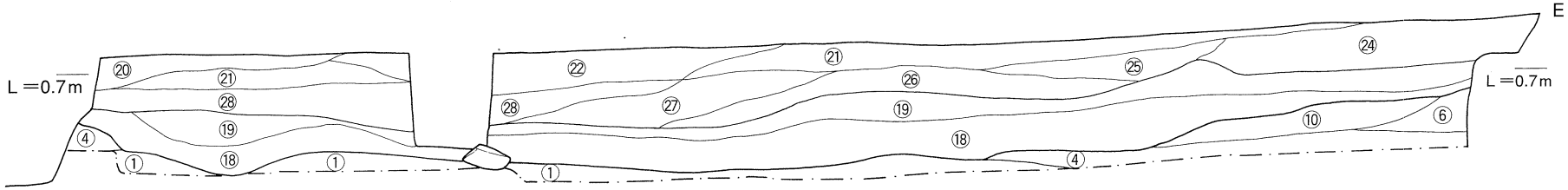


①：10Y6/1灰白色粗砂
②：5B4/1暗青灰色砂礫混シルト（木片を少量含む、SX4001埋土）
③：N5/0灰色細砂混2.5Y5/3黄褐色砂礫（②が混じる）
④：N5/0灰色細砂混2.5Y5/4黄褐色砂礫
⑤：5Y6/2灰オリーブ色～2.5Y6/3にぶい黄色砂礫
⑥：N5/0灰色シルト（⑤が混じる）
⑦：2.5Y6/3にぶい黄色砂礫混5G5/1緑灰色シルト質細砂
⑧：2.5Y6/4にぶい黄色砂礫混5Y4/1灰色細砂
⑨：2.5Y5/6黄褐色砂礫混5Y5/1灰色極細砂
⑩：5Y3/2オリーブ黒色シルト質粘土（竹樋不腐土）混10Y4/1灰色砂混シルト
⑧～⑩SD3004埋土
⑪：5Y5/2灰オリーブ砂礫混シルト質細砂
⑪SD3005埋土

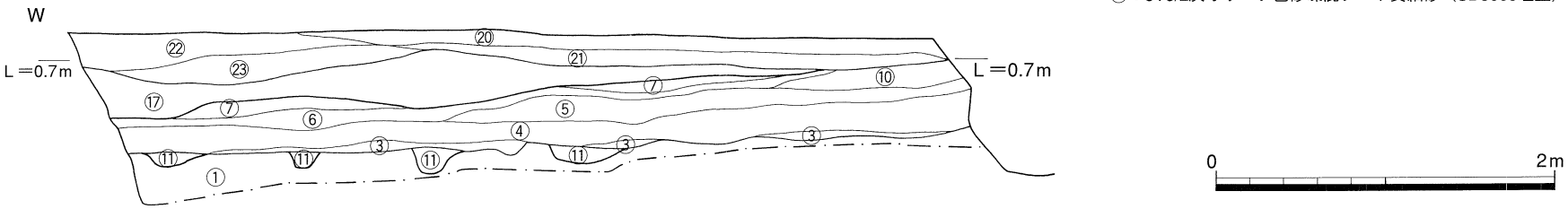
第16図　A区第4・5面セクション土層図



①：2.5Y6/1黄灰色粗砂
②：2.5Y6/1黄灰色細砂
③：7.5YR4/2灰褐色砂混シルト（弥生土器包含層）
④：7.5YR6/1褐灰色砂混シルト（1～3cm大の円礫を多量に含む）
⑤：2.5Y5/4にぶい黄色シルト（やや砂質）
⑥：2.5Y6/4にぶい黄色シルト
⑦：10YR6/3にぶい黄褐色シルト質極細砂（Fe沈着）
⑧：5Y7/1灰白色シルト質極細砂
⑨：2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂～極細砂
⑩：5Y7/3浅黄色～5Y6/1灰白色極細砂
①～⑩：自然層
⑪：10YR4/2灰褐色砂混シルト（やや年質、弥生ピット埋土）
⑫：10YR5/1褐灰色シルト（Fe沈着、SD4001埋土）



⑬：2.5Y6/2灰黄色シルト質極細砂（粗砂～礫を含む）
⑭：2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
⑮：10YR6/1褐灰色細砂（しまらない）
⑯：2.5Y5/1黄灰色細砂
⑰：2.5Y7/2灰黄色～5/2暗灰黄色シルト質細砂
⑬～⑰SX4002埋土
⑱：2.5Y3/1黒褐色～5B3/1暗青灰色砂混シルト（木片、動物骨を含む）
⑲：N5/0灰色～5B3/1暗青灰色砂混シルト質細砂
⑱、⑲SX4001埋土
⑳：2.5Y6/3にぶい黄色細砂（礫混じる）
㉑：2.5Y6/3にぶい黄色砂礫
㉒：5Y6/2灰オリーブ色細砂（礫混じる）
㉓：5Y5/2灰オリーブ色細砂
㉔：5Y6/2灰オリーブ色細砂（礫混じる、ややしまる）
㉕：5Y6/2灰オリーブ色シルト質細砂
㉖：N5/0灰色シルト質細砂（礫混じる）
㉗：5Y6/2灰オリーブ色シルト質細砂
㉘：2.5Y7/1灰白色細砂
㉙：2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂（炭化物を含む、SK2023埋土）
㉚：2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂（SD2007埋土）
㉛：5Y5/2灰オリーブ色砂礫混シルト質細砂（SD3005埋土）

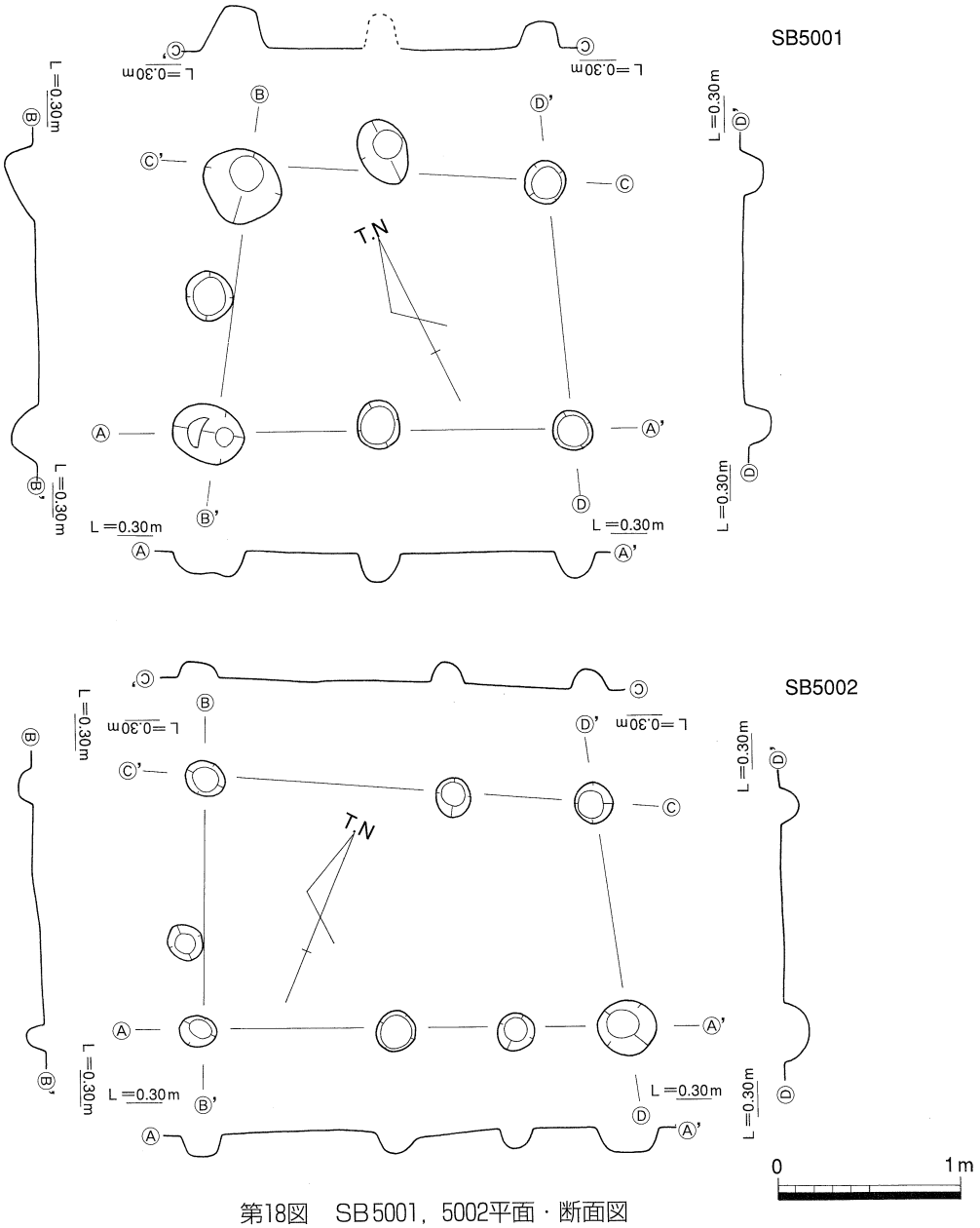


第17図　F区北壁（上段）・A区第2面（中段）・第3面（下段）セクション土層図

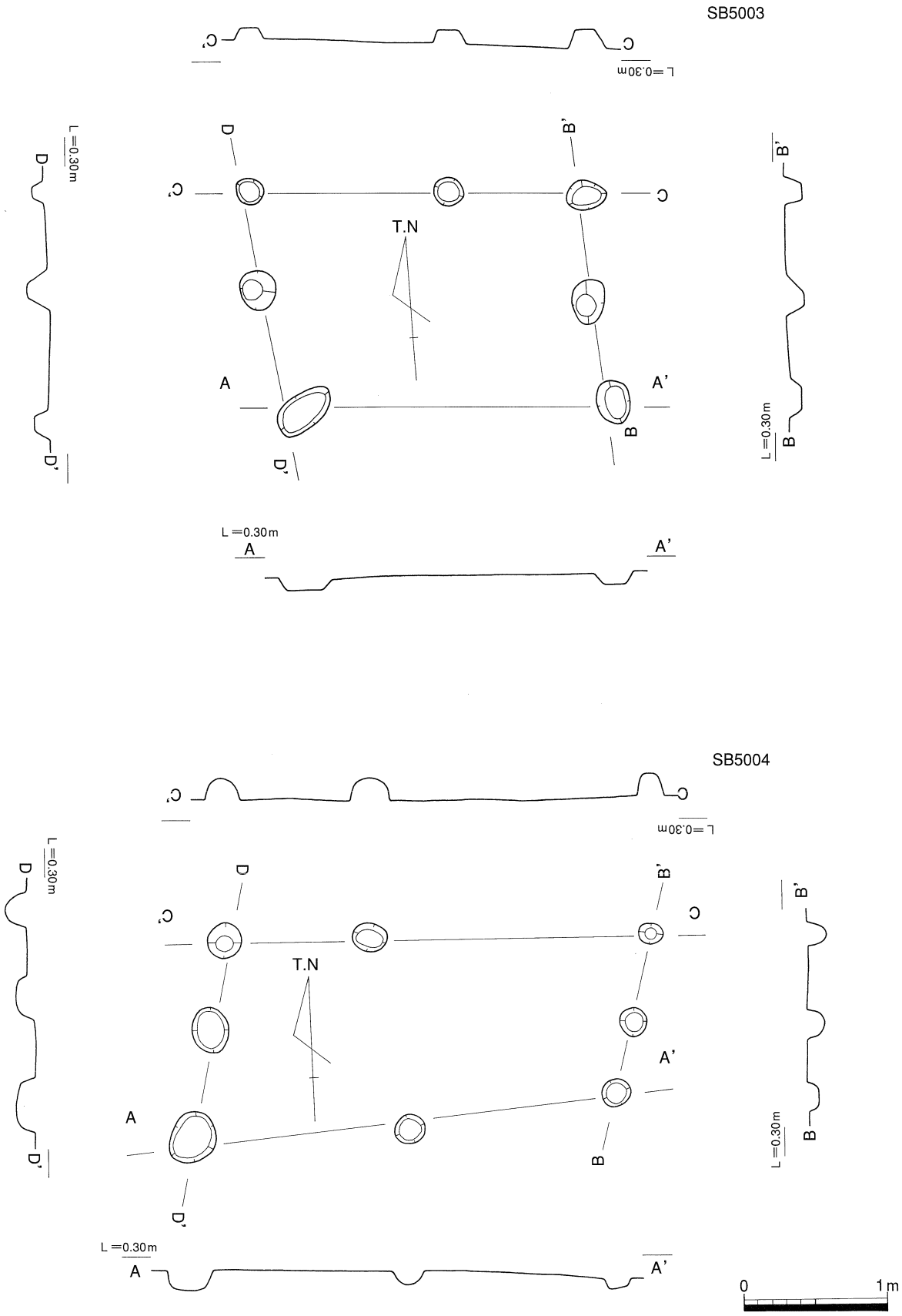
第３節　遺構・遺物
弥生時代の遺構・遺物

ピット群（第４・16・18～20図）

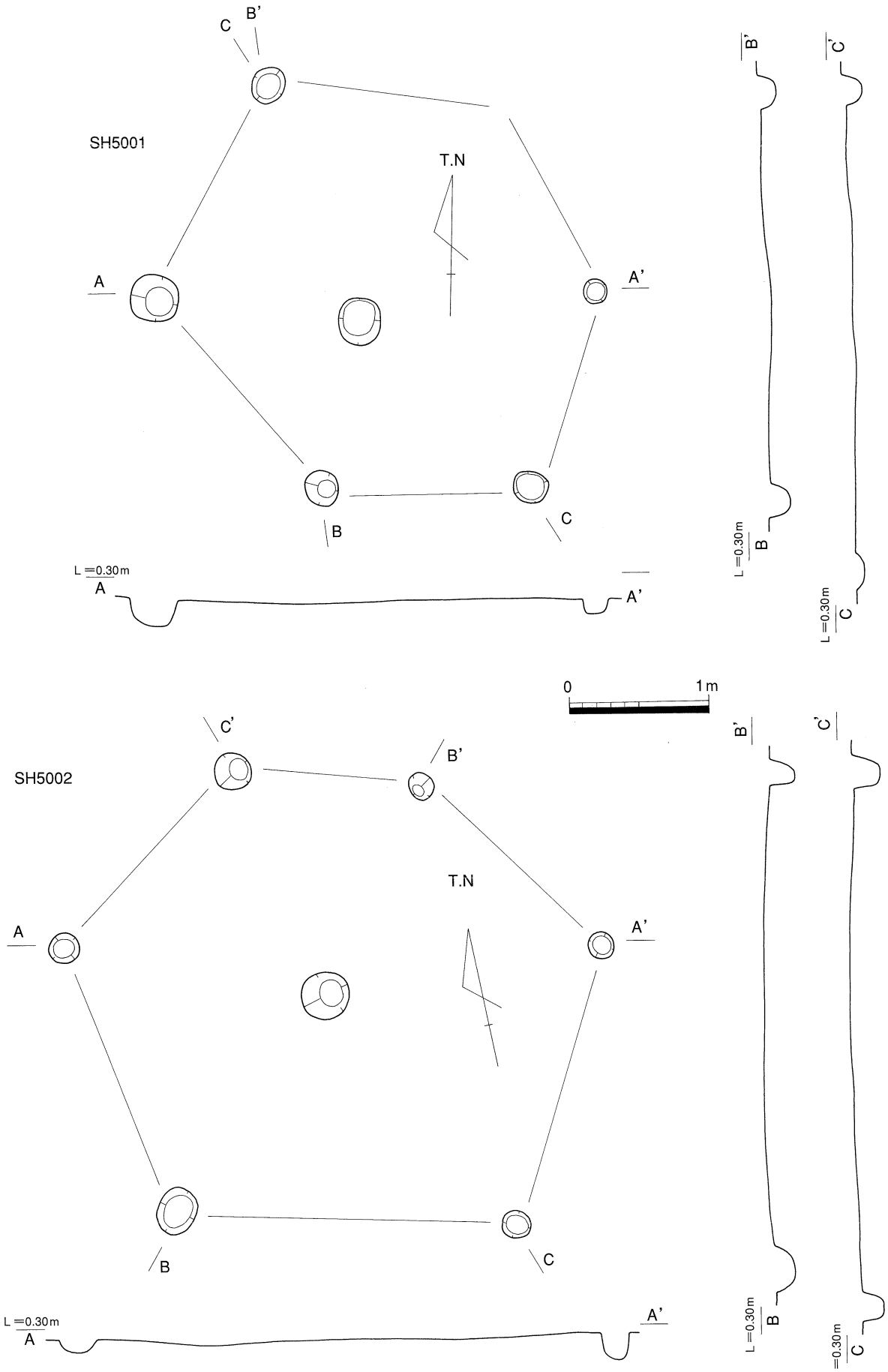
第５面Ａ区及びＣ区東部で確認したピット群である。試掘調査でＡ区に遺物包含層が認められており，安全確保の面からも調査地の東部に限り調査対象とした。ピットは５㎝～20㎝程の深度で，標高高0.2～0.3ｍとなる砂堆上面で検出された。埋土は全て灰褐色の砂混じりシルトである。部分的に10㎝程の遺物包含層が被覆する箇所も認められた。この上位には円礫を多量に含んだ砂質土で覆われており，洪水により廃絶した可能性も考えられる。包含層及びピットの出土遺物は，摩滅が認められず，楕円形の窪み（ＳＸ5001）周辺部に比較的集中して認められた。またその北西部は小規模な微高地（第16図）となっており，比較的規模の大きなピットが集まる。その他のピットもある程度の並びを見出せ，以下のように図面上で復元した。復元を行ったのは，径３～



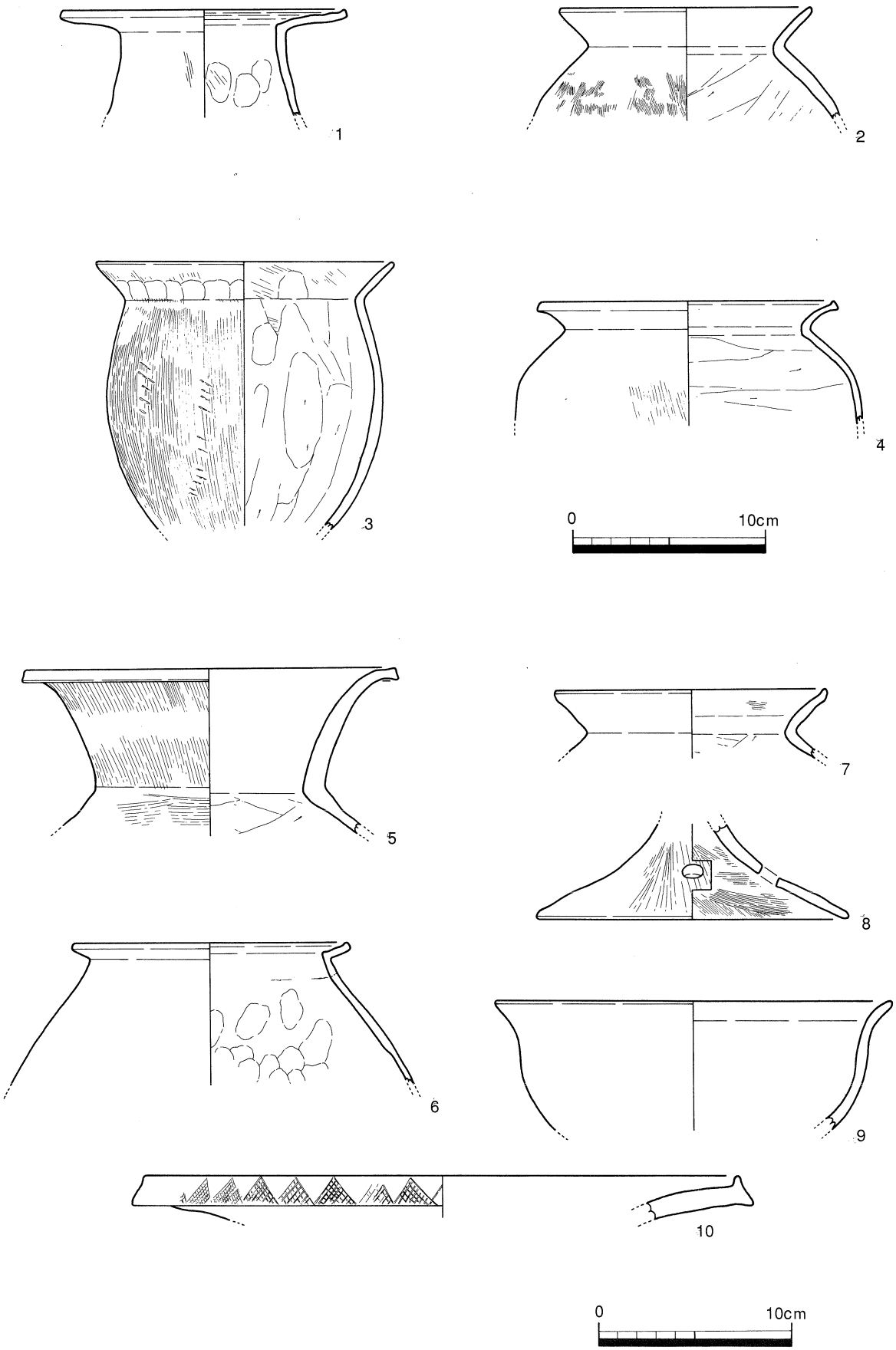
第18図　ＳＢ5001，5002平面・断面図



第19図　SB5003，5004平面・断面図



第20図　SH5001，5002平面・断面図



第21図　出土弥生土器実測図

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SP5002	1	弥生	甕		口:14.7	角閃石		内外:暗褐7.5YR3/4		外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ハケメ、指押さえ		
SP5016	2	弥生	甕		口:12.9	石英・長石		外面:にぶい黄橙10YR6/3 内面:にぶい褐7.5YR6/3		外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		
SK5001 No.1	3	弥生	甕		口:12.4	角閃石		外面:灰黄褐10YR4/2 内面:にぶい黄褐10YR5/3				
SK5001 No.2	4	弥生	甕		口:15.2	角閃石		外面:にぶい赤褐5YR4/4 内面:黒褐7.5YR3/1		外面:ナデ、板ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ		
第5面精査	5	弥生	壺			角閃石		内外:にぶい赤褐2.5YR4/4		外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		
第5面精査	6	弥生	甕			角閃石		内外:にぶい黄褐10YR5/3		外面:摩滅 内面:ナデ、指押さえ		
第5面精査	7	弥生	甕		口:13.9	角閃石		外面:にぶい赤褐5YR4/3 内面:暗赤褐5YR3/4		外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラ、ケズリ、ハケメ		
第5面精査	8	弥生	高坏脚部			角閃石		内外:褐7.5YR4/3		外面:ヘラミガキ 内面:ハケメ		円形穿孔(径1.05cm) 外面:赤色顔料付着
第5面精査	9	弥生	鉢		口:20.5	角閃石		外面:灰黄褐10YR5/2 内面:にぶい褐7.5YR5/3		内外:ナデ		
第5面精査	10	弥生	器台		口:30.8	角閃石		内外:にぶい赤褐5YR4/3		内面:ナデ		口縁端部に鋸歯文

第22図　出土弥生土器観察表

4m程の平地式住居2棟と1或は2×2間程度の小規模な掘立柱建物である。但し，土坑等ある程度の規模をもつ生活痕は確認されておらず，また遺物の出土量からも常設の居住域として想定するに至らない。周辺部の調査で当該期の遺物が比較的多く認められることから，周辺に集落が所在する可能性が高く，現状ではこれらの活動域に当地点が相当し遺構が形成されたものと推察される。

第5面出土遺物（第21・22図）

出土遺物は，包含層の出土品も含めコンテナに1／2程度である。1～4が遺構の出土で，5～10が包含層出土のものである。2を除き，胎土中に角閃石が認められ，在地産と推定される。所属時期は下川津B類土器（1・6）や5のような壺の形態等から弥生時代終末期に考えられる。

1・5は，壺である。1の口縁部は水平方向に伸び，連続した横ナデ調整を施す。5は，ラッパ状に開く口頸部を有し，外面にハケメ調整が認められる。2・7の甕は，内湾気味に開く口縁をもつ。3の甕は，口径が胴径を上回り，卵形の体部をもつ。外面にはタタキ後の，ハケメ調整が認められる。類品として木太中村遺跡で出土例がある。4の甕は，「く」字形に外反する口縁を有し，肩部が張る器形となる。内面は胴部上端まで，ケズリ調整が認められる。5は，下川津B類土器の形態となる甕である。口縁部の矮小化が認められる。8の高坏脚部には，外面に赤色顔料が認められる。9はやや小型の鉢である。口縁部と体部の境が緩やかに括れる。10は器台若しくは壺口縁部である。口縁端面に鋸歯文が施される。

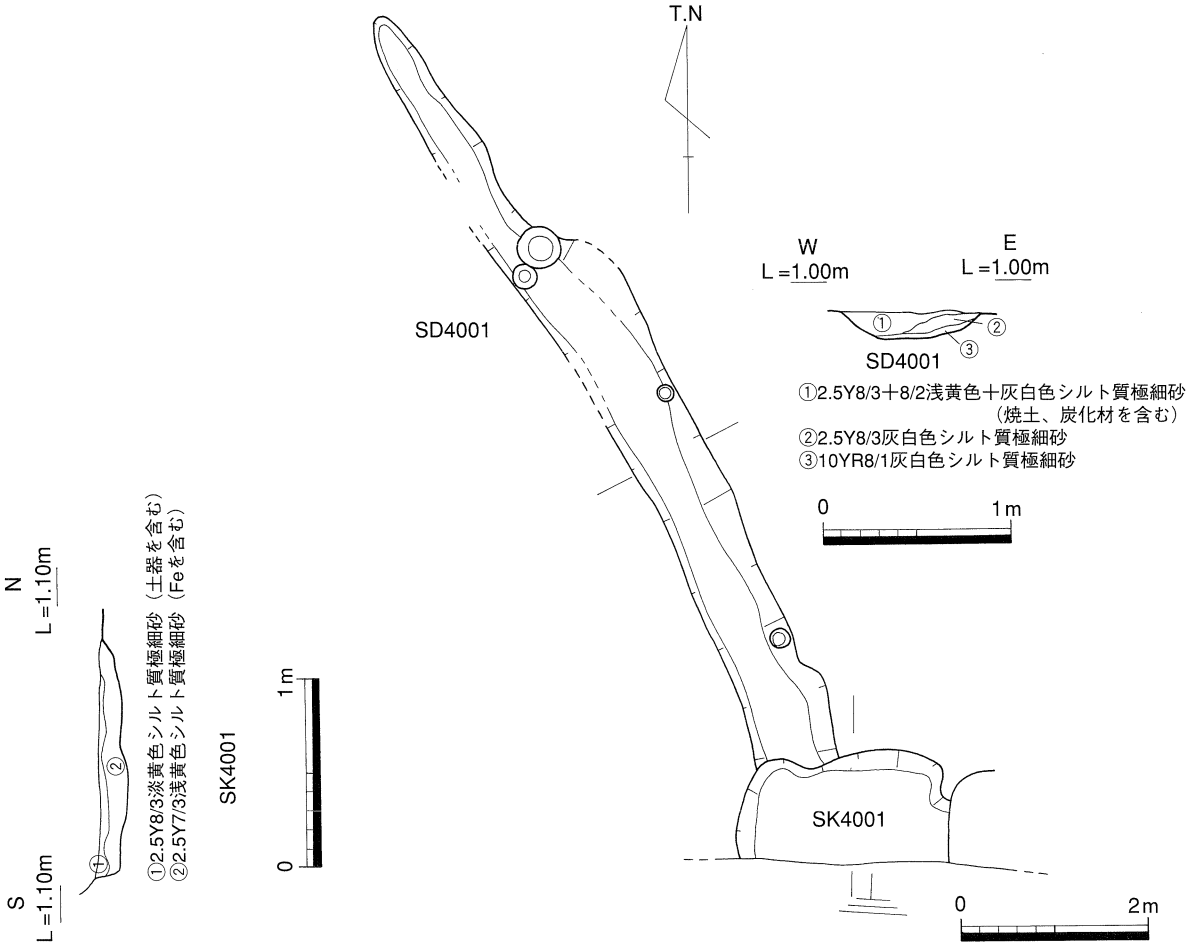
古代の遺構・遺物

SD4001（第23図）

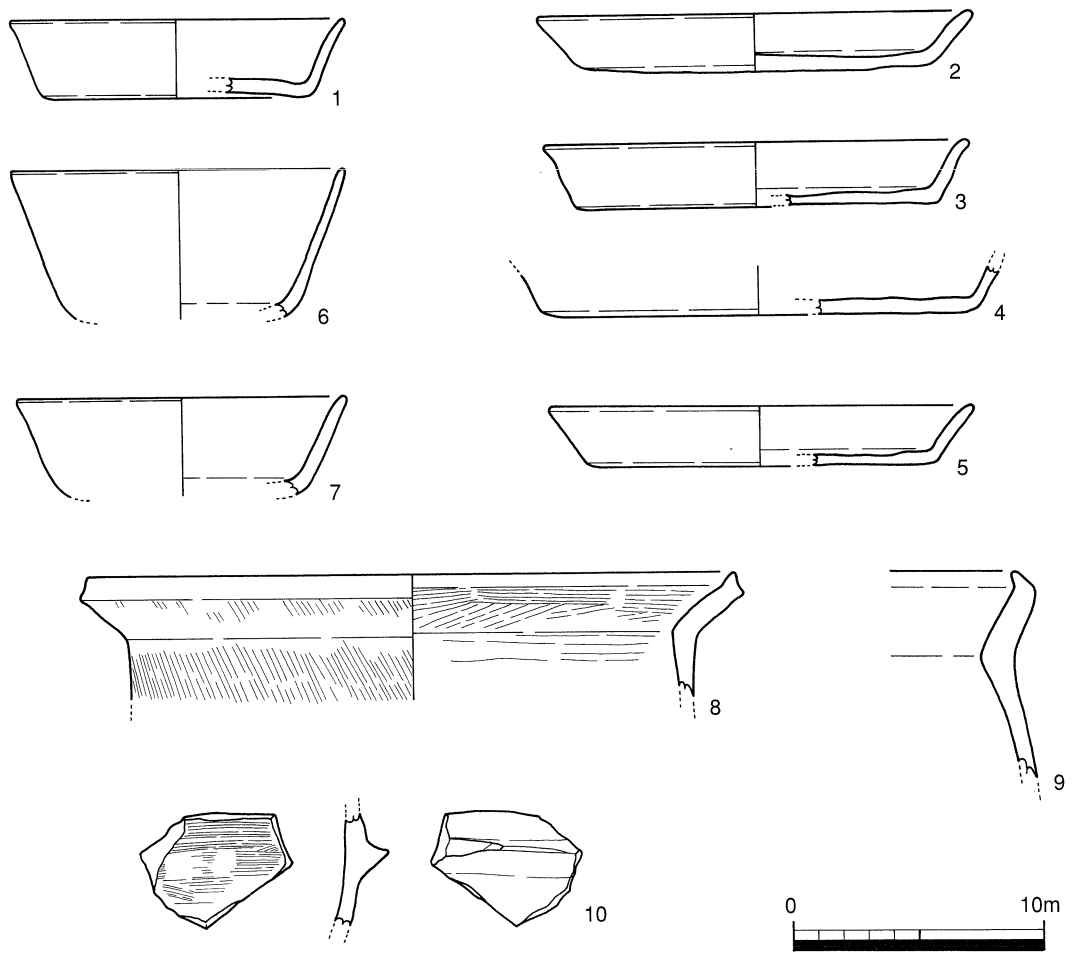
第４面Ａ－Ｃ区南部で確認した溝跡である。検出した標高は0.63～0.87ｍ，底面の標高は0.6～0.75ｍを測り，緩やかに北西へと下る。主軸は，Ｎ－57.5°－Ｗを示す。検出長は約９ｍ，検出幅は最大で約0.8ｍである。断面はＵ字形で，上層部には，焼土を含んだ堆積が認められる。また当遺構の埋土と考えられる堆積物が，第２面ＳＸ2034（褐色土），第３面でＳＸ3008（褐色土に焼土を含む）として，断続的であるが確認されている。出土遺物に各遺構間で接合関係が認められることから，当遺構の所産として推定される。ＳＸ2034は，1.1ｍの標高で確認されており，当時の生活面が高い位置に想定され，比較的安定していた可能性が考えられる。所属時期は，出土遺物より８世紀末葉～９世紀代の所産と考えられる。

SD4001出土遺物（第24図）

１～７は，須恵器である。坏（１・６・７），皿（２～５）。８～10は，土師器である。長胴甕（８）。９は，長胴タイプに復元されるが，器高が浅い鍋の形態となる可能性がある。口縁端部を上方に摘み上げ，体部外面にハケメ調整を施す。10は，焼成が良好で陶質に近く見られる。羽釜の鍔部と考えられる。



第23図　SK4001・SD4001平面・土層図



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SD3008	1	須恵	坏		底:10.7	砂粒少		内外:青灰5B6/0		内外:ロクロナデ		
SD3008	2	須恵	皿		口:17.1 高:2.3 底:13.8	微砂粒		内外:灰白N7/0		内外:ロクロナデ		
SD3008	3	須恵	皿			砂粒		外面:灰6/0 内面:N5/0		外面:ロクロナデ,ヘラキリ 内面:ロクロナデ		
SX2003	4	須恵	皿		底:17.4	微砂粒少				外面:ヘラキリ,ロクロナデ 内面:ロクロナデ		
SX2003	5	須恵	皿		口:16.7 高:2.35 底:13.0	微砂粒	灰N4/0	内外:N4/0		内外:ロクロナデ		
SD3008	6	須恵	坏		口:13.3	微砂粒		内外:青灰5B5/0		内外:ロクロナデ		
SD3008	7	須恵	坏		口:13.2	微砂粒少		内外:灰白N7/0		内外:ロクロナデ		
SD3008	8	土師器	甕		口:25.8	石英・長石		外面:暗褐7.5YR3/3 内面:にぶい褐7.5YR5/3		内外:ナデ,ハケメ		
SX2003	9	土師質	鍋			石英・長石	赤橙10R6/8	赤橙10R6/8		内面:口縁部 外面:ハケメ		
SX2003	10	土師質	羽釜口縁部			微砂粒	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8		内面:ハケメ		煤付着

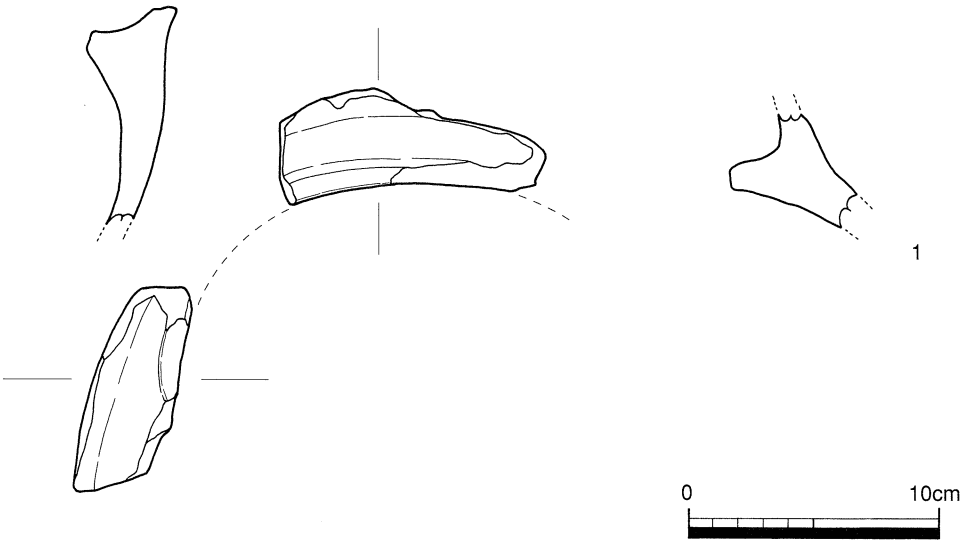
第24図　SD4001出土遺物実測図・観察表

SK4001（第23図）

第４面，Ａ区南部で確認した土坑である。検出した標高は0.88～0.9ｍで，底面の標高は0.75ｍ前後を測る。検出長は約2.2ｍ，検出幅は約1.2ｍを測る。南部は調査対象外となり，東部は撹乱により壊される。断面は船底形で，底面は凹凸状となっている。重複関係でSD4001に後出する。所属時期は明瞭ではないが，確認面の状況がSD4001と大きく異ならず古代期の所産と考えられる。

SK4001出土遺物（第25図）

竈と考えられる土器片が，数点認められた。



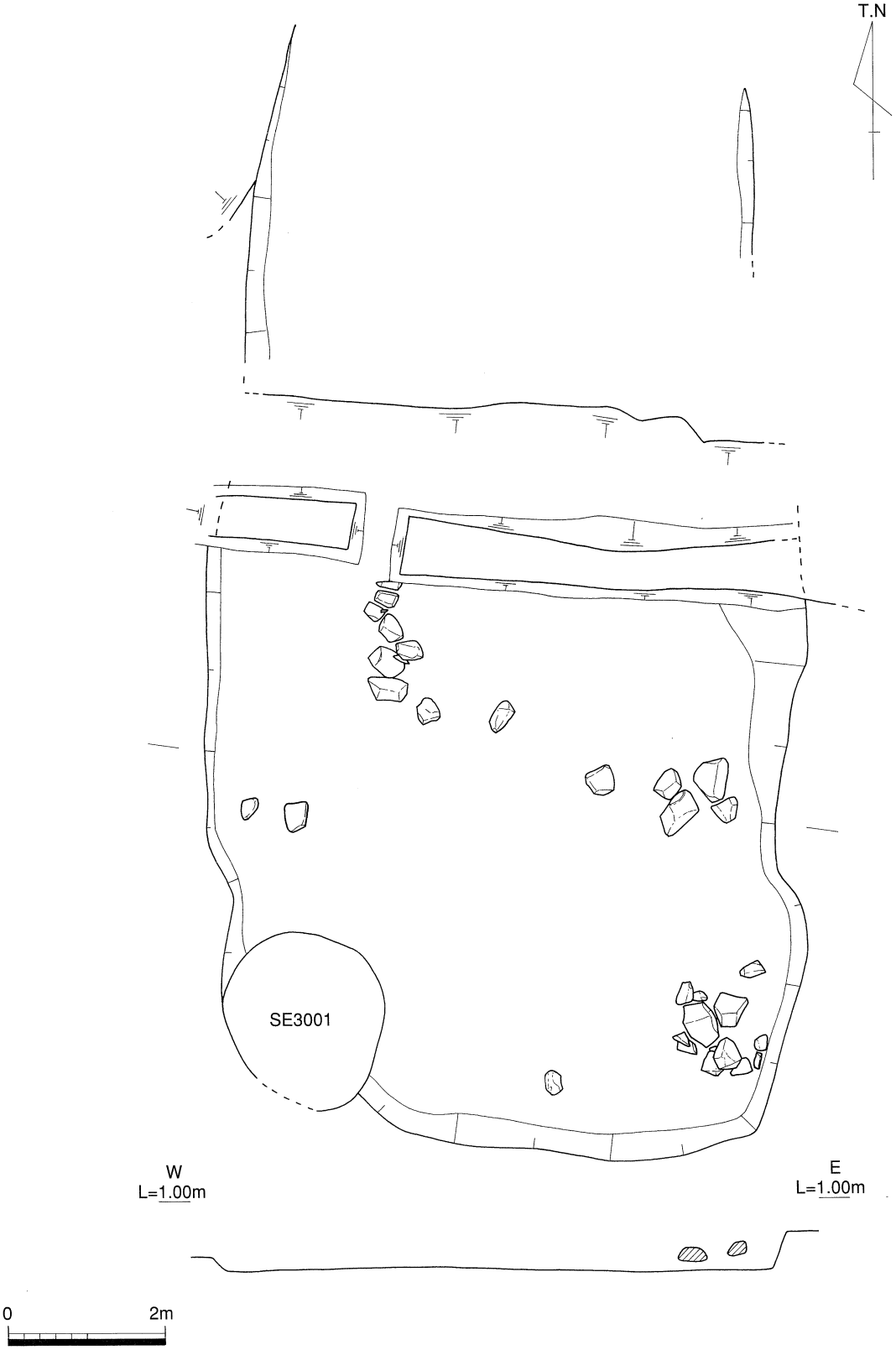
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調１（胎土）	色調２（釉薬、内外色調）	色調３（呉須、上絵）	調整	製作年代	備考
SK4001	1	土師質	かまど			石英・長石		外面：灰褐7.5YR4/2 内面：褐7.5YR4/3				

第25図　SK4001出土遺物実測図・観察表

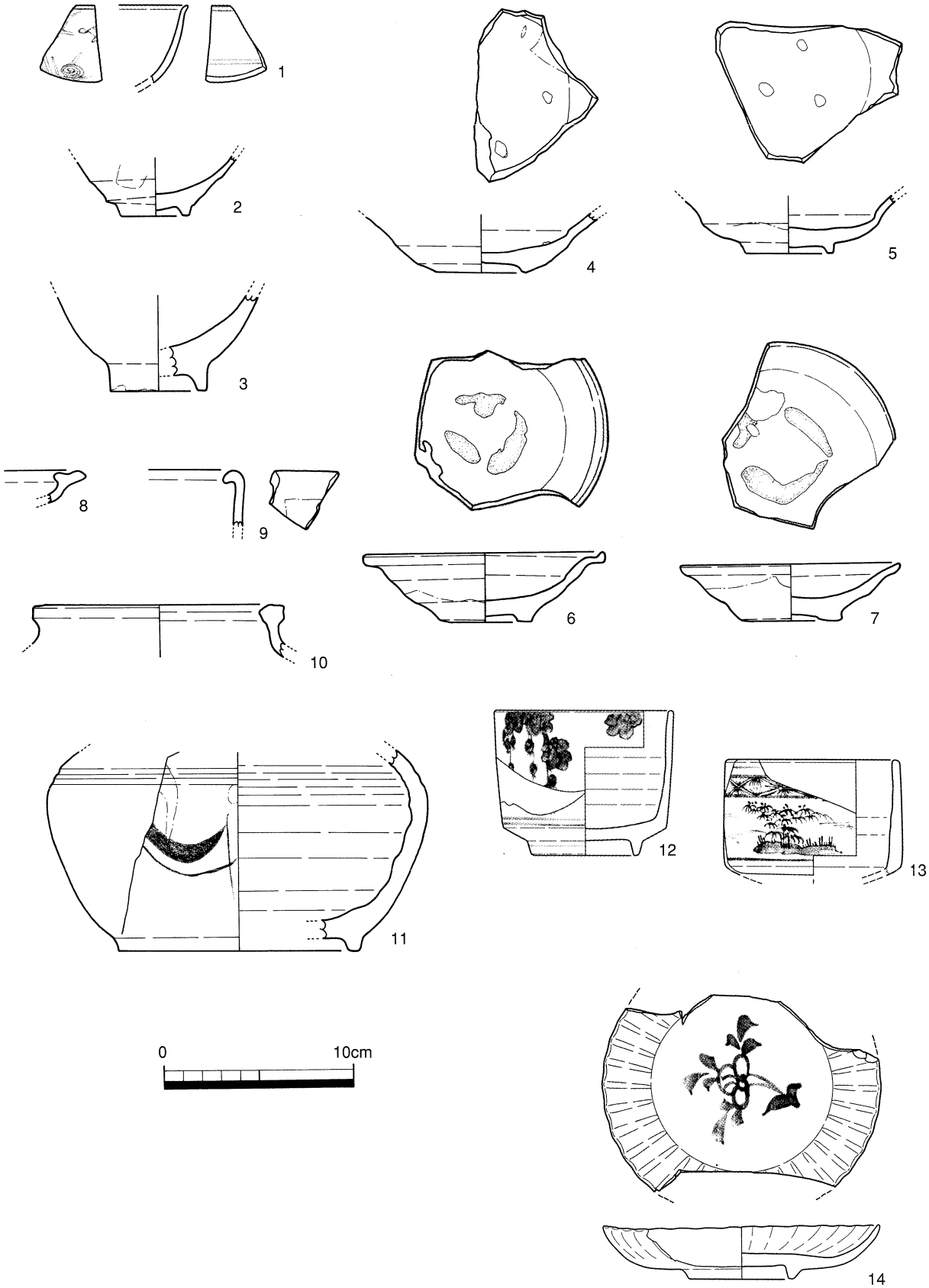
近世の遺構・遺物

SX4001（第16・26図）

Ａ区，第４面で確認した遺構である。検出した標高は0.6ｍ前後を測るが，西肩はSD3006に切られており，0.4ｍ前後で検出した。底面の標高は0.00～0.15ｍを測り，北方向の底面がやや低くなっている。検出長は約14ｍで，検出幅は約7.6ｍを測る。北壁は明瞭に検出されなかったが，ほぼ長方形の平面プランに考えられる。後出する遺構ではあるが南面がSD2003，西面がSD3006に平行しており，何らかの制約関係が推察される。断面の形状は船底形となるが，南壁はやや傾斜がきつく見られる。埋土は砂を多く含んだシルト質土で，人頭大の石，一部焼土が見られた。下位はやや有機質の堆積となり，グライ化が認められ滞水状態にあったと考えられる。上層部では埋土を覆う砂礫層（SX3002東端部までを覆う）と明瞭には分割されない箇所があり，埋め戻しと広範な整地が同時期に行われた可能性がある。出土遺物に陶磁器，瓦，動物骨，木質遺物があるが，散漫な出土状況からはゴミ溜施設としては考えにくい。後出はするが同時期に廃絶する南西隅に設置された井戸（SE3001）との関連から，水溜用の施設を想定している。



第26図　SX4001平面・断面図



第27図　SX4001出土遺物実測図（その１）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX4001	1	磁	碗	中国		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色			漳州窯
SX4001	2	陶	碗	肥前	底:3.5	細	灰白N7/0	暗オリーブ7.5Y4/3		外面:ケズリ	大橋Ⅱ期	二次焼成の痕跡有
SX4001	3	陶	碗	瀬・美	底:5.0	細	灰白10Y7/1	外面:明オリーブ灰2.5GY7/1 内面:明緑灰10GY8/1				
SX4001	4	陶	皿底部	肥前	底:4.6	細	灰白N7/0	明オリーブ灰5GY7/1		外面:ロクロナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅰ-2期	見込みに胎土目2ヶ所
SX4001 上面	5	陶	皿	肥前	底:4.5	細	灰黄2.5Y7/2	灰5Y6/1		外面:ケズリ	大橋Ⅰ-2期	胎土目3ヶ所痕跡 唐津
SX4001	6	肥前	皿	肥前	口:12.4 高:3.5 底:4.7	細	灰赤2.5YR5/2	オリーブ灰2.5GY6/1		外面:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに砂目、 二次焼成痕
SX4001	7	陶	皿	肥前		細	にぶい橙5YR7/4	オリーブ灰5GY5/1		外面:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに砂目3ヶ所
SX4001	8	陶	口縁部	肥前		細	褐灰10YR6/1	暗赤灰2.5YR3/1				
SX4001	9	陶	口縁部	肥前		細	灰白N7/0	暗赤褐5YR3/4		外内:ロクロナデ		
SX4001	10	陶	口縁部	肥前	口:11.5	細	灰N6/0	外面:極暗赤褐2.5YR2/4 内面:暗灰N3/0				
SX4001 南部面	11	陶	壺	肥前	底:12.6	砂粒少	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/2				外面に鉄絵、緑釉
SX4001	12	磁	碗	肥前	口:9.15 高:7.5 底:5.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	―		筒形碗
SX4001 上面	13	磁	碗	肥前	口:8.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色	―	大橋Ⅱ-2期	筒形碗
SX4001 上面	14	磁	皿	肥前	口:14.3 高:2.85 底:5.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:ー 内面:草花	大橋Ⅱ-1期	高台畳付に砂粒付着、型打成形

第28図　SX4001出土遺物観察表

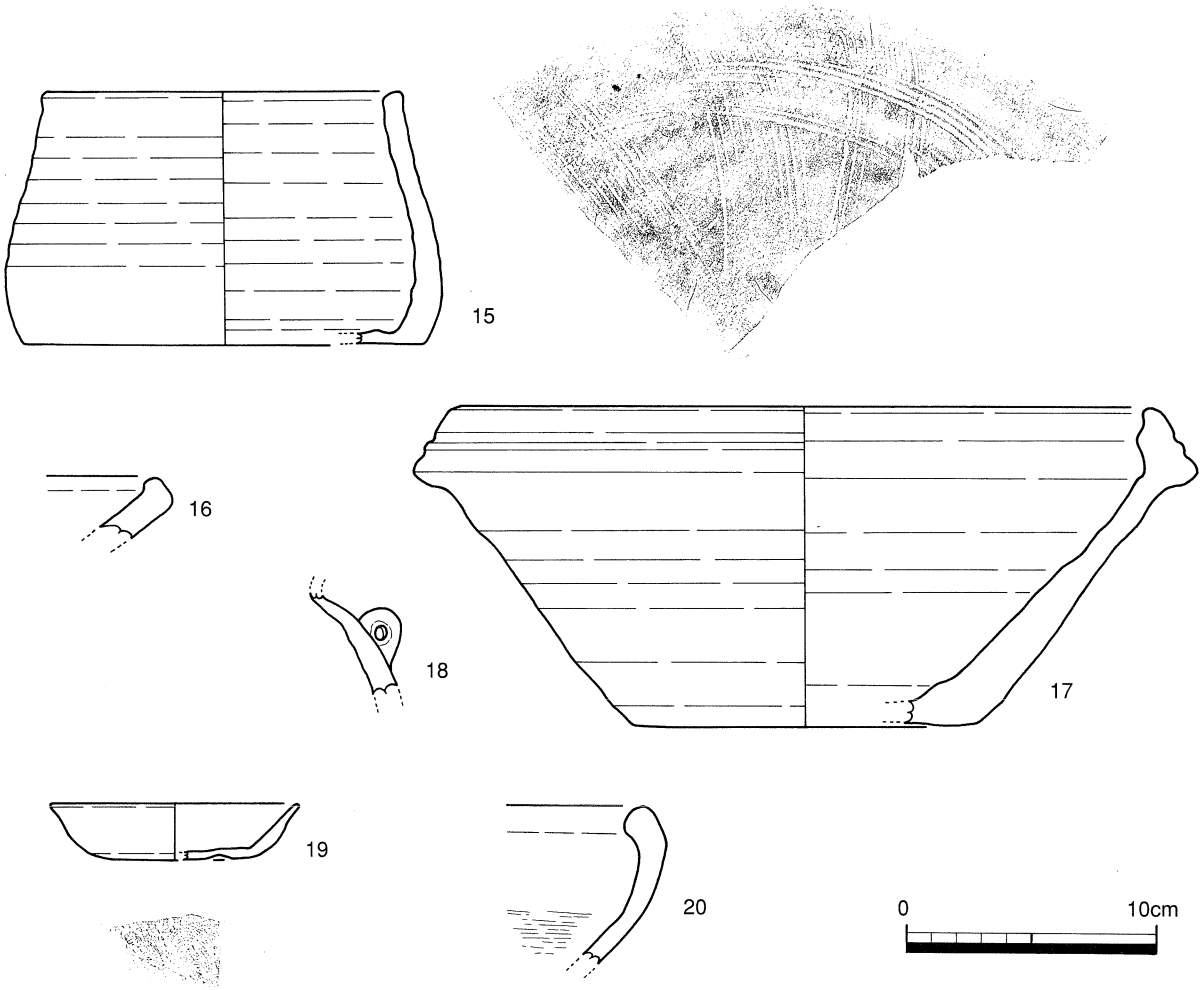
SX4001出土遺物（第27～31図）

遺物の出土量は，コンテナ2箱程度である。木製品では，箸，漆器等若干量が出土している。瓦については図化を行っていないが，媒が付着し被熱したものが認められる。遺物の所属時期は，胎土目唐津等17世紀初頭のもの認められる一方で，肥前系磁器が一定量占め，比較的長い所属時期が考えられる。しかし肥前系磁器についても後出のSX3004・3005（1658年～1688年）に比べると，明らかに古相で17世紀中葉頃を中心とした所産に考えられる。なお当地点の第5面で，弥生時代の遺物包含層及び遺構面が標高0.2～0.3mで確認されているが，これを壊す本遺構に弥生時代の遺物が混じる。

1は，漳州窯系青花碗である。口縁端部が短く外反する。2は，肥前系陶器碗である。高台部は露胎で，胴緑釉の施釉が認められる。3は，瀬戸・美濃系陶器碗である。灰釉が施釉される。4～11は，肥前系陶器である。胎土目の皿（6・7）と砂目の皿（4・5）が認められる。6は，碁笥状の底部をもつ。4は，口縁部が溝縁状になっている。8・9は，口縁部にのみ鉄釉を施すもので，火入の口縁部と考えられる。10は，甕口縁部である。11の壺体部は灰釉を施し，鉄絵を描いている。12～14は，肥前系磁器である。碗には，筒形のもの（12・13）が認められる。14の皿は型打成形によるのもので，初期伊万里と考えられる。15～18は備前である。15は鉢形となり水指に考えられる。漆による焼継ぎが認められる。16は平鉢の口縁部と考えられる。17は擂鉢である。口縁外面顎部に熔着痕，内面下端部に突起が認められ，口縁外面の凹線は2重である。内面には斜め方向の擂目をもち，擂目には著しい摩滅が認められる。18は耳が付き，壺肩部と考えられる。19は，土師質土器皿である。底部回転糸切り，胎土は橙色系のものである。20は，把手付鍋の口縁部と考えられる。口縁端面の横ナデでは弱く，内面にはハケメ調整が認められる。

21は漆器碗である。体部が直立する器形で，高台は高く，抉りは深い。

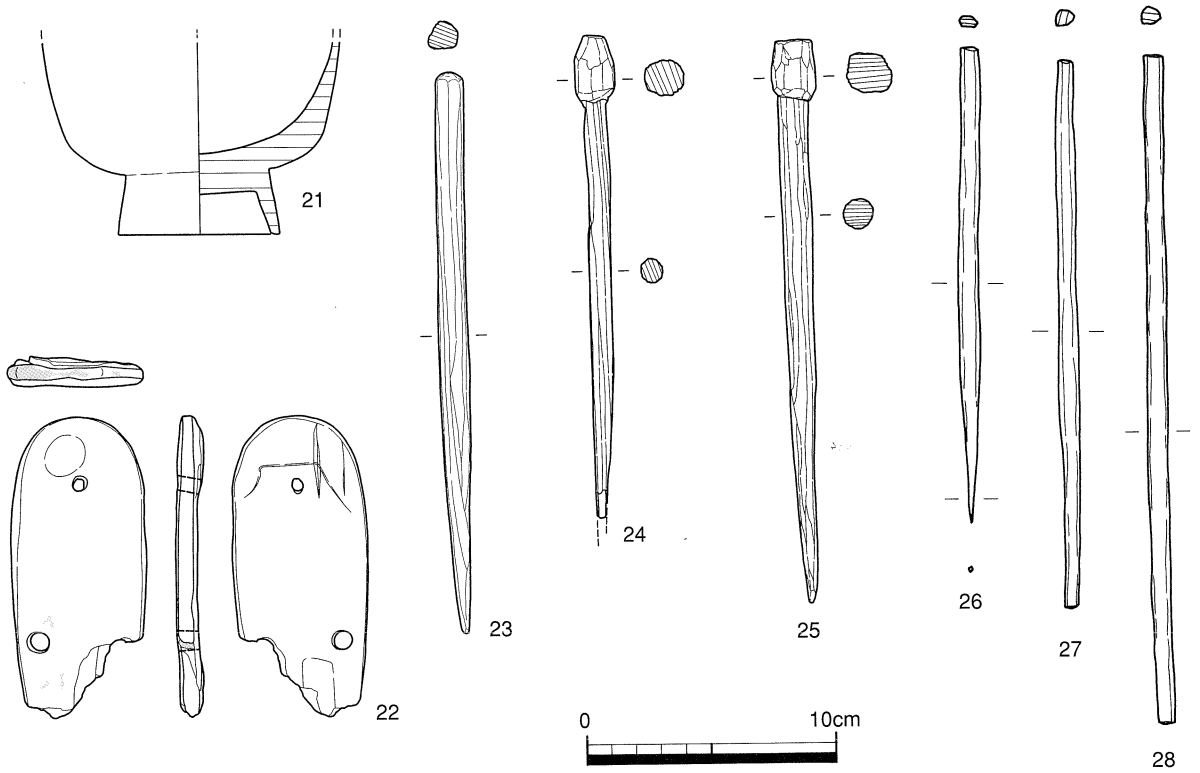
22～28は木製品である。22は下駄。小型のもので子供用のものに考えられる。23～25は針とした。23は頭部をもたず，面取りし先端部を尖らせる。24・25は断面がやや扁平な頭部を有する。基部から先端部にかけて，断面がほぼ円形となっている。26～28は白木箸とした。26は箸としたが先端部が尖り，23と同様の形態となり針の可能性も考えられる。基部の断面はやや扁平となっている。27・28は基部から先端部にかけてほぼ同様の太さで，断面六角形となるように面取りされている。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX4001	15	陶	水指	備前	口:13.6 高:10.0 底:15.9	細		外面:赤灰2.5YR4/1 内面:にぶい赤7.5R4/4				漆による焼継ぎ有
SX4001	16	陶	口縁部	備前		微砂粒		外面:暗赤10R3/6 内面:灰白2.5Y8/2		外面:ロクロナデ		
SX4001	17	陶	擂鉢	備前	口:27.4 高:12.6 底:13.8	石英・長石		外面:灰褐7.5YR4/2 内面:暗褐7.5YR3/3		内外:ロクロナデ	近世Ⅱa期	
SX4001	18	陶	肩部	備前		細		外面:暗赤褐2.5YR3/2 内面:灰赤2.5YR4/2		内外:ロクロナデ		
SX4001 上面	19	土師	小皿			微砂粒		内外:浅黄橙7.5YR8/4		外面:ロクロナデ,回転糸切り 内面:ロクロナデ		2次焼成の痕跡有
SX4001	20	土師質	外耳付鍋			石・長・金		外面:淡黄橙10YR8/3 内面:澄橙5YR8/4		外面:ナデ 内面:ナデ,ハケメ		

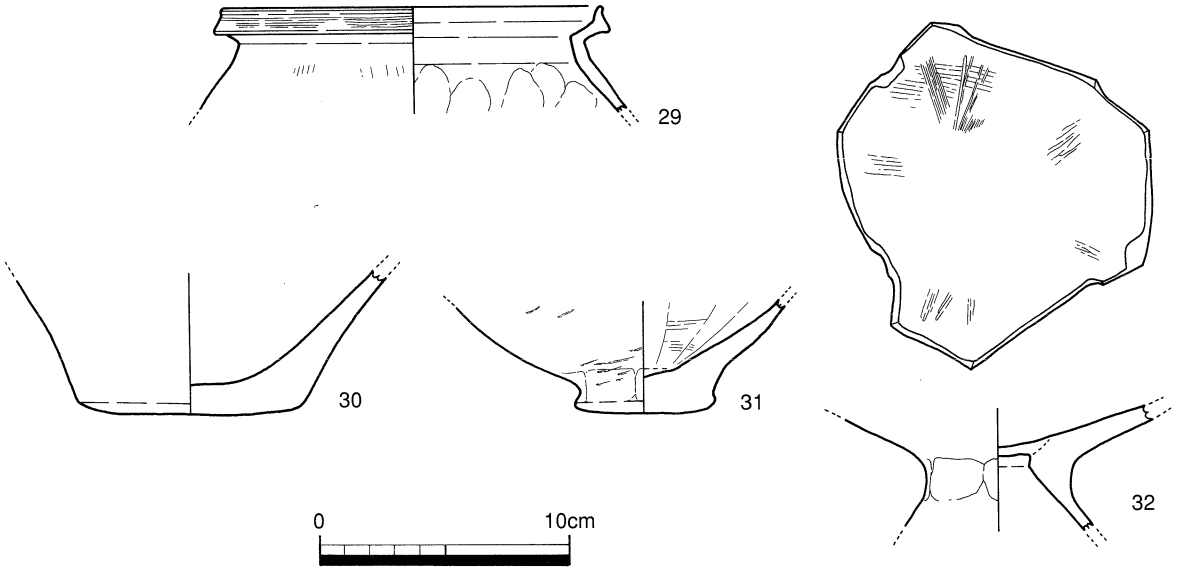
第29図　SX4001出土遺物実測図・観察表（その2）

29～32は弥生土器である。第５面よりの混入品として考えられるが，第５面の所属時期に想定される後期末葉よりも古相の形態29（後期初頭）が認められる。器面に認められる摩滅は，少ない。29は，弥生土器甕である。上下に拡張させた口縁端面に凹線が認められる。30は，弥生土器（甕）底部。31は，弥生土器鉢底部。上底状の高台部をもつもので，外面にタタキ痕を留める。内面には，ハケメ調整が認められる。32は，弥生土器高坏である。坏部内面は，ハケメ後のミガキ調整が施される。30を除き，胎土に角閃石を含有し在地産土器と考えられる。



遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX4001	21	碗	底:6.50					漆器 内外:黒漆	14
SX4001	22	下駄		12.0		5.4	1.1	刳り　一部に黒漆が残る	
SX4001	23	針	最大長:22.2、最大幅:1.1、最大厚:1.1					むしろの針	
SX4001	24	針	現存長:19.1、最大幅:1.6、最大厚:1.4					むしろの針	
SX4001	25	針	最大長:21.3、最大幅:1.8、最大厚:1.5					むしろの針	
SX4001	26	箸		18.7		0.9	0.4		
SX4001	27	箸		21.6		0.8	0.7		
SX4001	28	箸		26.4		0.9	0.7		

第30図　SX4001出土遺物実測図・観察表（その３）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX4001	29	弥生	甕		口:15.0	角閃石		外面:褐7.5YR4/3 内面:にぶい褐7.5YR5/4		外面:ナデ,ハケメ 内面:ナデ,指押さえ		
SX4001	30	弥生	底部		底:8.8	石英・長石		外面:灰黄2.5Y6/2 内面:黒5Y2/1		内外:剥離		
SX4001南	31	弥生	鉢底部		底:5.55	角閃石		外面:にぶい黄褐10YR5/3 内面:にぶい黄褐10YR5/4		外面:タタキ,板状押圧 内面:板ナデ,ハケメ		
SX4001南	32	弥生	高坏坏部			石・長・角閃石		内外:明赤褐5YR5/6		外面:摩滅 内面:ハケメ後,ヘラミガキ		

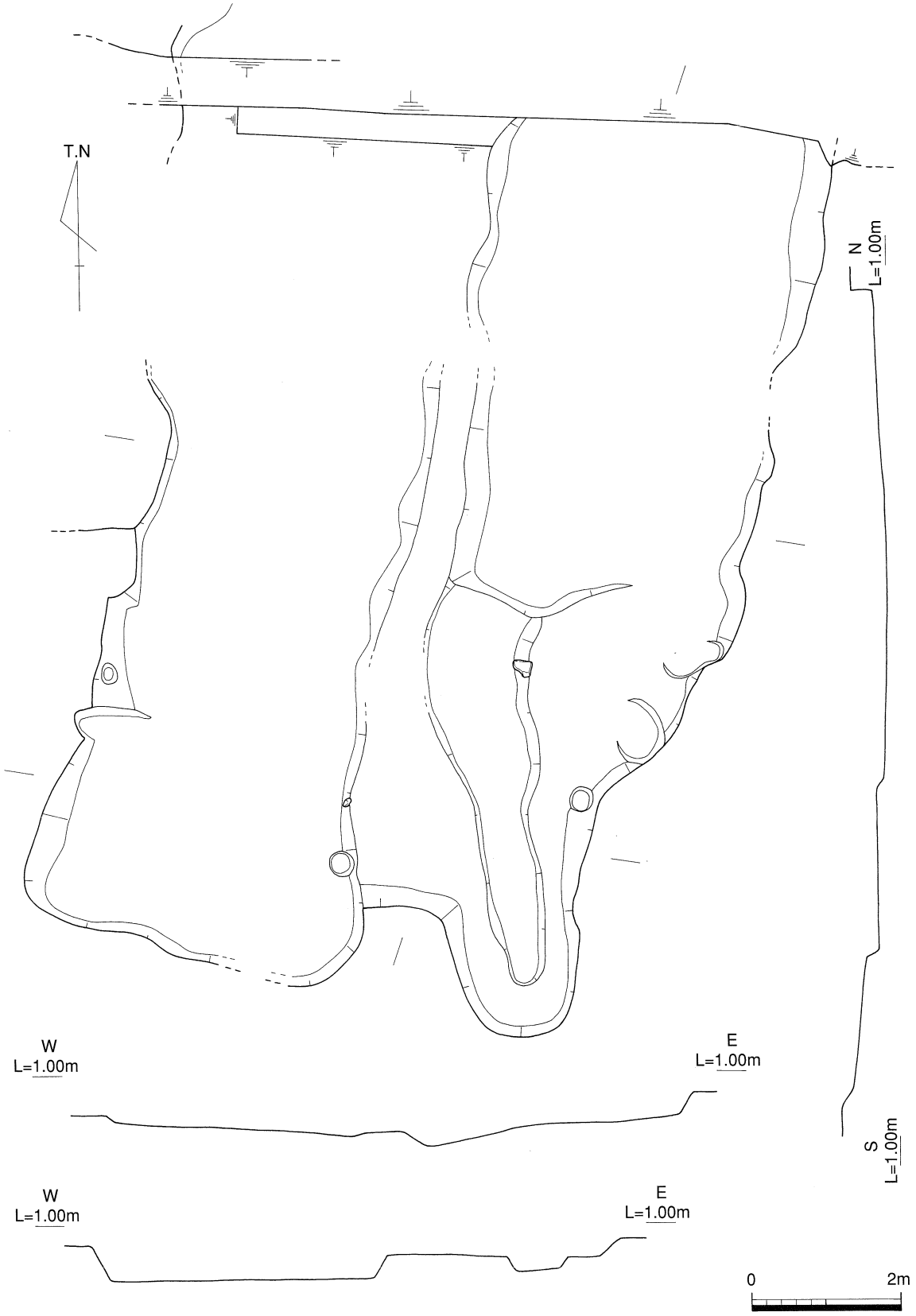
第31図　SX4001出土遺物実測図・観察表（その４）

SX3002（第11・23図）

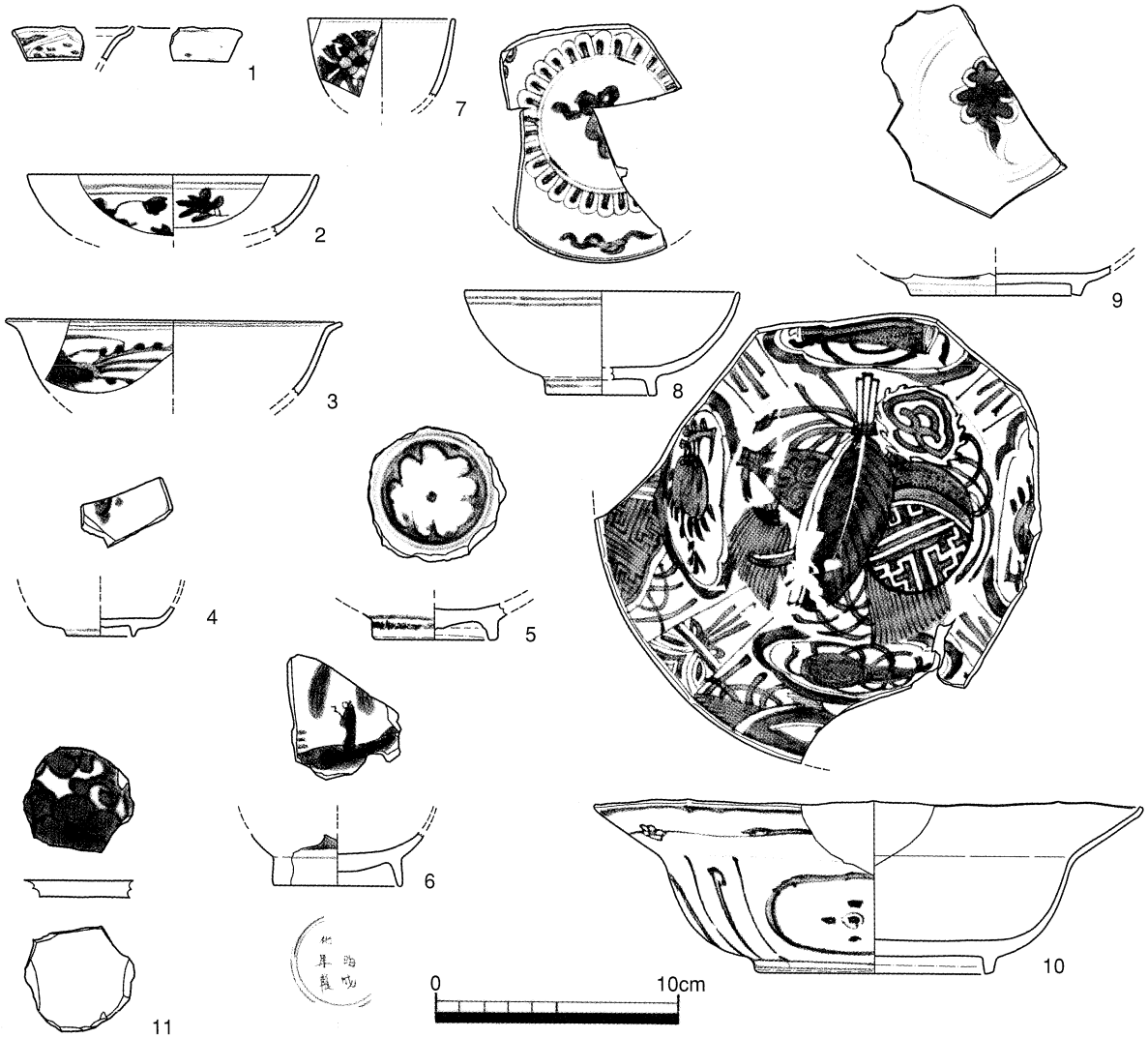
Ｃ区中央部，第３面で確認した遺構で，Ｃ区中央部に認められた窪地の下層部に相当する。検出した標高は0.47～0.89m，底面の標高は0.05～0.43を測る。検出長は12.6mで，検出幅は8.2mを測り，調査対象外となる北方へと伸びる。埋土は黒褐～褐灰色シルト及び灰色砂の互層が重層を呈し認められ，下位では木質遺物及び有機物を多量に含む泥炭化した堆積物となり，一部ではグライ化が認められた。平面の形状はやや不整形な長方形であるが，底面には２条の溝状となる窪みが認められる。東西方向の断面でW形を呈する底面の状況から，本来は溝状の遺構であった可能性も考えられる。また先行するSX3007（17世紀初頭）に直交する位置関係や規模からその関連が推察される。

遺構の前後関係を示すものに，当遺構に先行するSX3007（17世紀初頭の埋没），当遺構の東端部を覆う整地（SX4001・3005の調査結果より17世紀中葉に比定）があり，17世紀初頭～17世紀中葉の所産に想定される。さらに近接し，埋土の状況が酷似するSX3003（17世紀前葉）からは，同様の埋没期が考えられる。

出土遺物は，陶磁器の他，瓦，木製品，漆器製品，動物骨（魚，ニシ貝を含む），しろ等多種のものが含まれ，廃棄場の様相となる。また，陶磁器で茶懐石に用した考えられるものがまとまって認められ，所有者の性格が窺われる。その他の出土遺物では，須恵器をはじめ古代・中世末期の遺物及び肥前陶磁器等17世紀後葉～18世紀代の遺物が少量だが認められる。前者については，SD3007等先行する遺構の所産にも推定される。後者については，当遺構との埋土の判別が困難であった松平期の池（SX2008）からの混入が考えられる。

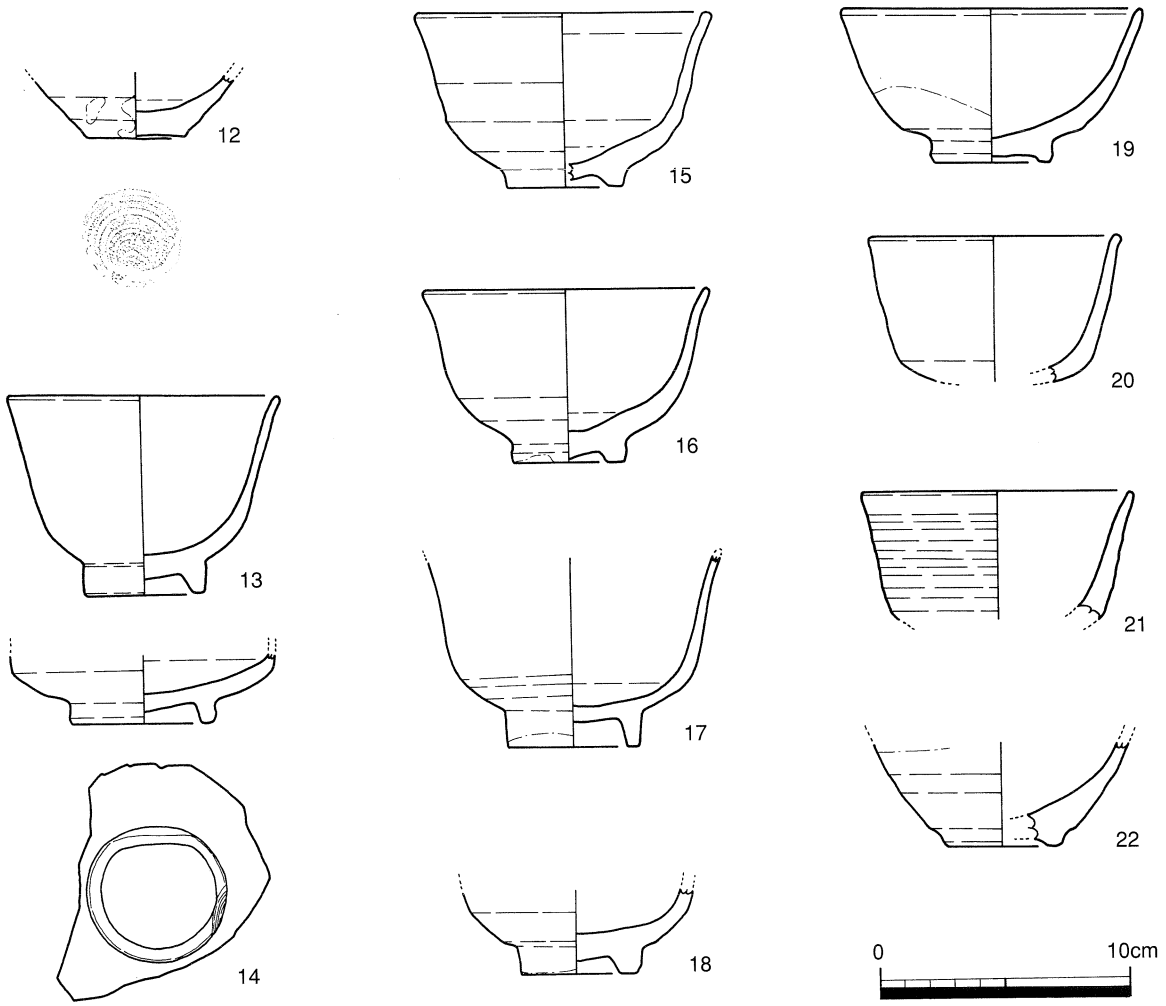


第32図　SX3002平面・断面図



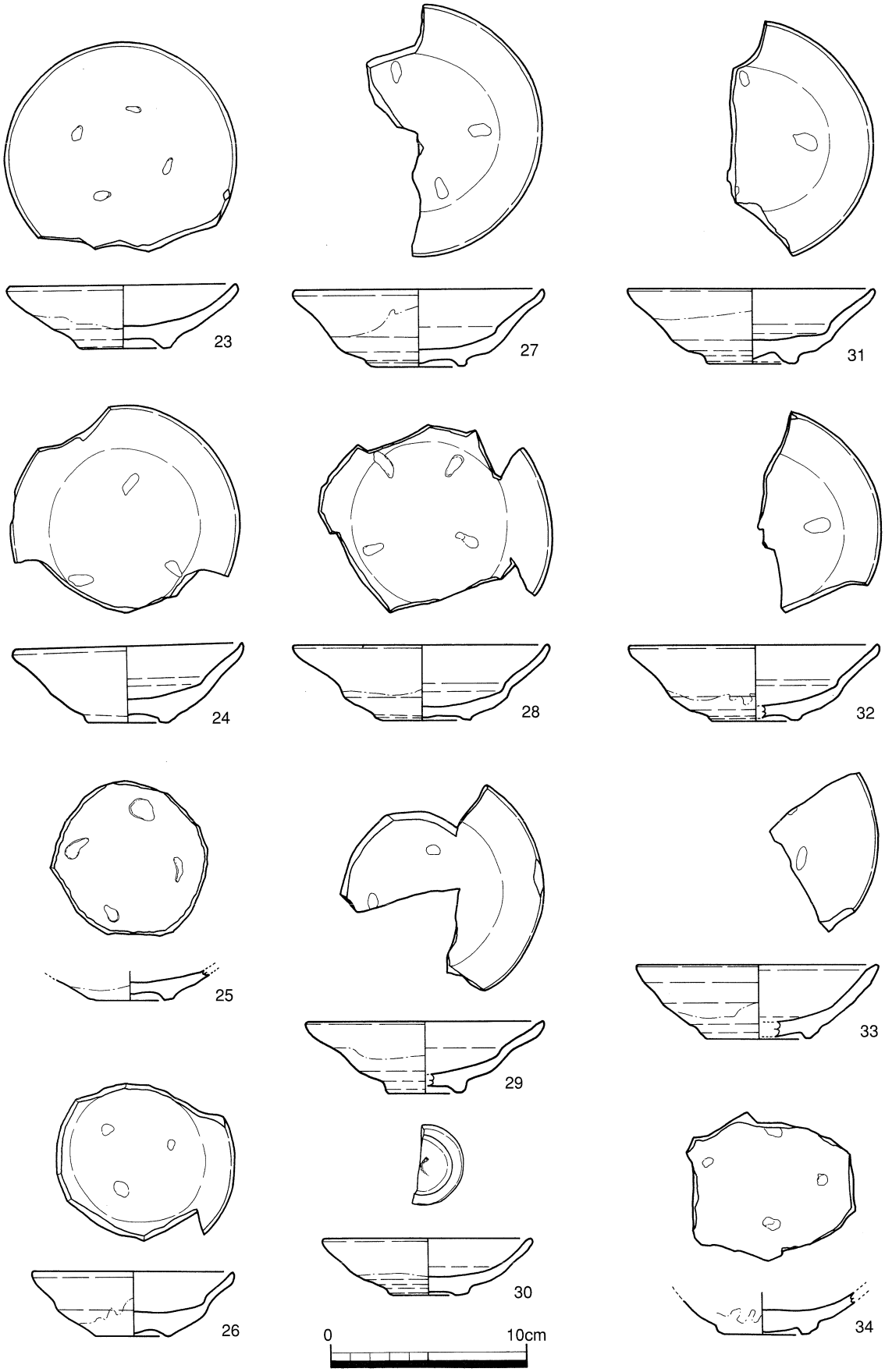
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	1	磁	口縁部	中国		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			
SX3002	2	磁	皿	中国	口:11.89	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗・淡青色			漳州窯
SX3002	3	磁	皿	中国	口:13.65	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			景徳鎮
SX3002	4	磁	底部	中国	底:2.75	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色			景徳鎮
SX3002	5	磁	碗底部	中国	底:4.85	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗・明青色			漳州窯,高台内面に付着
SX3002	6	磁	碗	中国	底:5.15	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗・淡青色			漳州窯,高台畳付に砂付着
SX3002	7	磁	碗	中国	口:5.85	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			景徳鎮
SX3002	8	磁	碗	中国	口:11.2 高:4.25 底:4.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗・淡青色			漳州窯,高台畳付に砂付着
SX3002	9	磁	皿	中国	底:6.95	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			高台内にカンナ痕 畳付に砂粒付着
SX3002	10	陶	鉢	中国	口:22.25 高:6.85 底:9.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			景徳鎮,高台畳付に砂粒付着
SX3002	11	陶	底部	中国		細	にぶい橙7.5YR7/3	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:ケズリ		漳州窯 外面に2磁焼成痕

第33図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その1）

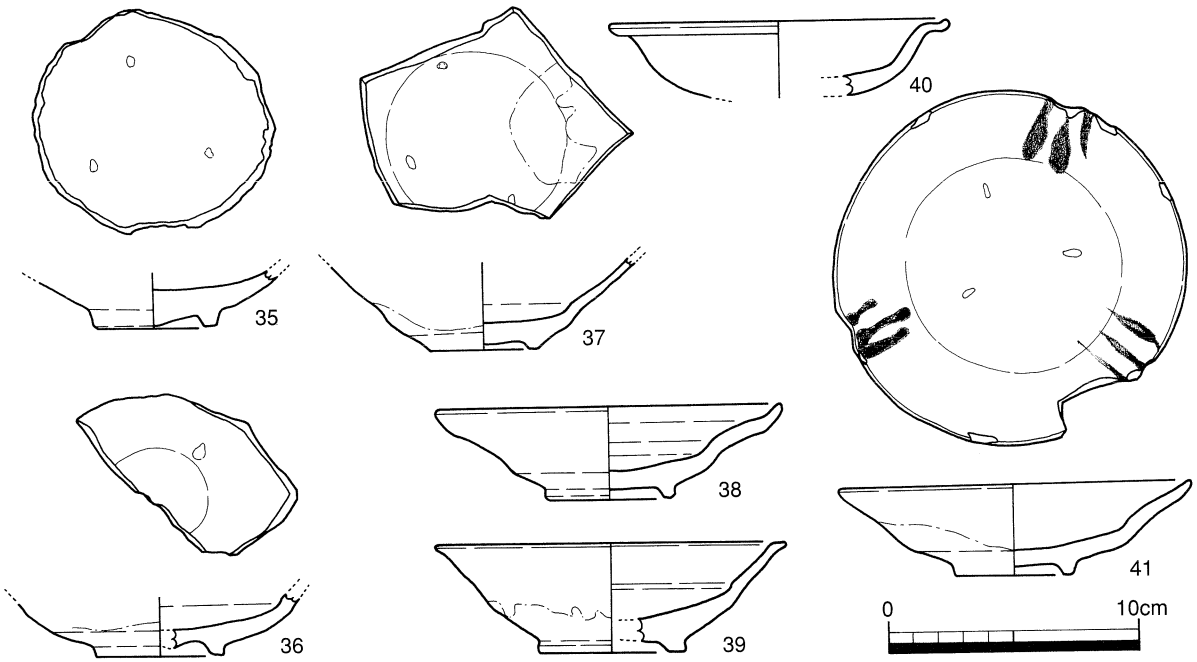


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	12	陶	底部	肥前	底:4.0	細	にぶい黄橙10YR7/3	黒N2/0		外底:回転糸切り		
SX3002	13	陶	碗	肥前	口:10.6 高:7.9 底:4.8	細	灰白2.5Y8/1	灰白7.5YR8/2			大橋Ⅱ期	畳付以外全面施釉 2次焼成の痕跡?
SX3002	14	陶	(抹茶)碗	肥前?	底:5.6	細	灰白7.5Y7/1	灰白10Y7/1				漆による焼継痕、2次焼成の痕跡
C区焼土堀下	15	陶	碗	肥前	口:11.6 高:6.8 底:4.6	細	浅黄橙10YR8/4	灰白5Y7/2			大橋Ⅱ期	
SX3002	16	陶	碗	肥前	口:11.1 高:6.8 底:4.4	細	橙7.5YR6/6	黄灰2.5Y6/1				
SX3002	17	陶	碗	肥前	底:5.2	細	灰白10YR8/1	灰白N8/0				藁灰釉?
SX3002	18	陶	碗	肥前	底:4.5	細	灰白2.5Y8/1	灰白5Y8/1				瀬・美? 内外面に被熱痕
SX3002	19	陶	碗	肥前	口:11.8 高:6.1 底:4.6	細	にぶい黄橙10YR7/2	灰N6/0		外面:ナデ、ケズリ		
SX3002	20	陶	碗	瀬美	口:9.8	細	灰白2.5Y8/2	灰黄2.5Y7/2			大橋Ⅱ期	
SX3002	21	陶	碗	肥前	口:10.6	細	浅黄橙10YR8/3	明オリーブ灰5GY7/1、白			大橋Ⅱ期	
SX3002	22	陶	碗底部	肥前	底:4.4	細	明褐灰5YR7/1	灰7.5Y6/1				

第34図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その2）

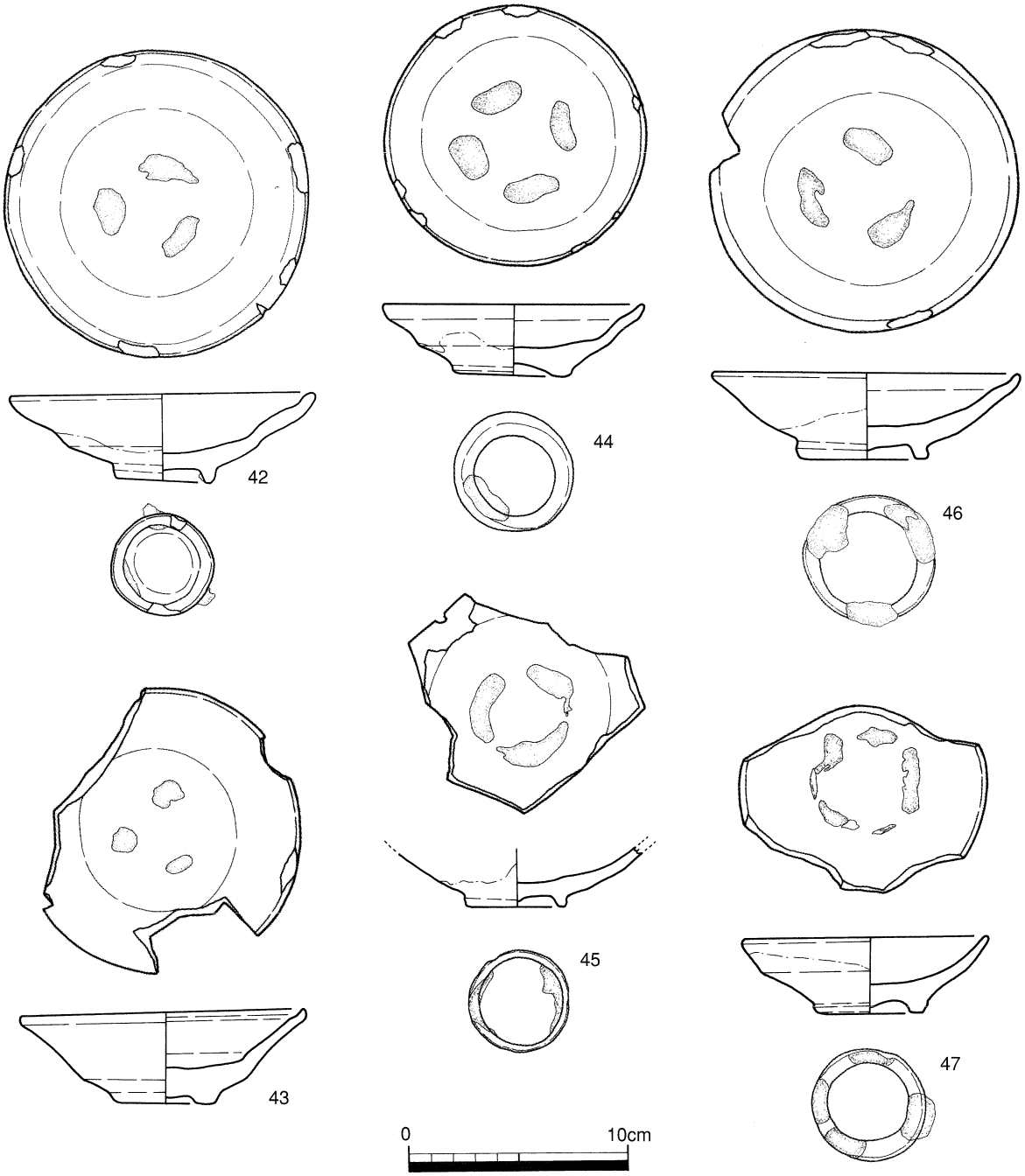


第35図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その３）



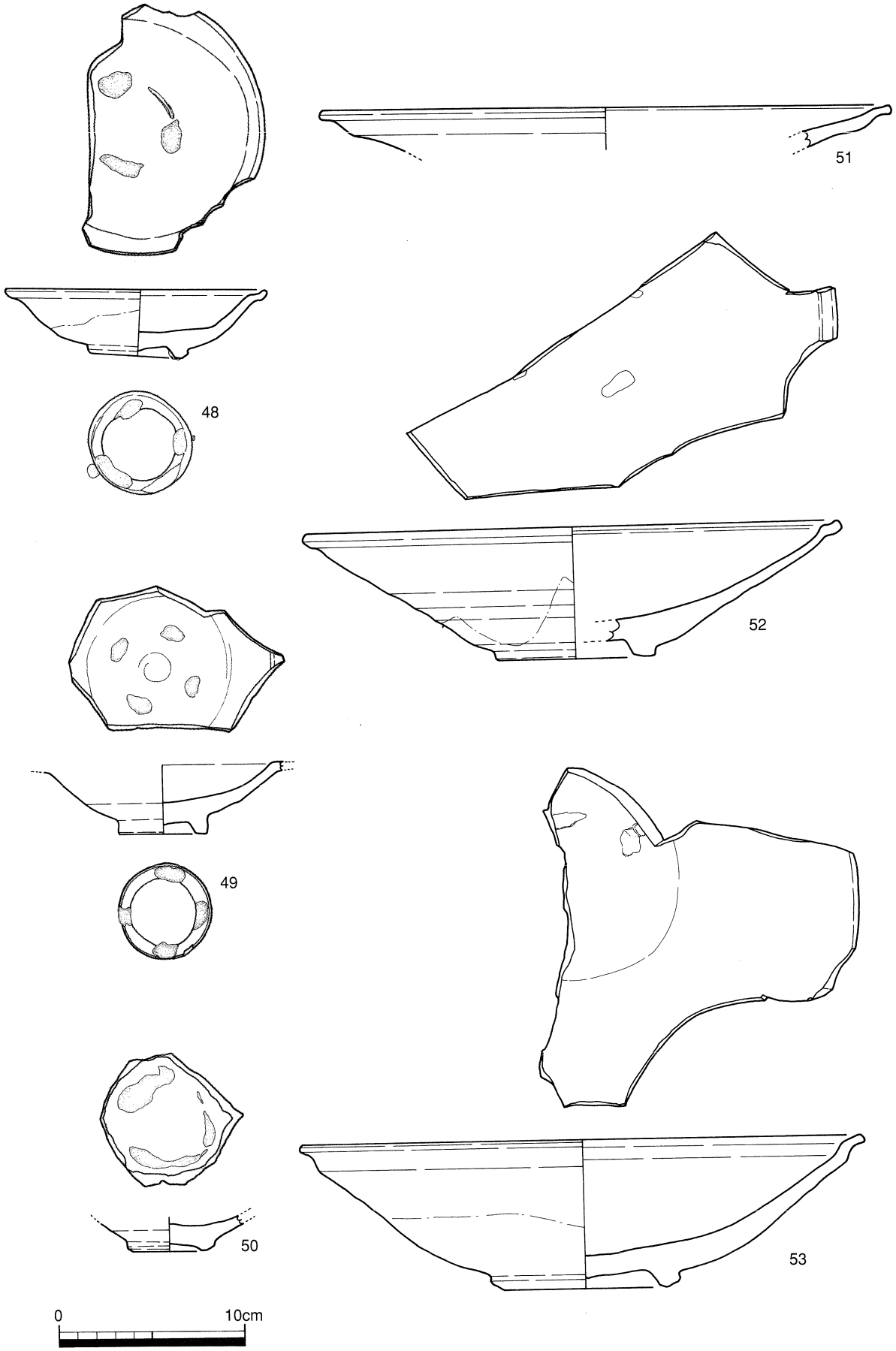
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	23	陶	皿	肥前	口:11.55 高:3.2 底:4.8	細	浅黄2.5Y8/3	灰白7.5Y7/2			大橋 Ⅰ-2期	見込みに粘土目4ヶ所
SX3002	24	陶	皿	肥前	口:11.5 高:3.9 底:4.15	細	灰白7.5Y7/1	外面:灰黄褐10YR6/2 内面:明オリーブ灰2.5GY7/1		外面:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込に胎土目2次焼成の痕跡
SX3002	25	陶	皿	肥前	底:4.3	細	にぶい黄橙10YR7/3	オリーブ灰10Y5/2			大橋 Ⅰ-2期	内面見込みに胎土目4ヶ所
SX3002	26	陶	皿	肥前	口:10.0 高:3.3 底:3.9	細	灰白N7/0	オリーブ灰10Y6/2		外面:ナデ,ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込に胎土目3ヶ所
SX3002	27	陶	皿	肥前	口:12.6 高:3.9 底:5.15	細	にぶい橙5YR6/4	オリーブ黄5Y6/3		外面:ロクロナデ,ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込に胎土目2次焼成の痕跡
SX3002	28	陶	皿	肥前		細	灰白7.5Y7/1	オリーブ黄5Y6/3		外面:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	唐津,見込に胎土目2次焼成の痕跡
SX3002	29	陶	皿	肥前	口:12.1 高:3.6 底:4.1	細	浅黄橙10YR8/3	淡黄2.5Y8/4		外面:ロクロナデ,ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目,透明釉?
SX3002	30	陶	皿底部	肥前	底:4.0	細	浅黄橙10YR8/4	灰白5Y8/1		外面上半:ロクロナデ 外底・外面下半:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	藁灰釉?見込みに無釉部分有(貝目?)
SX3002	31	陶	皿	肥前		細	橙5YR7/6	明褐灰7.5YR7/2		外面:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目2次焼成の痕跡
SX3002	32	陶	皿	肥前	口:12.5 高:3.8 底:4.5	細	灰白5Y7/1	オリーブ黄5Y6/3			大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目2次焼成の痕跡
SX3002	33	陶	皿	肥前	口:12.2 高:3.75 底:5.4	細	浅黄橙10YR8/3	明黄褐10YR6/8			大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目,全体に被熱痕
SX3002	34	陶	皿	肥前	底:4.7	細	橙7.5YR7/6	明黄褐10YR7/6		外面:ナデ,ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目4ヶ所
SX3002	35	陶	皿	瀬美	底:5.0	細	灰白2.5Y8/1	灰白10YR8/2			大橋 Ⅰ-2期	内面見込みに胎土目3ヶ所
SX3002	36	陶	皿底部	肥前	底:5.0	細	灰白7.5Y7/1	明オリーブ灰5GY7/1		外面:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	2次焼成の痕跡 胎土目1ヶ所
SX3002	37	陶	皿底部	肥前	底:4.3	細	灰N6/0	オリーブ灰2.5GY6/1		外面:ロクロナデ 外底・ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込みに胎土目3ヶ所
SX3002	38	陶	皿	肥前	口:13.6 高:3.7 底:4.9	細	灰白N7/0	明緑灰7.5GY7/1		外面:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	高台周りに砂目,2次焼成の痕跡
SX3002	39	陶	皿	肥前	口:14.0 高:4.3 底:5.9	細	にぶい橙7.5YR7/4	透明釉 にぶい橙7.5YR7/3		外面:ナデ,ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	
SX3002	40	陶	皿	肥前	底:13.2	細	灰白7.5Y7/1	明オリーブ灰5GY7/1			大橋 Ⅰ-2期	溝縁皿 2次焼成の痕跡
C区瓦区画	41	陶	皿	肥前	口:13.9 高:3.7 底:4.7	細	灰白2.5Y7/1	灰オリーブ5Y6/2	鉄絵:黒7.5Y2/1	外面:ロクロナデ 外底・外面下半:ケズリ	大橋 Ⅰ-2期	見込みに粘土目3ヶ所

第36図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その4）

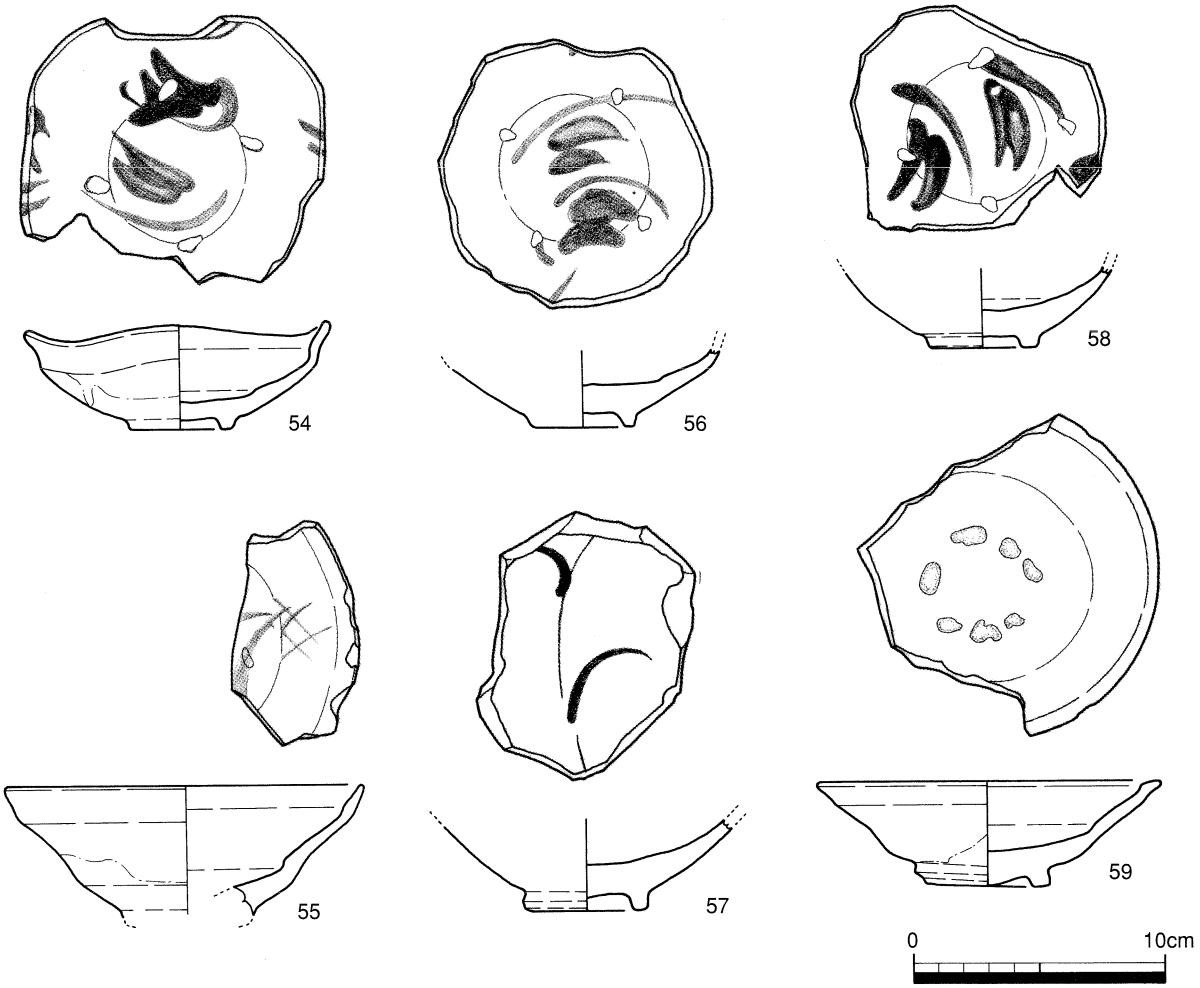


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	42	陶	皿	肥前	口:13.6 高:4.3 底:4.4	細	橙5YR6/6	灰10Y6/1		外面上半:ロクロナデ 外底・外面下半:ケズリ	1620年代	見込みに砂目、高台内側に砂目
SX3002	43	陶	皿	肥前	口:12.8 高:4.2 底:4.8	細	にぶい橙5YR7/3	明オリーブ灰5GY7/1		外面:ケズリ、ロクロナデ 内面:ロクロナデ	大橋Ⅱ期	溝縁皿、見込みに砂目3ヶ所
SX3002	44	陶	皿	肥前	口:11.8 高:3.4 底:5.4	細	赤7.5R4/6	灰白N8/0		外面:ナデ、ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに砂目2次焼成の痕跡
SX3002	45	陶	皿	肥前	底:4.5	細	浅黄橙10YR8/3	灰白N8/0			大橋Ⅱ期	見込みに砂目有
SX3002	46	陶	皿	肥前	口:14.0 高:4.1 底:5.9	細	灰白7.5YR8/1	灰白N8/0		外面:ナデ、ケズリ	大橋Ⅱ期	見込み・高台に砂目、2次焼成の痕跡
SX3002	47	陶	皿	肥前	口:10.8 高:3.4 底:4.9	細	灰白N7/0	オリーブ灰2.5GY6/1			大橋Ⅱ期	見込みに砂目、重ね焼き痕、2次焼成痕

第37図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その5）

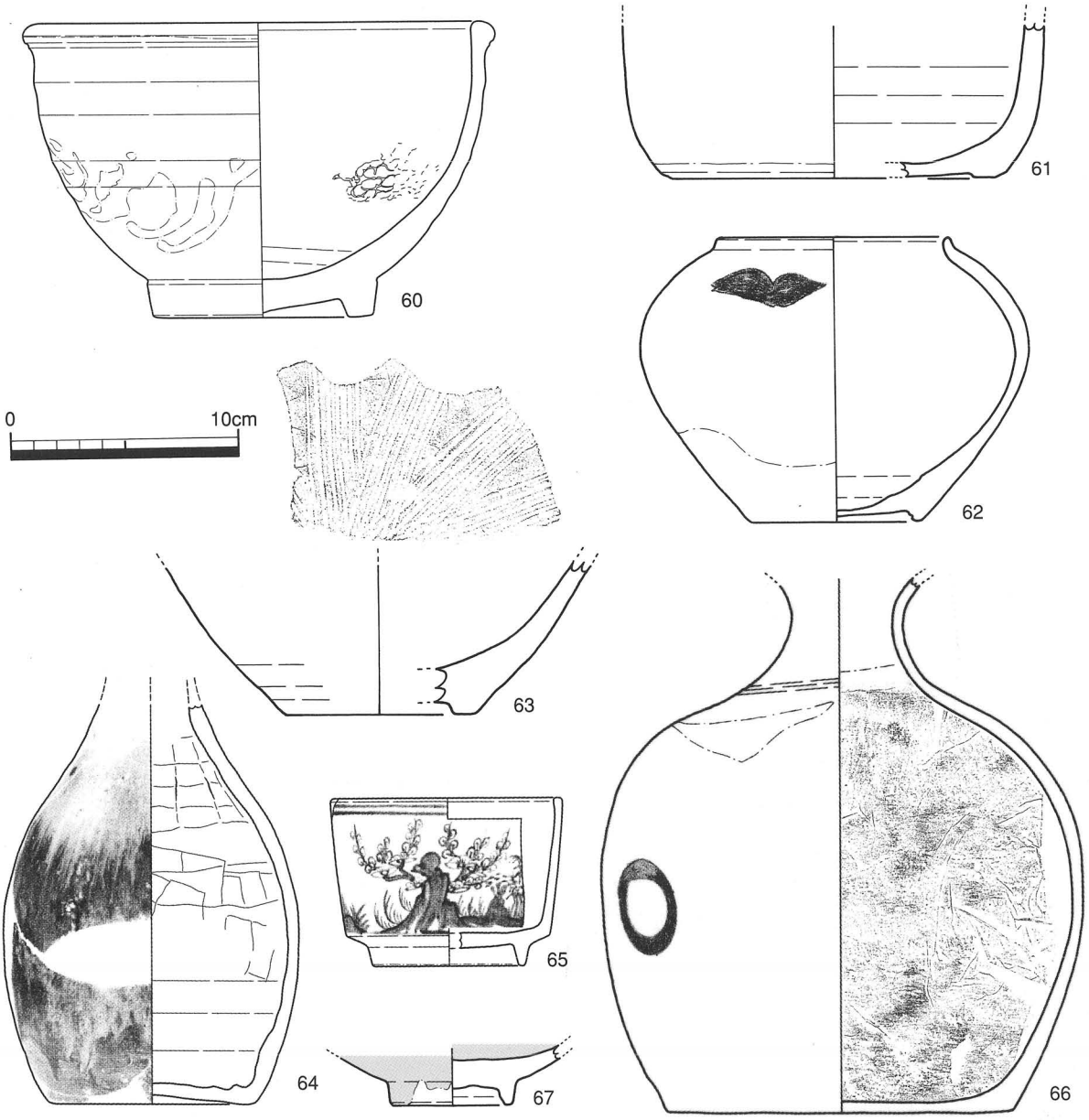


第38図　SX3002出土遺物実測図（その６）



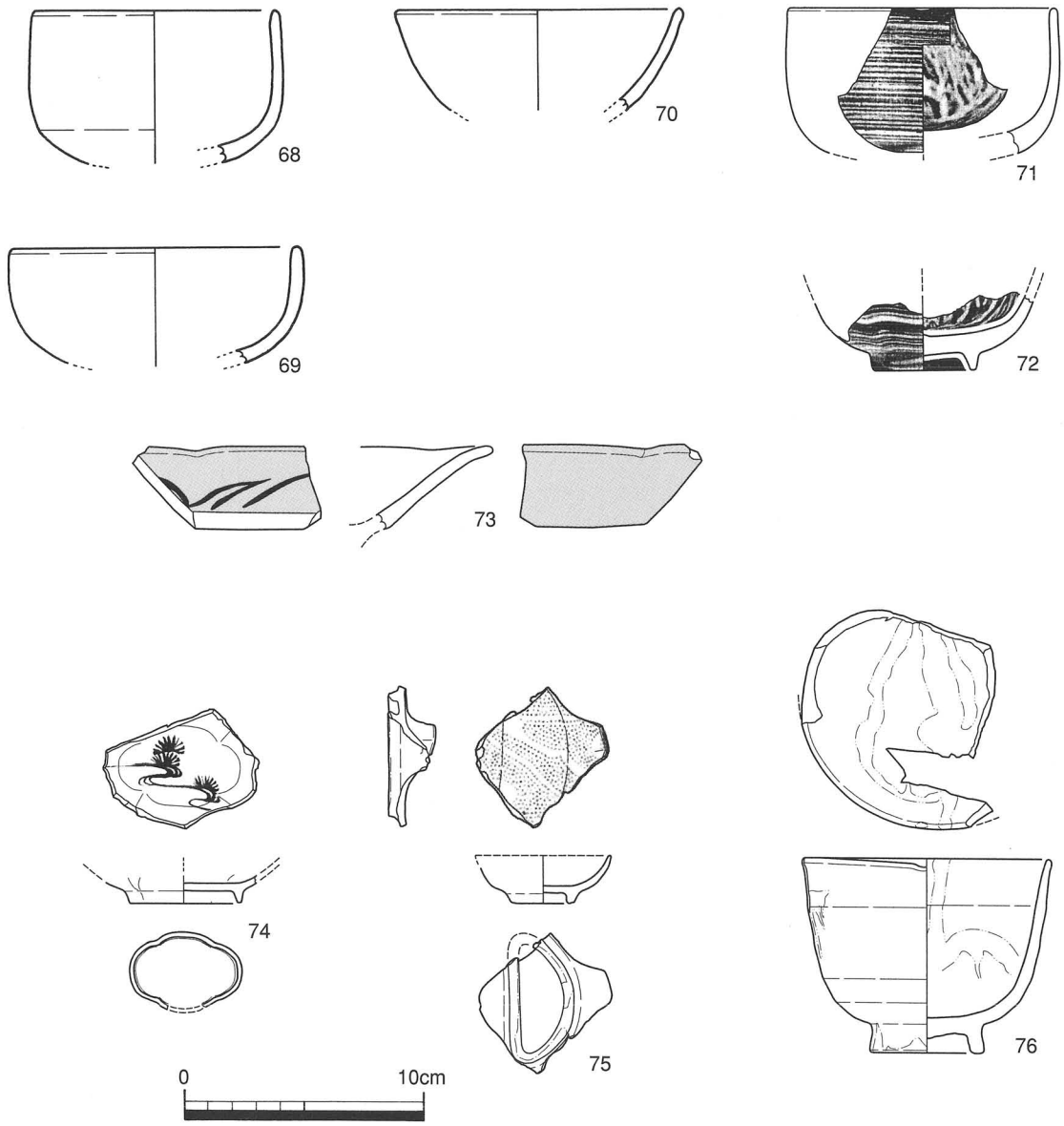
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	48	陶	皿	肥前	口:13.8 高:3.5 底:5.0	細	灰白N7/0	明緑灰7.5GY7/1		外面:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに砂目3ヶ所(4ヶ所)
SX3002	49	陶	皿	肥前	底:4.8	細	灰白5YR8/2	灰白10YR7/1			大橋Ⅱ期	見込み・高台に砂目,全体に被熱痕
SX3002	50	陶	皿底部	肥前	底:4.7	細	橙2.5YR6/6	灰10Y6/1			大橋Ⅱ期	見込みに砂目3ヶ所
SX3002	51	陶	皿	肥前	口:30.0	細	橙5YR7/6	灰白N8/0			大橋Ⅱ期	
SX3002	52	陶	皿	肥前	口:28.1 高:6.9 底:8.4	細	灰白10Y7/1	オリーブ灰10Y6/1		外面:ナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに胎土目3ヶ所(4ヶ所)
SX3002	53	陶	大皿	肥前	口:29.3 高:7.9 底:10.0	細	灰白2.5Y7/1	橙7.5YR7/6			大橋Ⅱ期	見込みに胎土目,全体に被熱痕
SX3002	54	陶	皿	肥前		細	にぶい赤褐2.5YR5/4	灰褐5YR5/2			大橋Ⅰ-2期	内面に鉄絵?銹絵?見込みに胎土目
SX3002	55	陶	皿	肥前	口:14.2	細	浅黄橙10YR8/3	にぶい橙7.5YR7/3			大橋Ⅰ-2期	2次焼成の痕跡,見込みに胎土目
SX3002	56	陶	皿	肥前	底:4.1	細	にぶい橙2.5YR6/3	灰黄褐10YR4/2	銹絵:(内面)	外面:ナデ,ケズリ	大橋Ⅰ-2期	見込みに胎土目,2次焼成の痕跡
SX3002	57	陶	皿	肥前	底:4.8	細	赤10R5/6	にぶい黄褐10YR5/3	鉄絵:(内面)		大橋Ⅰ-2期	
SX3002	58	陶	皿	肥前	底:4.3	細	橙5YR6/6	にぶい褐7.5YR	鉄絵オリーブ黒7.5Y3/1		大橋Ⅰ-2期	全体に被熱痕 見込みに胎土目4ヶ所
SX3002	59	陶	皿	肥前		細	にぶい黄橙10YR7/2	明オリーブ灰2.5GY7/1		外面:ケズリ		見込みに砂目7ヶ所

第39図　SX3002出土遺物実測図・観察表(その7)



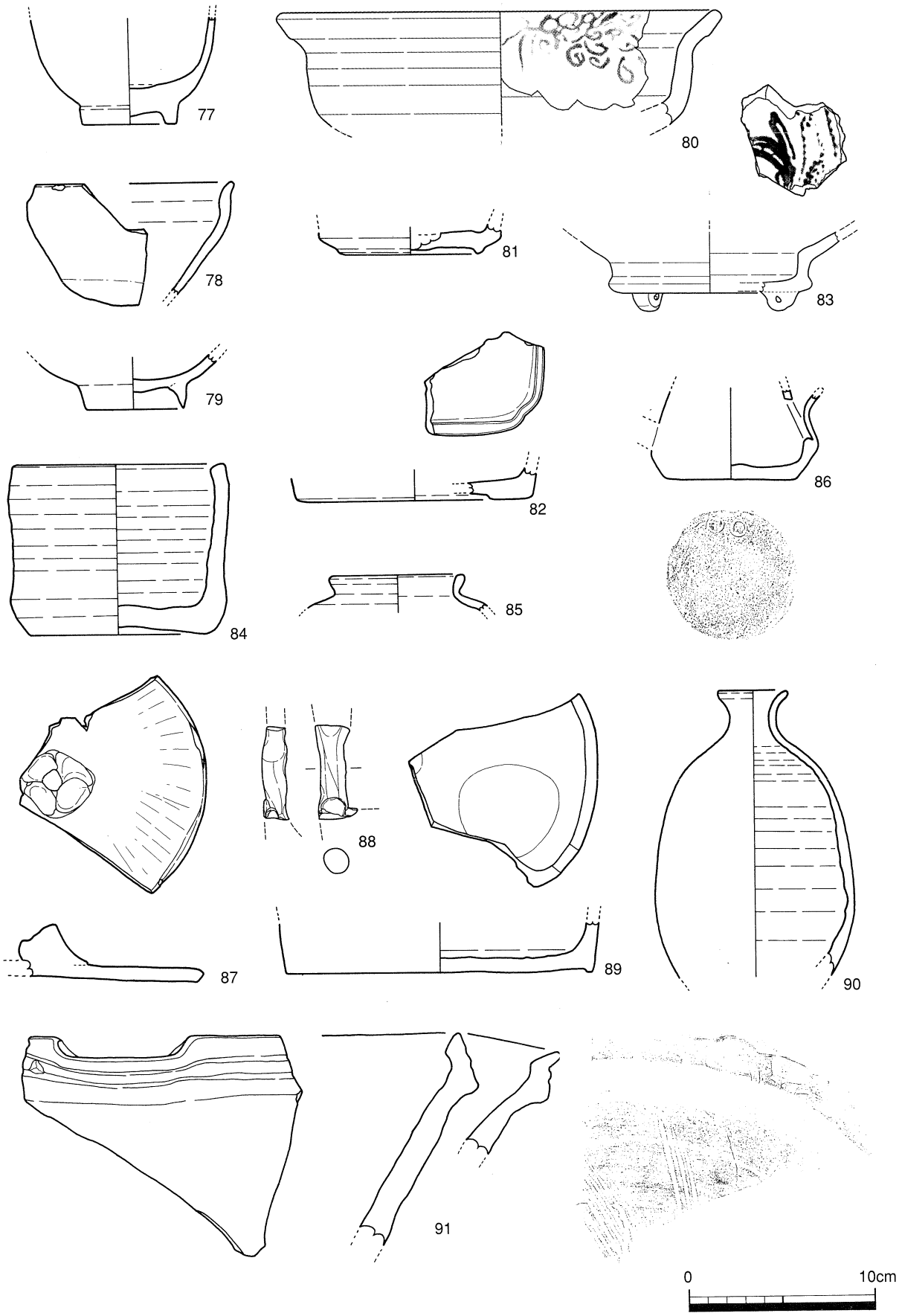
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	60	陶	鉢	肥前	口:19.2 高:10.75 底:8.5	細	橙2.5YR6/6	灰白N8/0				
SX3002	61	陶	底部	肥前	底:14.0	細	橙5YR7/6	外面灰白7.5Y7/1 内面:橙5YR7/6		外底:ケズリ		内面無釉,内面に三角形状の鉄塊付着
SX3002	62	陶	鉢	肥前	口:9.9 高:12.3 底:7.5	細	赤10R5/8	オリーブ灰5GY6/1				2次焼成の痕跡
SX3002	63	陶	摺鉢	肥前	底:8.2	細	にぶい橙5YR7/4	外面:橙2.5YR6/6 内面:にぶい5YR7/4		外面:回転ナデ	大橋Ⅱ期	被熱
SX3002	64	陶	瓶	肥前	底:9.00	細	黄灰2.5Y5/1	外上:灰オリーブ5Y6/2 外下:黒10YR2/1				朝鮮唐津
SX3002	65	磁	碗	肥前	口:9.8 高:6.4 底:7.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色		大橋Ⅱ-2期	筒形碗
SX3002	66	陶	壺			細	灰赤10R6/2	暗赤褐7.5R3/3				東南アジア?
SX3002	67	磁	碗	中国	底:5.2	微	灰白N7/10	明オリーブ灰5GY7/1			15C青磁	龍泉窯青磁

第40図　SX3002出土遺物実測図・観察表(その8)



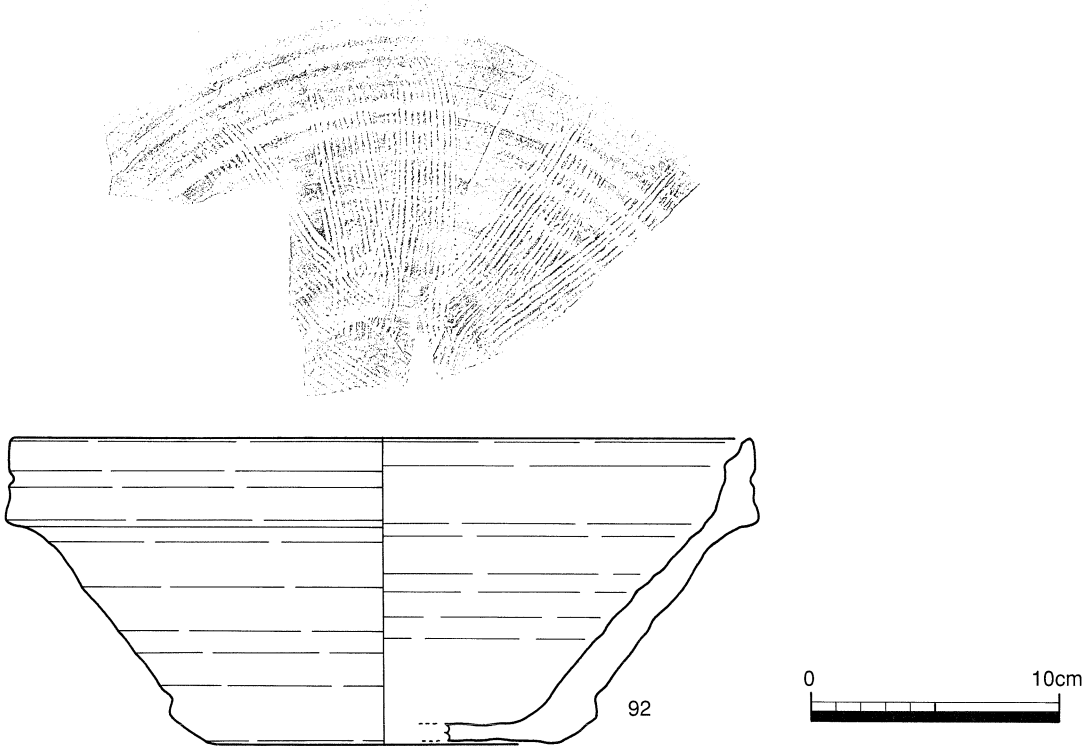
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	68	陶	碗	肥前	口:10.0	細	灰白N7/0	明オリーブ灰5GY7/1				全面施釉
SX3002	69	陶	碗	肥前	口:11.8	細	灰白N7/0	明オリーブ灰5GY7/1				
SX3002	70	陶	碗	肥前	口:11.8	細	灰白N7/0	灰白N7/0				貫入著しい
SX3002	71	陶	碗	肥前	口:11.00	細	褐灰10YR4/1	内外:黒褐2.5Y3/2		外面:直線的な刷毛目 内面:打刷毛	大橋Ⅳ期	刷毛目碗
SX3002	72	陶	碗	肥前	底:4.15	微	褐灰10YR4/1	内外:黒褐2.5Y3/2		外面:直線的な刷毛目 内面:打刷毛	大橋Ⅳ期	刷毛目碗
SX3002	73	磁	小皿	肥前		微	灰白色	内外:オリーブ灰10Y4/2				青磁皿
SX3002	74	磁	小皿	肥前	底最大径:4.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅲ期	型打成形
SX3002	75	磁	染付変形皿	肥前	最大径:5.35	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	内面:型紙摺り	大橋Ⅲ期	糸切り細工
SX3002	76	陶	碗	瀬・美	口:10.2 高:8.05 底:4.45	中	灰5Y6/1	内外:暗赤褐5YR3/6、黒褐5YR2/1				

第41図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その9）

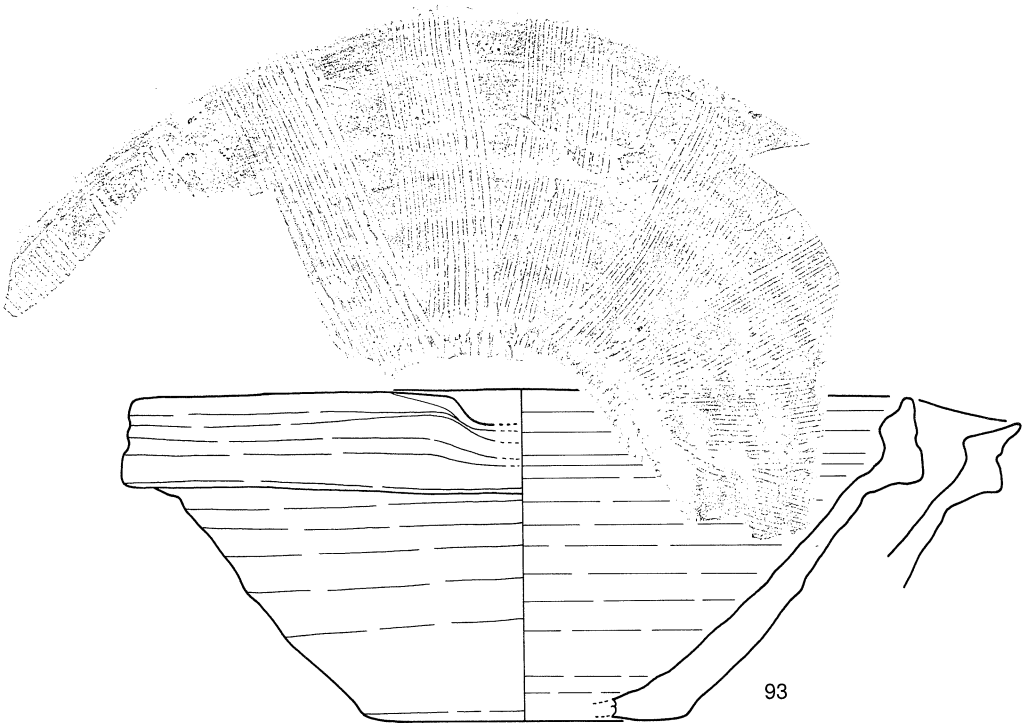


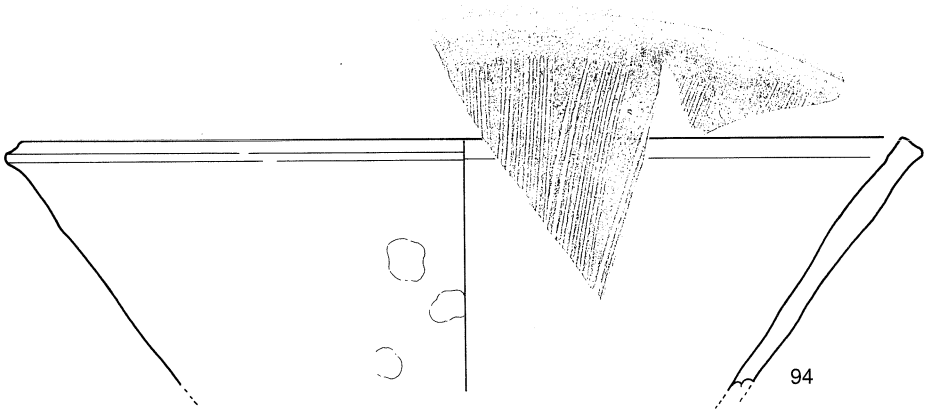
第42図　SX3002出土遺物実測図（その10）

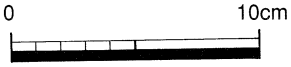
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	77	陶	碗	瀬・美	底:5.1	細	灰白5Y8/1	灰白10Y8/2		外面:ケズリ		高台畳付のみ無釉
SX3002	78	陶	碗	瀬・美		細	灰白2.5Y8／2	黒N2/0			大窯Ⅳ段階	天目碗
SX3002	79	陶	碗底部	瀬・美	底:5.3	細	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1		外面:回転糸切り		
SX3002	80	陶	鉢	瀬・美	口:23.0	中	灰白5Y8/1	内外:灰白2.5Y8/1	鉄絵:青灰5B6/1			志野向付
SX3002	81	陶	底部	瀬・美	底:7.6	細	灰白2.5Y8/1	灰白N8/1				2次焼成の痕跡　志野
SX3002	82	陶	向付	瀬・美	底:12.6	細	にぶい黄橙10YR7/2	白				志野向付
SX3002	83	陶	向付	瀬・美	底:10.9	中	灰白5Y7/1	内外:灰白7.5Y8/1	鉄絵:暗赤褐色5YR3/4			志野向付
SX3002	84	陶	水指	信楽	口:11.4 高:9.0 底:9.5	石英・長石	赤灰7.5R5/1	赤灰7.5R5/1		内外:ロクロナデ 外底:静止ヘラケズリ		
SX3002	85	陶	茶入口縁部	備前	口:6.8	微砂粒	極暗赤褐7.5R2/3	灰赤7.5R5/2		内外:ロクロナデ		
SX3002	86	陶	急須	備前	底:6.9	細	灰白5Y7/1	外面:暗赤10R3/6 内面:灰黄2.5Y7/2				
SX3002	87	陶	壷	備前	口:14.2	細	灰7.5Y6/1	外面:黒5Y2/1 内面:暗赤褐2.5Y3/4				水指蓋
SX3002	88	陶	把手	備前		微砂粒	灰N6/1	内外:N6/1				自然釉暗オリーブ5Y4/3付着
SX3002	89	陶	底部	備前	底:26.4	細	極暗褐2.5YR2/3	極暗褐2.5YR2/3				内面に貝目,自然釉付着
SX3002	90	陶	徳利	備前	口:3.8	砂粒少		外面:暗赤褐10R2/2 内面:暗赤灰10R3/1			近世Ⅰ期	
SX3002	91	陶	擂鉢	備前		砂粒少量	赤10R5/8	赤10R5/8				
SX3002	92	陶	擂鉢	備前	口:29.5 高:12.1 底:14.1	細	赤7.5R4/8	赤7.5R4/8		外面:ナデ	近世Ⅰ期	重ね焼きの痕跡 擂目10本



第43図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その11）

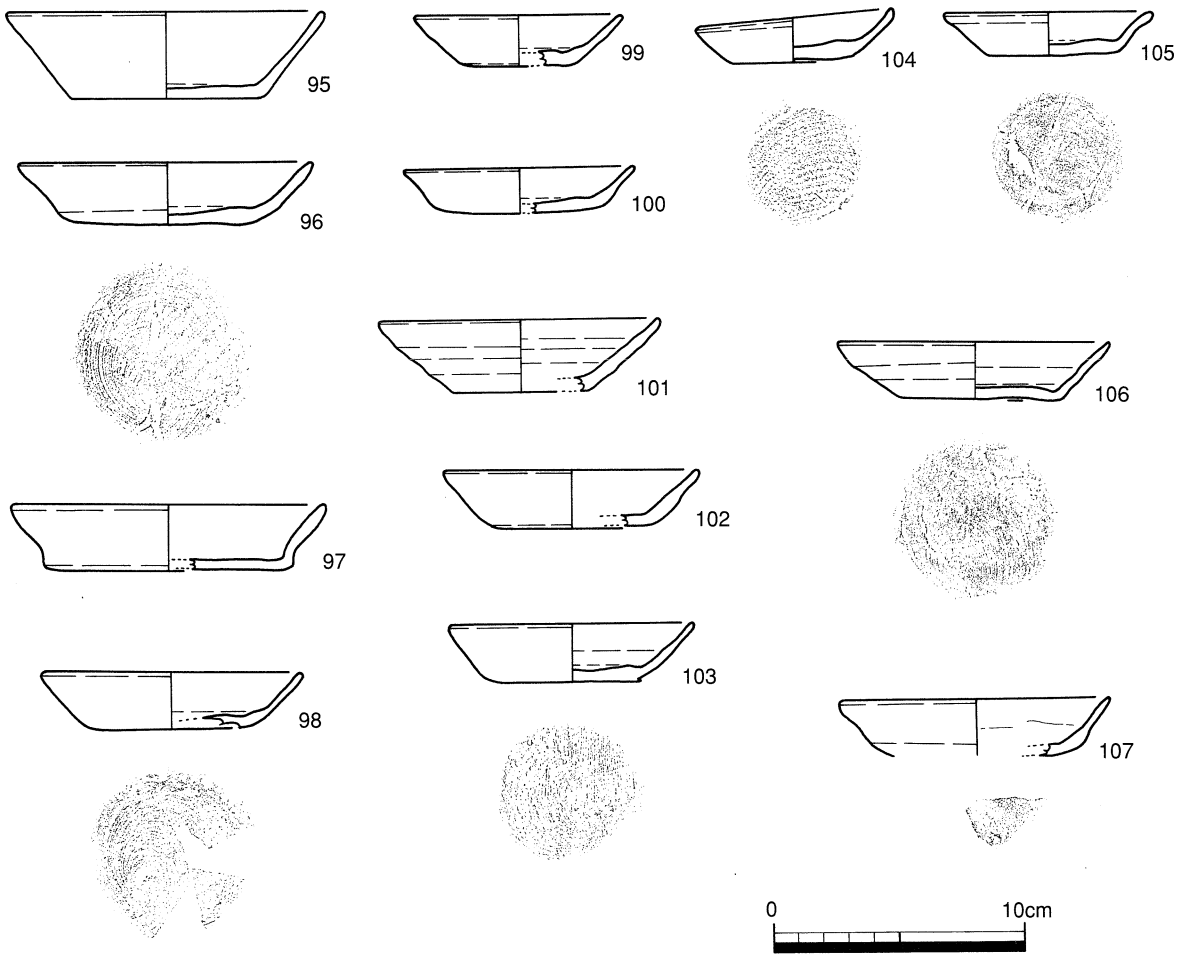






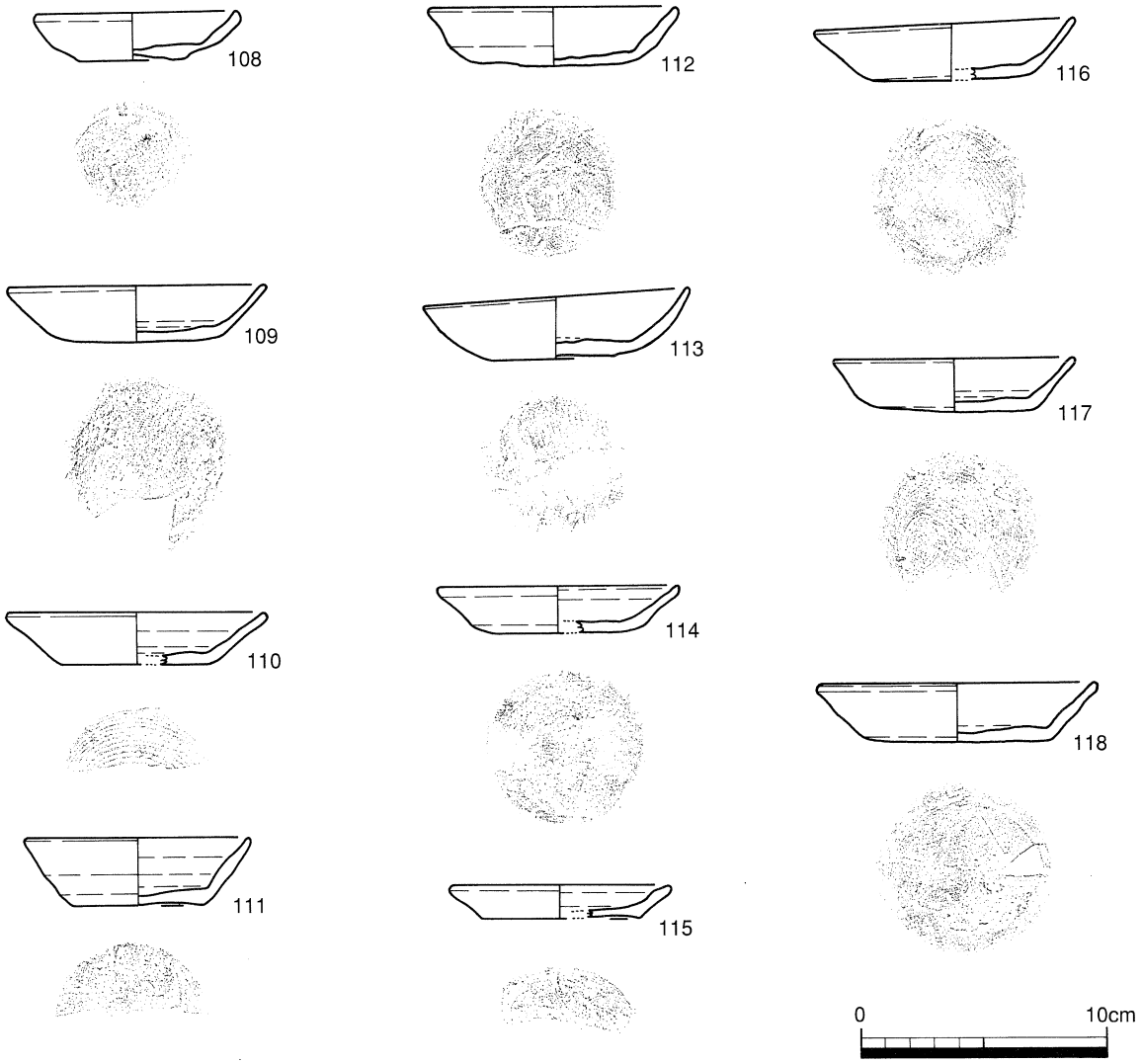
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	93	陶	擂鉢	備前	口:30.9 高:13.0 底:13.0	砂粒		外面:赤10R4/8 内面:暗赤7.5R3/4			近世Ⅰ期	未使用?
SX3002	94	陶	擂鉢	丹波	口:35.0	砂粒		外面:暗赤色2.5YR3/6 内面:赤7.5YR4/4		外面:ロクロナデ,指押さえ 内面:ロクロナデ		

第44図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その12）



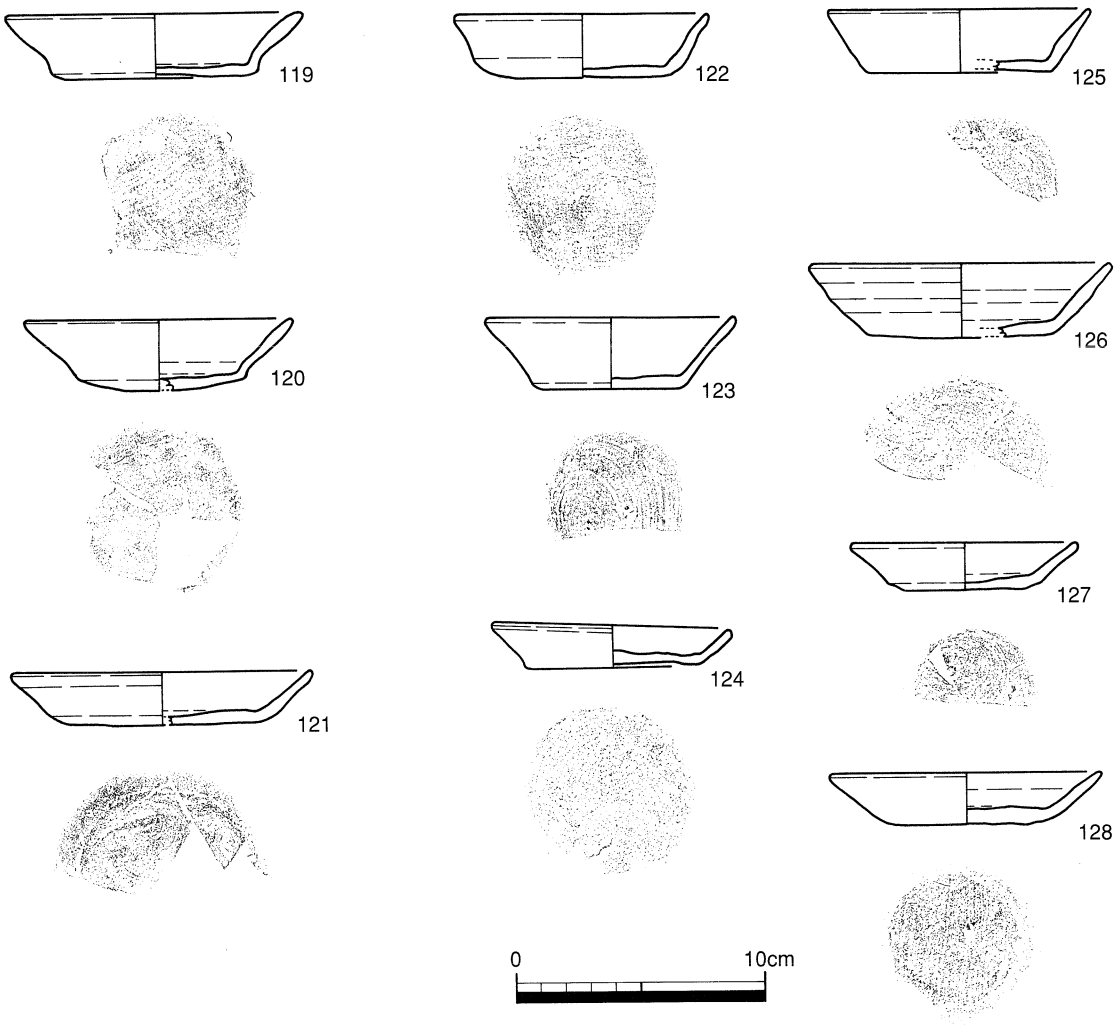
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	95	須恵器	杯		口:12.6 高:3.4 底:7.6	微砂粒	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転ヘラケズリ		
SX3002	96	土師質	皿		口:11.5 高:2.6 底:7.2	砂粒少	灰白N8/0	灰白N8/0				2次焼成の痕跡
SX3002	97	土師質	皿		口:12.4 高:2.6 底:12.0	砂粒少	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1				2次焼成の痕跡
SX3002	98	土師質	皿		口:10.2 高:2.3 底:6.6	細	灰白7.5YR8/1	灰白7.5YR8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁の一部に2次焼成の痕跡
SX3002	99	土師質	皿		口:8.2 高:2.0 底:4.6	砂粒少	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX3002	100	土師質	皿		口:9.2 高:1.7 底:6.8	微砂粒	灰白7.5YR8/1	灰白7.5YR8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		
SX3002	101	土師質	皿		口:11.0 高:2.9 底:5.4	精良	黒N1.5/0	黒N1.5/0		内外:ロクロナデ		全体に被熱痕
SX3002	102	土師質	皿		口:10.0 高:2.3 底:6.4	微砂粒	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2		内外:ロクロナデ		
SX3002	103	土師質	皿		口:9.6 高:2.3 底:5.5	細		外面:灰白5YR8/2 内面:灰白5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		外面に2次焼成の痕跡
SX3002	104	土師質	皿		口:7.6 高:1.8 底:4.9	微砂粒	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		2次焼成の痕跡
SX3002	105	土師質	皿		口:8.2 高:1.8 底:5.0	細	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面に有機物付着
SX3002	106	土師質	皿		口:10.6 高:2.3 底:6.2	細	灰5Y6/1	灰5Y6/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		2次焼成の痕跡
SX3002	107	土師質	皿		口:10.6 高:2.3 底:6.2	細	褐灰7.5YR5/1	褐灰7.5YR5/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面とも2次焼成の痕跡

第45図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その13）



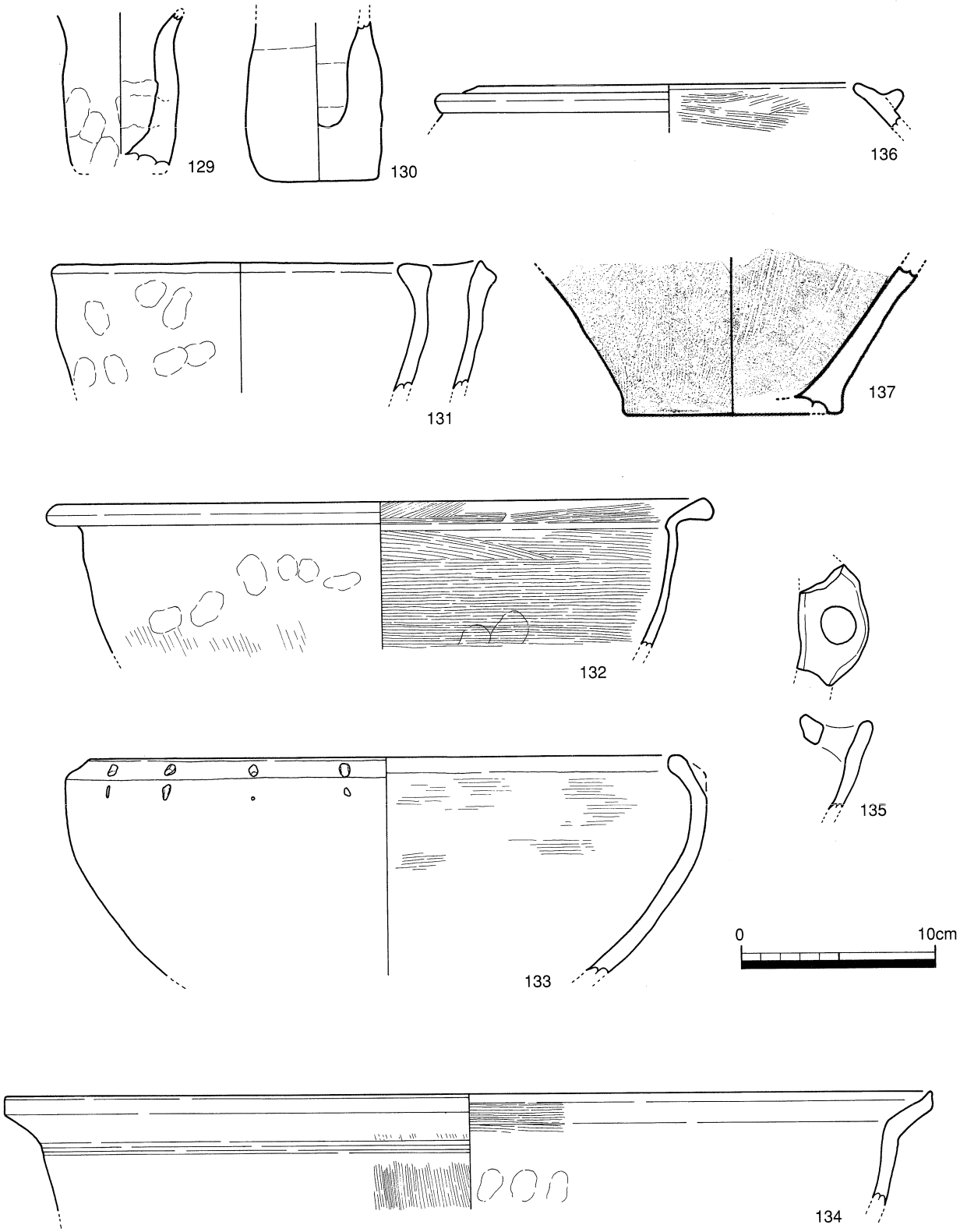
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	108	土師質	皿		口:8.1 高:1.9 底:2.3	細	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX3002	109	土師質	皿		口:10.2 高:2.3 底:6.0	細	灰白N8/0	灰白N8/0		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		内外面に2次焼成の痕跡
SX3002	110	土師質	皿		口:10.3 高:2.1 底:6.0	精良	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		全体に被熱痕
SX3002	111	土師質	皿		口:9.0 高:2.7 底:5.3	微砂粒多	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		全体に被熱痕
SX3002	112	土師質	皿		口:10.0 高:2.4 底:6.6	微砂粒	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y7/2				2次焼成の痕跡 内面に有機物付着
SX3002	113	土師質	皿		口:10.65 高:2.5 底:5.0	細	灰白7.5YR8/2	灰白7.5YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:板状痕 内底:仕上げナデ		
SX3002	114	土師質	皿		口:9.7 高:1.9 底:5.6	微砂粒少	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁部の一部に煤付着
SX3002	115	土師質	皿		口:8.7 高:1.3 底:6.4	微砂粒少	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		口縁部の一部内外に煤付着
SX3002	116	土師質	皿		口:10.45 高:2.3 底:6.6	細	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁部と外底に2次焼成の痕跡
SX3002	117	土師質	皿		口:9.6 高:2.1 底:6.1	細	灰白N8/0	灰白N8/0		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁部と内縁底部に2次焼成の痕跡
SX3002	118	土師質	皿		口:11.2 高:2.4 底:7.7	微砂粒少	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3				2次焼成の痕跡

第46図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その14）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	119	土師質	皿		口:11.8 高:2.5 底:8.2	微砂粒	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:板状痕		内面の一部2次焼成痕跡
SX3002	120	土師質	皿		口:10.5 高:2.9 底:6.6	微砂粒		外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:灰黄褐10YR6/2		内外:ロクロナデ 外底:仕上げナデ		外面に2次焼成の痕跡
SX3002	121	土師質	皿		口:11.8 高:2.1 底:7.5	細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁部に2次焼成の痕跡
SX3002	122	土師質	皿		口:9.8 高:2.6 底:6.1	砂粒少	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3				2次焼成の痕跡 特に内面は著しい
SX3002	123	土師質	皿		口:9.8 高:2.8 底:6.2	細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX3002	124	土師質	皿		口:9.3 高:1.8 底:6.9	微砂粒	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面に2次焼成の痕跡
SX3002	125	土師質	皿		口:10.2 高:2.5 底:7.3	微砂粒	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内面に有機物付着
SX3002	126	土師質	皿		口:11.8 高:2.9 底:7.2	細		外面:灰白2.5Y7/1 内面:にぶい黄橙10YR7/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面に2次焼成の痕跡
SX3002	127	土師質	皿		口:8.5 高:1.9 底:4.7	微砂粒	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内面に煤?
SX3002	128	土師質	皿		口:10.6 高:2.1 底:6.1	微砂粒少	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		内外:ロクロナデ 外底:板状痕 内底:仕上げナデ		内外面に有機物付着

第47図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その15）



第48図　SX3002出土遺物実測図（その16）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	129	土師質	焼塩壷			石英・長石		外面:赤灰2.5YR6/1 内面:赤10R5/6				
SX3002	130	土師質	焼塩壷		底:5.9	砂粒多		外面:にぶい黄橙10YR7/2 内面橙7.5YR7/6				内外面一部・金色の物付着、在地産
SX3002	131	土師質	片口鉢		口:17.0	微砂粒	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8		内・外口縁部:ナデ 外面:指押さえ		
SX3002	132	土師質	土鍋		口:33.2	赤色粒	黒N1.5/0	黒N1.5/0		外面:ナデ、指押さえ 内面:ナデ、ハケメ		
SX3002	133	土師質	土鍋		口:29.2	砂粒多	灰白5Y8/2	灰白5Y8/2		内面:摩滅(ハケメ)		在地産 内面に有機物付着
SX3002	134	土師質	甕		口:47.6	微砂粒多		外面:黒2.5Y2/1 内面:にぶい黄橙10YR7/2				
SX3002	135	瓦質	外耳付鍋			微砂粒		外面:黒7.5YR2/1 内面:明褐灰7.5YR7/2		外面:指押さえ 内面:ロクロナデ		煤付着
SX3002	136	土師質	羽釜		口:19.4	細	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		外面:ナデ 内面:ハケメ		一部に2次焼成の痕跡
SX3002	137	土師質	擂鉢底部		底:11.2	金雲母	灰5Y6/1	灰10YR7/1				2次焼成の痕跡 在地産

第49図　SX3002出土遺物観察表

SX3002出土遺物（第33～57図）

漆器等の木製品を多く含むが，陶磁器の出土量ではコンテナで5箱程の出土量であった。

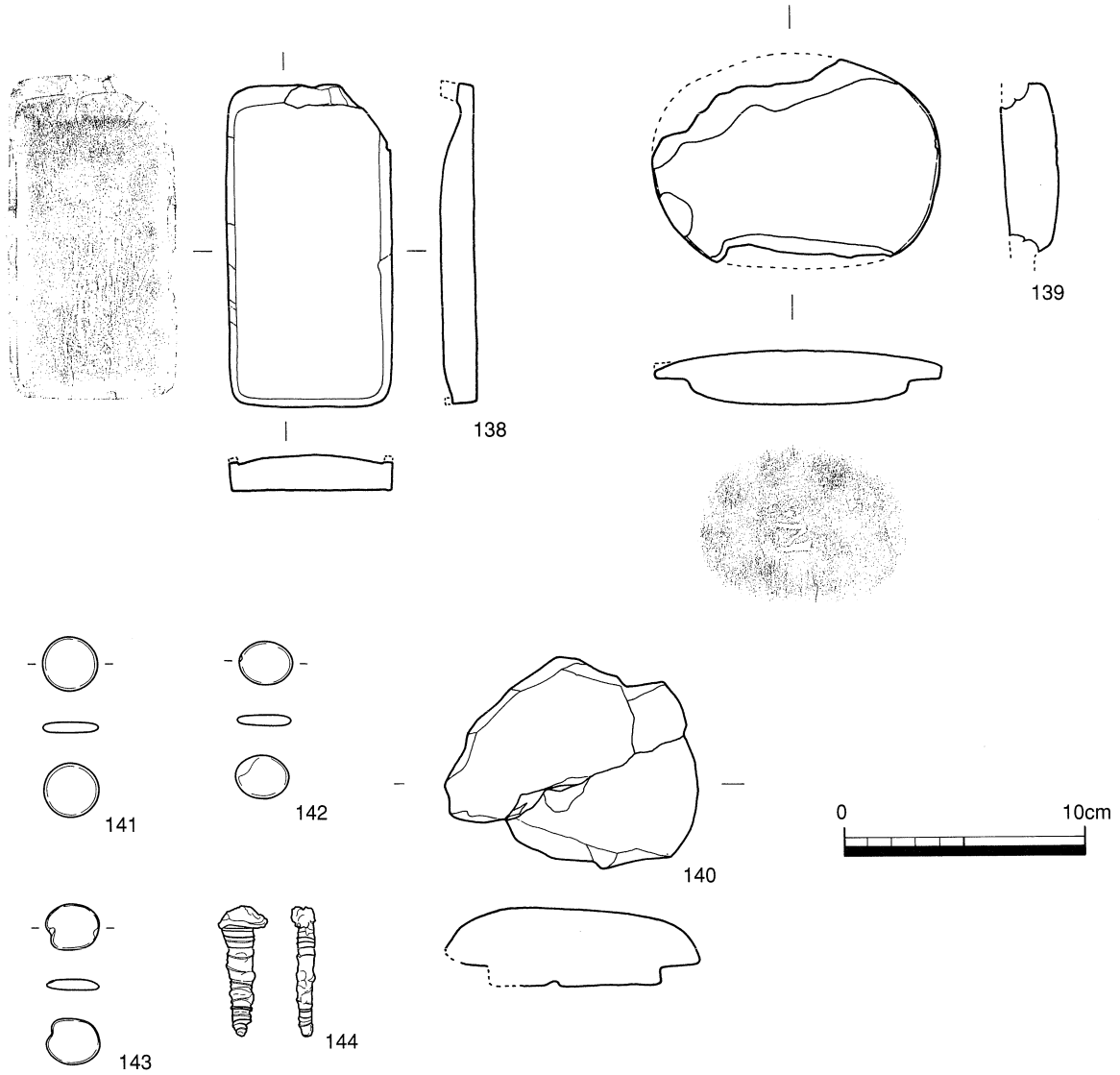
1～10は，中国産磁器である。1・3は，景徳鎮窯系青花（鉢）口縁部。1は輪花で，口縁は受け口状となっている。2は，漳州窯系青花皿である。4～6・9は底部。9の皿は高台裏にカンナ痕が放射状に認められ，景徳鎮窯産と考えられる。8は，漳州窯系青花碗。内湾する器形で，見込に連弁文，口縁部及び高台脇に2重圏線を有する。10は，景徳鎮窯系青花兜鉢。内面を宝文で埋め尽くす。12～22は肥前系陶器碗である。14の抹茶碗は，北部九州（福岡）系と考えられる。23～59は肥前系陶器皿である。23～37は胎土目の皿で，体部で折れ，口縁部端部が内方向に先細るものが多い。40は口縁部が溝縁の皿である。41は口縁端部の三方に窪みを入れ，鉄絵を描く。42～50は砂目の皿である。体部で折れ，口縁部が内方向に先細るものや溝縁となるものが認められる。51～53は大皿で，いずれも口縁部が短く外方に折れる。52・53には，見込みに胎土目が認められる。54～58は絵唐津。59の皿は，見込に7箇所の砂目を円周上に配するもので，朝鮮磁器との関連が窺える。60～64は肥前系陶器である。60は鉢。口縁部の遺存が少なく，片口は認められない。口縁部上端は無釉である。62は絵唐津壺。碁笥底で，内外面を施釉する。口縁部に一部，2次焼成痕が認められる。63は擂鉢の底部である。橙色の胎土で，無釉である。64の瓶は上下に藁灰釉と鉄釉を掛分け，いわゆる朝鮮唐津である。内面のタタキ痕は撫で消したため判明しないが頸部に接合痕及び絞り痕が認められる。65は筒形の肥前系磁器碗である。SX4001との接合関係を有する資料で，本遺構埋没後の整地に伴うものと推定される。66は産地不明の壺である。断面縞状となる交胎を有し，南中国または東南アジアの産地が推定される。底外面より頸部内面まで鉄釉を施し，肩部に三角形の無釉部を残す。内面にタタキ痕と考えられる縦方向の筋痕が見られるが，定かでない。胴位外面に，鉄絵の「○」が1つ描かれる。

67は中国龍泉窯青磁で，極度の摩滅が認められる。68～70は，肥前系陶器碗である。68・69は灰釉の丸碗で，共に器壁は厚い。70も丸碗で，長石釉を施し貫入が著しい。71・72は刷毛目碗である。釉は黒褐色を呈し，外面に直線的なハケ，内面は打ちハケが認められる。73は青磁大皿口縁部である。釉は濃い青緑色に発色する。口縁部は外反し，輪花状の切込が認められる。内面には草文及び圏線状の陰刻文を施す。74・75は肥前系磁器小皿である。74は型打成形で，見込に松

文を描く。75は糸切り細工で，型紙刷りの製品である。

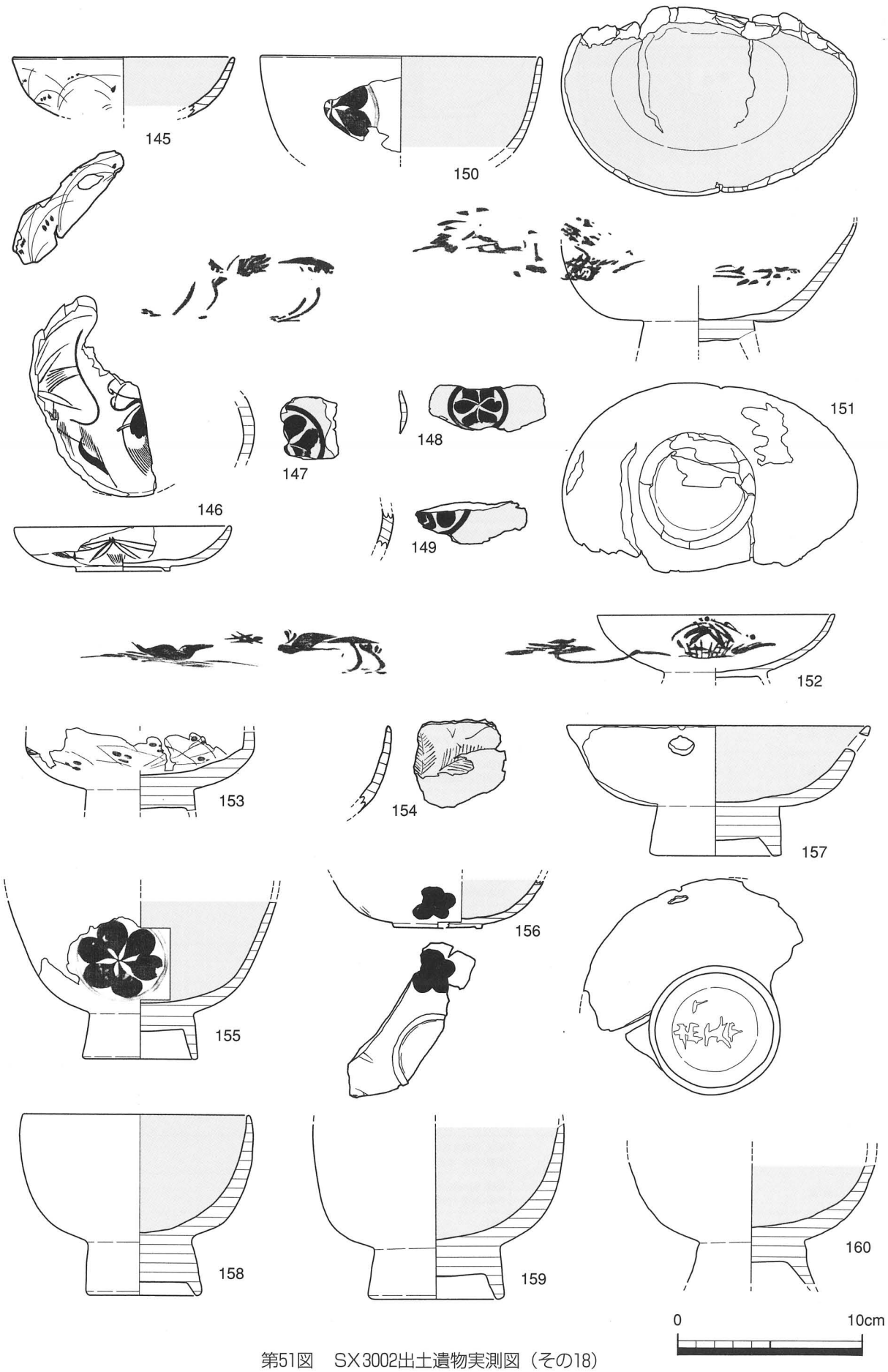
76～83は，瀬戸・美濃系陶器である。76～79は碗である。76の鉄釉は，明るい茶色に発色する。77・79は，灰釉の碗である。78は天目碗である。80～83は，志野。80は鉢で，丸みを帯びた胴部より口縁が外反する。口縁内面に鉄絵を描く。82は向付底部。型打ち成形とみられる入隅が認められる。83も向付底部で，半環足を有し体部で外反する。内面に鉄絵を描く。84は信楽水指である。85～93は備前。85は茶入である。86は注口部及び把手部の接合部が認められ，急須若しくは水滴が考えられる。底部に「○○」の刻印がされ，器面には火襷が特徴的に認められる。87は水指蓋で，器面は黒褐色を呈し黄胡麻が見られる。上面には放射状の器面調整を施し，装飾としている。88は把手部で，灰色の須恵質焼成で自然釉が付着する。89は鉢底部で，重ね焼を行い見込の自然釉（黄胡麻）を円形に抜く。90は徳利等の瓶類。91～93は擂鉢である。91は，口縁外面に2条の凹線，端部は先細る。放射状の擂目を有する。92は，放射状に施された擂目に摩滅が認められず，未使用品と考えられる。口縁下部，顎の張り出しが大きく，断面は三角形状となっている。85は丹波産擂鉢で，焼成が良く赤褐色に焼き締る。口縁部の歪みから，片口を有するものと思われる。口縁端部に面を持ち，内面擂目との境に稜をなす横ナデが認められる。

95は須恵器坏である。古代期の所産と考えられる。96～128は土師質土器皿である。底部の切り離し法では回転糸切りが多数だが，静止糸切り（103・123）のものが含まれる。色調は2次焼成を受けたものが多く明瞭ではないが，やや濁った黄褐色を呈するものが多い。器形・法量とも多様でややばらついた印象を受ける。129・130は焼塩壺である。ともに輪積成形のもので，鈍い黄褐色を呈する。129はやや細身で，口縁部が外反する。130は底部で器壁の厚いずんぐりした身から口縁部へと細く伸びる。131は土師質土器鉢で，片口を有する。132は瓦質土器鍋で断面三角形の口縁部と薄い器壁を有し，焙烙タイプのものである。133は土師質土器鍋で口縁部は把手付鍋の形態を有し，口縁部外面から体部外面へと貫通する穿孔が認められる。胎土中の粗砂・金雲母が目立つ。134は土師器鍋で，古代期の所産と推定される。136は土師質土器羽釜である。137は土師質土器擂鉢で，外面にハケ調整が認められる。138は硯である。139・140は瓦質焼成の土製品で，蓋形のものである。上面の形態は139が楕円，140が円形である。139は上面をミガキ，下面は『之』字状に線刻されている。胎土には角閃石が認められる。141～143は，那智黒石（和歌山産）の碁石。144は釘で，錆が著しい。145～167は漆器製品である。いずれも椀形で，基本的には外黒・内赤色の漆が塗られる。器形では，器高が低く器壁の薄い蓋と考えられるもの（145・146・151・157）と椀がある。椀では，器高及び高台の高いもの（152・155・158・159）と，器高・高台共に低いもの（163）が認められる。器形は歪むものが多いめ判然としないが，丸椀形のもの（155・158等），体部で屈曲し直線的に口縁に伸びるもの（151・153等），坏形となるもの（157）がある。加飾では器壁の薄いものに多く認められ，146の蓋を除き外面にのみ草文や丸に花の文を施す。その他，柄杓等への転用が考えられる口縁に穿孔されるもの（157・161）や，見込に2次焼成を受けたもの（152・158・163）が認められる。168～176は木製品で，多量に出土したが，一部のみ図化した。下駄（168・169），曲物（173）折敷脚（170），蓋（176），鏝状製品（171），楊枝状製品（174），櫛払い？（172），板材（174）がある。177～185は瓦で，出土量は多くない。軒丸瓦（177～179）軒平瓦（180・181），輪違（182），丸瓦（183～185）がある。

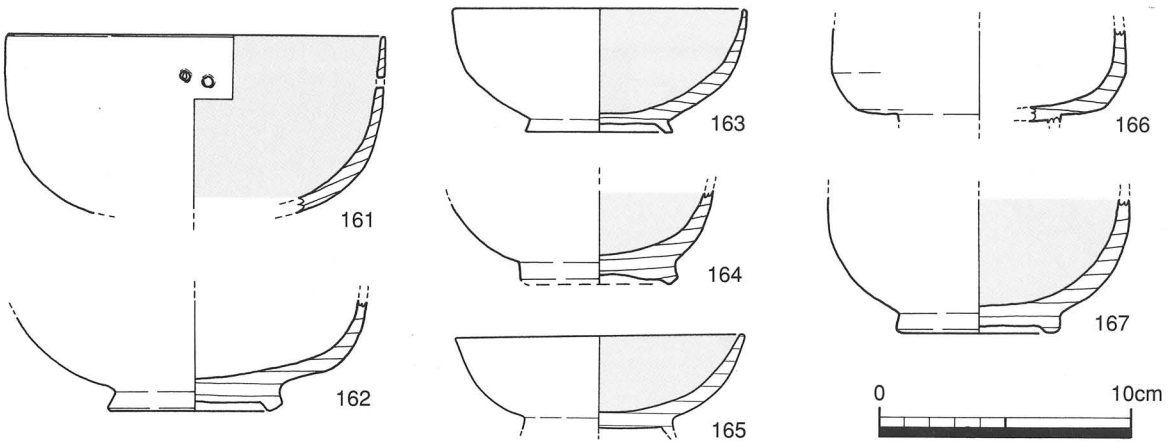


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	138	石	硯				暗灰N3/0	暗灰N3/0				
SX3002	139	瓦質	蓋？					内外:淡灰色				
SX3002	140	瓦質	蓋？			石・長・スサ		外面:暗灰N3/0 内面:灰7.5Y6/1				
SX3002	141	石	碁石		全長:2.25 厚さ:0.45		黒色					那智黒石
SX3002	142	石	碁石		長径:2.25 短径:1.75 厚さ:0.45		黒色					那智黒石
SX3002	143	石	碁石		長径:2.2 短径:1.9 厚さ:0.45		黒色					那智黒石
SX3002	144	金属	釘		最大長:5.4							

第50図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その17）

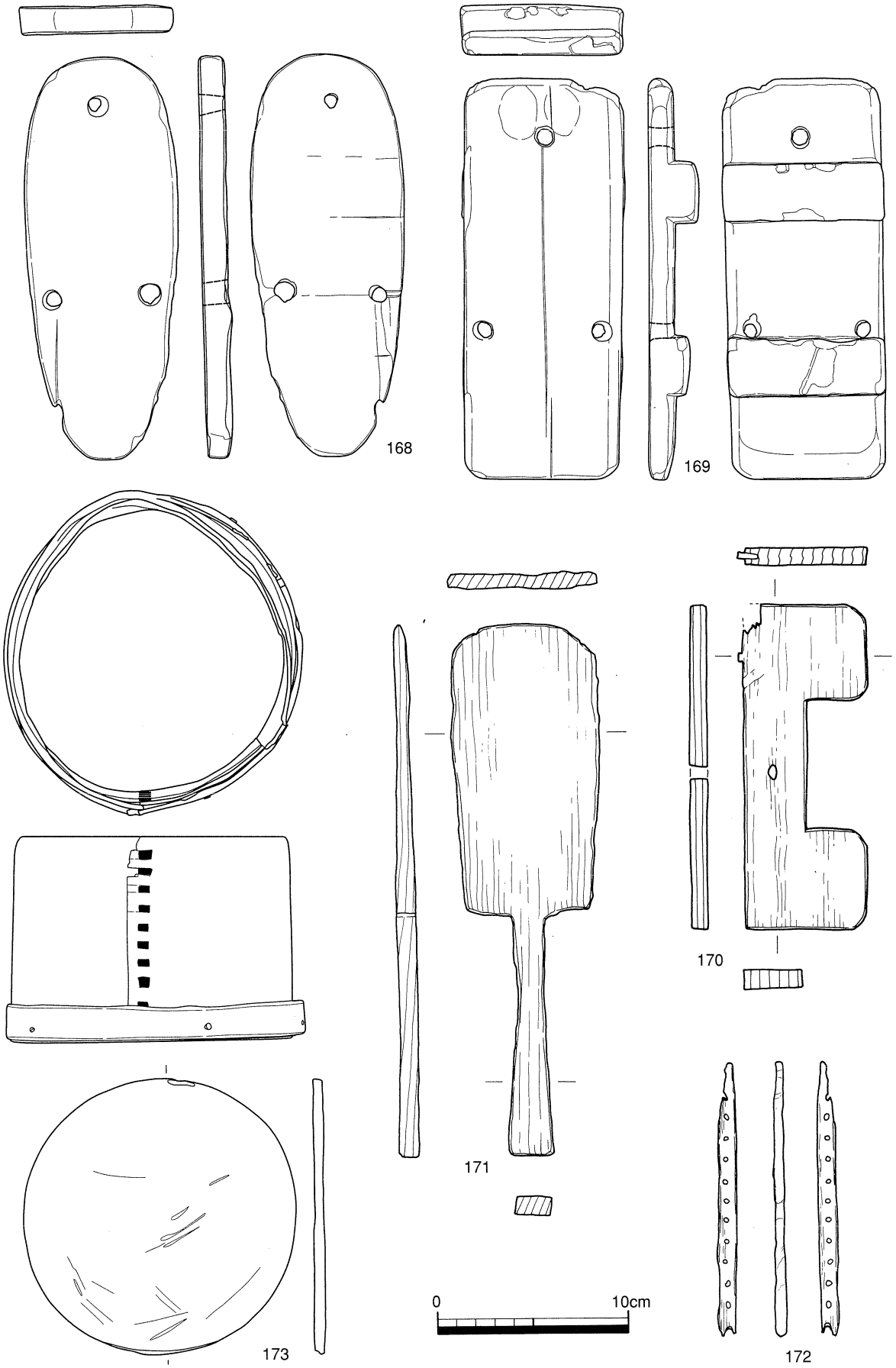


第51図　SX3002出土遺物実測図（その18）

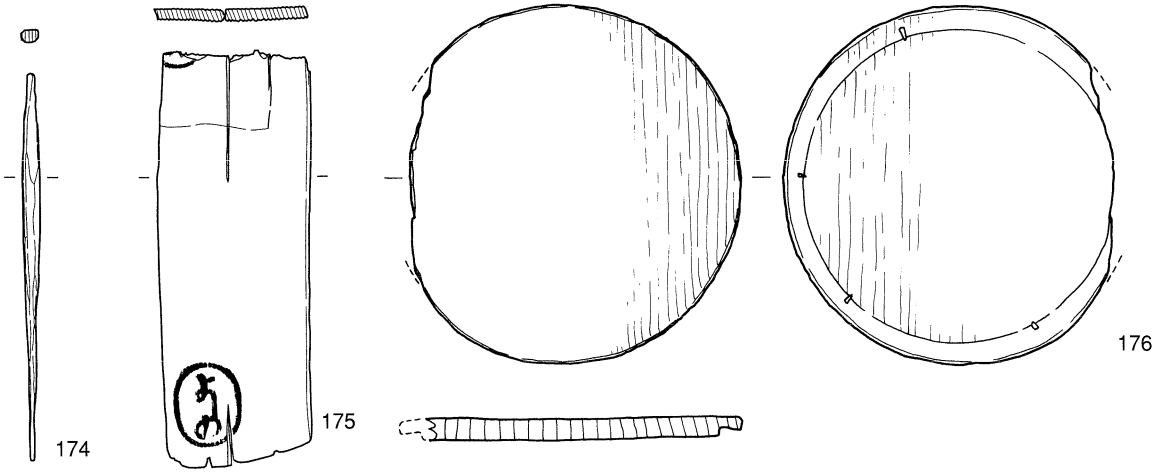


遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3002	145	蓋？						漆器 外面:黒漆→赤漆,内面:赤漆	26
SX3002	146	蓋	口:11.50,高:2.40,底:5.01					内外:黒漆 内外:赤漆による加飾	2
SX3002	147	破片						漆器,内外:黒漆→赤漆 外面:黒漆による圏線とその中に引っ掻き技法による花びら	1
SX3002	148	破片						漆器,外面:黒漆→赤漆,内面:黒漆→赤漆 外面:黒漆の圏線の中に引っ掻き技法で3枚の花びらを加飾	10
SX3002	149	椀						漆器 外面:赤漆→黒漆,内面:赤漆	25
SX3002	150	椀	口:15.00					漆器,外面:黒漆,内面,黒漆→赤漆 外面:花びら,黄土色の圏線の中に赤漆で花びらを加飾	11
SX3002	151	椀						漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 外面:赤漆による加飾	8
SX3002	152	蓋	口:12.80					漆器,外面:黒漆,内面:赤漆 外面:赤漆による加飾,見込みと口縁端部に二次焼成の痕跡	12
SX3002	153	椀						漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 赤漆による施文,草木文花の部分は黄土色,見込み部に二次焼成？	6
SX3002	154							漆器 外面:黒漆→赤漆,黒漆による加飾,内面:黒漆→赤漆	
SX3002	155	椀	底:6.20					漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 外面:黄土色の圏線の中に6枚の花びらが3ヶ所に描かれる	13
SX3002	156	蓋	底:4.8					漆器 外面:黒漆,赤漆による花柄加飾,内面:赤漆	
SX3004	157	椀	口:16.10,高:7.05,底:7.05					漆器,ひしゃくに転用 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	9
SX3002	158	椀	口:12.10,高:9.80,底:6.25					漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 見込み部に2次焼成の痕跡	5
SX3002	159	椀	底:6.75					漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 外面に鉄分沈着	7
SX3002	160	椀						漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	4
SX3002	161	椀	口:14.8					漆器,穿孔二ヶ所 しゃくに転用か？	
SX3002	162	椀	底:6.3					漆器, 外面:赤漆→黒漆,内面:黒漆	
SX3002	163	椀		4.9				漆器,内面見込に二次焼成 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	30
SX3002	164	椀	底:6.0					漆器,全体的にひずむ 外面:黒漆？内面:赤漆	
SX3002	165	椀	口:11.20					漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	3
SX3002	166	椀						漆器 内外:黒漆	33
SX3002	167	椀	底:6.5					漆器, 外面:黒漆,内面:赤漆	27

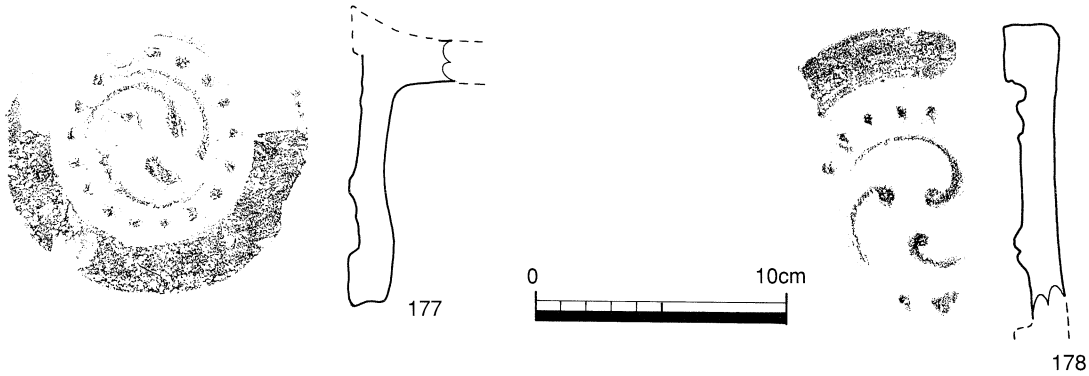
第52図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その19）



第53図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その20）

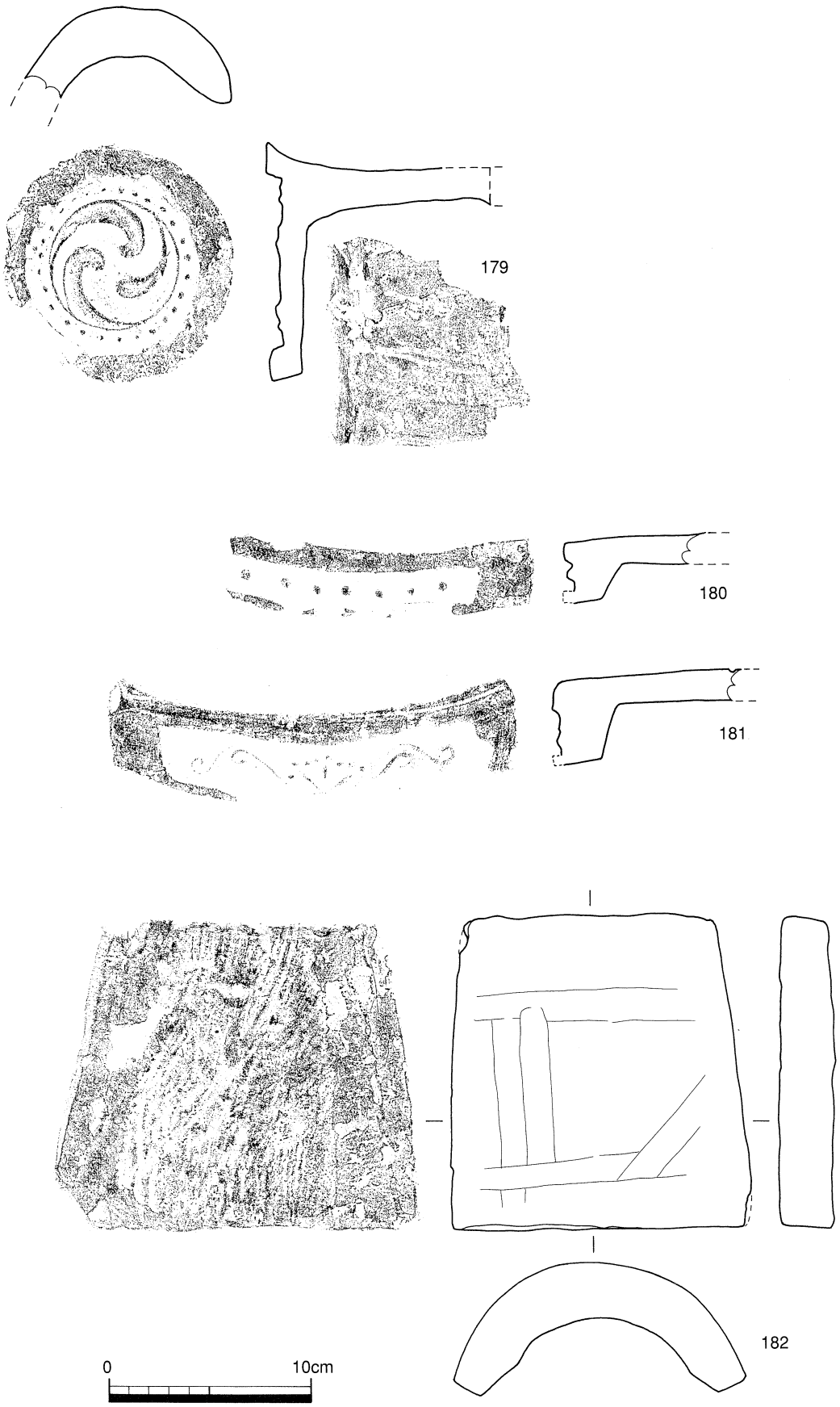


遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3002	168	下駄	20.8			8.0	1.4	刳り	
SX3002	169	下駄	20.7			8.4	2.6	連歯	
SX3002	170	木製品		16.8		6.9	0.9		
SX3002	171	木製品		27.5		7.8	1.0		
SX3002	172	木製品		14.3		1.0	0.6		
SX3002	173	曲物	直径14.2cm,高さ10.5cm,厚0.6cm					側板を一重半巻き2ヶ所止め,下端帯を木ビス7ヶ所止め	
SX3002	174	棒状木製品	最大長:15.3,最大幅:0.7,最大厚:0.5					加工木 中央部に二次焼成の痕跡	
SX3002	175	板		16.4		6.0	0.5	板状木製品 焼印二ヶ所,一ヶ所は「よしの」と判読	
SX3002	176	木製品		14.3		13.1	1.0		

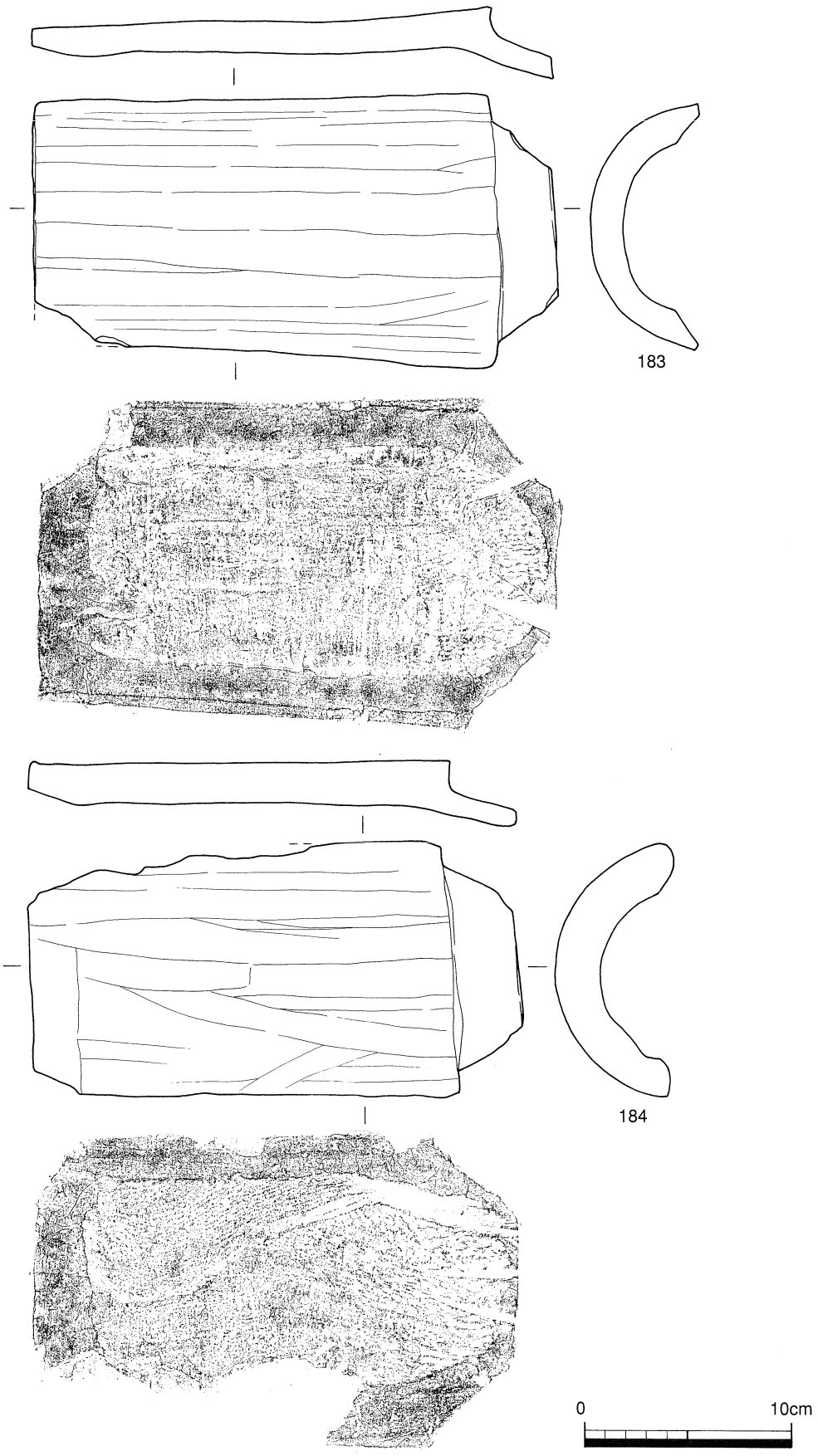


遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX3002	177	軒丸瓦	—	1.6	—	砂礫少	灰白N7/0	暗灰N3/0			良	巴 被熱
SX3002	178	軒丸瓦	—	—	—	砂礫少	灰5Y5/1	緑黒10GY2/1			良	巴

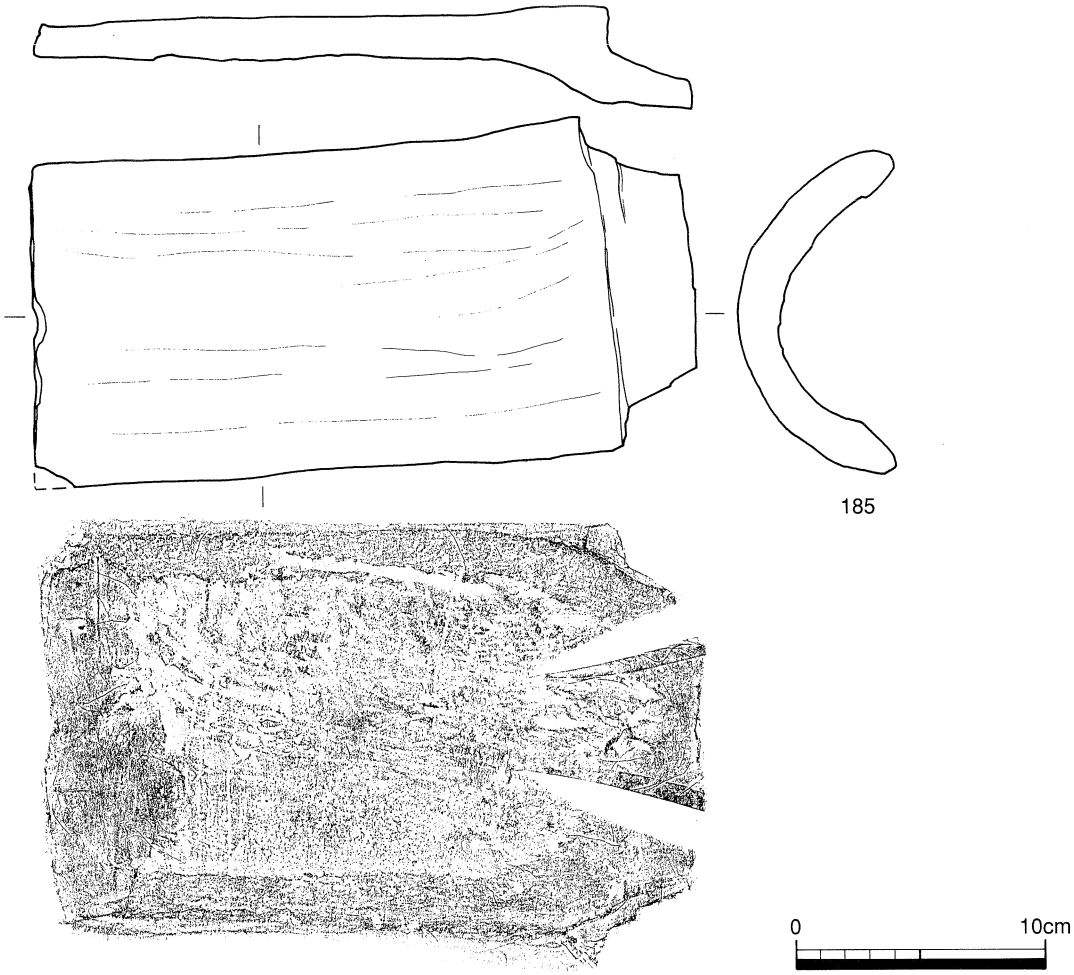
第54図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その21）



第55図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その22）



第56図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その23）



遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX3002	179	軒丸瓦	8.6	1.5	―	砂礫	灰N6/0	灰4/0			良	巴
SX3002	180	軒平瓦	7.0	1.5	16.3	砂粒	灰白N7/0	暗灰N3/0	―	―	良	被熱
SX3002	181	軒平瓦	9.3	1.5	20.3	砂礫	灰白N7/0	灰N5/0	―	―	良	被熱
SX3002	182	丸瓦	15.2	2.7	14.4	砂礫・石少	灰N6/0	暗灰N3/0	布目ゴザ状圧痕？		良	
SX3002	183	丸瓦	24.9	1.6	11.7	砂礫少	灰N6/0	暗灰N3/0	布目、コビキB ゴザ状圧痕	板ナデ	良	被熱
SX3002	184	丸瓦	23.4	2.1	12.3	砂礫	灰白2.5Y8/1	灰N4/0	コビキB、布目 ゴザ状圧痕	板ナデ	良	被熱
SX3002	185	丸瓦	26.3	1.9	13.2	砂礫	灰白10YR7/1	灰N6/0	コビキB 布目	板ナデ	良	

第57図　SX3002出土遺物実測図・観察表（その24）

SX3003（第58図）

C区の西部，第３面で確認した遺構である。検出した標高は0.53～0.83mで，底面は標高0.14～0.24mを測る。検出長は3.30m，検出幅は2.42mを測り，西方向調査対象外へと伸びる。平面形状は長方形状だが，西半については撹乱直下での検出であり，やや不整形となっている。SX3007と重複し壊すが，本遺構と同様相を呈するSX3002に近接するが重複関係はない。埋土は，埋め戻し土と考えられる上層部（第58図土層図２，①～④）と下層部（⑤～⑧）からなる。下層部は木質遺物・炭化物を多量に含んだシルト層で，泥炭化が認められた。遺構の性格としては，下層にみられる埋土の状況から廃棄土坑が考えられる。所属時期は，SX3007（17世紀初頭埋没）に後出していることや，出土遺物に肥前系磁器が認められず，唐津中心（溝縁皿を含む）であることから，17世紀前葉を中心とした所産と考えられる。

SX3003出土遺物（第59～61図）

出土遺物は，コンテナ２箱程の出土量であった。埋土の下層部では木質遺物が集中し認められたが，遺存状態が悪く細片となるのものが多いため，取り上げ可能なものは少量であった。

１は景徳鎮窯系青花で，鉢の体部片と考えられる。器壁は薄い。２～10は肥前系陶器である。２・３は灰釉の碗で，高台は露胎である。４は向付で，轆轤により成形し体部中位を押え四方とする。四方隅の口縁端部を窪ませ，口錆状に鉄釉を施している。５・６は，絵唐津皿（向付）である。７は灰釉の皿で，口縁部が溝縁となっている。８・９は器種不明の絵唐津である。８は筒形に復元され，向付と考えられる。９は内面が施釉されていなく，香炉の類が考えられる。

10～12は，瀬戸・美濃系陶器である。10は向付の底部片と考えられる。11の丸碗は，明るい茶色に発色する鉄釉を施す。12の見込みには，２箇所のピン痕が認められる。

13～16は備前擂鉢である。15の口縁部外面には凹線が３条認められ，断面は板状で端部が先細る。古相を示す形態で，SX3007若しくは近接する中世末段階の整地及び遺構（SE3004・SE3005・SD3007）からの混入が考えられる。

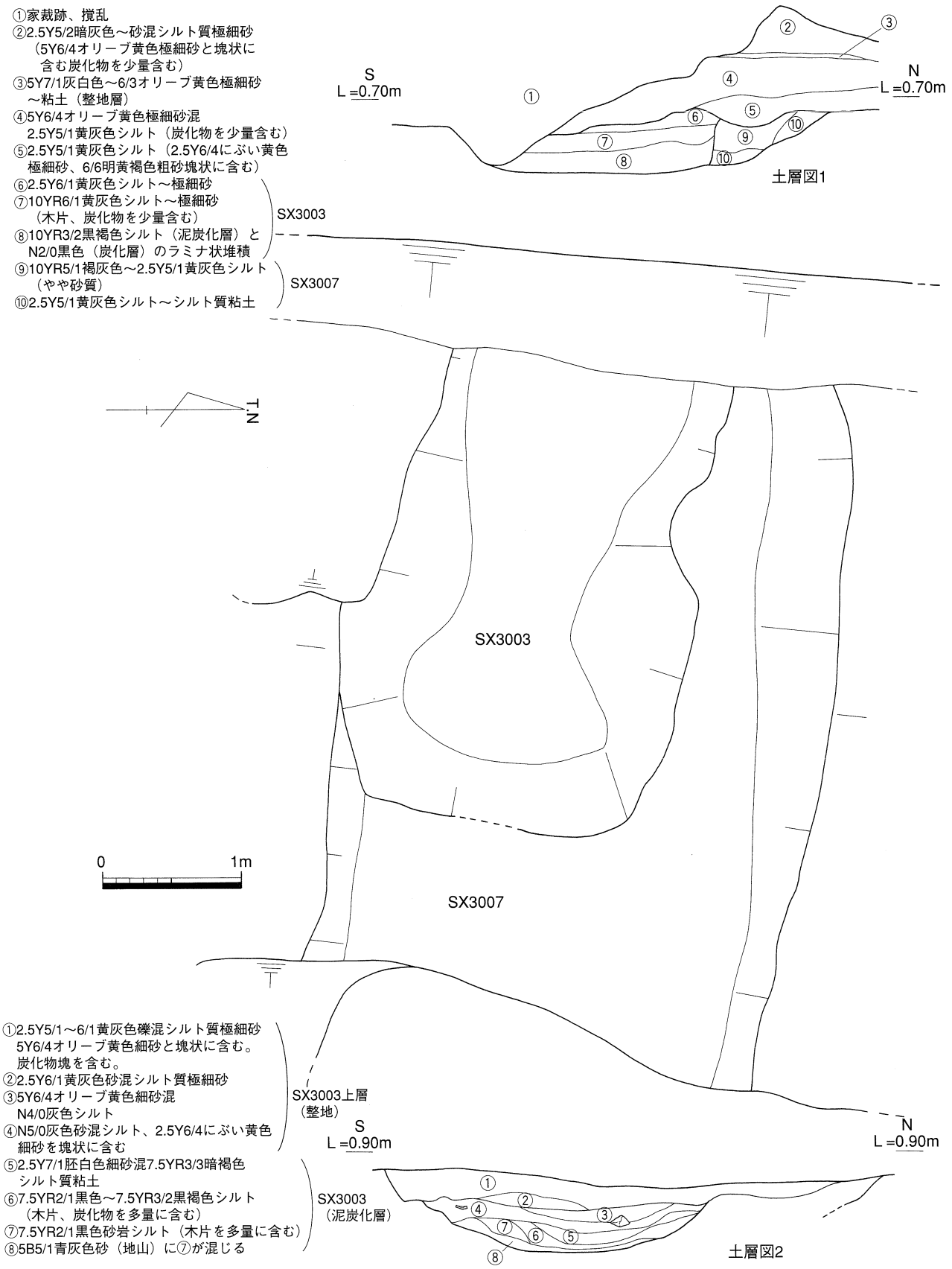
17は，ほぼ完品の土師質土器把手付鍋である。口縁部を強くナデているが，体部が直立する器形で佐藤編年の様相２に該当すると考えられる。18は焼塩壺の蓋である。身は輪積成形のものと考えられる。

19～21は漆器製品である。19は器高の低い椀で，口縁部が端反気味である。高台は低く，抉りは浅い。20の紅葉の葉脈は，引っ掻き技法による。21は内外面赤塗りの杯である。

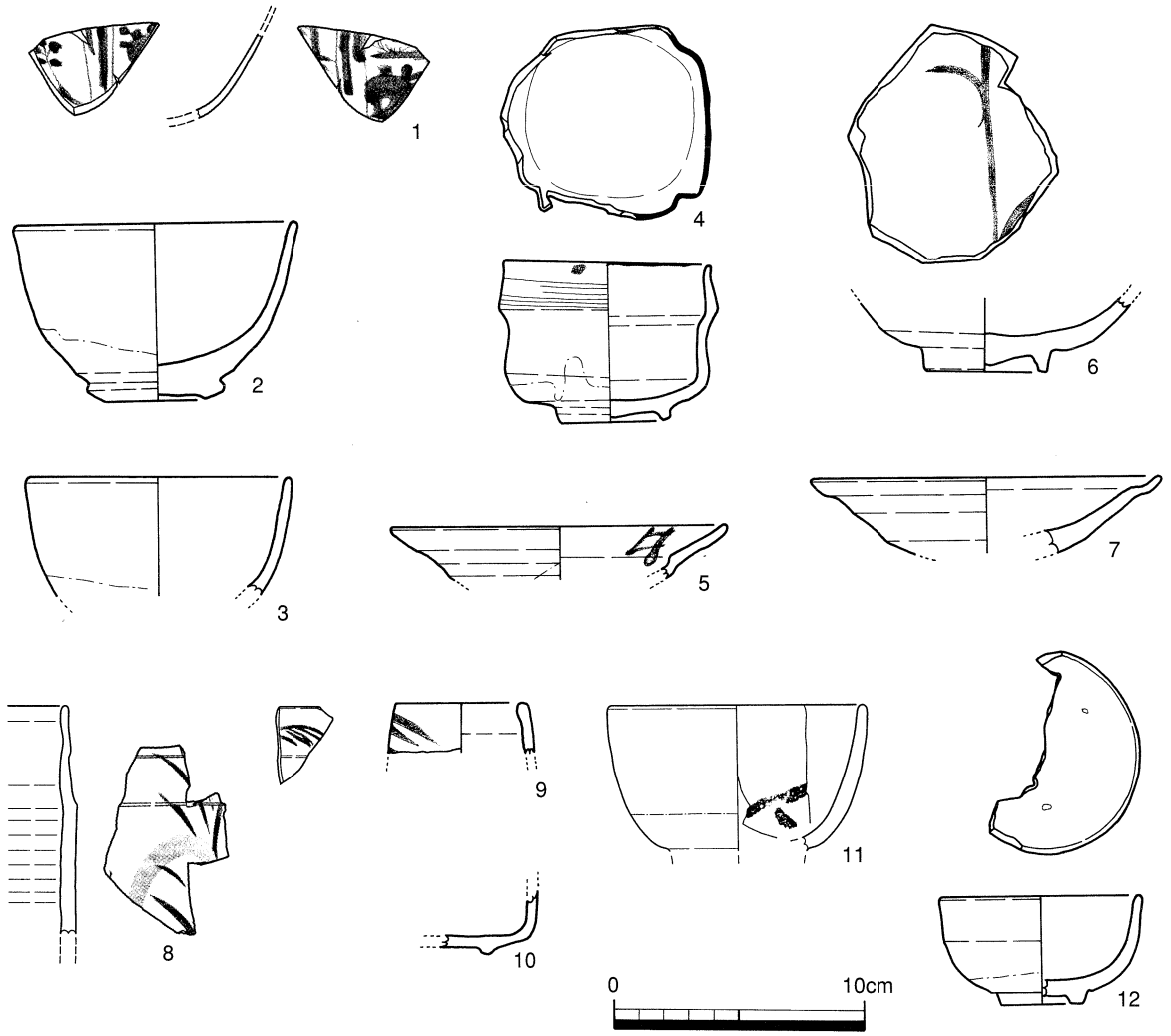
22・23は瓦片である。22には連珠文が認められる。

SX3007（第58・62・63図）

第３面のC区西端部及びE区，F区で確認した遺構である。調査対象外の範囲を挟んで断続して検出されているが，ほぼ同規模を有し直線状に認められることや埋土の特徴から同一の溝状遺構と考えられる。検出した標高はF区で0.91～0.96m，E区で0.55～0.86m，C区では0.63～0.77mを測る。底面の標高はF区で0.32m前後，E区で0.42m前後，C区で0.46m前後を測り，道路の整地の下位で検出されたF区で最も深くなっている。検出長はF区で1.7m，E区で4.4m，C区で4.5mを測る。検出幅はF区で4.5m，E区で3.1m，C区で3.3mを測る。F区で幅広となるが，これは検出した標高差によるものと考えられる。

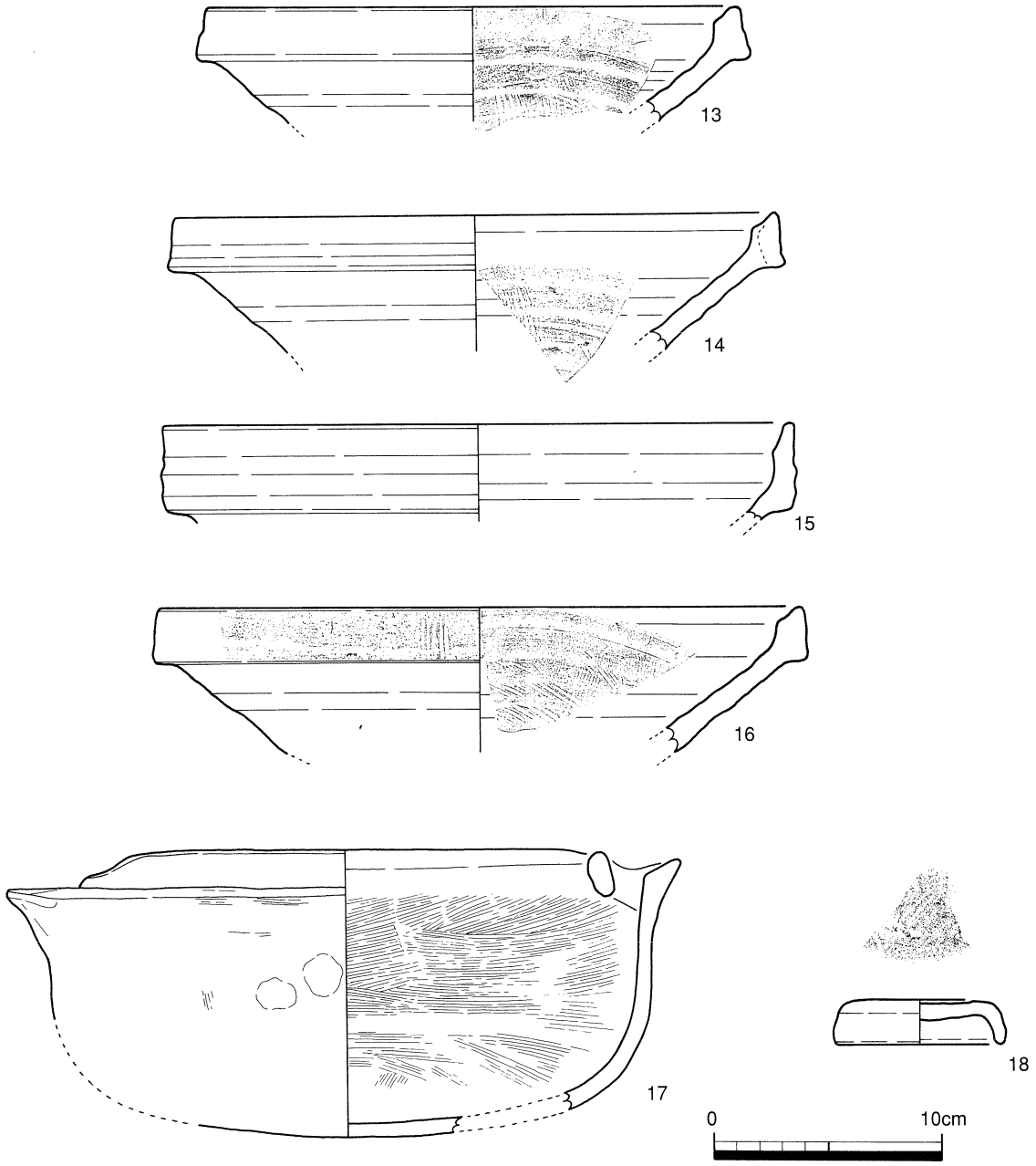


第58図　SX3003・3007平面・土層図



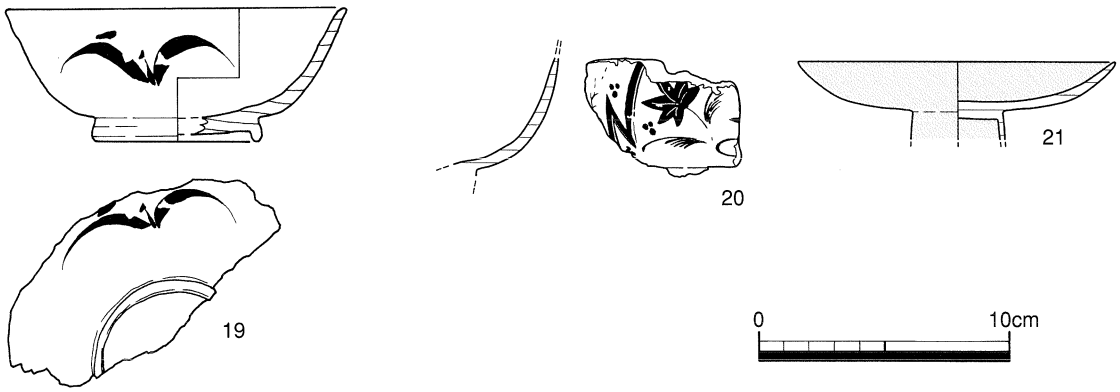
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3003	1	磁	破片	中国		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			景徳鎮窯
SX3003 泥	2	陶	碗	肥前	口:11.1 高:7.0 底:4.0	細	明褐灰7.5YR7/2	明オリーブ灰2.5GY7/1			大橋I-2期	
SX3003 泥	3	陶	碗	肥前	口:10.4	細	灰白7.5Y7/1	明オリーブ灰2.5GY7/1			大橋II期	
SX3003 上層	4	陶	碗向付	肥前	口:8.1 高:6.5 底:4.4	細	橙5YR7/8	明赤灰 2.5YR7/1		外面:ナデ 高台脇:ケズリ 外底:ケズリ	大橋II期	
SX3003	5	陶	皿	肥前	口:13.1	細	灰白N7/0	オリーブ灰10Y6/0	鉄絵:オリーブ灰10Y4/2		大橋I-2期	
SX3003	6	陶	向付	肥前	底:4.9	細	橙2.5YR6/8	外面:白 内面:褐灰7.5YR6/1		外面:ナデ 外底:ケズリ	大橋I-2期	
SX3003	7	陶	皿	肥前	口:13.9	細	にぶい赤橙10R6/4	明赤灰10R7/1			大橋II期	
SX3003 上層	8	陶		肥前		細	灰白7.5YR8/2	内外:明赤褐2.5YR5/6	鉄絵:暗赤褐5YR3/2 灰黄2.5Y7/2			
SX3003 上層	9	陶	香炉?	肥前	口:5.2	細	にぶい橙7.5YR7/4	灰黄2.5Y7/2	鉄絵			
SX3003	10	陶	向付	瀬・美		細	灰白5Y8/1	淡黄5Y8/3				
SX3003 上層	11	陶	碗	瀬・美	口:10.1	細	灰白色2.5Y8/2	内外:暗赤褐2.5YR3/4	内面:暗赤褐5YR3/6	外面:ケズリ 外底:ケズリ		
SX3003 上層	12	陶	碗	瀬・美	口:7.9 高:4.3 底:3.8	細	灰白7.5Y8/1	灰白10Y8/1		外面:ケズリ 外底:ケズリ		内面見込みにピン痕、断面に被熱痕

第59図　SX3003出土遺物実測図・観察表（その1）

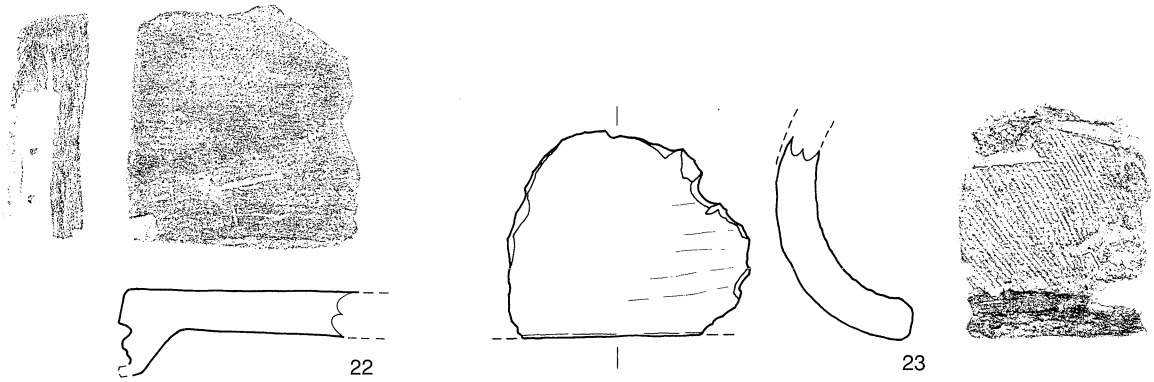


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3003 上層	13	陶	擂鉢	備前	口:23.0	細	赤橙10R6/8	赤褐10R5/4		内外:ロクロナデ 内面:擂目	近世Ⅰc期	
SX3003	14	陶	擂鉢	備前	口:25.9	細		外面:灰赤10R4/2 内面:灰N4/0		内外:ロクロナデ	近世Ⅰc期	口縁部外面に自然釉付着
SX3003	15	陶	擂鉢	備前	口:27.3	細		外面:灰赤7.5R4/2 内面:暗赤褐7.5R3/3		内外:ロクロナデ	近世Ⅰb期	
SX3003 泥炭層	16	陶	擂鉢	備前	口:27.7	細	灰赤7.5R4/2	赤褐10R6/8		内外:ロクロナデ 内面:擂目	近世Ⅱa期	
SX3003	17	土師質	内耳付鍋		口:22.0 高:12.5	細		外面:淡橙5YR8/4 内面:灰白10Y7/1		内外口縁部:ロクロナデ 外面:ハケメ,指押さえ 内面:ハケメ		外面と内面口縁部に煤付着
SX3003 上層	18	土師質	焼塩壷蓋		口:7.2 高:1.9	細	黄灰2.5Y6/1	黒N2/0		内外口縁部:ナデ 外天:板状痕 内面:仕上げナデ		全面に被熱痕

第60図　SX3003出土遺物実測図・観察表（その2）



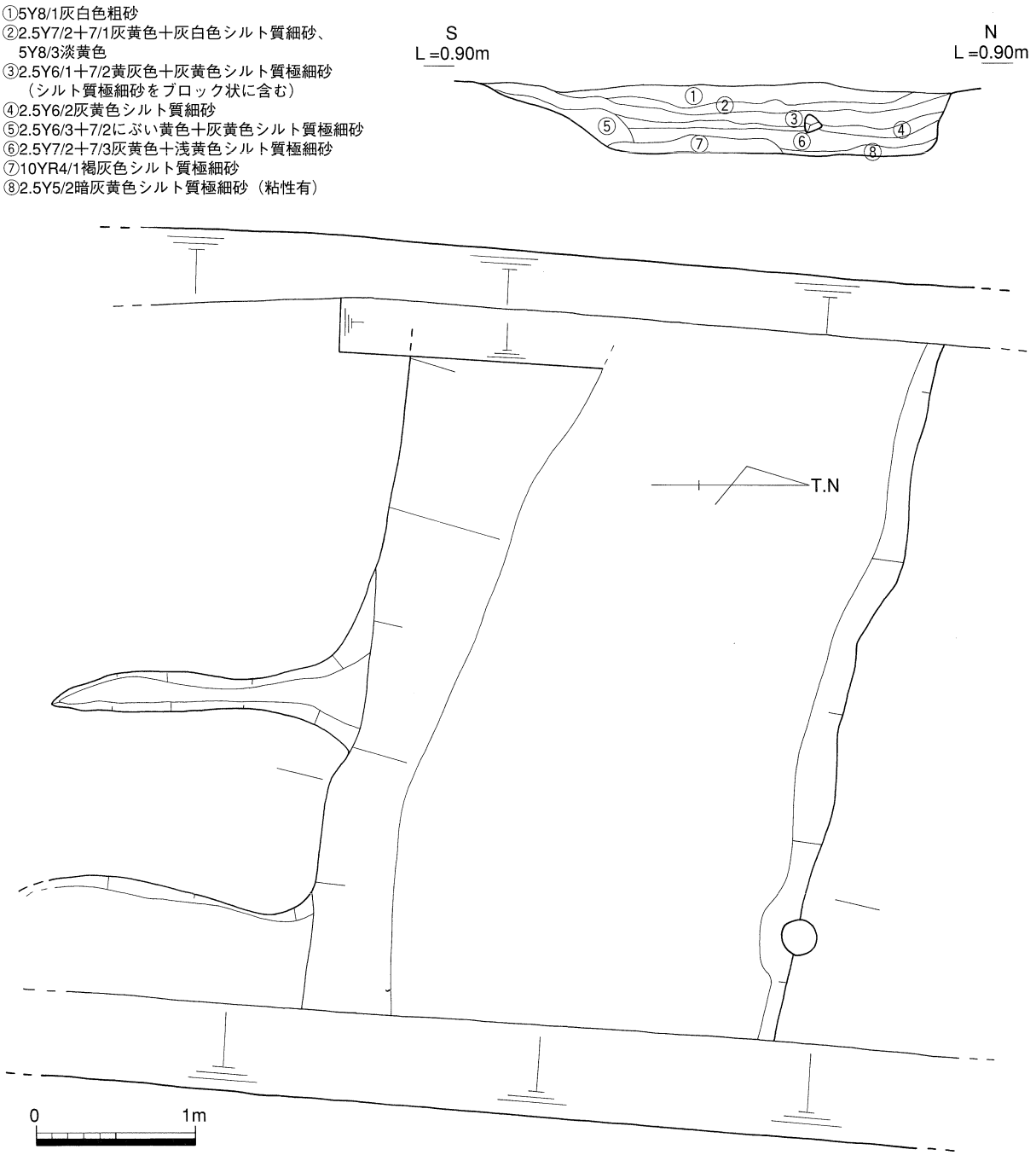
遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3003	19	椀	口:13.4,高:6.5,底:6.2					漆器 外面:黒漆・赤漆による草花の加飾,内面:黒漆	23
SX3003	20	椀						漆器,内外:黒漆 外面:赤漆で引っ掻き技法による加飾(紅葉)	15
SX3003	21	坏	口:12.50					内外:赤漆	16



遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX3003	22	軒平瓦	9.5	1.8	9.5	砂粒	灰黄褐10YR6/2	暗灰N3/0	—	—	良	—
SX3003	23	丸瓦	9.8	1.7	8.1	砂粒少	灰白N7/0	灰N4/0	コビキA		良	

第61図　SX3003出土遺物実測図・観察表（その３）

遺構の断面は船底形で，埋土は埋め戻し土と考えられる灰白色細砂土が上層部に認められ，下層部では褐色のシルト質土が堆積する。重複する遺構に，SX3002・3003・SK3028があり，いずれにも先行している。出土遺物は中位に多く認められ，人頭大の石材も散見されることから，本来石積みであったことも考えられる。遺構の性格として，大規模な区画溝或いは基幹水路であったと考えられる。また本遺構が示す主軸は，N－81°－Wを測り，後出するSD2003や現状で認められる地割と大きく異なり，外堀及び平野部で認められる条里地割に合致する。このような状況から，当地点が曲輪内として本格的に整備される以前の地割りを示す可能性が考えられる。所

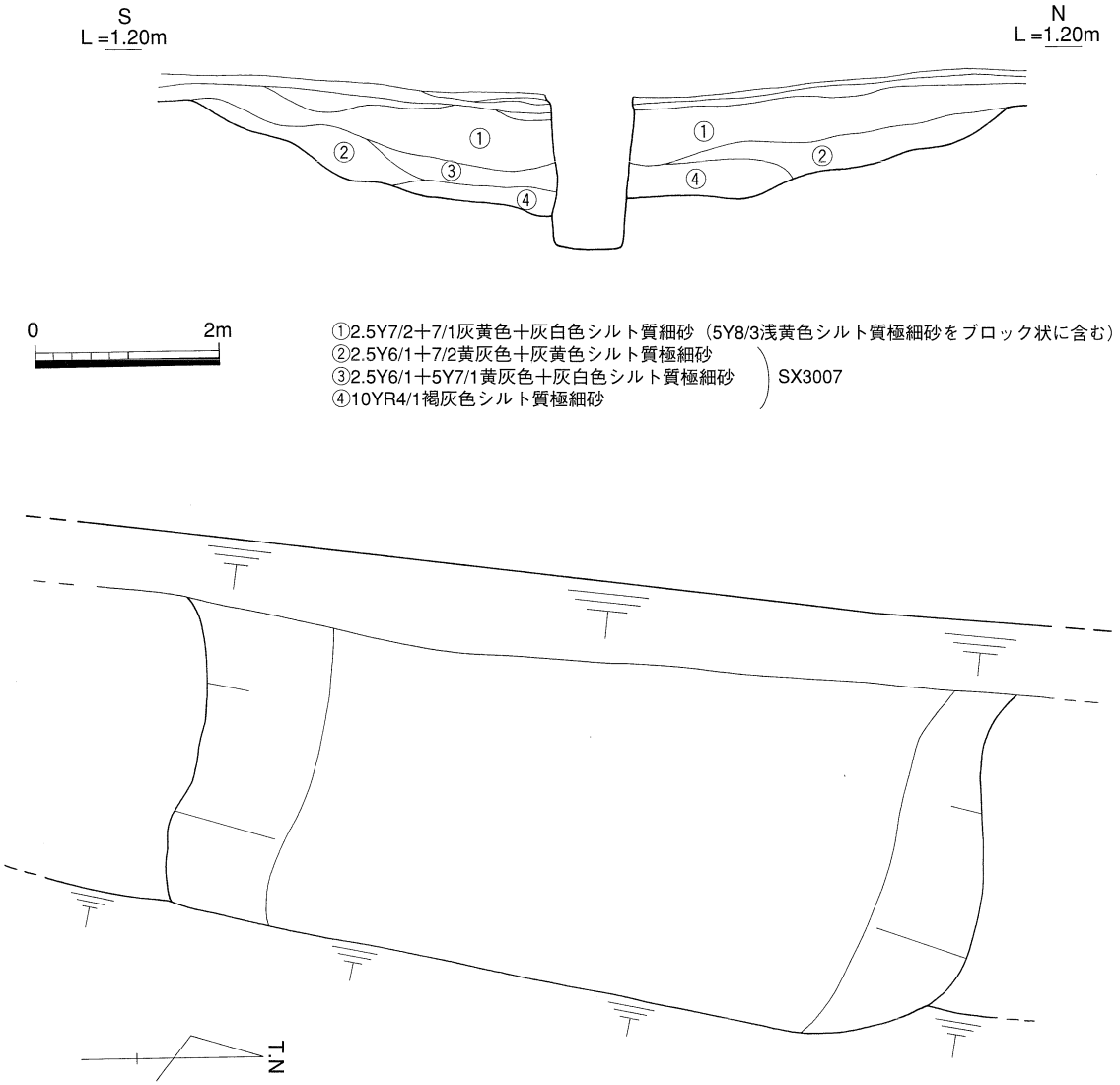


第62図　E区SX3007平面・土層図

属時期はSX3003等17世紀前葉の遺構に先行することや出土遺物に絵唐津や胎土目の唐津が認められることから，17世紀初頭を中心とした所産と考えられる。

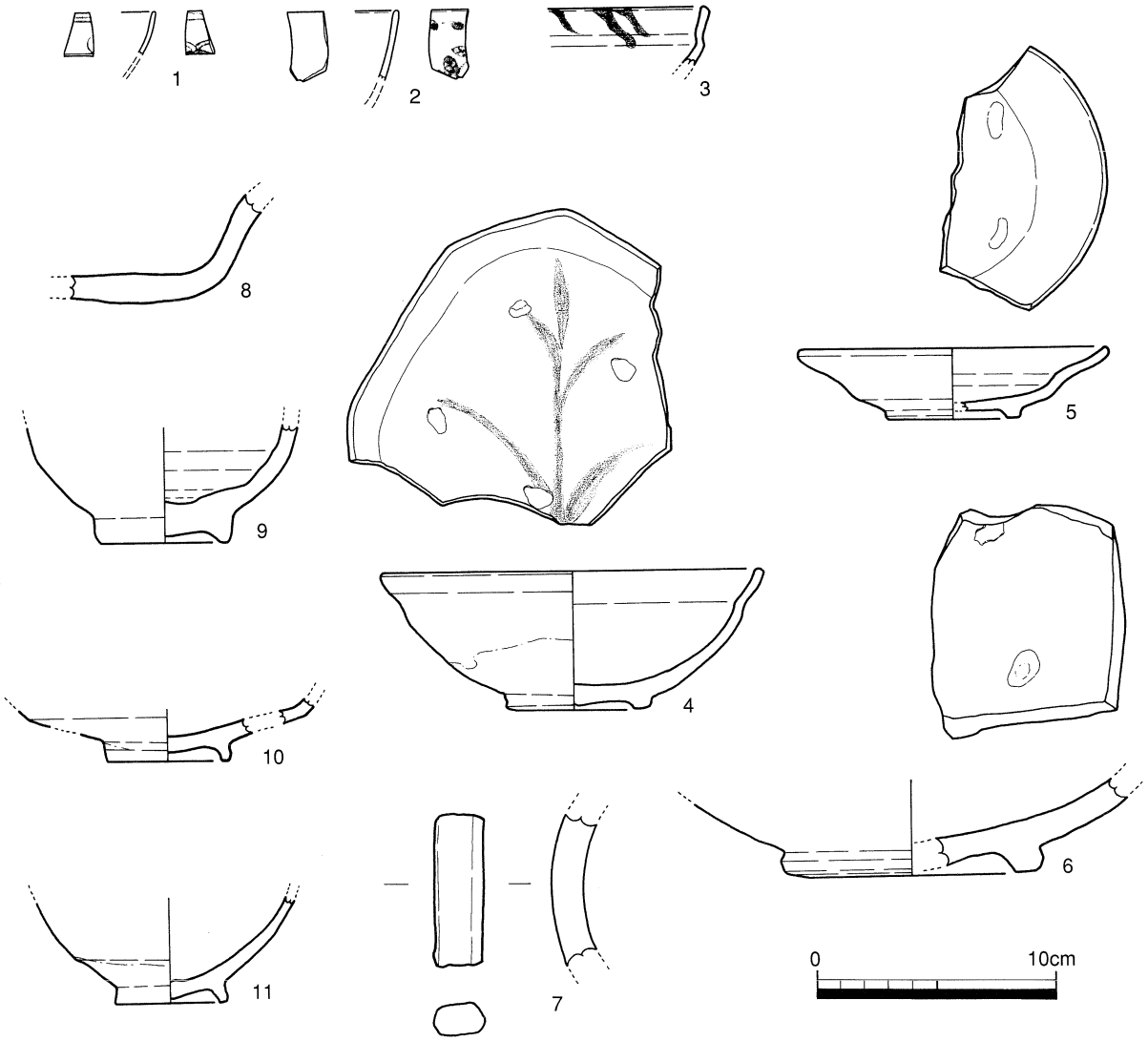
SX3007出土遺物（第64・65図）

出土遺物は，コンテナで約2箱の出土量であった。1・2は，景徳鎮窯系青花の口縁部である。3～6及び11は，肥前系陶器である。3・4は絵唐津の向付である。4は胎土目の四方入隅向付で，内外面の上半部を灰オリーブ色に発色する釉で施釉し，見込に同色の釉で草文を描く。見込には白化粧のみで施釉を行わないため，円形に白色を呈し（月か），草文が陰影となっている。5・6は胎土目の皿である。7は産地不明陶器の把手部である。



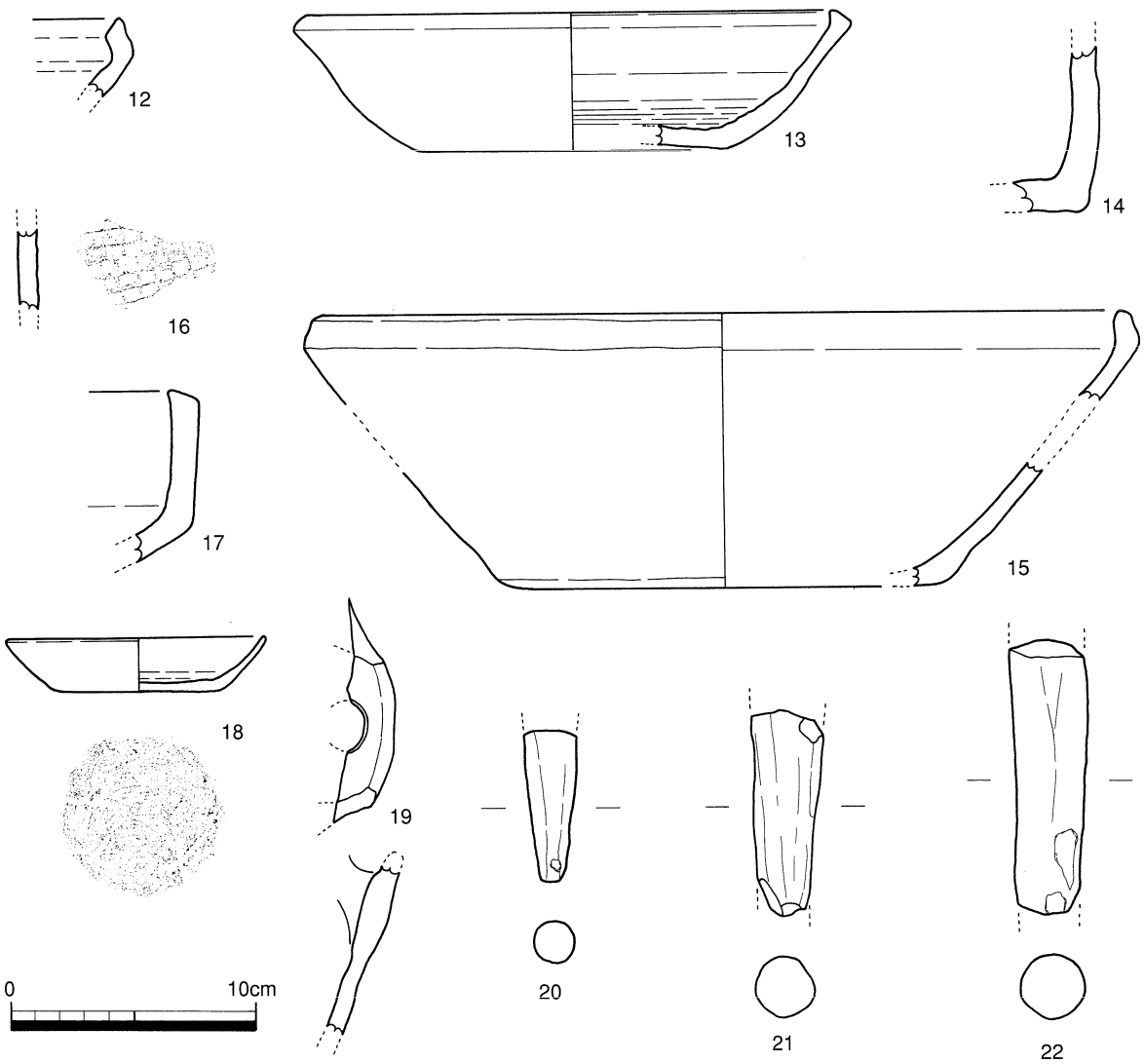
第63図　F区SX3007平面・土層図

8～10は，瀬戸・美濃系陶器である。8は志野向付で，内面には草文を描いている。9・10は灰釉の碗と底部である。12～14は備前である。12は小片のため明確ではないが，鉢の口縁部と考えられる。13は平鉢である。口縁端部に面をもち，内側へと突出する。17は関西系の瓦質土器火鉢の口縁部で，外面には磨き調整が施される。15・18～22は，在地産土師質土器である。15の内面には擂目が認められず，捏鉢と考えられる。16は土器細片だが，外面には格子状の叩き痕が認められる。18は皿である。19は鍋の把手部である。20～22の脚部で，断面は円形状である。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3007	1	磁	口縁部	中国		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			景徳鎮窯 口縁端部に虫くい
SX3007	2	磁	口縁部	中国		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			景徳鎮窯
SX3007	3	陶	皿	肥前		細	淡赤橙2.5YR7/4	灰黄褐10YR4/2			大橋I-2期	向付
SX3007	4	陶	皿	肥前	口:15.6 高:5.8 底:6.0	細	明褐灰5YR7/2	灰オリーブ7.5Y5/3	絵:灰オリーブ7.5Y5/3	外面:ナデ、ケズリ 外底:ケズリ	大橋Ⅰ期	内面に胎土目4ヶ所
SX3007	5	陶	皿	肥前	口:12.7 高:2.9 底:5.4	細	浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR6/4			大橋I-2期	内面見込みに胎土目2ヶ所
SX3007	6	陶	鉢	肥前	底:10.3	細	橙2.5YR7/6	灰白N7/0			大橋I-2期	断面・内外面に被熱痕
SX3007	7	陶	把手			細	灰N5/0	黒N2/0				
SX3007	8	陶	底部	瀬・美		細	灰白7.5YR8/1	灰白10YR8/1				内面に被熱痕 内面に模様?
SX3007	9	陶	碗	瀬・美	底:5.3	細	灰白5Y8/1	灰白10Y8/2				底部に被熱 全面施釉
SX3007	10	陶	皿	瀬・美	底:5.2	細	灰白N8/0	浅黄7.5Y7/3				
SX3007	11	陶	碗	肥前	底:4.7	細	灰白N7/0	暗赤褐5YR3/2		外面上半:ナデ 下半:ケズリ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	

第64図　SX3007出土遺物実測図・観察表（その1）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX3007	12	陶	口縁部	備前		細	暗赤褐5YR3/3	暗赤褐5YR3/3		内外:ロクロナデ		
SX3007	13	陶	大平鉢	備前	口:21.1 高:5.6 底:12.5	細		外面:暗赤10R3/6 内面:暗赤7.5R3/6		内面:ロクロナデ		
SX3007	14	陶	底部	備前		細		外面:極暗赤褐2.5YR2/2 内面:暗赤灰2.5YR3/1		内面:ロクロナデ		備前?
SX3007	15	土師質	擂鉢		口:32.5 高:11.1 底:18.6	石・長・金	橙5YR7/8	灰白10YR8/2				在地産 口縁部に被熱痕
SX3007	16	土師質	培焙体部			微砂粒	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		外面:格子目タタキ 内面:ナデ		関西系焙烙
SX3007	17	瓦質	火鉢			微砂粒無	黒N2/0	黒N2/0		外面:ミガキ 口縁端・内面:ナデ		関西系火鉢
SX3007	18	土師質	皿		口:10.3 高:2.2 底:6.7	砂粒少		外面:浅黄5YR8/3 内面:灰白5YR8/2		内面:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		内外面に被熱痕
SX3007	19	土師質	内耳付鍋			石・長・多	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3				
SX3007	20	土師質	脚部			砂粒無	橙5YR6/6	橙5YR6/6				
SX3007	21	土師質	脚部			石・長・多	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2				
SX3007	22	土師質	脚部			微砂粒	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい褐7.5YR5/3				

第65図　SX3007出土遺物実測図・観察表（その2）

SX3004・3005・3006（第10・66図）

B区西半部，第３面で確認した遺構である。撹乱部分に設置したトレンチ壁面の土層堆積状況（第10図）より，B区西半部は大きく窪んだ地形となっており，最下層部では木質遺物等の有機物を多く含んだ砂質の堆積層が認められることから，滞水していた遺構の存在が想定された。第２面検出時にはSX3004・3005に相当する範囲，B区西半部で炭化層が検出されている（第190図）。この炭化層には遺物が包含せず，最下層部との間に⑲層を挟むことからこの直下を第３面において検出した。また窪地の南岸に相当するSX2006・SE3006の下位でも木質遺物を含んだ砂質土の堆積物が認められ，SX3006として検出を行った。撹乱により分断されることや断面観察で複数の遺構が想定されたため，３つの遺構として遺物の取り上げを行った。

検出した標高は，SX3004が0.44～0.58m，SX3005が0.58～0.67m，SX3006が0.27～0.42mを測る。底面の標高はSX3004が0.20～0.28m，SX3005が0.16～0.32m，SX3006が0.03～0.06mである。SX3006は一部，撹乱土を含んだ状態で検出しており，西面はコンクリートを含んだ撹乱を除去できず以西については確認できなかった。SX3004・3005の境となる10cm程度の畦畔状の隆起が認められたが，両遺構を明瞭に別遺構として分割するものかは，調査範囲の制約もあり明確にならなかった。SX3004～3006は，いずれも木質遺物等を含むシルトと砂の互層を埋土としているが，東西方向及び南北方向の土層断面によれば②・③・④層を基盤とした掘り方状に観察された。このため窪地の最下層部では複数の遺構が存在する可能性が想定されたが，平面の検出時では明瞭なプランとはならず，また③・④の砂質の堆積物は，遺物を包含するため埋土として掘削を行った。

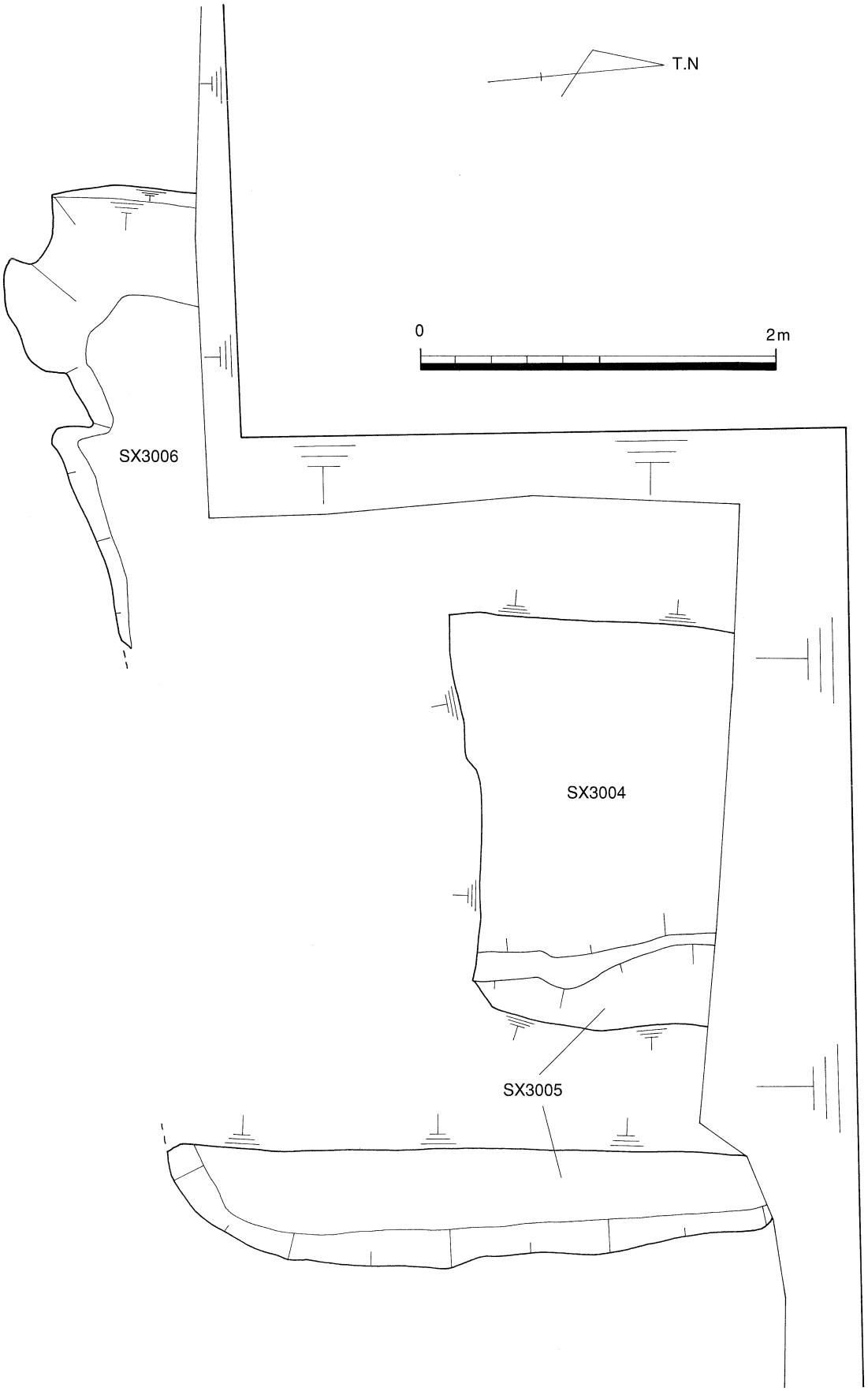
現状では同様の特徴を有する埋土で充填されることや，出土品についても各遺構間での接合関係が多く認められることから同様の埋没過程が考えられ，B区西部一帯が池状の遺構として想定される。

注目される出土遺物にSX3005出土の木簡（第81図51）があり，その墨書により当地が彦坂織部邸であり，1658～88年頃の所産であることが分かる。その他箸，漆器製品が多く認められ，宴席の廃棄物を含むことが推定される。明瞭な根拠を示す出土品は認められないが，文献資料では彦坂織部玄年と藩主の姪との婚礼（1666年）があり，当史述に伴う可能性も挙げられる。

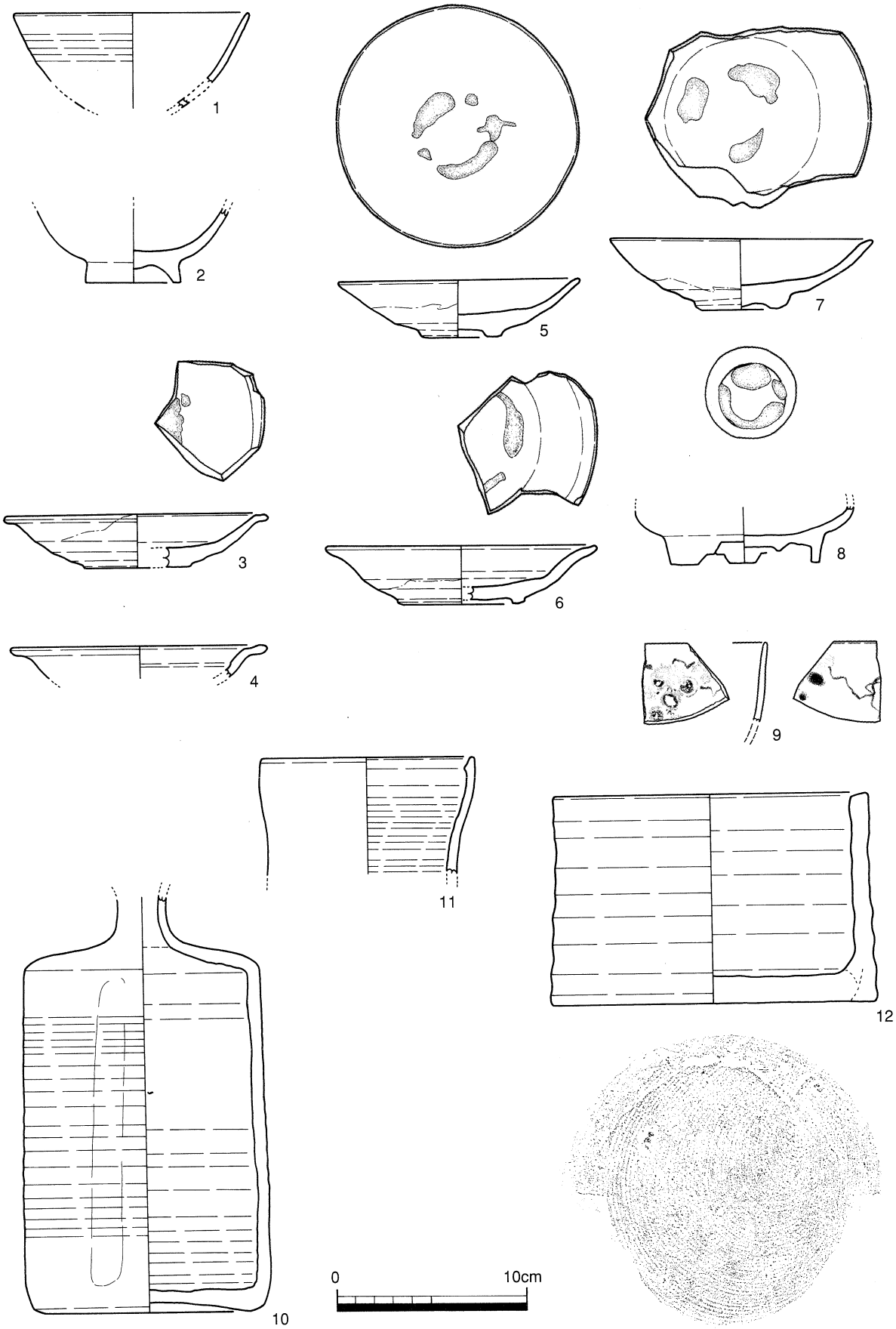
SX3004出土遺物（第67～75図）

１～７は肥前系陶器である。１は灰釉の碗。２は呉器手の碗。３・５～７は砂目の皿で，３・４・６は溝縁状の口縁を有する。８・11は，産地不明陶器である。８は香炉底部，11を花生と考える。９は京焼系陶器で，金，赤，藍，緑で絵付される。理兵衛焼（高松藩御用焼）が類推される。10は備前の瓶である。12は信楽で，口縁部及び内面に煤が付着することから火入として使用されたと考えられる。

13～31は肥前系磁器である。13～18は碗である。16は白磁，18は青磁である。19～22・23は小坏である。いずれも端反で，21と23が高台内無釉である。19は外面に蘭を描くもので，20と共にSX3006と接合関係が認められる。21の外面に描かれた蕪の葉脈は，掻き取りによって白抜きされている。23の外面には，鎬が認められる。24は仏飯器である。底部無釉で高台内の抉りは深い。25は青磁香炉である。26～31は皿である。26，27は組皿に考えられ，内面に楼閣山水を描く。高台内には砂粒付着が認められる。初期伊万里と考えられる。31の胎土は，磁器化せず陶胎である。32の外面には，上絵が認められる。



第66図　SX3004・3005・3006平面図



第67図　SX3004出土遺物実測図（その1）

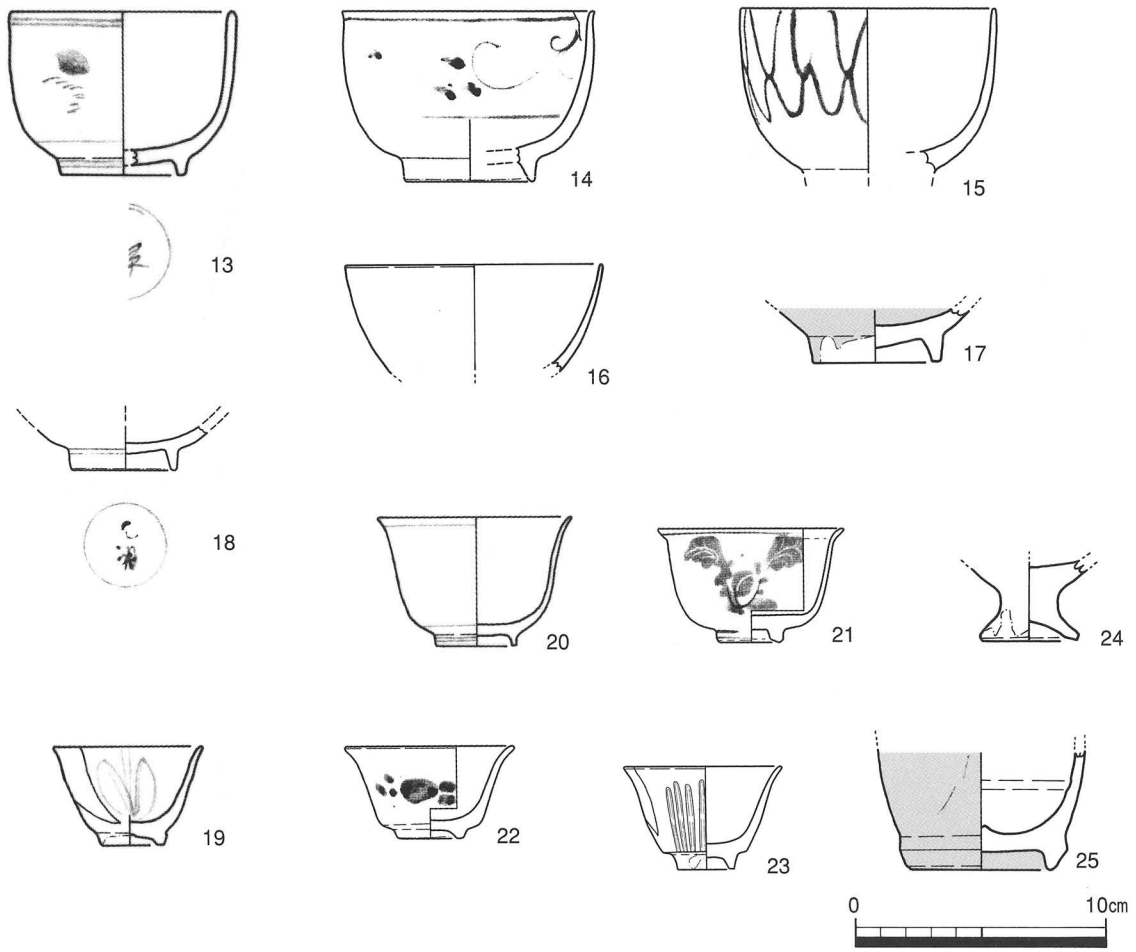
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3004	1	陶	碗	肥前	口:12.3	細	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1				
SX3004	2	陶	碗	肥前	底:5.0	細	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3				呉器手碗
SX3004	3	陶	皿	肥前	口:13.6 高:2.8 底:5.6	細	灰白N8/0	オリーブ黄7.5Y8/3		外面:ナデ 外底:砂目	大橋Ⅱ期	見込みと底部に砂目
SX3004	4	陶	皿	肥前	口:13.2	細	灰10Y4/1	褐7.5YR4/38			大橋Ⅱ期	
SX3004	5	陶	皿	肥前	口:12.5 高:3.0 底:4.2	細	灰黄褐10YR4/2	白		外面:ナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みに砂目
SX3004	6	陶	皿	肥前	口:14.1 高:3.1 底:6.6	細	灰10Y4/1	黒褐2.5Y3/2		外面:ナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	
SX3004	7	陶	皿	肥前	口:13.6 高:3.7 底:4.0	細	灰白5Y7/1	白～灰白10Y7/2		外面:ナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	内面見込みと高台部に砂目3ヶ所
SX3004	8	陶	香炉底部		底:7.8	細	灰N7/0	緑灰10GY6/1				
SX3004	9	陶	碗	京・信		細	灰白5Y8/1	内外:透明釉	内外:赤・金・青・緑			
SX3004	10	陶	瓶	備前	口:12.2	細	暗赤灰10R3/1	にぶい黄橙10YR6/3				体部に4条の凹み有
SX3004	11	陶	花生		口:11.2	細	にぶい赤褐2.5YR4/4	黒N1.5/0		内外:釉剥離		
SX3004	12	陶	火入	信楽	口:16.4 高:11.0 底:17.0	細	暗赤褐2.5YR3/6	明赤褐5YR5/6		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内面に煤付着

第68図　SX3004出土遺物観察表

33は焼塩壺蓋である。34は管状の土錘である。35～40は土師質土器皿である。すべて底部回転糸切りで，35・38が橙色系，他は灰白色を呈する。佐藤編年（佐藤2003）の橙色系に白色系が加わる段階（様相3～5）のうち，形態的特徴から様相4に相当すると思われる。40はSX3005と接合関係を有する。内外に墨書が認められ，底部外面のものは「大」と読める。41は，瓦質土器鍋（焙烙）である。口縁部断面は三角形で，垂下する。佐藤編年の様相3に該当すると考えられる。

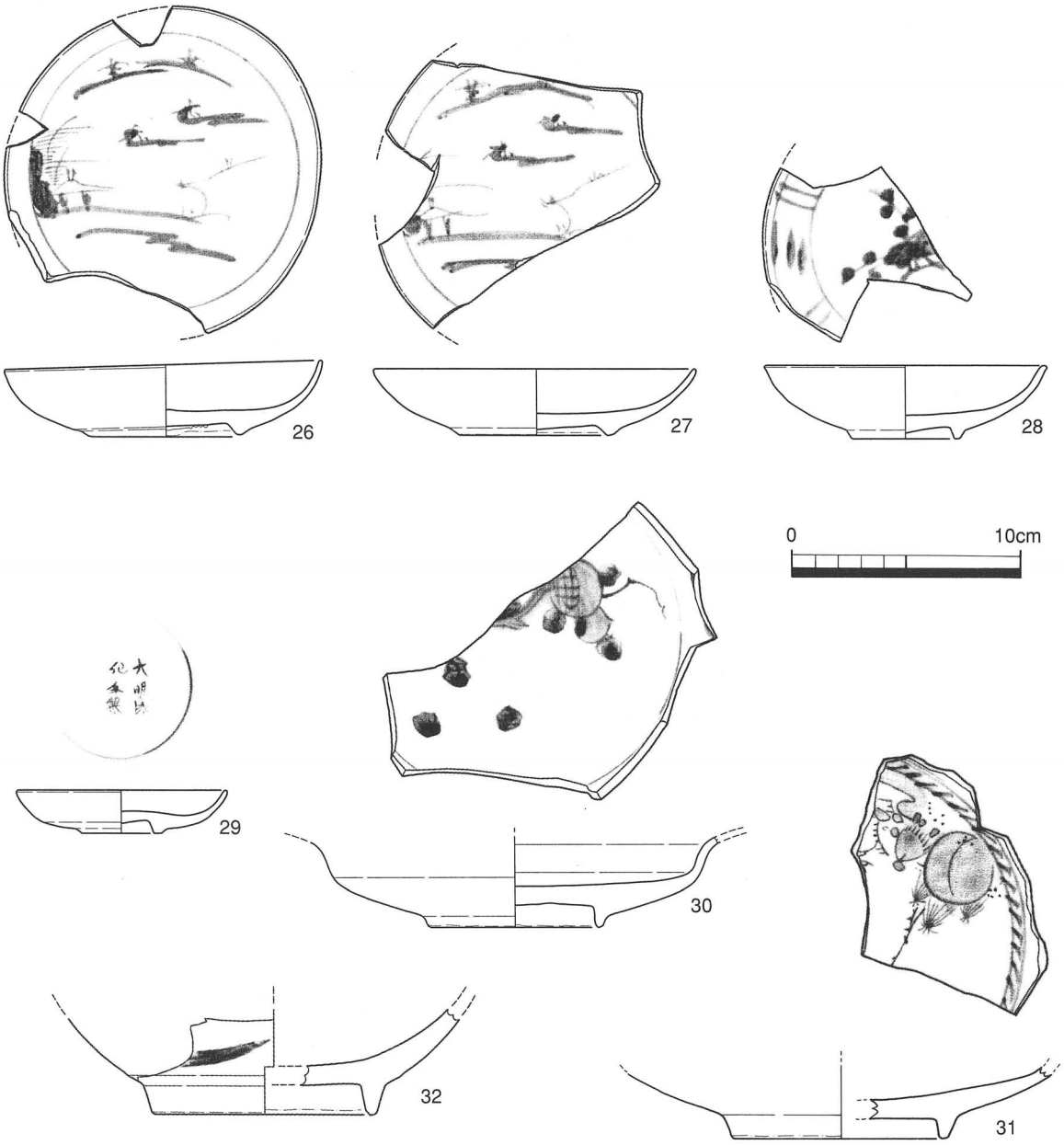
42～54は漆及び木製品である。42は玩具，人形である。胴部を欠損するが，頭部は全面磨かれる。43～46は漆器である。44は箱膳である。全面黒塗りで，一部金の付着が認められる。43は身として図化しているが，高台内に文様が描かれており，蓋の可能性が考えられる。この露薄文は，地方出土のものでは珍しい。45・46の椀は土圧のためか，全体が歪んでいる。45の高台は低く直立し，46の高台は高くハの字に開く。共に高台の抉りは，深くない。

47～51は下駄である。連歯下駄（49），差歯下駄（47，48），刳り下駄（50）草履下駄（51）がある。52～54は箸。多量に出土したが，3点を掲載した。すべて白木。55～58は瓦片。佐藤編年の様相4までの所産と考えられる。



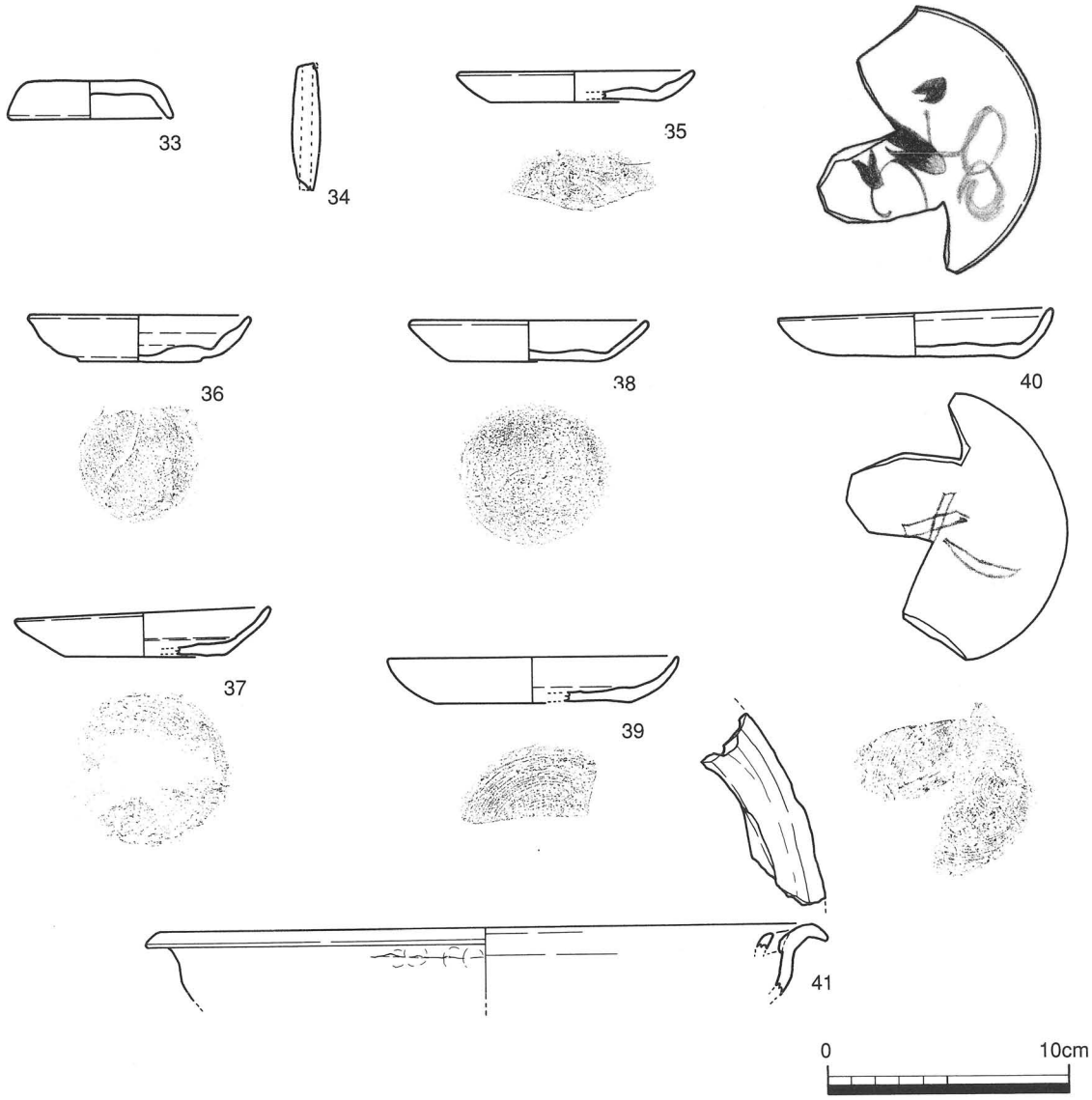
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3004	13	磁	碗	肥前	口:9.0 底:5.0	微	灰白	内外:透明釉	呉須:暗青色			底部に銘款あり 畳付に砂粒付着
SX3004	14	磁	碗	肥前	口:9.95 高:6.7 底:5.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色			高台畳付に砂粒付着
SX3004	15	磁	碗	肥前	口:10.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:一重網目	大橋Ⅲ期	
SX3004	16	磁	碗	肥前	口:10.2	微	灰白	内外:透明釉				
SX3004	17	磁	底部	肥前	底:5.0	細	灰白N8/0	明オリーブ灰5GY7/1				青磁
SX3004	18	磁	皿	肥前	底:4.05	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			外面と内面に2次焼成痕
SX3004	19	磁	小坏	肥前	口:5.95	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:蘭		
SX3004	20	磁	小坏	肥前	口:7.8 底:3.2	微	灰白	内外:透明釉	呉須:明青色			被熱
SX3004	21	磁	小坏	肥前		微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色		1640～50年代	高台内無釉、白抜き掻き取り技法
SX3004	22	磁	小坏	肥前	口:6.6 高:3.65 底:2.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SX3004	23	磁	小坏	肥前	口:6.2 高:4.1 底:2.2	微	灰白色	内外;灰白7.5Y7/1			1640～50年代	高台内無釉
SX3004	24	磁	仏飯具	肥前	底:3.8	微	灰白	内外:透明釉				
SX3004	25	磁	香炉	肥前	底:5.5	磁	灰白N8/0	明オリーブ灰2.5GY7/1		内面:ロクロナデ		青磁

第69図　SX3004出土遺物実測図・観察表（その2）



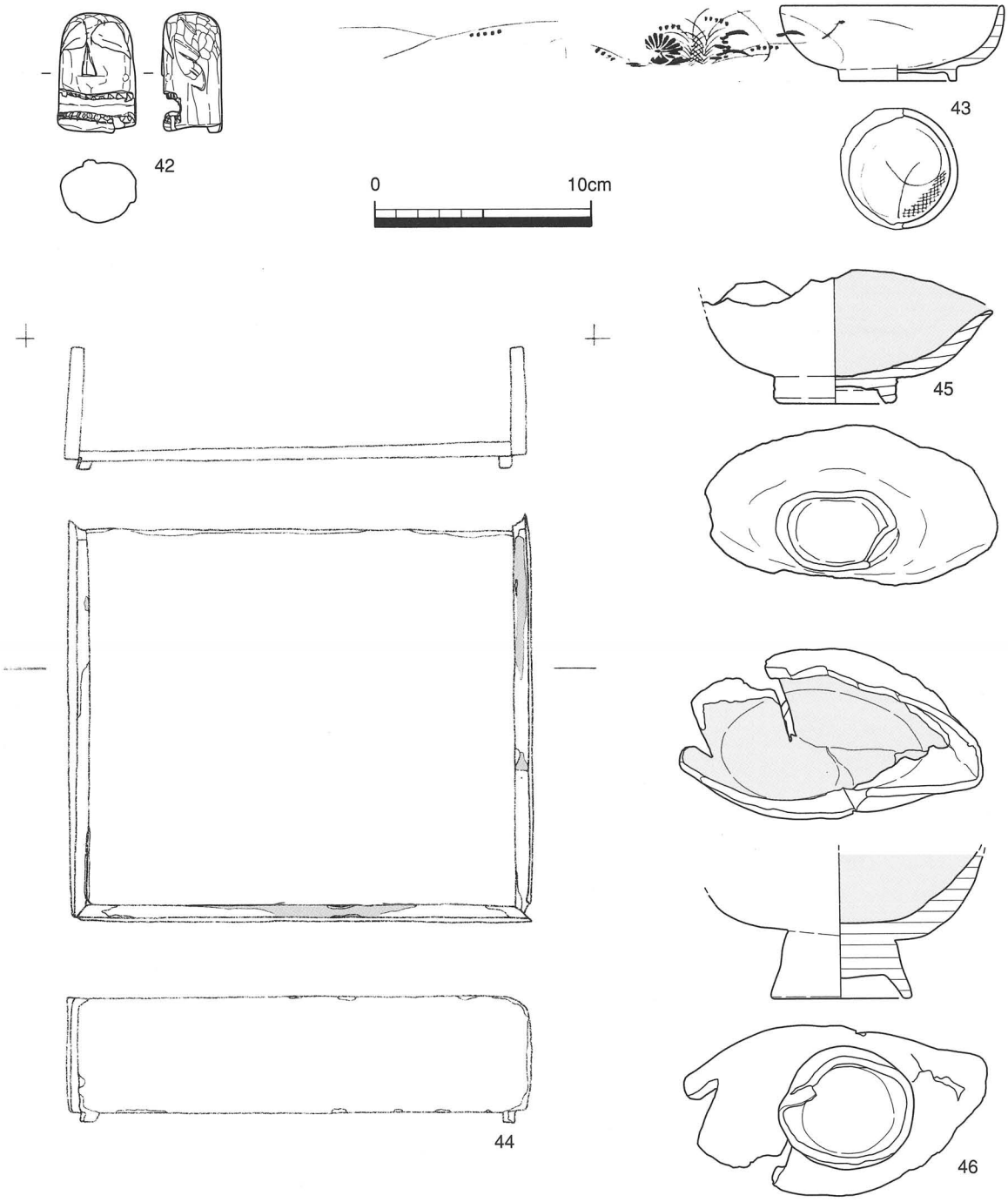
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX3004	26	磁	皿	肥前	口:13.6 高:3.3 底:6.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:灰7.5Y4/1	内面:楼閣山水	大橋Ⅱ・2期	初期伊万里 高台内に砂粒付着
SX3004	27	磁	皿	肥前	口:13.80 高:2.85 底:6.40	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	内面:楼閣山水	大橋Ⅱ・2期	高台内に砂粒含む
SX3004	28	磁	皿	肥前	口:12.1 高:3.15 底:4.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅱ期	高台畳付に砂粒付着
SX3004	29	磁	皿	肥前	口:9.05 高:1.85 底:3.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色		大橋Ⅱ期	初期伊万里 銘款有
SX3004	30	磁	皿	肥前	底:7.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:オリーブ黒10Y3/1		大橋Ⅱ期	
SX3004	31	磁	皿	肥前	底:9.3	微	にぶい黄橙10YR7/3	内外:透明釉	呉須:暗・淡青色			
SX3004	32	磁	底部	肥前	底:9.4	微	灰白色	内外:透明釉	銹絵:黒5Y2/1			

第70図　SX3004出土遺物実測図・観察表（その3）



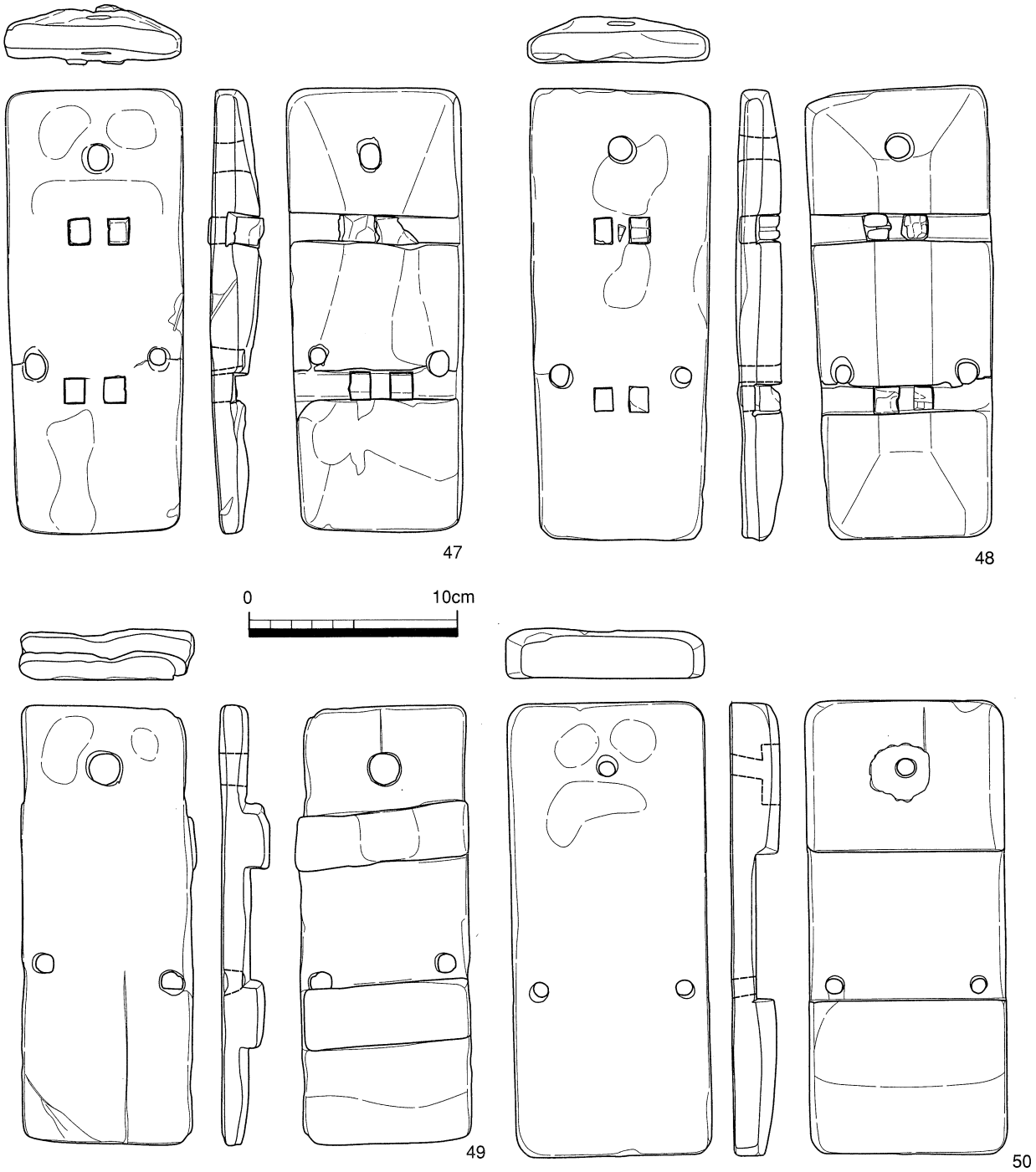
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整　製作年代	備考
SX3004	33	土師質	焼塩壷蓋		口:6.7 高:1.6	微砂粒	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2		内外:ナデ	
SX3004	34	土師質	土錘		現存長:5.4 現存幅:1.2	微砂粒	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2			
SX3004	35	土師質	皿		口:9.6 高:1.2 底:7.0	微砂粒	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	内外面に有機物付着
SX3004	36	土師質	皿		口:9.0 高:1.9 底:5.1	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	口縁部に煤付着
SX3004	37	土師質	皿		口:10.5 高:2.0 底:6.5	微砂粒	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ	口縁部に煤付着
SX3004	38	土師質	皿		口:9.8 高:1.7 底:5.9	細	灰白7.5YR8/2	浅黄橙7.5YR8/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	外面に有機物付着
SX3004	39	土師質	皿		口:11.9 高:1.9 底:8.0	微砂粒	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	
SX3004	40	土師質	皿		口:11.3 高:2.0 底:7.3	砂粒	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	墨書有
SX3004	41	瓦質	焙烙		口:26.7	0.1～1mmの砂粒含	灰黄2.5Y7/2	外面:黒10YR3/1 内面:黒10YR2/1		外面:指押さえ,ヨコナデ 内面:ヨコナデ	接合痕有り

第71図　SX3004出土遺物実測図・観察表（その4）



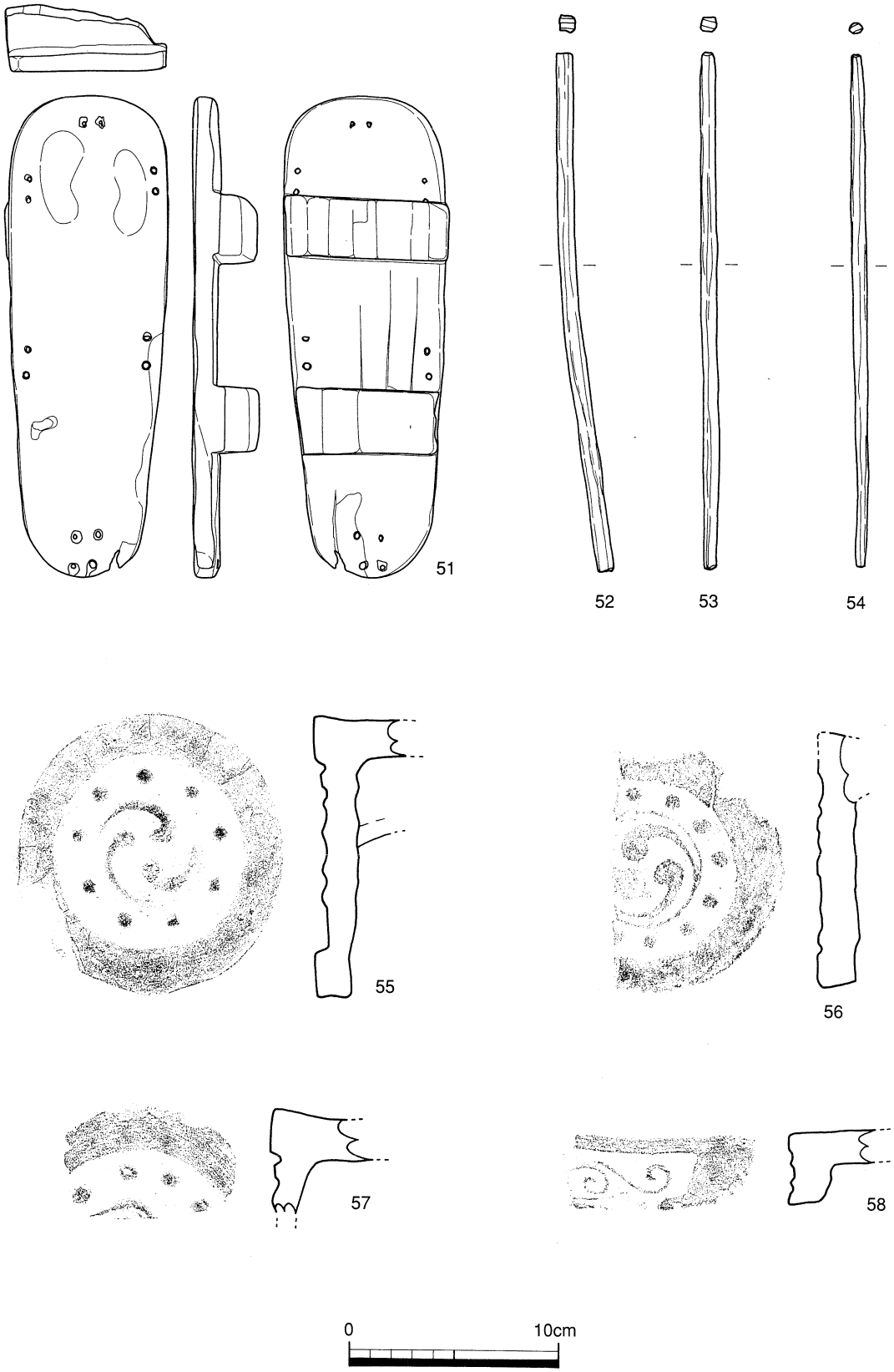
遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3004	42	人形	現存長:5.4,現存幅:3.5,現存厚:2.7						
SX3004	43	椀	底:5.50					漆器,外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆 外面:赤漆による草木文,高台内:赤漆による露すすき文,露すすき文は地方では珍しい	18
SX3004	44	膳(箱)	—	18.5	21.2	—	0.6	漆器 黒塗りで金巻蒔を施す?	17
SX3004	45	椀	高:6.0,底:5.3					漆器,全体にひずみ 外面:黒漆,内面:赤漆	29
SX3004	46	椀	底:6.00					漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	19

第72図　SX3004出土遺物実測図（その5）



遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3004	47	下駄	20.8			8.3	2.7	差歯	
SX3004	48	下駄	21.3			8.6	2.2	差歯	
SX3004	49	下駄	20.7			8.1	2.3	連歯	
SX3004	50	下駄	21.4			9.4	2.3		

第73図　SX3004出土遺物実測図・観察表（その6）

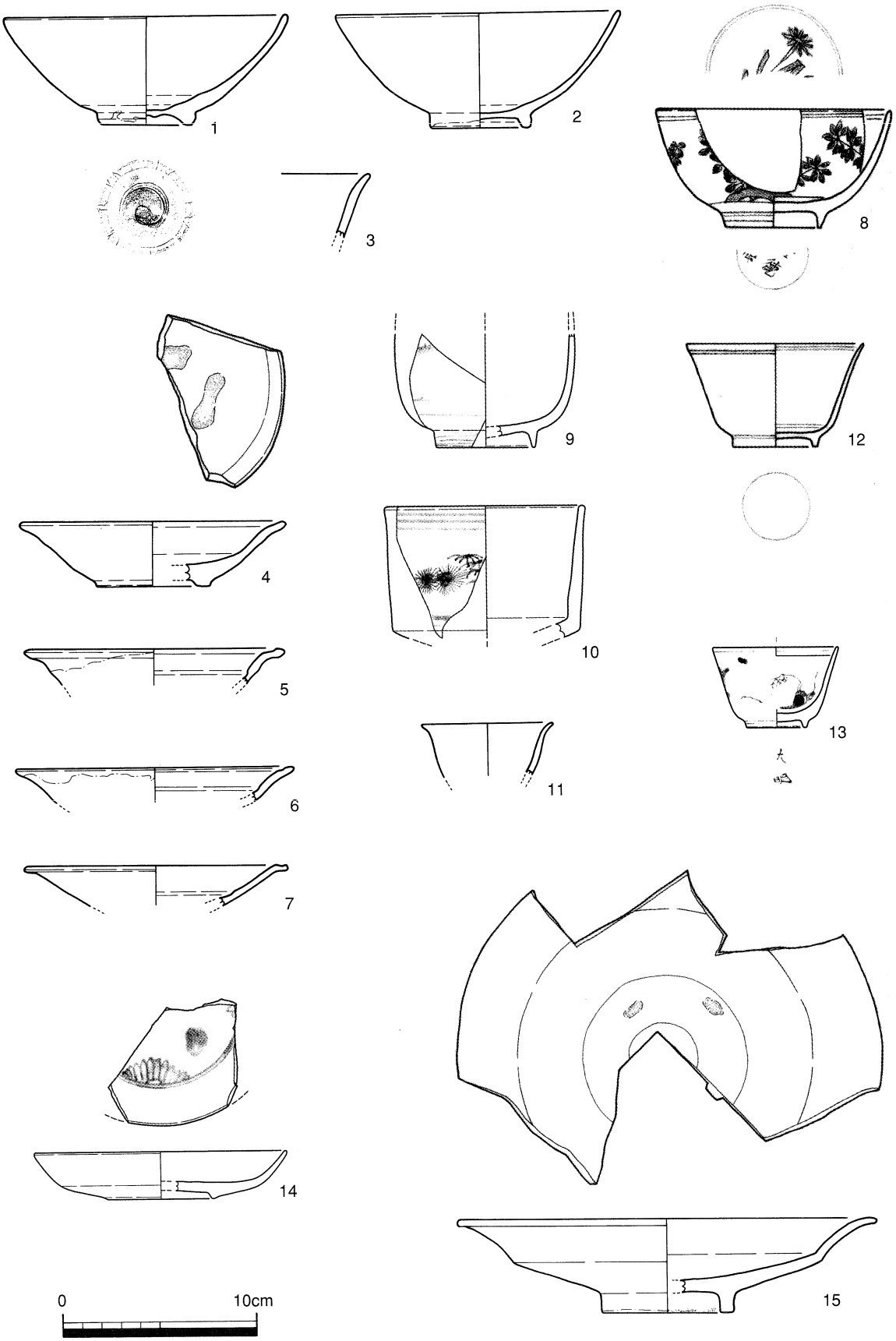


第74図　SX3004出土遺物実測図（その７）

遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3004	51	下駄	22.8			7.5	3.2		
SX3004	52	箸		24.4		0.9	0.8		
SX3004	53	箸		24.3		0.7	0.7		
SX3004	54	箸		24.1		0.7	0.5		

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX3004	55	軒丸瓦					暗灰N3/0	灰N4/0			良	
SX3004	56	軒丸瓦					灰N6/0	灰N5/0			良	
SX3004	57	軒丸瓦					灰N6/0	灰N6/0			良	
SX3004	58	軒丸瓦					灰N4/0	灰N4/0			良	

第75図　SX3004出土遺物観察表



第76図　SX3005出土遺物実測図（その１）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3005 上層	1	陶	碗	肥前	口:14.2 高:5.6 底:4.6	細	灰白10YR8/2	灰白2.5YR8/2			大橋Ⅱ期	京焼風
SX3005 上層	2	陶	碗	肥前	口:14.4 高:5.9 底:4.9	細	灰白2.5Y8/2	淡黄5Y8/3			大橋Ⅱ期	京焼風
SX3005 下層	3	陶	皿			細	灰白N7/0	白				釉、白化粧土?
SX3005 下層	4	陶	皿	肥前	口:13.1 高:3.3 底:5.9	細	橙2.5YR6/8	明赤灰5B7/1		外面:ロクロナデ	大橋Ⅱ期	内面見込みに砂目?痕跡
SX3005 下層	5	陶	皿	肥前	口:12.4	細	橙2.5YR6/8	灰白10Y7/1		外面:ロクロナデ	大橋Ⅱ期	
SX3005 下層	6	陶	皿	肥前	口:14.1	細	灰N5/0	極暗褐7.5YR2/3			大橋Ⅱ期	
SX3005 下層	7	陶	皿	肥前	口:13.3	細	灰白2.5GY8/1	灰白10Y7/2 透明釉			大橋Ⅱ期	
SX3005	8	磁	碗	肥前	口:11.8 高:6.0 底:4.8	微	灰白	内外:透明釉	呉須:明・淡青色			底部に銘款あり
SX3005	9	磁	碗	肥前	底:4.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色		大橋Ⅲ期	
SX3005 下層	10	磁	碗	肥前	口:10.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色		大橋Ⅱ-2期	筒形椀
SX3005 下層	11	磁	小坏	肥前	口:6.6	細	灰白N8/0	白色			大橋Ⅲ期	
SX3005	12	磁	小坏	肥前	口:9.0 底:4.2	微	灰白	内外:透明釉	呉須:暗青色			被熱
SX3005	13	磁	小坏	肥前	口:6.3 高:4.1 底:2.95	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅲ期	
SX3005 下層	14	磁	皿	肥前	口:12.85 高:2.4 底:5.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅱ期	高台畳付と内側に砂粒付着
SX3005	15	磁	皿	肥前	口:21.4 底:6.8	微	灰白	内外:明緑灰10GY7/1				高台内に砂粒付着 蛇の目釉剥ぎ 見込みに砂目痕

第77図　SX3005出土遺物観察表

SX3005出土遺物（第76～83図）

1・2は，肥前系陶器京焼風碗である。4～7は，口縁部溝縁状の肥前系陶器皿である。鉄釉，灰釉を用いている。

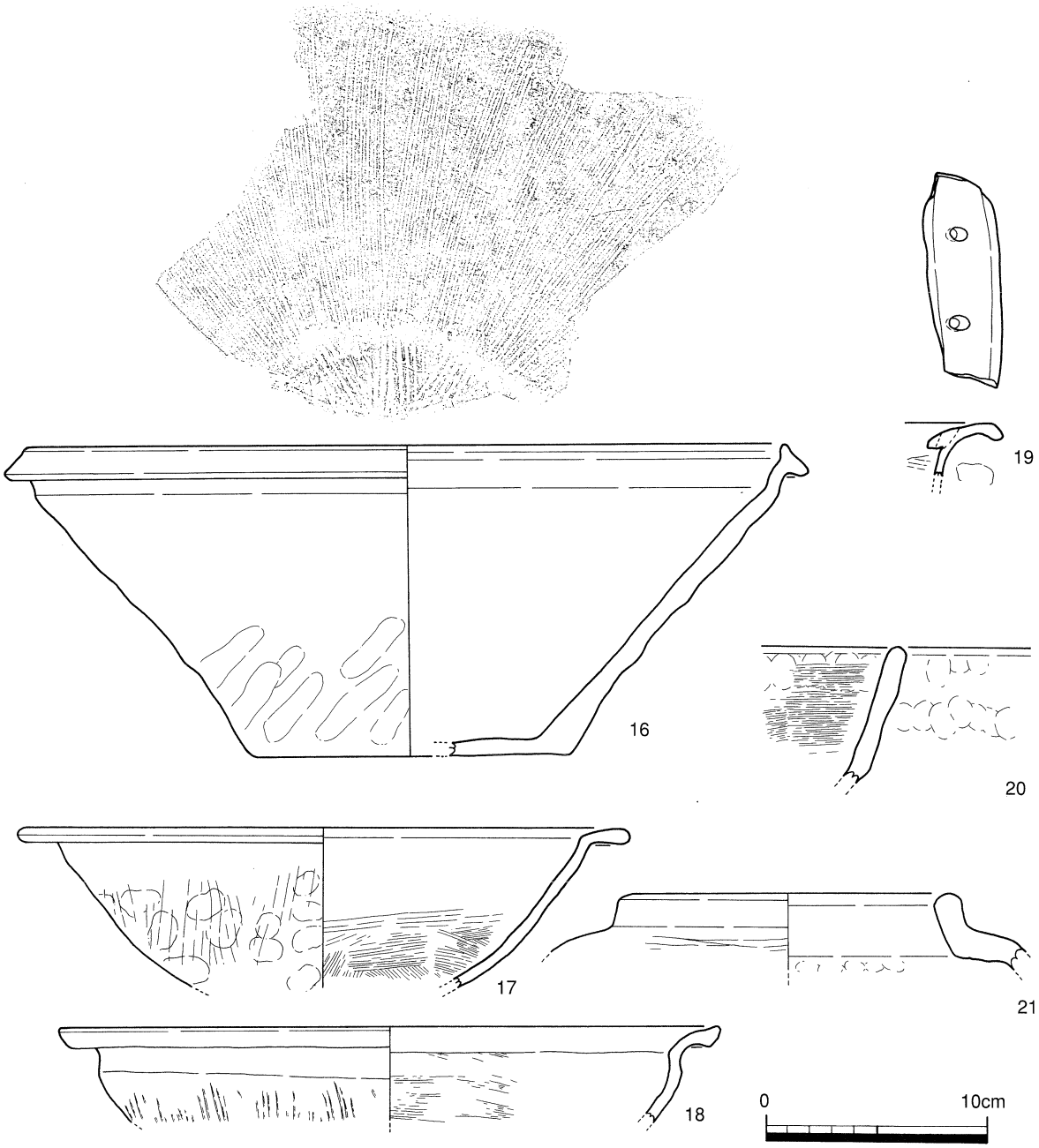
8～10は，肥前系磁器碗である。8の大振りの碗は，SX3006と接合資料が認められる。9は体部が口縁部へと直立し伸びる形態である。10は筒形のものである。11～13は肥前系磁器小坏である。11は端反口縁となる白磁である。12は口縁部及び高台脇，見込に二重圏線が認められる。SX3006との接合資料である。14は肥前系磁器皿である。高台内砂粒付着が認められる。15は肥前青磁皿である。大皿で見込に蛇の目釉剥ぎを施し，釉剥ぎ部と高台内に砂粒の付着が認められる。SX3006との接合資料である。

16は丹波擂鉢である。櫛描6本の擂目を有し，外面の体部下半には特徴的な斜め方向の指押さえが認められる。口縁端部は上下に拡張し，断面が三角形となっている。

17～19は，瓦質土器鍋（焙烙）である。17・18は外面に粗いハケメが認められ，亀山系と考えられる。19は器壁の薄い焙烙タイプで，佐藤編年の様相3～4の所産に考えられる。20は小片だが，瓦質土器鍋の口縁部と考えられる。21は瓦質土器茶釜の口縁部である。

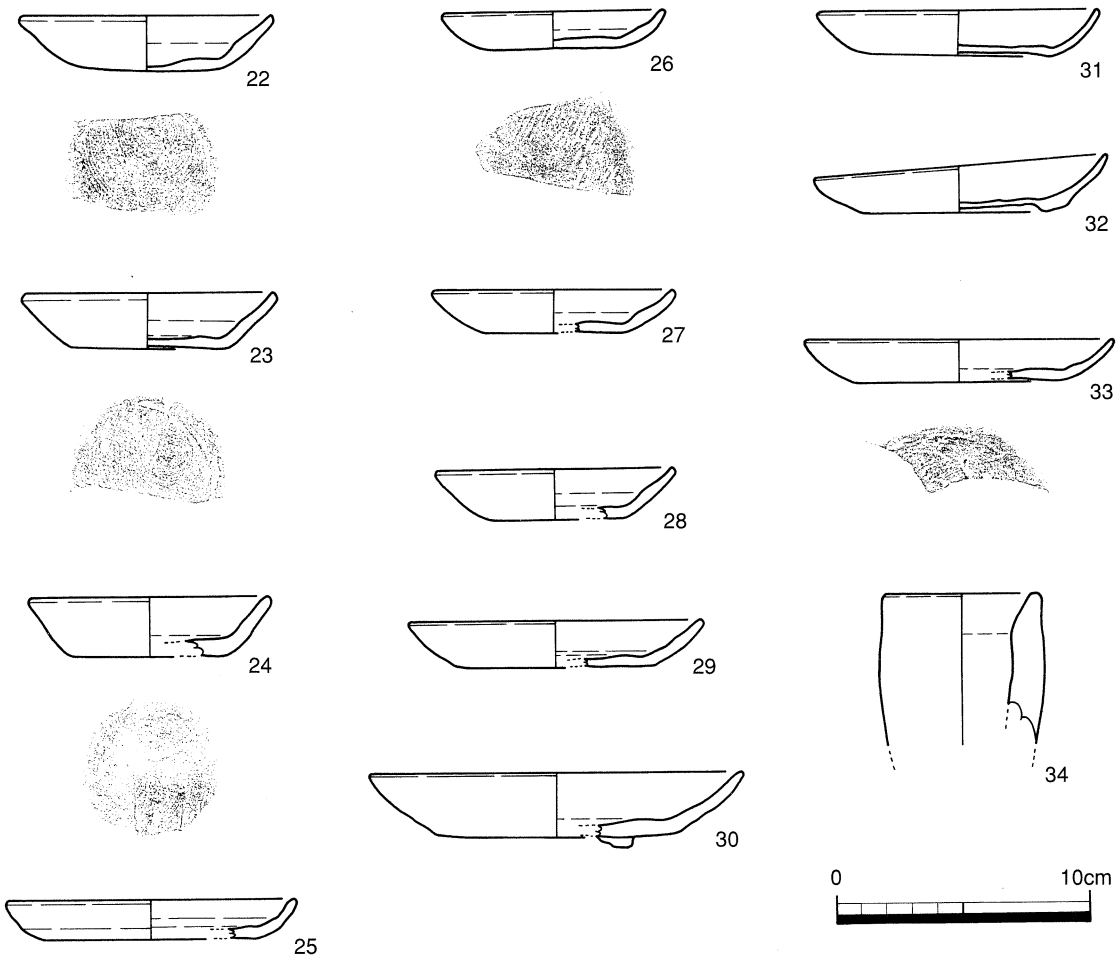
22～33は土師質土器皿である。すべて底部回転糸切りで，橙色系（22・24・26～28）と白色系（25・29～33）が存在し，形態から佐藤編年の様相4と考えられる。34は焼塩壺である。輪積み成形で，口縁部外面の押圧は弱い。

35～39は漆器である。36は内外面が赤塗の杯である。37の椀は丸みを帯びた器形で，高台は高くハの字に開き気味である。



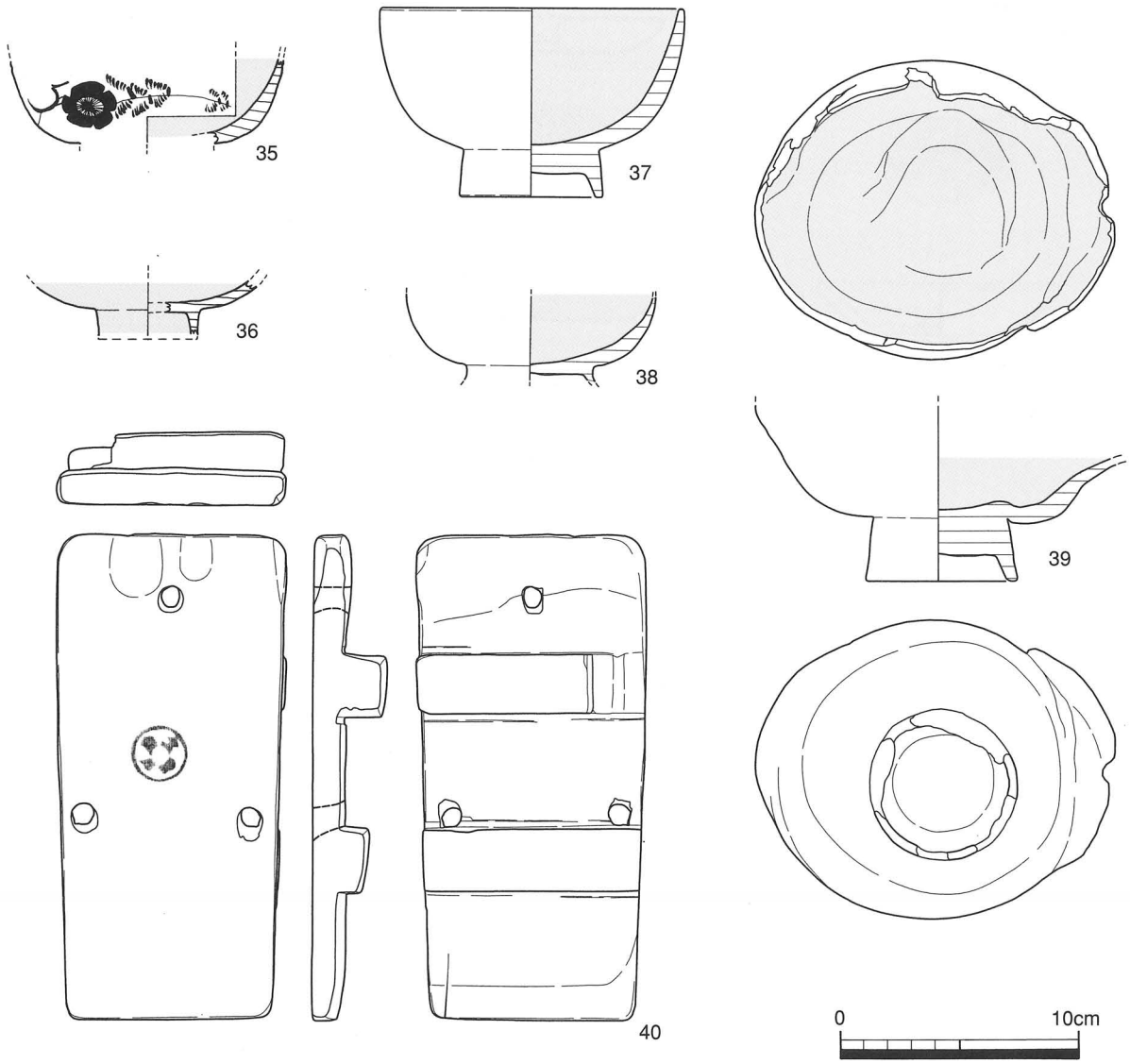
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3005	16	陶	擂鉢	丹波	口:34.1 高:13.9 底:14.4	2～3mmの砂粒		にぶい黄褐10YR5/3				内面に2次焼成の痕跡
SX3005 下層	17	土師質	焙烙		口:26.7	微砂粒	黒N2/0	灰黄褐10YR6/2		口縁部:ロクロナデ 外面体部:ハケメ,指押さえ 内面体部:板ナデ,ハケメ		
SX3005 上層	18	瓦質	鍋		口:29.8	細	にぶい黄橙10YR7/2	内外:黒2.5Y2/1		外面:指押さえ,ハケメ		
SX3005	19	土師質	焙烙			微砂粒	灰褐7.5YR4/2	灰黄褐10YR6/2		内外:ロクロナデ 外底:指押さえ		
SX3005	20	瓦質	鍋			0.1～2mmの砂粒含	灰白10YR8/2	外面:黒10YR1.7/1 内面:にぶい橙7.5YR7/3		内外:ヨコナデ,指押さえ		外面に煤付着
SX3005	21	瓦質	鍋		口:14.3	細	灰白5Y7/1	外面:暗灰N3/0 内面:灰N4/0		外面口縁部:ヨコナデ 外面体部:板ナデ 内面:ヨコナデ,指押さえ		

第78図　SX3005出土遺物実測図・観察表（その2）



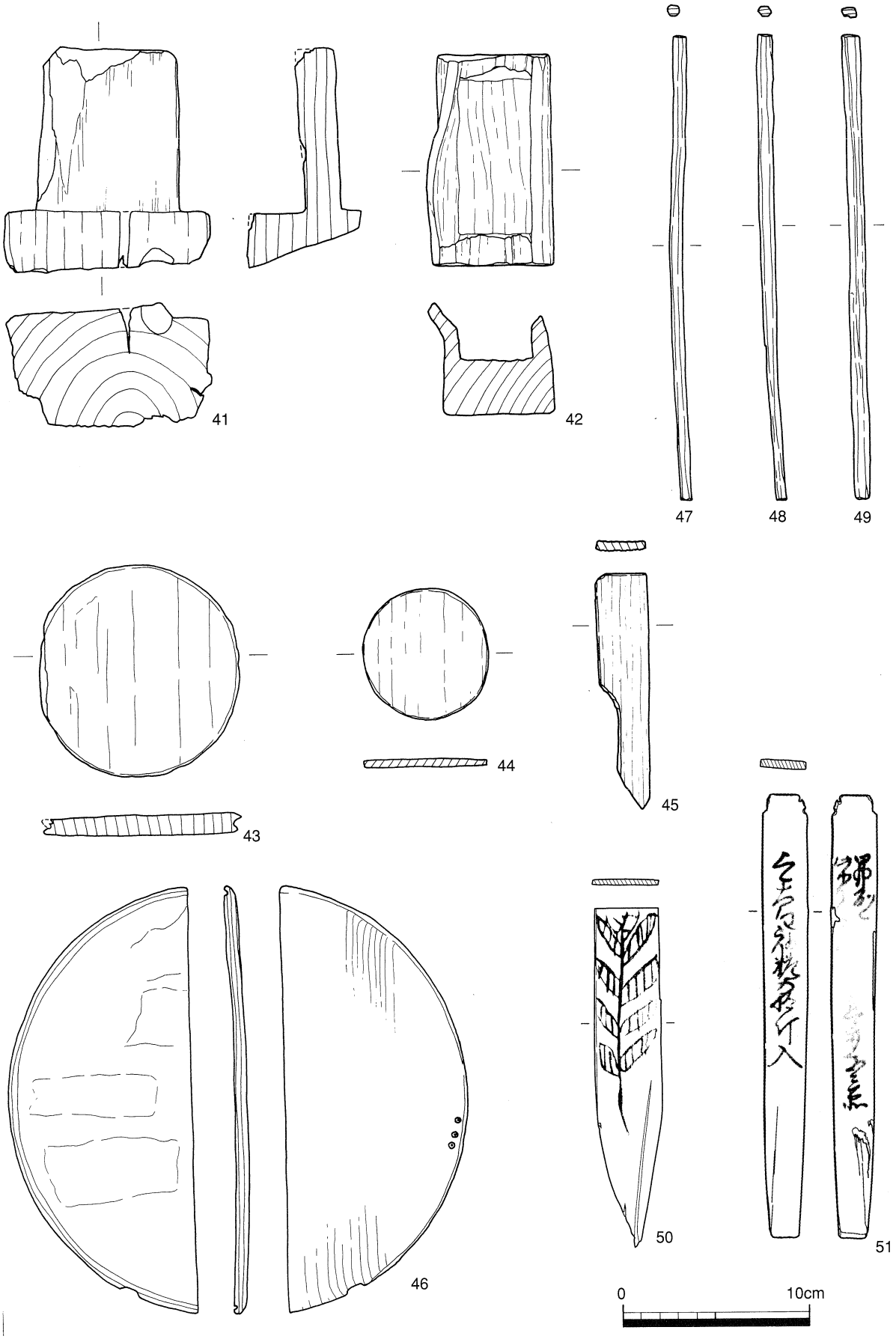
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整　製作年代	備考
SX3005 下層	22	土師質	皿		口:9.8 高:2.2 底:5.6	微砂粒	橙2.5YR7/6	橙2.5YR7/6		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	
SX3005 下層	23	土師質	皿		口:9.7 高:2.3 底:6.3	細		外面:にぶい赤橙10R6/4 内面:灰白10YR7/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	ひずみ大
SX3005	24	土師質	皿		口:9.2 高:2.4 底:6.0	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	
SX3005 上層	25	土師質	皿		口:11.2 高:1.5 底:8.2	細	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ	口縁部内外に煤付着
SX3005 下層	26	土師質	皿		口:8.6 高:1.5 底:7.6	微砂粒	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り,板状痕	口縁内外に煤付着
SX3005 上層	27	土師質	皿		口:9.2 高:1.7 底:5.4	微砂粒	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	口縁部内外に煤付着
SX3005	28	土師質	皿		口:9.2 高:2.0 底:5.2	微砂粒	灰白10YR8/2	にぶい橙7.5YR7/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	
SX3005 下層	29	土師質	皿		口:11.4 高:1.8 底:8.0	細	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り	
SX3005 下層	30	土師質	皿		口:14.6 高:2.6 底:9.4	微砂粒		外面:灰N7/0 内面:灰白2.5Y8/0		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ	外面底部に粘土塊付着
SX3005 上層	31	土師質	皿		口:10.6 高:1.9 底:7.0	細	灰白10YR7/1	灰白10YR7/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り,板状痕	口縁内外に2次焼成の痕跡
SX3005 上層	32	土師質	皿		口:11.3 高:2.2 底:8.0	微砂粒	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り,板状痕	口縁内外に2次焼成の痕跡
SX3005 下層	33	土師質	皿		口:12.0 高:1.7 底:8.2	微砂粒	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ	口縁部に煤付着
SX3005 下層	34	土師質	焼塩壷		口:5.8	2mm程度の石英		外面:浅黄橙7.5YR8/6 内面:にぶい赤橙10R6/4		内面口縁部・外面:ロクロナデ 内面:板ナデ	

第79図　SX3005出土遺物実測図・観察表（その3）

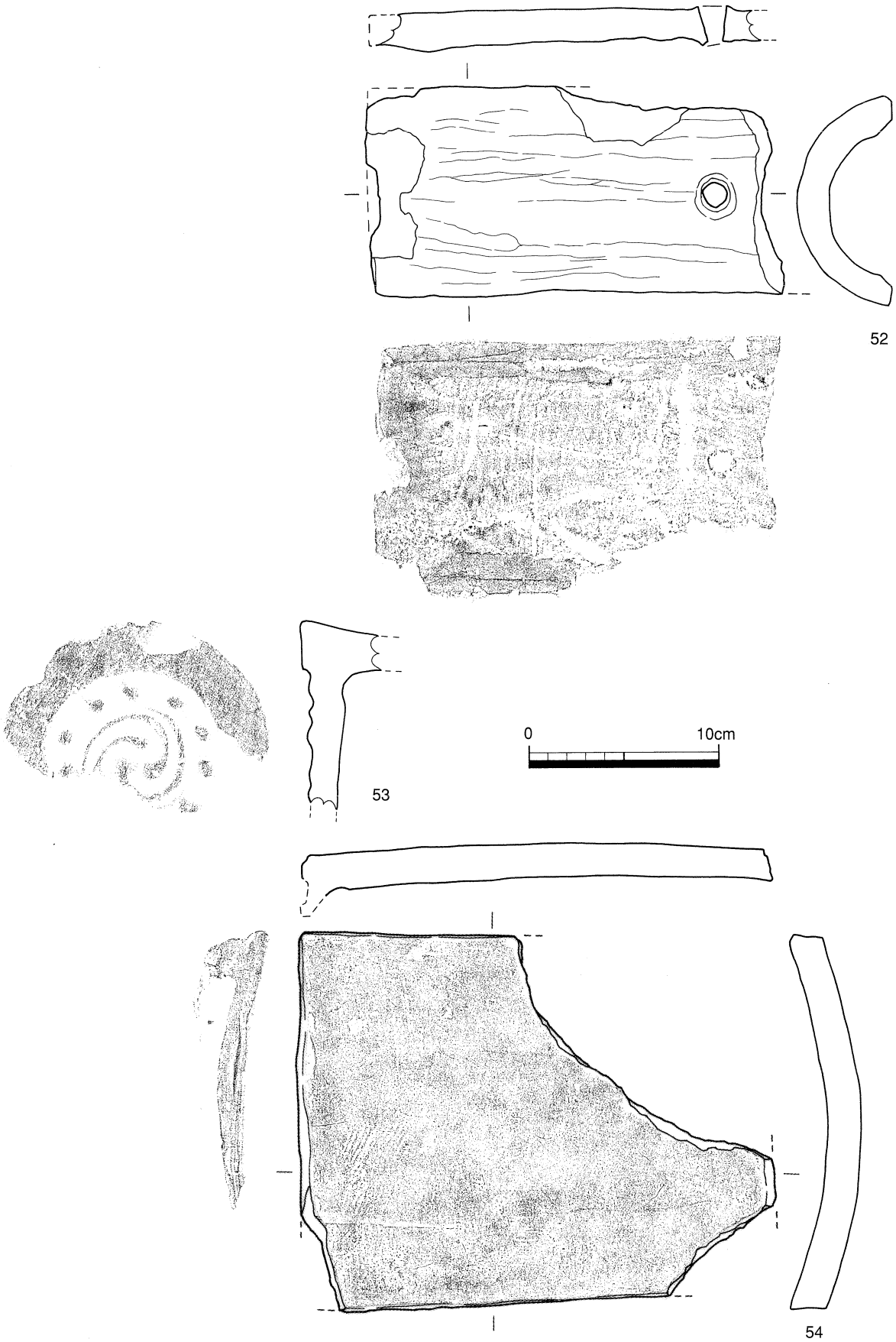


遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3005	35	椀						漆器 外面:黒漆・赤漆による草花の加飾,内面:黒漆→赤漆	24
SX3005	36	椀						漆器 内外:黒漆→赤漆	
SX3005	37	椀	口:12.50,底:6.00					漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	20
SX3005	38	椀						漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	22
SX3005	39	椀						漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	21
SX3005	40	下駄	20.3			9.6	3.0	連歯 寛永通宝が密着していた痕跡	

第80図　SX3005出土遺物実測図・観察表（その４）



第81図　SX3005出土遺物実測図（その５）



第82図　SX3005出土遺物実測図（その６）

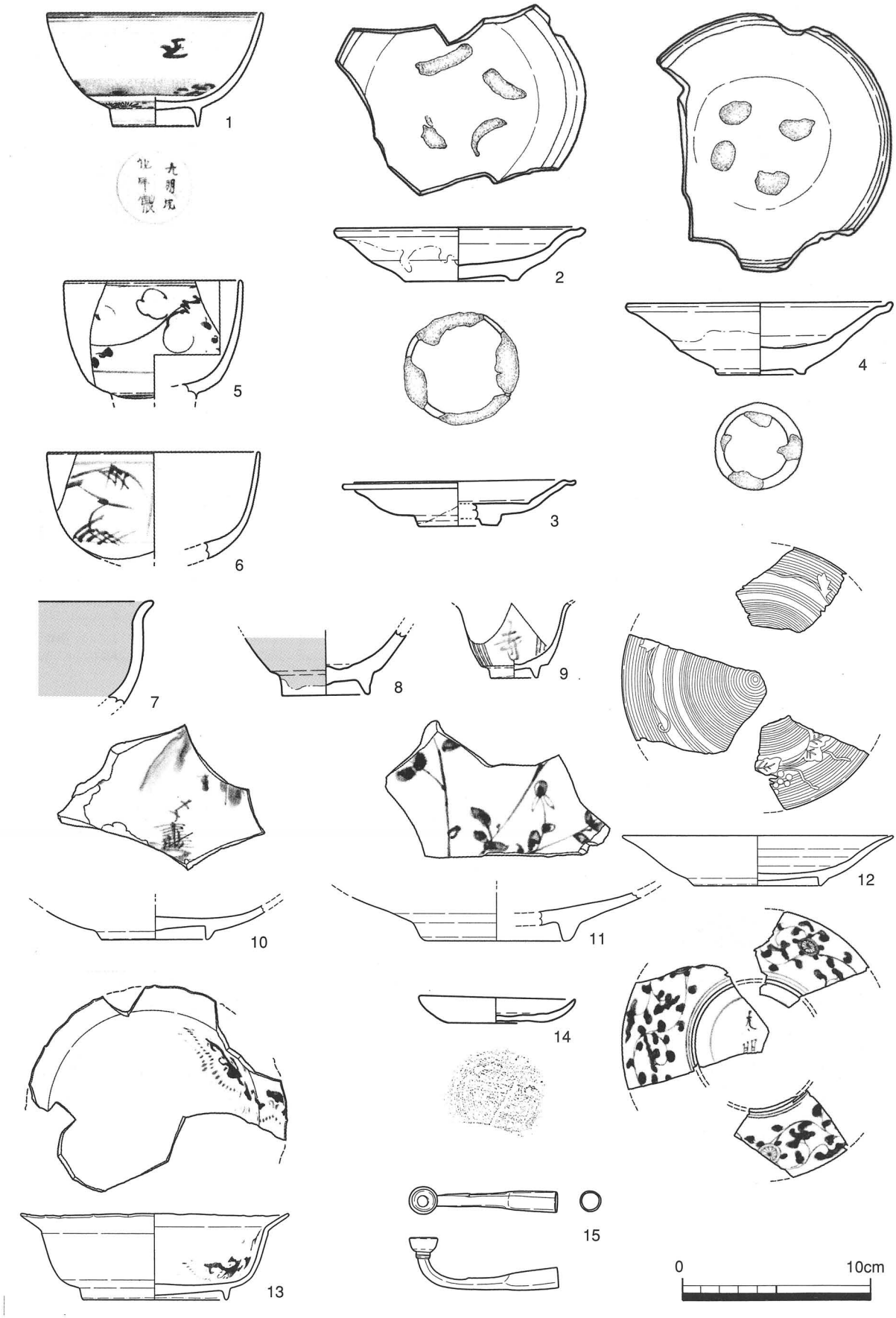
遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3005	41	木製品		11.5		10.9	2.1		
SX3005	42	木製品		11.1		6.7	5.9		
SX3005	43	木製品		11.2		10.6	1.1		
SX3005	44	木製品		7.0		6.7	0.4	内外:黒漆	
SX3005	45	木製品		12.3		2.8	0.5		
SX3005	46	木製品		22.5		9.8	7.5	内外:黒漆	
SX3005	47	箸		24.3		0.7	0.8		
SX3005	48	箸		24.4		0.8	0.6		
SX3005	49	箸		24.3		0.9	0.5		
SX3005	50	木簡	最大長:17.9, 最大幅:3.6, 最大厚:0.3					草木文	
SX3005	51	木簡	最大長:23.5, 最大幅:2.35, 最大厚:0.45						

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX3005	52	丸瓦	21.4	1.8	10.8	砂礫	灰白2.5Y7/1	暗灰N3/0	布目 コビキB	板ナデ	良	被熱
SX3005	53	軒丸瓦	4.2	1.8	―	砂礫	灰N6/0	灰N4/0			良	巴
SX3005	54	軒平瓦	24.7	1.9	19.8	砂礫	黄灰2.5Y6/1	灰N4/0	―	―	良	被熱

第83図　SX3005出土遺物観察表

40は連歯下駄である。台の中央部に銭貨（寛永通宝？）の密着痕が認められる。41～51は木製品である。43・44・46は円形の蓋（底板）類。44・46が黒漆塗されている。47～49は白木箸である。

50・51は木簡である。50は片面に植物が描かれる。51は両面に墨書があり，「冨岡［門］柴野［　］様　上原正兵衛」，「上天白砂糖五拾斤入」と読める。宛名で富岡と呼ばれた人物は，『高松藩士由緒録』によると富岡与左衛門に該当する。元祖与左衛門は，万治（1658～61年）の頃，彦坂織部の与力となったとされ，子の与左衛門も1688年まで在職する。当地が松平大膳家上屋敷（創始頼芳。1688年）となる以前，彦坂織部邸であったことは文献資料等から間接的に推定されていたが，当資料により決定付けられた。



第84図　SX3006出土遺物実測図（その１）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3006	1	陶	碗	肥前	口:11.35 高:6.0 底:4.5	細	灰白7.5YR8/1	内外:透明釉	呉須:暗、明青色		大橋 Ⅲ・Ⅳ期	陶胎染付
SX3006	2	陶	皿	肥前	口:12.8 高:2.9 底:6.0	細	灰N5/0	暗褐7.5YR3/4			大橋Ⅱ期	内面見込みと高台部に砂目4ヶ所
SX3006	3	陶	皿	肥前	口:12.2 高:2.4 底:4.1	細	灰白N8/0	灰白2.5GY8/1		外面下半:ケズリ、 外面上半:ナデ 外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	
SX3006	4	陶	皿	肥前	口:13.8 高:4.8 底:4.7	細	灰7.5Y6/1	オリーブ灰2.5GY6/1			大橋Ⅱ期	内面見込みと高台内側に砂目4ヶ所
SX3006	5	磁	碗	肥前	口:9.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色		大橋Ⅲ期	
SX3006	6	磁	碗	肥前	口:11.15	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅲ期	
SX3006	7	磁	鉢	肥前		細	灰白10Y8/1	暗オリーブ7.5Y4/3				青磁、漆による焼継の痕跡
SX3006	8	磁	火入れ?	肥前	底:4.6	細	灰白N7/0	オリーブ灰2.5GY5/1			1640～50年代	青磁、内面と高台内は無釉
SX3006	9	磁	小杯	肥前	底:2.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色		1640～50年代	高台内無釉
SX3006	10	磁	皿	肥前	底:5.55	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:オリーブ5Y4/2	内面:楼閣山水	大橋Ⅱ期	初期伊万里、高台畳付に砂粒付着
SX3006	11	磁	皿底部	肥前	底:7.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色		大橋Ⅲ期	高台畳付に砂粒付着
SX3006	12	磁	皿	中国	口:14.2 高:2.7 底:6.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色	内面:同心円状沈線、陽刻		「太明」銘款
SX3006	13	磁	鉢	肥前		微	灰白色	内外:透明釉	上絵:赤・緑・黒・金		大橋Ⅲ期	色絵
SX3006	14	土師質	皿		口:6.1 高:1.4 底:5.2	細	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁部に煤(被熱)付着
SX3006	15	金属	煙管		最大長:7.9 最大幅:1.0 最大厚:0.1							

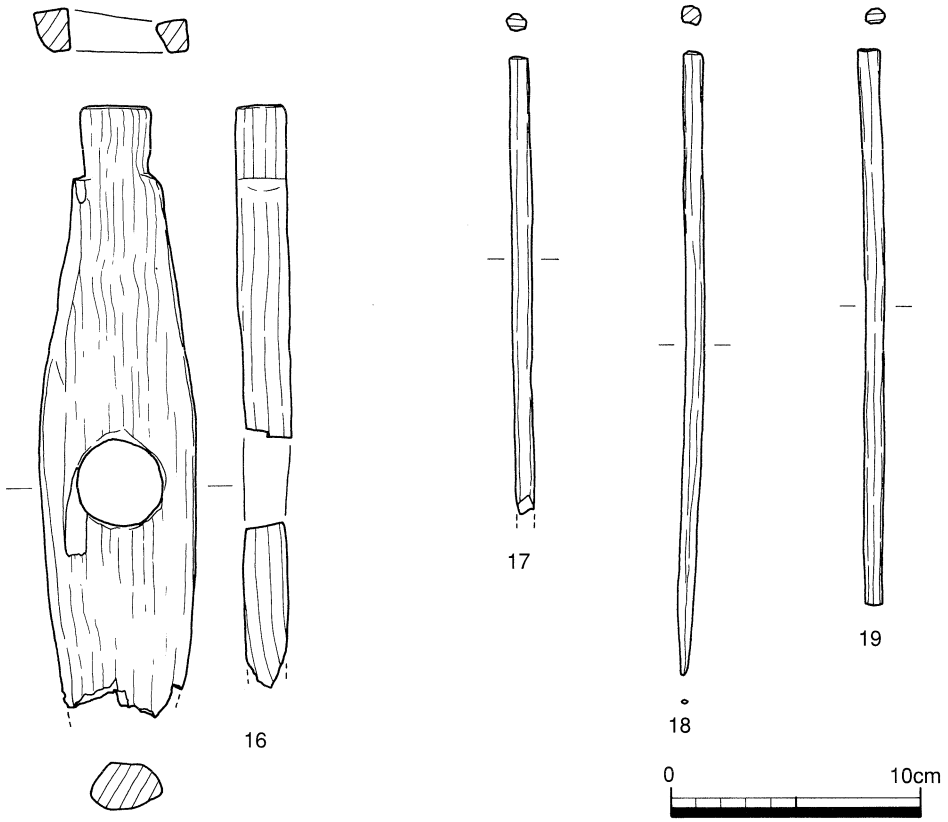
第85図　SX3006出土遺物観察表

SX3006出土遺物（第84・85図）

1は肥前産の碗である。胎土は粗製若しくは陶胎状に認められる。器壁は薄く，高台は高くシャープである。2～4は肥前系陶器皿である。口縁部が溝縁状の皿で鉄釉もしくは灰釉が施される。2・4の見込み及び畳付には，砂粒の付着が認められる。

5～11は肥前系磁器である。5・6は碗である。7は鉢の口縁部と考えられる。8は外面には青磁釉を施し，内面は無釉である。火入または香炉の類と考えられる。9は端反の小坏で，外面に「寿」と鎬があり，高台は無釉である。10～13は皿である。10の畳付には，砂粒が付着する。初期伊万里と考えられる。12は外面に唐草文，内面には同心円状の沈線と陽刻（葡萄？）が認められる。小片ではあるが，SK3021の出土品に同一個体或いは同形品がみられ，両遺構の共時性がうかがわれる。13は器壁が薄手の色絵鉢である。素地は乳白色を呈し，内面には剥落痕も多いが，赤及び緑色が認められる。

14は土師質土器皿である。底部回転糸切りのもので，胎土は白色系である。15は煙管雁首である。16～19は木製品である。17～19は白木箸である。



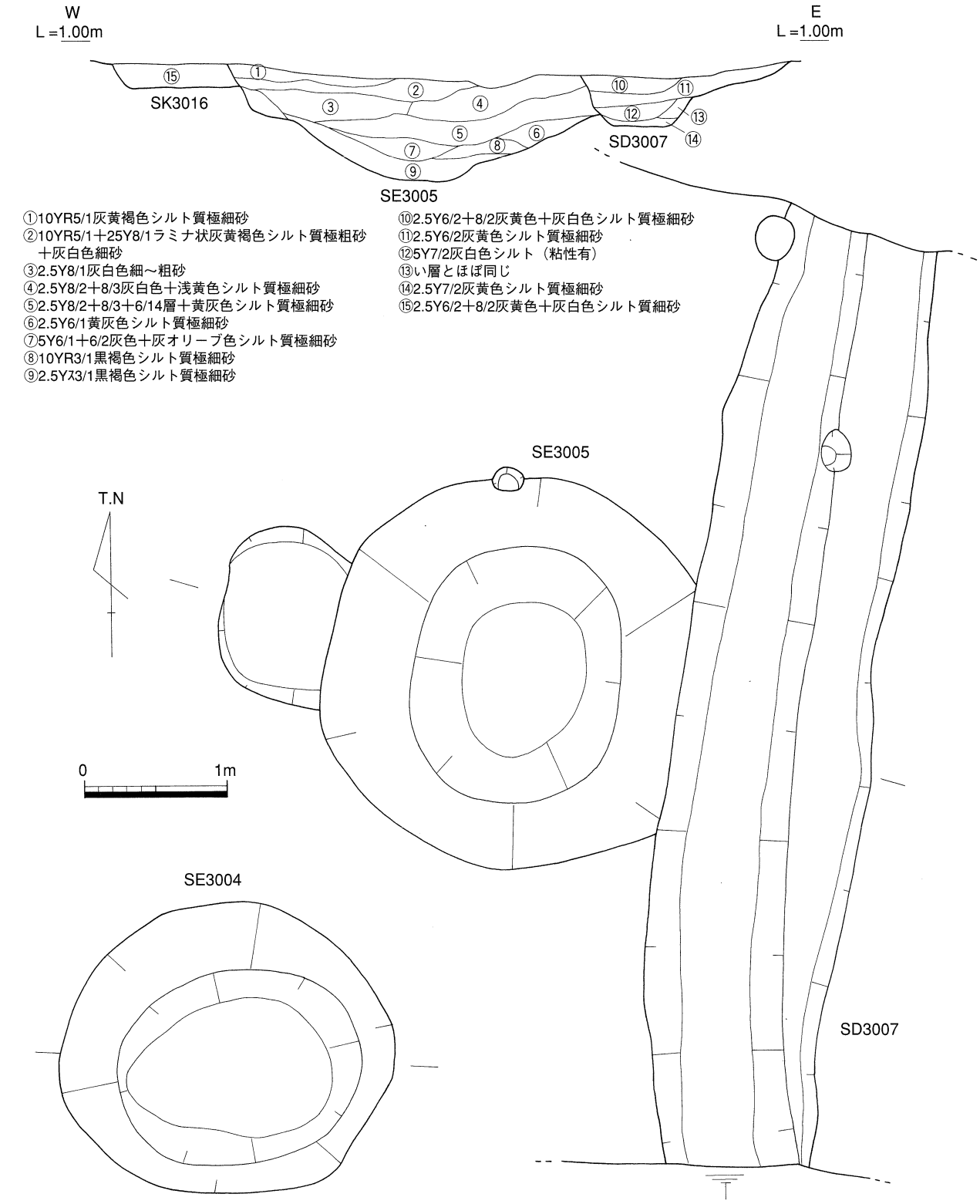
遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3006	16	木製品		24.1		6.3	2.1		
SX3006	17	箸		18.0		0.6	0.6		
SX3006	18	箸		24.5		0.7	0.7		
SX3006	19	箸		21.8		0.7	0.6		

第86図　SX3006出土遺物実測図・観察表（その２）

SE3004（第87図）

Ｃ区の南西隅，第３面で確認した井戸状の遺構である。上位は中世末葉の整地層（第300図）により被覆されており，その直下で検出した。検出した標高は0.91～1.02m，底面の標高は－0.14m前後を測り，底面付近で湧水が認められた。検出長は東西に約2.3m，南北に約２mを測る。平面の形状は楕円状であるが，南半が撹乱の下面で検出されたため扁平となったもので，本来は円形と考えられる。断面の形状は，底面が平坦で，遺存の良い西及び北壁では中位で屈曲し上方部に緩やかな傾斜が認められる。

埋土は細分できるが，基本的には黒褐色土が下層に堆積し，上層部は埋め戻し土と考えられる堆積物で充填される。上層部には人頭大の石材が混じっており，本来上位は石積みされていた可能性が考えられる。また上層部の埋土は，基本的には上位で堆積する遺物包含層（16世紀末葉）と類似した堆積物であることから，廃絶後にある程度の整地がなされたものと推察される。所属時期は16世紀末葉までとなり，一部出土遺物に古相のものも認められることから中世以来の所産と考えられる。



第87図　SX3004・3005・SD3007平面・土層図

SE 3004出土遺物（第88図）

遺物は，コンテナ1/4程度出土した。出土遺物は，備前及び在地産土師質土器の鉢や鍋の類で占められる。

2は備前擂鉢である。板状の薄く細長い口縁部である。3・7は，土師質土器擂鉢である。4は把手付鍋である。口縁部を強くナデ，内側へと突出させる。内面にハケメ調整が認められる。5の土師質土器鍋は，短い頸部が認められ，その内面に斜め方向のハケメ調整を施す。中世段階の脚付鍋と考えられる。6は瓦質土器鍋である。口縁端部は断面三角で，端面は強くナデられ凹状となっている。粗いハケメ調整が認められる。

SE 3005（第87図）

C区の南西隅，第3面で確認した井戸状の遺構である。上位は中世末葉の整地層（第300図）により被覆されており，その下面で検出した。検出した標高は0.75～0.88m，底面の標高は－0.13m前後を測り，底面付近で湧水が認められた。検出長は東西に約2.5m，南北に約2.7mで，平面の形状は円形状である。断面の形状は，底面がやや窪み器壁の傾斜は強くないが中位では屈曲が認められる。

埋土は細分できるが，基本的には黒褐色土が下層に堆積し，上層部は埋め戻し土と考えられる堆積物で充填される。上層部の埋土は基本的に上位で堆積する遺物包含層（16世紀末葉）と類似した堆積物であることから，廃絶後にある程度の整地がなされたものと推察される。所属時期は16世紀末葉までであり，一部出土遺物に古相のものも認められることから中世以来の所産と考えられる。

SE 3005出土遺物（第89～91図）

遺物は，コンテナ1/2程度出土した。出土遺物を概観すると瀬戸・美濃系陶器，備前，在地産土師質土器が認められる他，漆器が出土している。唐津製品が認められず，16世紀末葉までの所属が考えられる。

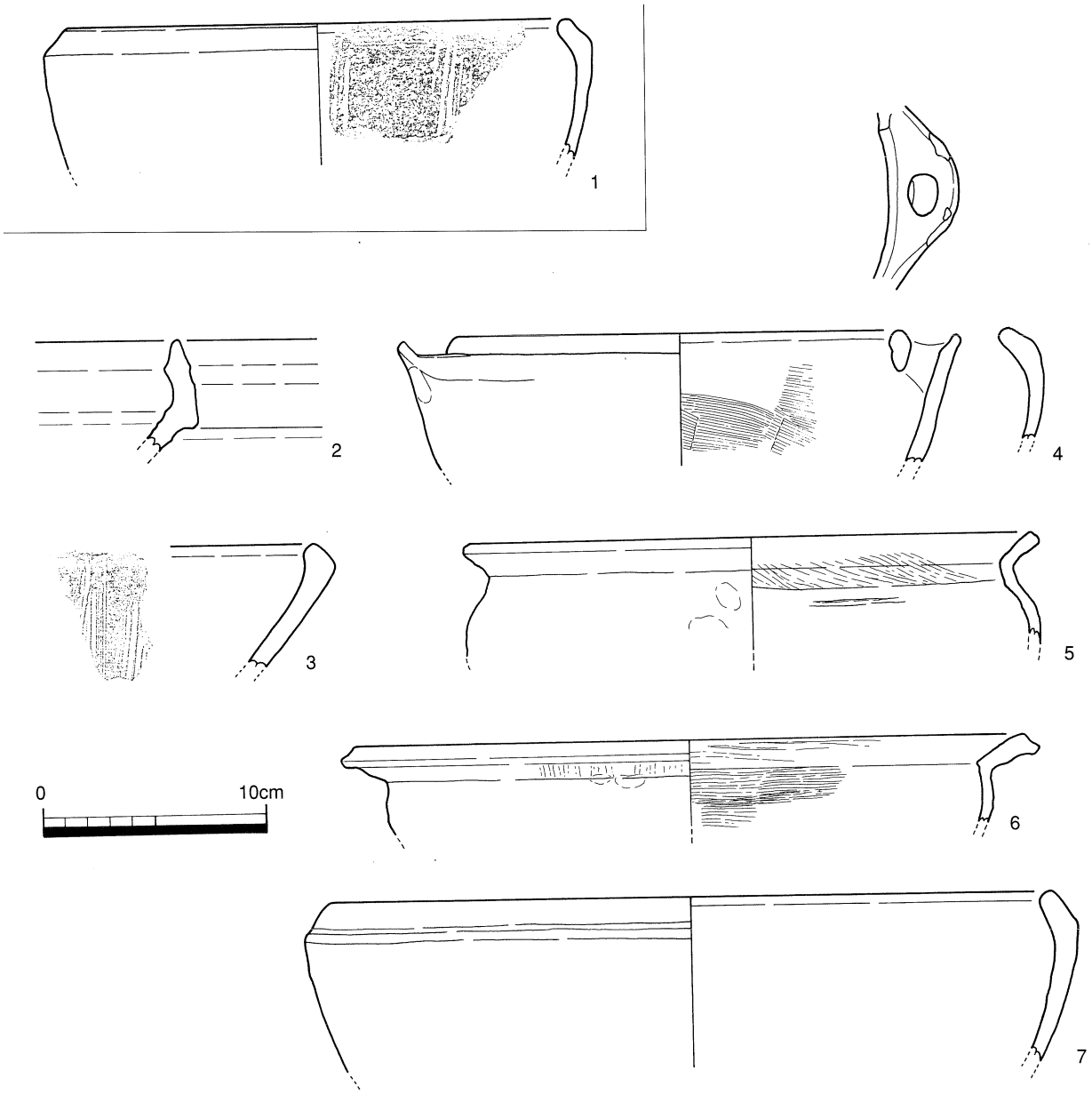
1・2は瀬戸・美濃系陶器皿である。3～6は，備前擂鉢である。3の（擂）鉢は，板状の口縁部を有する古相の形態で，小径に復元される。7～15は土師質土器である。7は皿である。8・9・12・13は，擂鉢である。11は把手付鍋である。10の羽釜は古相の形態を示し，14～15世紀代の所属時期が考えられる。14・15は鍋類の脚部と考えられる。16・17は有溝の土錘である。18は漆器椀である。外黒，内赤塗で仕上げられる。高台部はハの字に開き，内側の抉りは浅い。体部下半は丸みを帯び，口縁部へと直線的に伸びる。

SP 3162（第6図）

第3面C区西部，SE3005の北西部で確認したピットである。検出した標高は0.85m前後，底面の標高は0.68m前後を測る。径約2mの円形状に検出された。

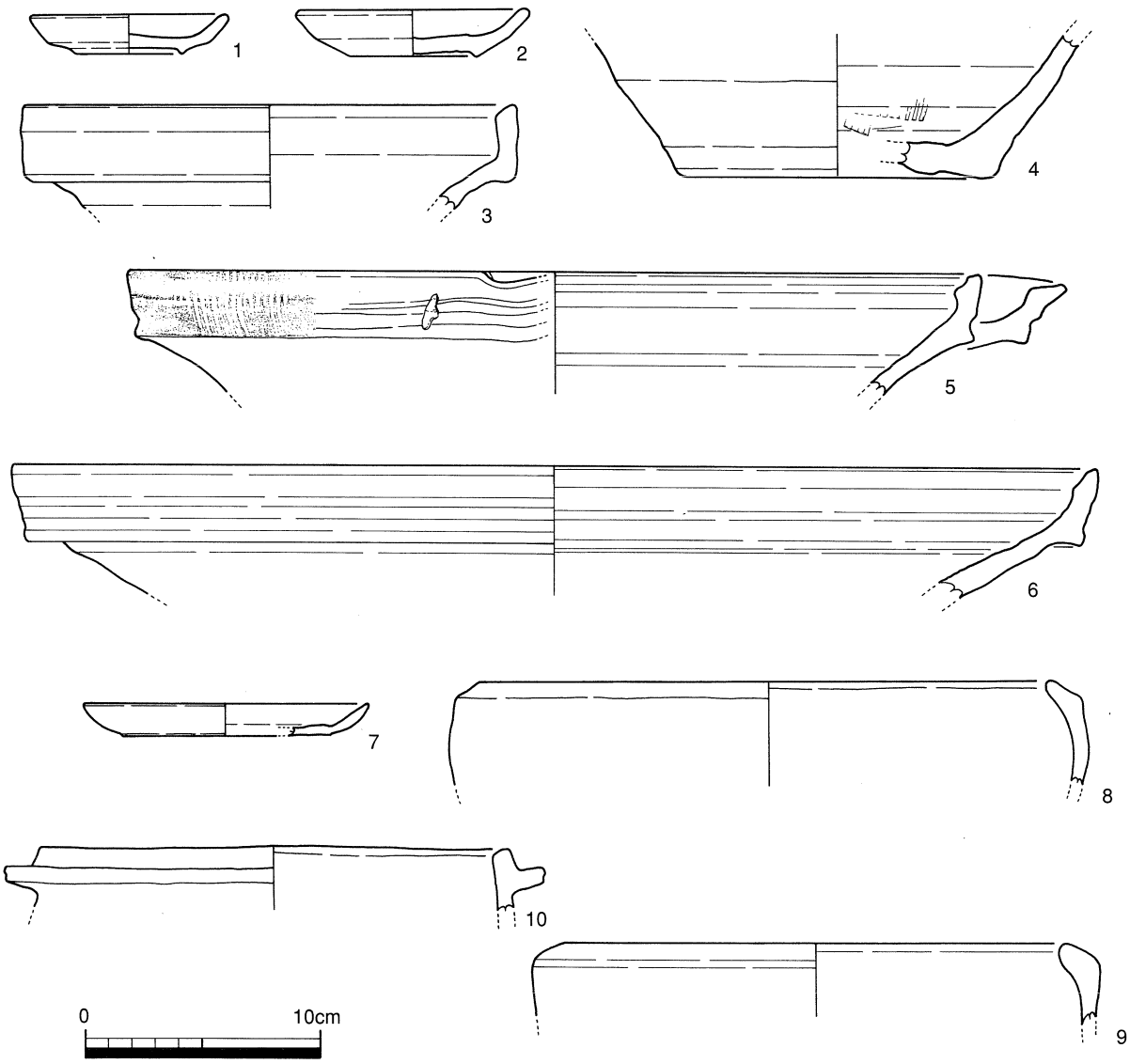
SP 3162出土遺物（第88図）

1は土師質土器擂鉢である。



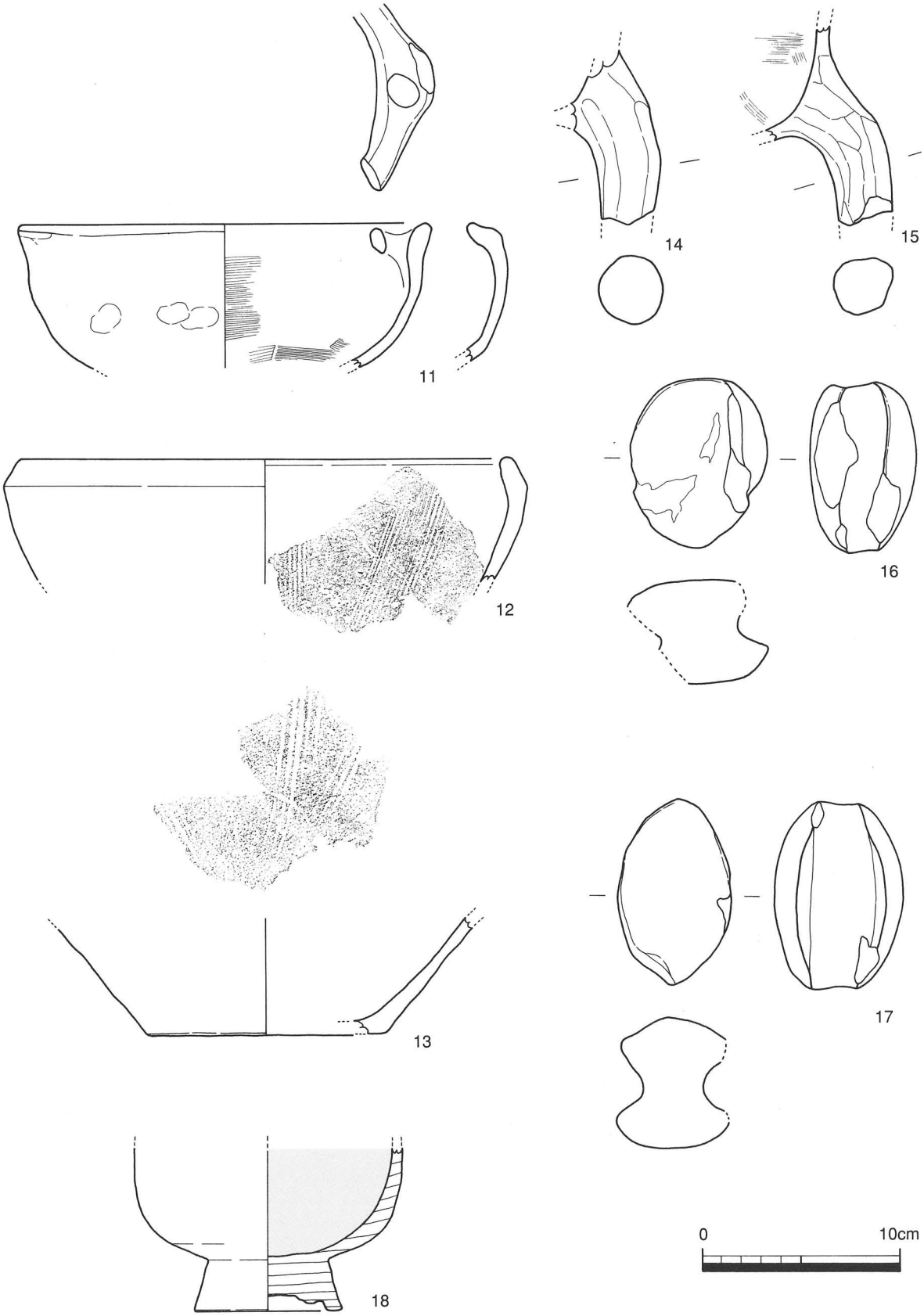
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SP3162	1	土師質	擂鉢		口:22.3	石英・長石	橙5YR7/6	橙5YR7/6				
SE3004	2	陶	擂鉢	備前		細	暗赤灰10R3/1	赤黒10R2/1		内外:回転ナデ		自然釉付着
SE3004	3	土師質	擂鉢			石英・長石	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		内外:ロクロナデ		
SE3004	4	土師質	外耳付鍋		口:19.6	微砂粒		外面:にぶい橙5YR6/4 内面:橙5YR7/8		外面口縁部:ロクロナデ 外面:指押さえ,煤付着 内面:ハケメ		
SE3004	5	土師質	甕		口:24.8	石・長・雲母含	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		外面:ナデ,指押さえ 内面:ハケメ,ナデ		
SE3004	6	瓦質	鍋		口:29.8	石・長少含	暗灰N3/0	暗灰N3/0		外面:ナデ,指押さえ,ハケメ 内面:ハケメ,ナデ		煤付着
SE3004	7	土師質	擂鉢		口:32.2	石・長多	明赤褐2.5YR5/6					

第88図　SP3162・SE3004出土遺物実測図・観察表



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SE3005	1	陶	小皿	瀬・美	口:8.2 高:1.6 底:4.4	細	灰7.5Y6/1	浅黄7.5Y7/3			大窯Ⅳ段階	
SE3005	2	陶	皿	瀬・美	口:9.5 高:1.9 底:5.3	細	灰白2.5Y8/1	オリーブ黄7.5Y6/3			大窯Ⅳ段階	蛇の目状溶着,釉剥,使用による摩滅
SE3005	3	陶	擂鉢	備前	底:20.5	細	にぶい赤褐2.5YR4/4	にぶい赤褐2.5YR4/4		内外:ロクロナデ	16c前後	
SE3005	4	陶	擂鉢	備前	底:13.3	細	赤10R5/6	赤10R5/6		内外:ロクロナデ		
SE3005	5	陶	擂鉢	備前	口:36.0	細		赤褐10R4/4			近世Ⅰ 16c末?	口縁部の一部にハケメ
SE3005	6	陶	擂鉢	備前	口:46.0	細		外面:暗赤10R3/6 内面:暗赤褐7.5R3/3				内外面に被熱痕
SE3005	7	土師質	皿		口:11.9 高:1.3 底:8.7	微砂粒少	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		内外:ロクロナデ		
SE3005	8	土師質	擂鉢		口:23.6	砂粒	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4				
SE3005	9	土師質	把手付鍋		口:21.1	金雲母多	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		内外:ロクロナデ		
SE3005	10	土師質	羽釜		口:19.8	微砂粒少	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/5		内外:ロクロナデ		有機物・媒体着

第89図　SE 3005 出土遺物実測図・観察表（その1）



第90図　SE 3005 出土遺物実測図（その２）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SE3005	11	土師質	外耳付鍋		口:20.3	微砂粒	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		外面口縁部:ロクロナデ 外面:指押さえ,煤付着 内面:ハケメ,板ナデ		
SE3005	12	土師質	擂鉢		口:23.8	砂粒多	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		内外:ロクロナデ	16c	在地
SE3005	13	土師質	擂鉢		底:12.1	砂粒多	灰白7.5YR8/2	灰白7.5YR8/2				在地
SE3005	14	土師質	脚部			砂粒	にぶい黄橙10YR5/4	にぶい黄橙10YR5/4		外面:板ナデ		
SE3005	15	土師質	脚部			微砂粒多		外面:にぶい黄橙10YR7/3 内面:にぶい褐7.5YR5/4				
SE3005	16	土師質	土錘		長:8.6 巾:8.0 厚:4.2	石・長多	にぶい赤褐5YR4/3	にぶい赤褐5YR4/3				
SE3005	17	土師質	土錘		長:9.5 巾:5.6 厚:6.6	石・長多	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4				

遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SE3005	18	椀	高:8.2,底:7.4					漆器 外面:黒漆,内面:黒漆→赤漆	60

第91図　SE3005出土遺物観察表

SD3007（第87図）

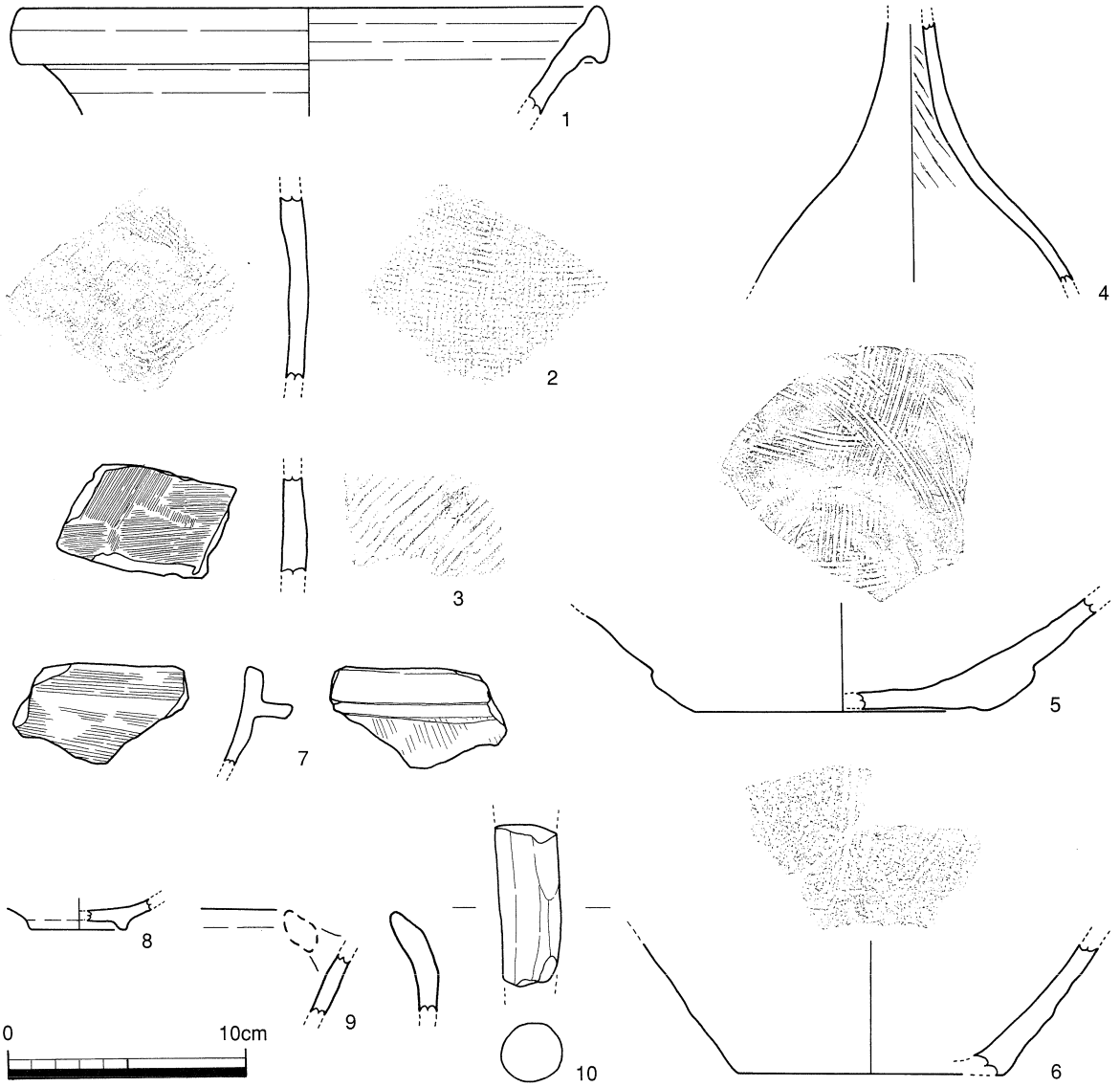
C区南西部，第3面で確認した南北方向の溝跡である。上位は中世末葉の整地層（第300図）により被覆されており，その直下で検出した。検出した標高は0.82～0.88mで，底面の標高は0.45m前後を測る。検出長は約6.5m，検出幅は1.0～1.4mを測る。南部を撹乱，北部をSX3002により壊されている。N－7°－E前後の方位を示す。

断面の形状は，西壁及び東壁下半の傾斜が強く，東壁上半部で屈曲し緩斜面となっている。埋土は，先行するSE3005の上層部に似た堆積物で充填されている。所属時期は，遺物に中世段階の所産に考えられるものが認められるが，SE3005及び上位の整地層との前後関係から，16世紀末葉の所産に考えられる。

SD3007出土遺物（第92図）

出土遺物はコンテナ1/4程度であった。

1は須恵質土器捏鉢である。口縁部の形態より東播系のものと考えられる。2は須恵質土器体部である。外面格子目状のタタキ痕，内面に青海波状となる当て具痕が認められる。3は瓦質土器体部である。外面に平行するタタキ痕，内面にハケメ調整痕が認められる。4・5は備前で，瓶類と擂鉢底部。16世紀末葉の所産に考えられる。6は土師質土器擂鉢の底部である。7は土師質土器羽釜である。鍔部は水平方向に伸び，端部に面をもつ。外面鍔以下及び内面にハケメ調整痕が認められる。8は瓦器椀底部である。9は土師質土器把手付鍋である。10は土師質土器の脚部と考えられる。断面は円形である。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SD3007	1	須恵質	こね鉢			細	灰N6/0	灰N6/0		内外:ロクロナデ		東播系 外面に被熱痕
SD3007	2	須恵質	胴部			微砂粒少	灰白N7/0	灰白N7/0		外面:タタキ 内面:ハケメ,青海波		
SD3007	3	瓦質	体部			砂粒少	灰N6/0	灰N6/0		外面:タタキ 内面:ハケメ		
SD3007	4	陶	瓶	備前		細		外面:暗赤褐10R3/3 内面:2.5YR6/3		外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ,絞り目		外面に自然釉付着
SD3007	5	陶	擂鉢	備前	底:12.0	細	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8		外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ		堺産
SD3007	6	土師質	擂鉢		底:11.0	石・長多	橙5YR7/6	橙5YR7/6				
SD3007	7	土師質	羽釜			微砂粒	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内面:ハケメ 外面鍔以下:ハケメ		鍔以下に煤付着
SD3007	8	瓦質	碗		底:4.0	微砂粒		外面:灰白5YR8/1 内面:灰白N7/0				
SD3007	9	土師質	外耳付鍋			石・長多	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4				外面口縁部下に煤付着
SD3007	10	土師質	脚部			石英・長石	にぶい赤褐5YR5/4	にぶい赤褐5YR5/4				

第92図　SD3007出土遺物実測図・観察表

SK 3014（第93図）

C区南部，第３面で確認した土坑状の遺構である。上位面で道路状に認められた整地の下位で確認された。検出した標高は0.95～1.09m，底面の標高は0.54m前後を測る。検出長は南北で約2.8m，東西に2.6m前後を測る。

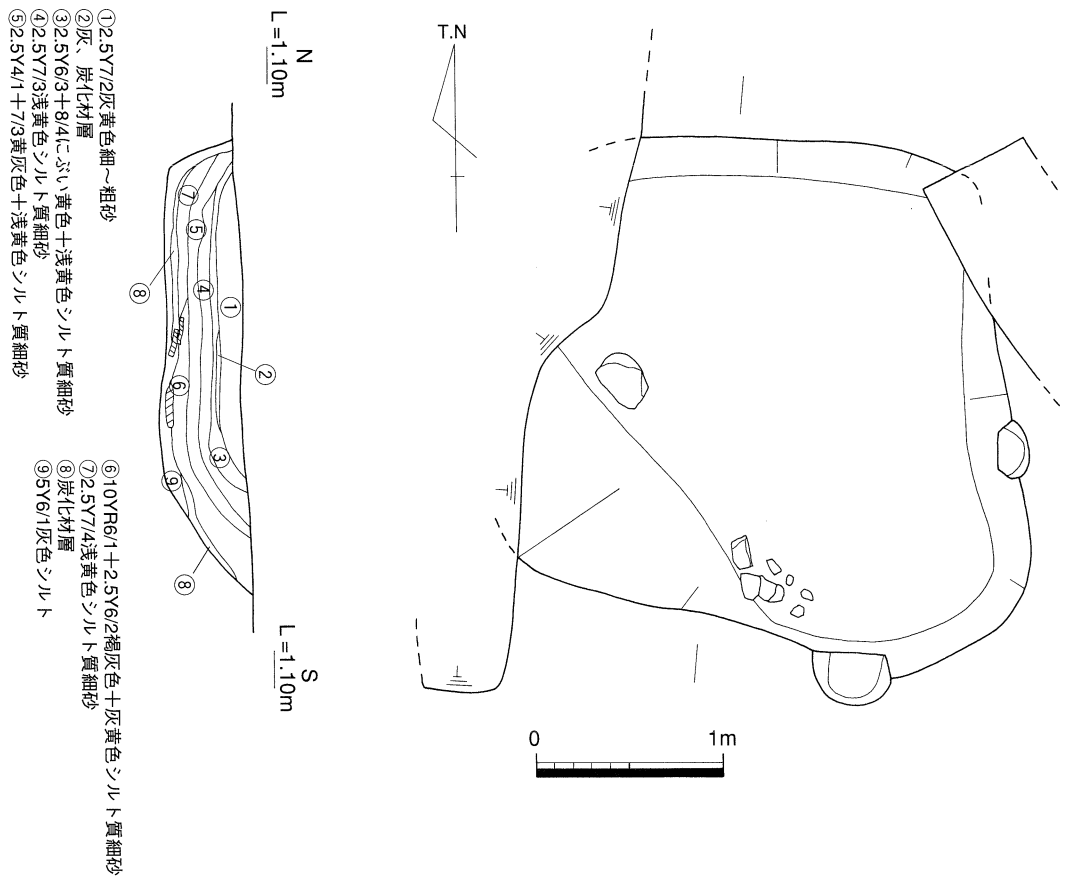
断面は箱状だが，南壁に緩やかに下がる箇所が認められる。埋土は細分され，レンズ状の堆積層として認められている。直接前後関係を示す遺構はないが，道路整地とした水平に堆積する整地層の直下で，且つ中世末に比定される整地（第300図）の上面で検出された遺構である。出土遺物からは，17世紀前葉には埋没したものと考えられる。

SK 3014出土遺物（第94～96図）

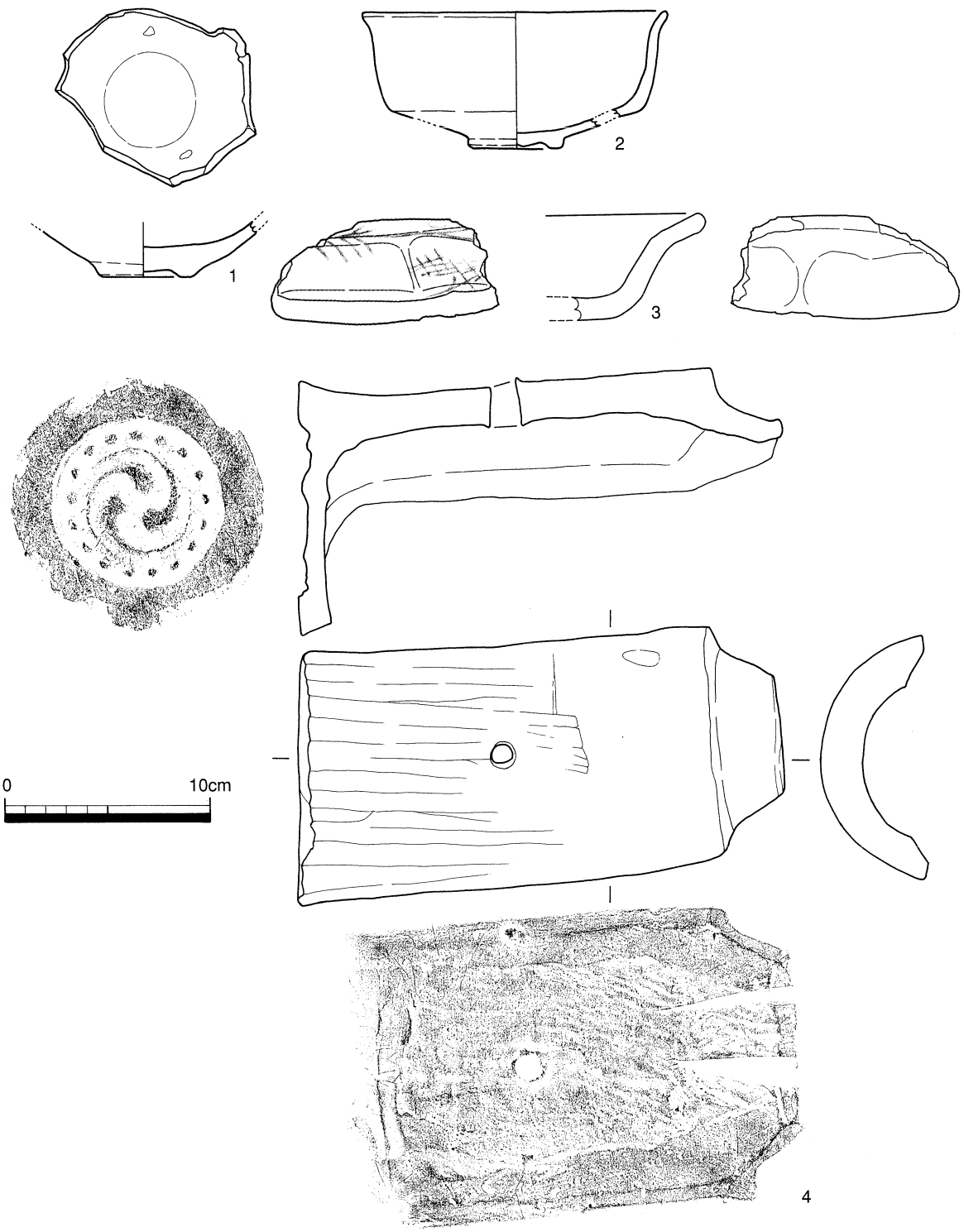
出土遺物は少量で，瓦を中心にコンテナで1/4程度の出土量であった。

１は胎土目の唐津皿である。２は京焼系の茶碗である。赤楽系のもので，一部が金色に発色する。３は志野向付で，内面に鉄絵を描く。

４・５は軒丸瓦である。佐藤編年の様相１～２段階のものである。６は軒平瓦である。連珠文が認められ，当調査地点の北西部に位置する（第３図），14～15世紀代の中世居館跡と考えられる浜ノ町遺跡で出土例がある。本遺跡でもSX3002・3003・3005で出土しており，中世段階の居館が所在した可能性も考えられる。

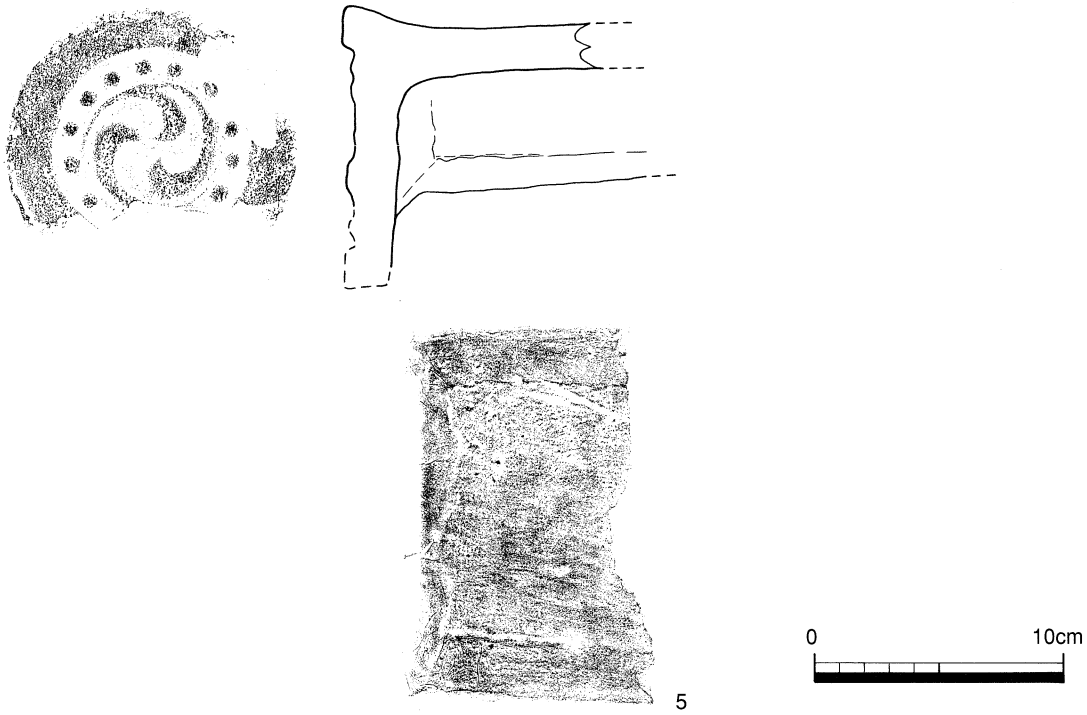


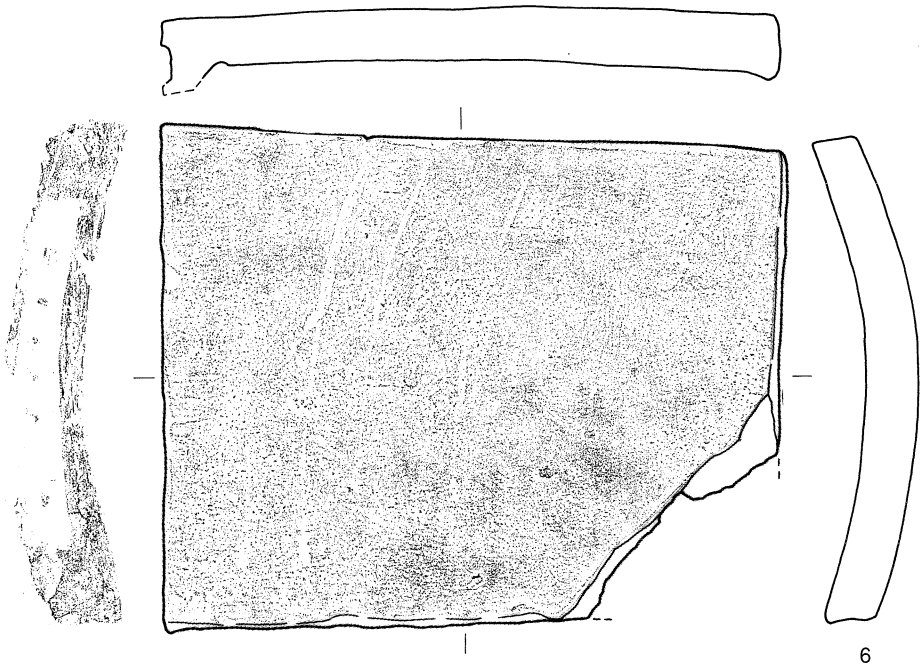
第93図　SK 3014 平面・断面図



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SK3014	1	陶	皿	肥前	底:4.6	細	灰白7.5YR8/2	明褐灰7.5YR7/2		外面:ロクロナデ,ケズリ 外底:ケズリ		見込みに胎土目2ヶ所
SK3014	2	陶	茶碗		口:14.6 高:6.5 底:4.5	微砂粒少	明赤褐2.5YR5/8	明赤褐2.5YR4/8				初期京焼,釉は一部白もしくは金色
SK3014	3	陶	向付	瀬美		細	灰白2.5Y8/1	内外・灰白2.5Y8/1	呉須:暗青灰5BG4/1			志野

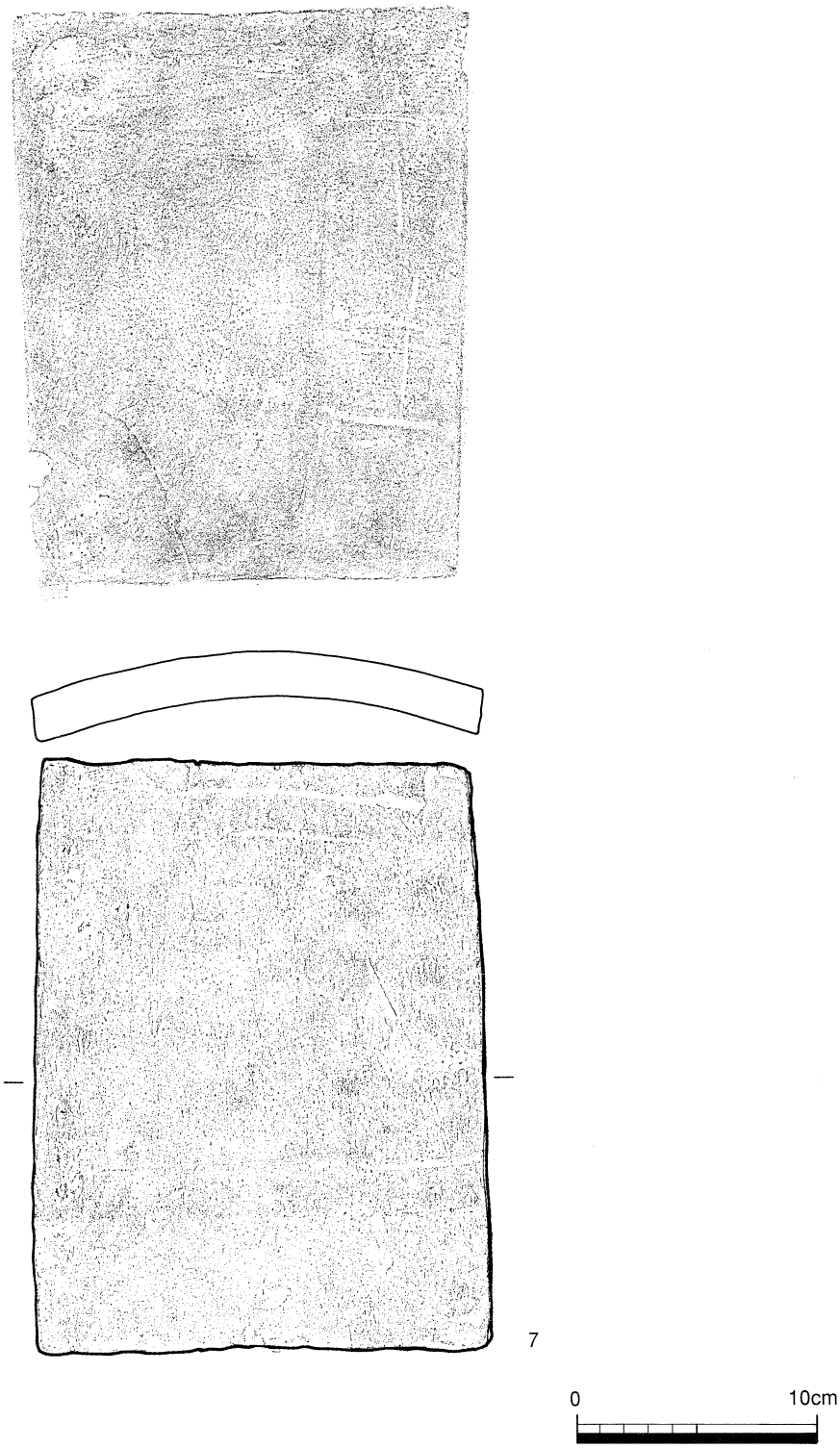
第94図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その1）





遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SK3019	4	軒丸瓦	23.2	2.1	11.6	砂礫	灰白2.5GY8/1	暗灰N3/0	布目 コビキB	板ナデ	良	巴
SK3014	5	軒丸瓦	12.0	1.8	―	砂礫少	灰白7.5Y8/1	灰N4/0	布目		良	巴
SK3014	6	軒平瓦	25.0	2.7	20.0	砂礫	灰黄2.5Y7/2	灰N4/0	コビキB	―	良	被熱

第95図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その2）



遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SK3014	7	平瓦	24.3	1.8	19.0	砂粒	灰白N7/0	灰N4/0			良	被熱

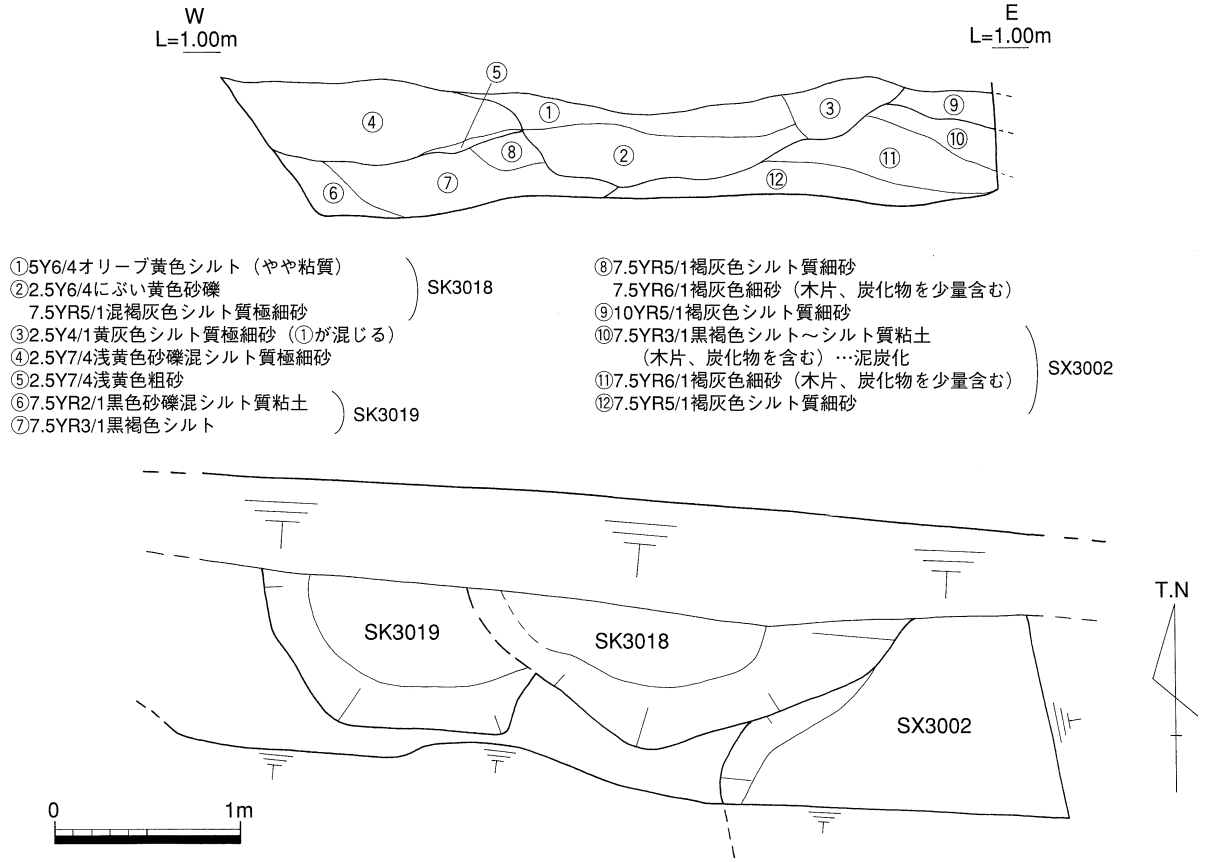
第96図　SK3014出土遺物実測図・観察表（その3）

SK3019（第97図）

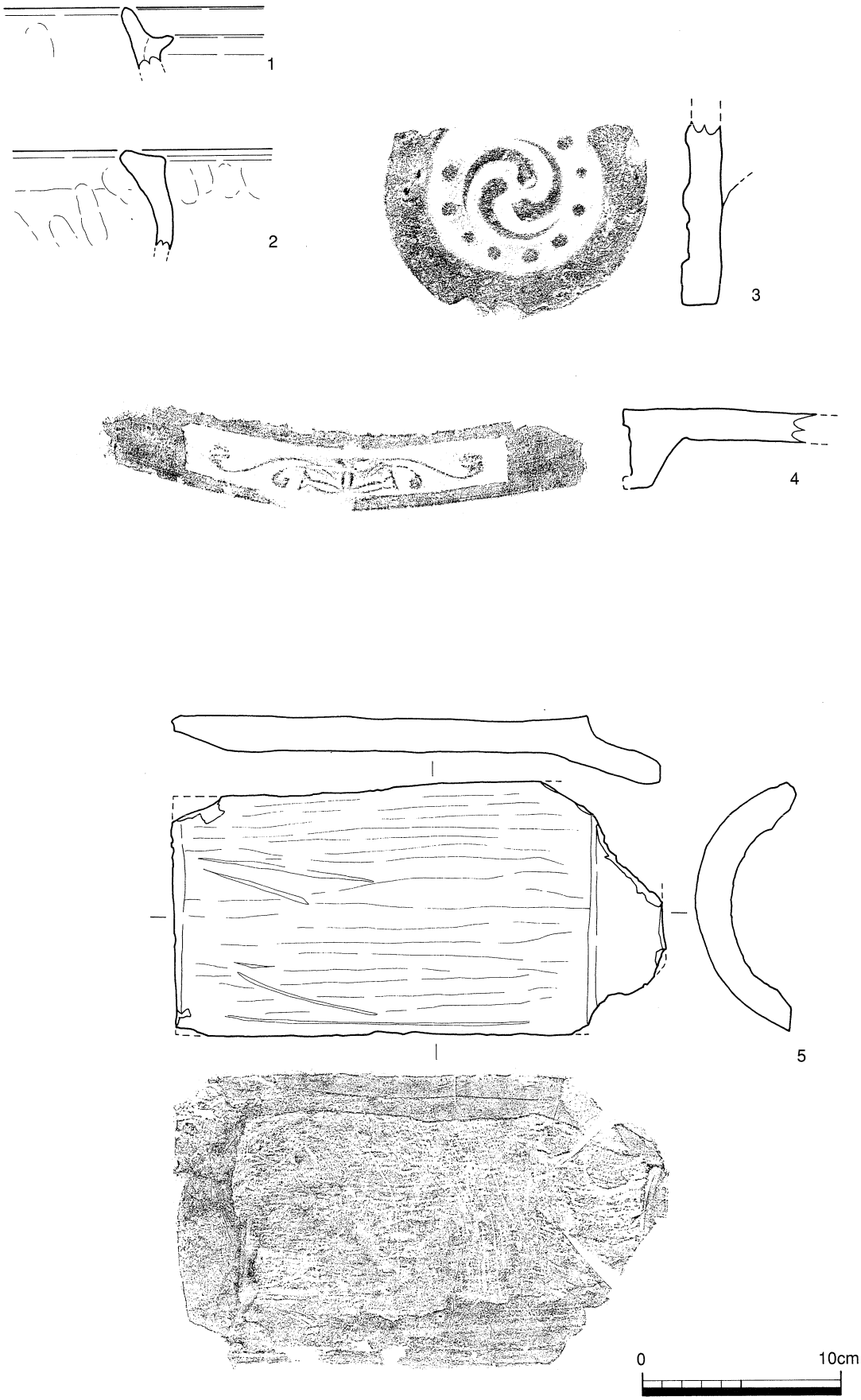
C区北端部，第３面で確認した土坑状の遺構である。検出した標高は0.61～0.82m，底面の標高は0.10m前後を測る。検出長は南北方向で約0.8m，東西方向で1.4m前後を測る。東部をSK3018に壊され，北側が調査対象外であり全容は不明だが，凡そ方形状の土坑として考えられる。所属時期は，北へ伸びて確認されたSX3002との前後関係が明瞭ではなく，またSK3018にも時期比定ができる出土遺物がなく詳細は不明だが，上層部は松平期当初と比定される整地と酷似した堆積層であることから，17世紀中葉が最終埋没期として考えられる。

SK3019出土遺物（第98，99図）

遺物は，下層より瓦片等が少量出土している。１・２は，土師質土器羽釜，土師質土器把手付鍋と考えられる。３は軒丸瓦。４は軒平瓦。５は丸瓦である。



第97図　SK3018・3019・SX3002平面・土層図



第98図　SK3019 出土遺物実測図・観察表

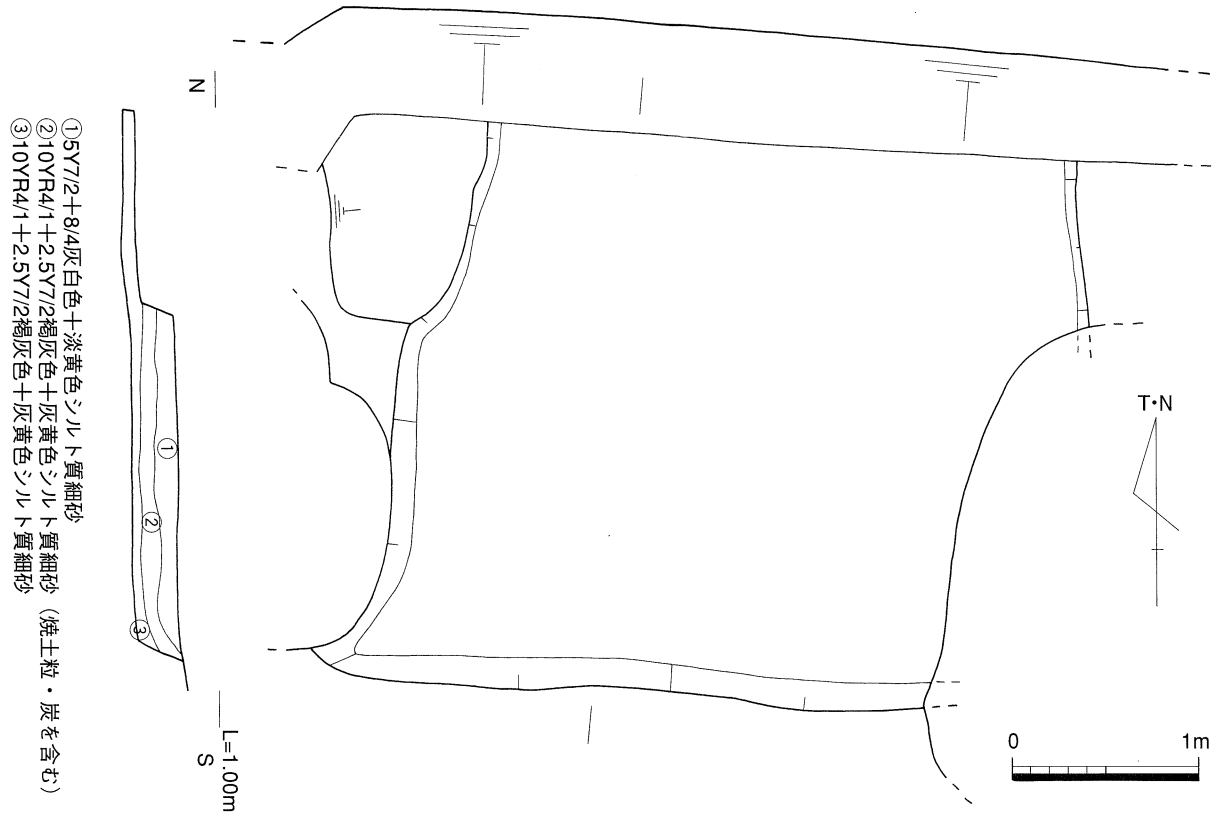
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3019	1	土師質	鍋			0.1～3mmの砂粒含	灰白10YR8/2	外面:にぶい橙7.5YR7/3 内面:灰白10YR8/2		外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ,指押さえ		
SK3019	2	土師質	鍋			0.1～5mmの砂粒含	淡黄2.5Y8/3	外面:灰黄褐10YR6/2 内面:淡黄2.5Y8/3		内外:ヨコナデ,指押さえ		

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SK3019	3	軒丸瓦	―	―	―	砂礫少	灰白5Y7/1	灰7.5Y6/1			良	巴
SK3019	4	軒平瓦	9.8	1.4	24.0	砂礫・石	灰白2.5Y7/1	灰N5/0	―	―	良	―
SK3019	5	丸瓦	24.5	1.9	12.6	砂礫少	灰白10YR7/1	にぶい橙5YR6/3	コビキA 布目	板ナデ	良	

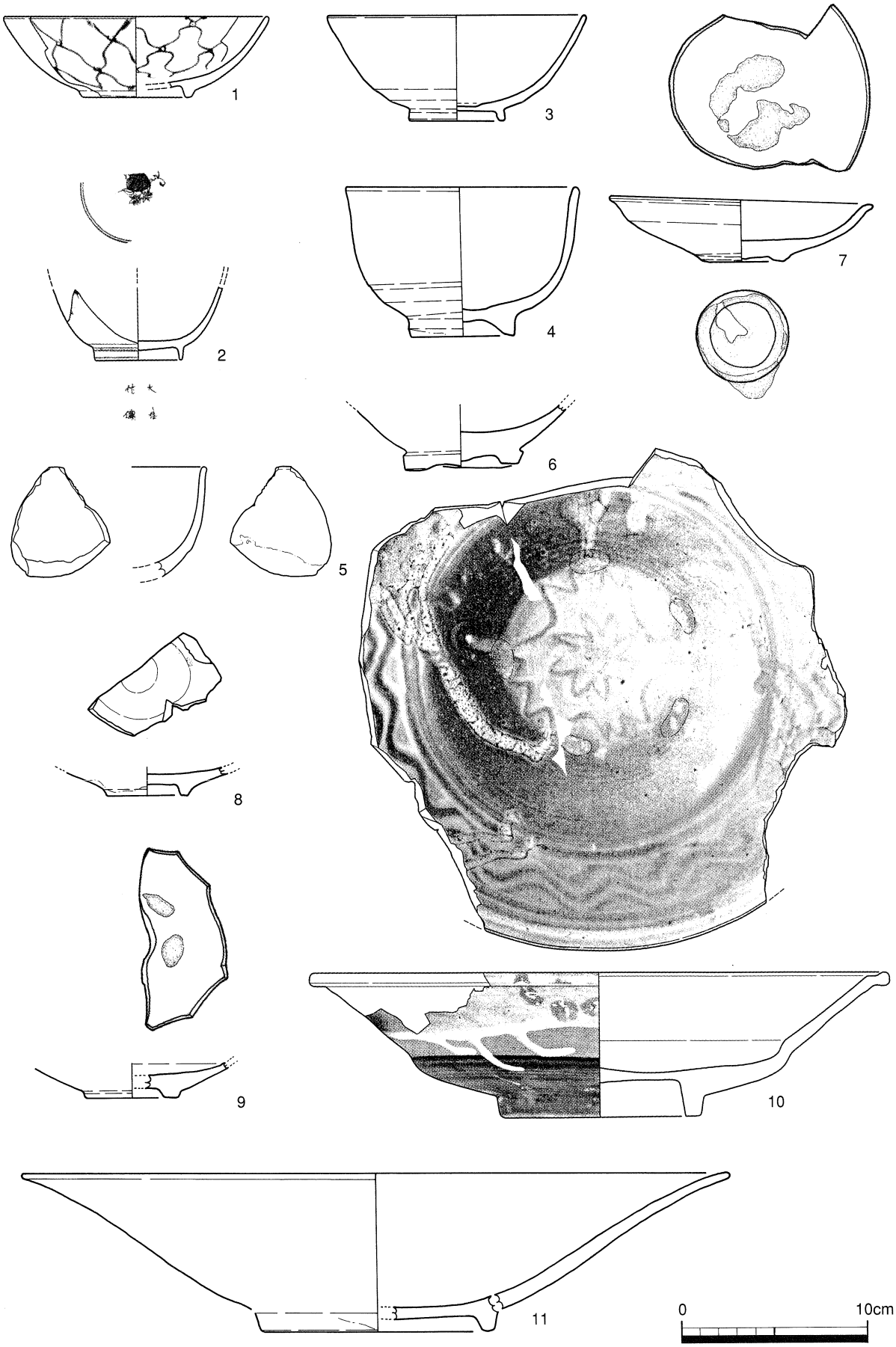
第99図　SK3019出土遺物観察表

SK3021（第100図）

D区の中央部，第3面で確認した土坑状の遺構である。検出した標高は0.57～0.83m，底面の標高は0.46～0.54mを測る。検出長は南北方向で約2.9m，東西方向で3.3m前後を測る。北半部が撹乱直下で検出され，また東部ではSE2002に壊され，西端部はSK3022に先行して認められた。また北側が調査対象外であり全容は不明だが，南面及び西面がほぼ直線状に認められ，方形の土



第100図　SK3021平面・断面図



第101図　SK3021出土遺物実測図（その1）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3021	1	磁	碗	中国	口:14.0 高:4.25 底:5.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・明青色	内外:一重網目		漳州窯、高台畳付に砂粒付着
SK3021	2	磁	碗	中国	底:4.55	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・暗青色			景徳鎮窯
SK3021	3	陶	碗	肥前	口:13.5 高:5.6 底:5.0	細	黄灰2.5Y6/3	灰白10Y7/2		外底:ケズリ	大橋Ⅲ期	
SK3021	4	陶	碗	肥前	口:12.2 高:9.0 底:5.5	細	灰白2.5Y7/1	灰白7.5Y7/2			大橋Ⅲ期	
SK3021	5	陶	碗	肥前		細	橙5YR7/6	外面:暗褐10YR3/4,灰白2.5Y8/1 内面:黒褐5YR2/1,灰白2.5Y8/1				
SK3021	6	陶	碗	肥前	底:6.0	細	灰N5/0	内外:にぶい赤褐5YR4/3		外面:ケズリ,ロクロナデ 外底:ケズリ 内面:ロクロナデ		高台は3ヶ所削る 高田部板状痕残る
SK3021	7	陶	皿	肥前	口:12.7 高:3.5 底:4.5	細	にぶい橙2.5YR6/3	黒褐7.5YR3/2		外面・外底:ケズリ	大橋Ⅱ期	見込みと高台に砂目
SK3021	8	磁	皿	肥前	底:4.3	細	灰白N7/0	明緑灰7.5GY8/1			大橋Ⅱ期	蛇の目釉剥 高台に砂目
SK3021	9	陶	皿	肥前	底:5.0	細	灰白5Y7/1	灰白7.5Y7/1			大橋Ⅱ期	見込みに砂目2ヶ所、高台畳付無釉
SK3021	10	陶	鉢	肥前	口:30.6 高:7.65 底:10.6	細	明赤褐5YR5/6	内外:灰白10YR8/1 外下:極暗赤褐5YR2/3	釉掛:明緑、灰白2.5Y8/2		大橋Ⅲ期	二彩手、見込みに5ヶ所の砂目
SK3021	11	陶	大皿	肥前	口:37.8 高:(8.3) 底:(12.5)	細	灰白N7/0	明オリーブ灰2.5GY7/1			大橋Ⅲ期	口縁端部に暗赤褐、全周はしない

第102図　SK3021出土遺物観察表

坑と考えられる。断面形状は，壁面がやや急勾配で，底面はほぼ平坦となっている。埋土は水平状に堆積する3層に分割され，中位の堆積層に焼土粒・炭化物が観察される。所属時期は，出土遺物から17世紀後半頃と考えられる。

SK3021出土遺物（第101～105図）

遺物は，コンテナ2箱と比較的まとまって出土している。産地が明瞭でないものが含まれるが，土師質土器皿及び磁器製品の特徴から，ほぼSX3004・3005・3006と同時期の所産と考えられる。

1の磁器碗は平碗の形態で，内外面に結び目を有する網目を描く。施釉は厚く施され，高台には粗い砂粒が認められる。漳州窯系青花と考えられる。2の磁器碗は，高台部に多重の圏線，見込には二重圏線及び蔓草を描く。器壁が薄く，発色の良い器壁にピンホールが目立ち，景徳鎮窯産と考えられる。

3～6は肥前系陶器碗である。3は器壁が薄く，高台部まで施釉が認められる。4は畳付以外，全面に施釉されている。5は飴色の鉄釉及び藁灰釉を掛ける。6の高台部は，露胎で切高台状となっている。

7・8は肥前系陶器皿で，砂目のものである。9は肥前系磁器皿である。見込に蛇ノ目釉剥ぎを行い，釉剥ぎ部に砂粒が付着する。高台内は無釉で，高台脇にも砂粒の付着が認められる。

10・11は肥前系陶器の大皿である。高い高台部から体部で屈曲し，外傾する。口縁部は溝縁状である。内面は白化粧を行い，ハケメ装飾及び幾何学文を描いている。口縁部より白濁色と緑色の釉を掛け流す。11は図面上で復元を行っている。低い高台部より口縁部へ大きく外反する器形で，高台脇以下まで灰釉を施釉し，口縁には口紅状に鉄釉が塗られる。

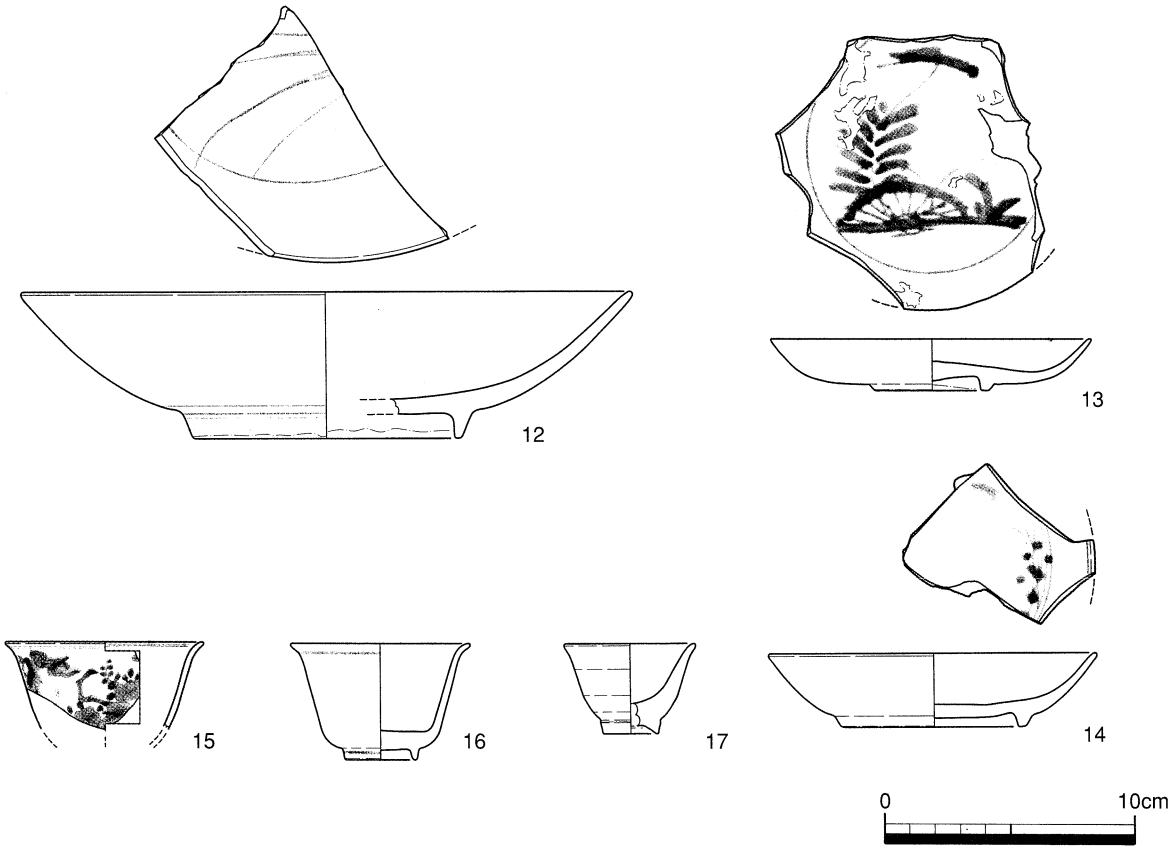
12～14は肥前系磁器皿である。12は大皿で，高めの高台部より緩やかに内湾し口縁部に至る。内面及び高台脇，高台内と圏線が多用されている。13は高台径の小さな皿で，高台内に砂粒の付

着が認められる。口縁部が歪み，呉須の発色も悪い。初期伊万里と考えられる。14も高台内に砂粒が認められる。内面は口縁及び見込に圏線を入れ，花卉を描いている。

15の磁器小坏は，薄い器壁で発色の良い器面を呈する。端反口縁の内外に二重の圏線を施し，外面には鳥花を描く。景徳鎮窯産と考えられる。16は，漳州窯系青花小坏である。端反で，口縁部及び高台の外面に一重の圏線をもつ。17は高台部が無釉の肥前系磁器小坏である。

18は内外に長石釉を掛けた耳付水指で産地不明の陶器である。灰白色と茶褐色の胎土による交胎で，器面に縞文様を作り出している。

19は信楽鉢である。体部の上端が括れる器形となっている。20は型打ち成形と考えられる産地



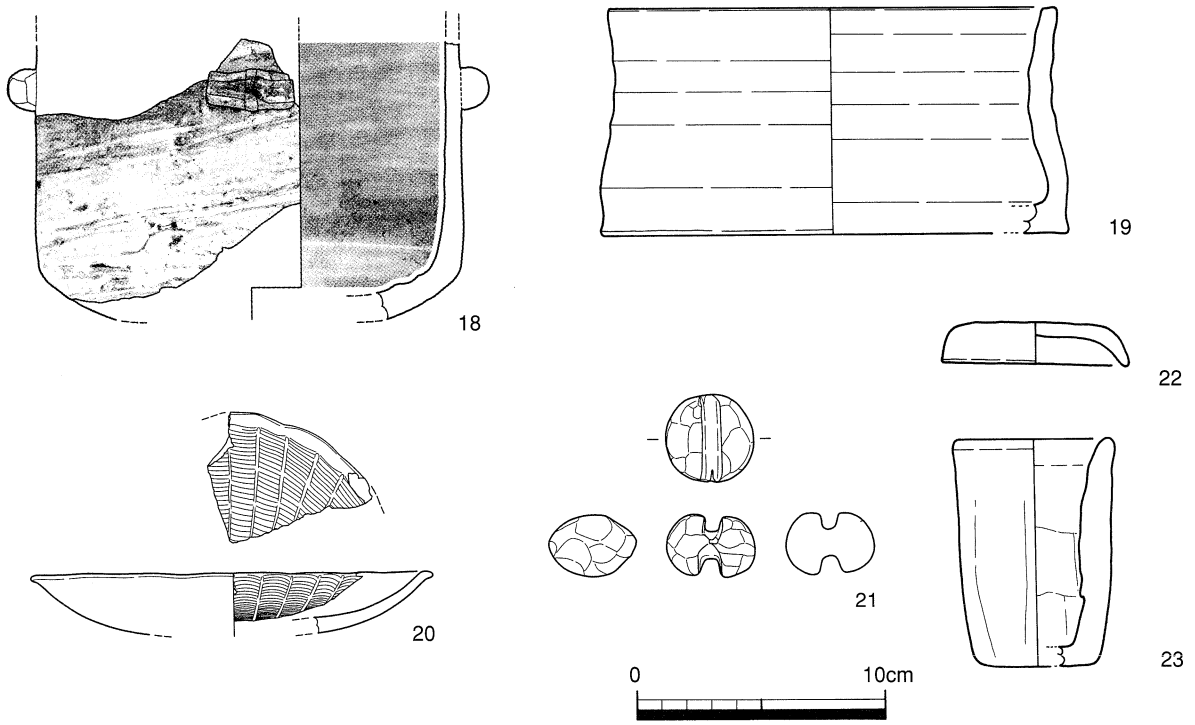
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3021	12	磁	皿	肥前	口:24.1 高:5.8 底:10.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・青灰色		17c中葉	高台畳付無釉 高台内に砂粒付着
SK3021	13	磁	皿	肥前	口:12.15 高:2.05 底:4.40	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・暗オリーブ褐 2.5Y3/3		大橋Ⅱ期	初期伊万里 高台内に砂粒付着
SK3021	14	磁	皿	肥前	口:12.95 高:2.9 底:6.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・淡青色		17c中葉	高台畳付無釉 高台内に砂粒付着
SK3021	15	磁	小杯	中国	口:7.85	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・明青色		様相1～2	様相1～2　景徳鎮窯
SK3021	16	磁	小杯	中国	口:6.95 高:4.6 底:2.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・暗青色		大橋Ⅲ期	漳州窯
SK3021	17	磁	小杯	肥前	口:5.1 高:3.6 底:2.15	微	灰白色	内外:灰白5GY8/1			1640～50年代	高台内無釉

第103図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その2）

不明の陶器皿である。灰白色の精良な胎土を用い，内外にやや黄色味かかった透明色の釉を施釉する。

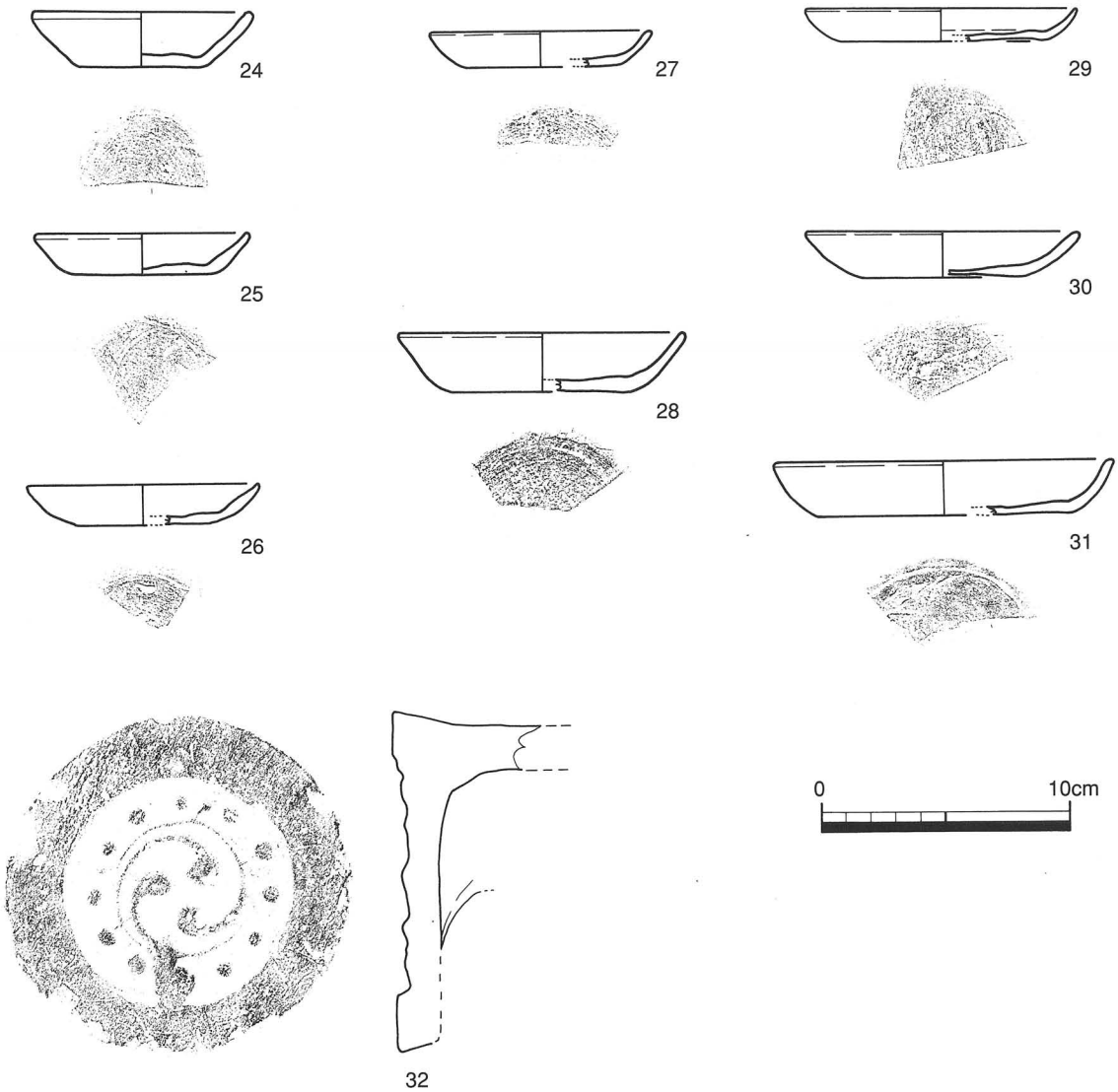
21は小形の有溝土錘である。22・23は，焼塩壺及び焼塩壺蓋である。23は橙色を呈する胎土を用いた輪積成形のもので，細身の器形である。

24～31は，土師質土器皿である。すべて底部回転糸切りで，橙色系と灰白系のものが認められる。器形・法量ともSX3004・3005とほぼ同じ様相に認められる。32は，軒丸瓦である。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3021	18	陶	水指			細	灰白2.5Y8/1	極暗赤褐5YR2/3	内外:灰白2.5Y8/2			
SK3021	19	陶	鉢	信楽	口:16.7 高:8.9 底:18.6	砂粒少		外面:にぶい赤褐7.5R4/3 内面:赤橙10R6/6		内外:ロクロナデ		
SK3021	20	陶	皿		口:15.55	細	灰白5Y8/1	内外:透明釉		内面:陰刻		
SK3021	21	土師質	土錘		最大径:3.5 最大厚:2.5					外面:押さえ		
SK3021	22	土師質	焼塩壺蓋		口:7.3 高:1.6	微砂粒	赤橙10R6/8	赤橙10R6/8		内外:ロクロナデ 内面上部:仕上げナデ		
SK3021	23	土師質	焼塩壺		口:6.0 高:9.0 底:4.4	細		外面:橙5YR7/6 内面:赤橙10R6/8		内外:ナデ 外面:板ナデ 内面:板状押圧によるナデ		

第104図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その3）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3021	24	土師質	皿		口:8.4 高:2.2 底:4.8	細	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SK3021	25	土師質	皿		口:8.4 高:1.6 底:5.6	石・長・雲	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SK3021	26	土師質	皿		口:9.2 高:1.6 底:5.4	石英・長石	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SK3021	27	土師質	皿		口:8.8 高:1.4 底:6.0	細	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		
SK3021	28	土師質	皿		口:11.4 高:8.5 底:7.1	細	灰5Y6/1	灰5Y6/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		
SK3021	29	土師質	皿		口:10.6 高:1.3 底:8.0	微砂粒無	灰白10YR8/1	灰白10YR8/1		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		口縁端部に煤付着
SK3021	30	土師質	皿		口:10.8 高:1.8 底:6.2	細	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り 内底:仕上げナデ		
SK3021	31	土師質	皿		口:13.6 高:2.2 底:10.2	細	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		口縁部内外に煤付着

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SK3012	32	軒丸瓦	6.0	1.7	―	砂礫少	灰N6/0	灰N4/0			良	巴

第105図　SK3021出土遺物実測図・観察表（その4）

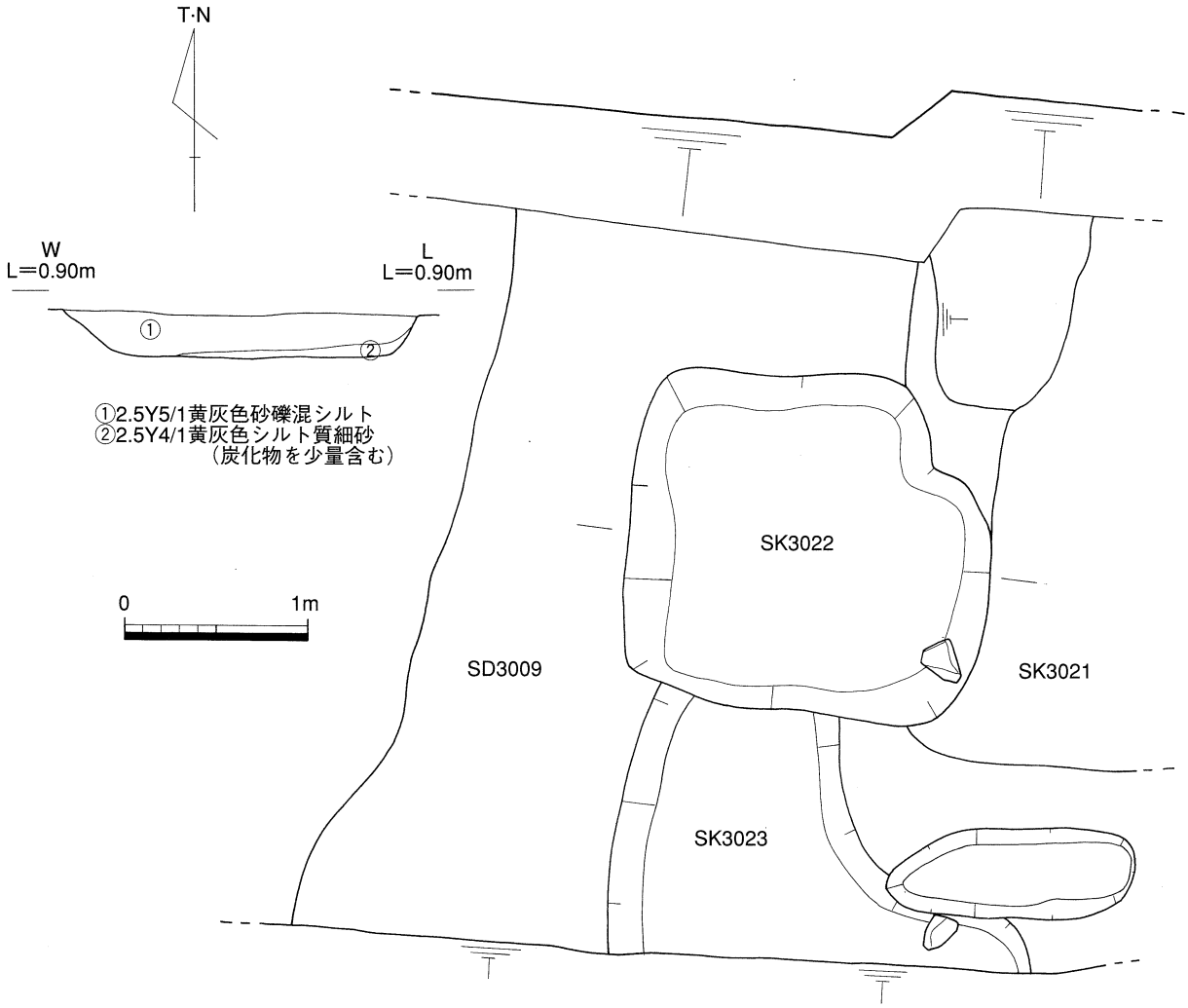
SK 3022（第106図）

D区中央部，第３面で確認した土坑である。検出した標高は0.8m前後，底面の標高は0.53m前後を測る。検出長は南北方向で約1.8m，東西方向で1.9m前後を測る。平面形状は方形で，断面は箱形を呈する。東西の壁面がやや緩やかな箇所も認められる。他の遺構との前後関係では，SD3009・SK3021・SK3023に後出し，17世紀後半以降の所産と考えられる。

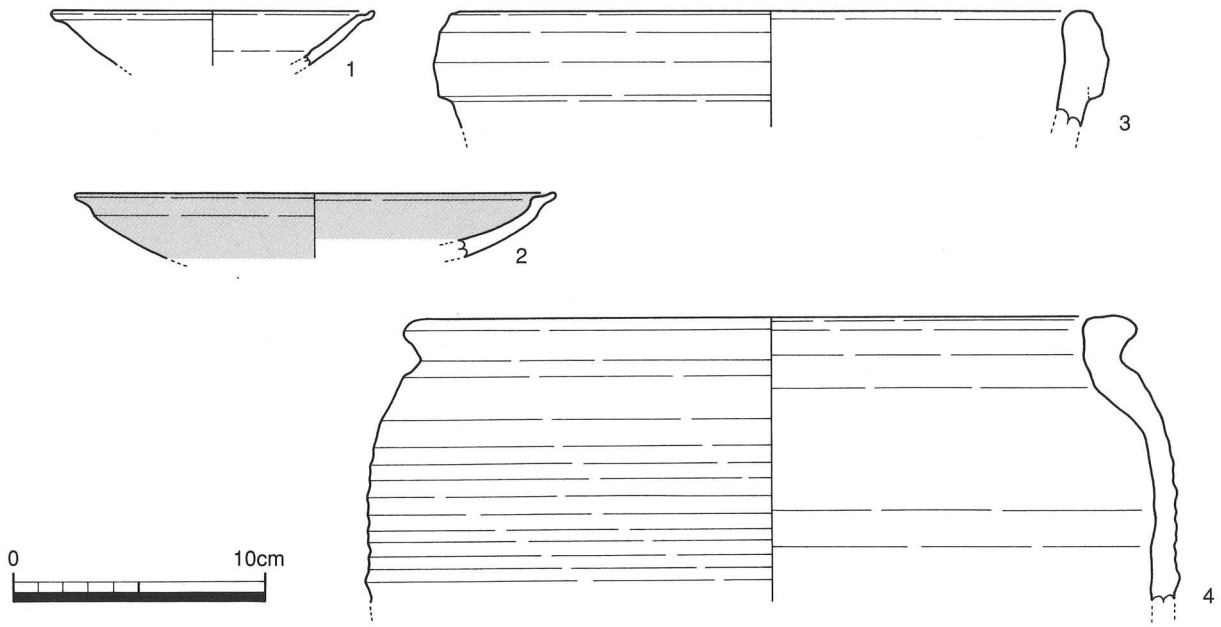
SK 3022出土遺物（第107図）

遺物の出土は若干量で，古相を示し先行する遺構からの混入品と考えられるものが認められる。

１は肥前系陶器皿である。２は肥前系磁器青磁皿である。３は備前壺で，中世段階の所産に考えられる。４は信楽焼の焼締め陶器甕である。

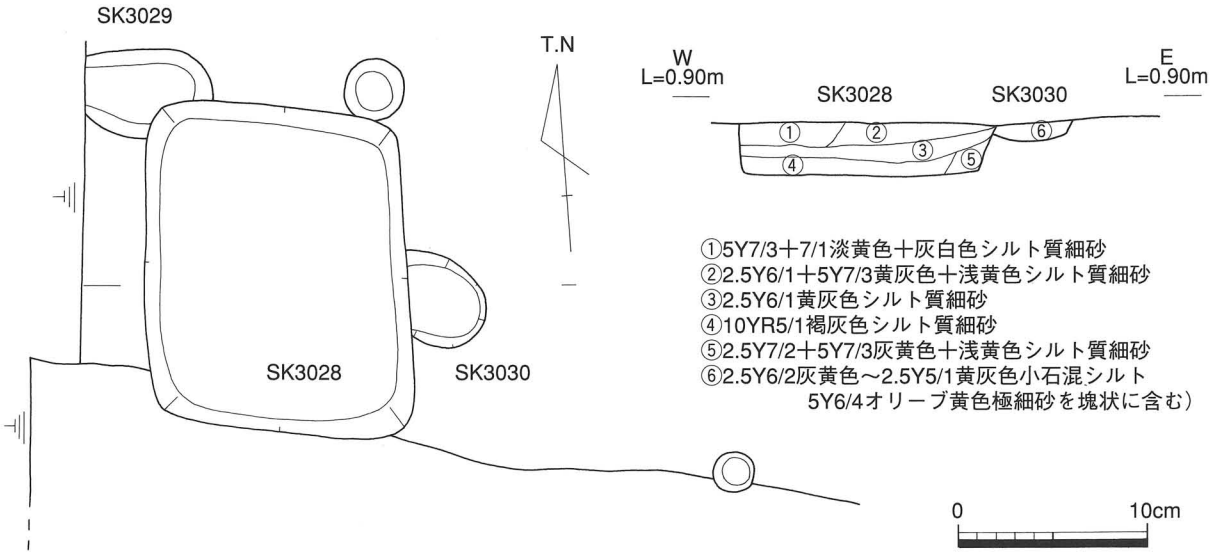


第106図　SK 3022平面・断面図

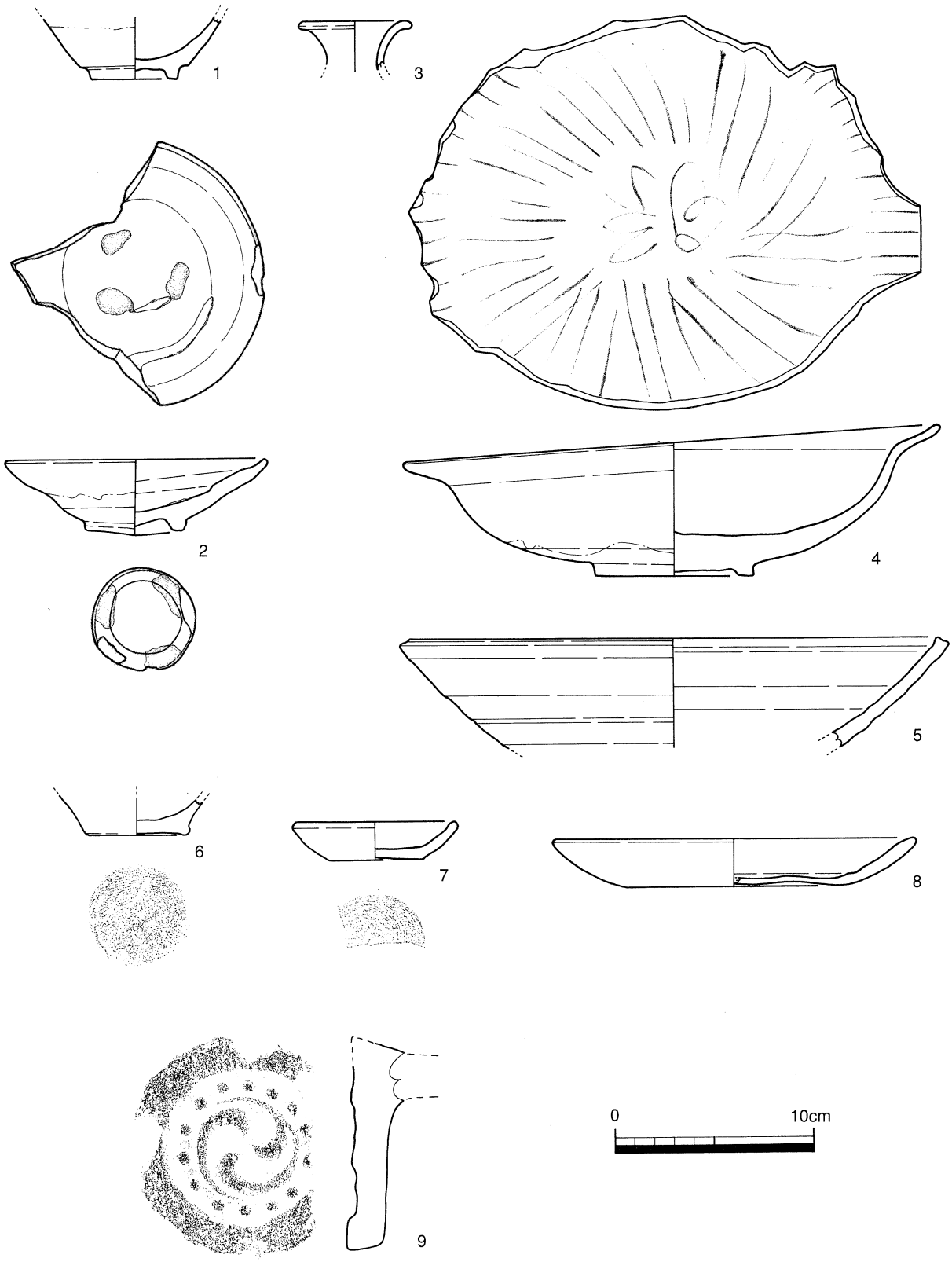


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3022	1	陶	皿	肥前	口:12.6	細	灰白10Y7/1	灰白10YR7/1			大橋Ⅱ期	
SK3022	2	磁	皿	肥前	口:18.8	細	白	明緑灰5G7/1			大橋Ⅱ-1期	青磁
SK3022	3	陶	壺口縁	備前	口:24.4	細	暗赤褐10YR3/2	暗赤褐10YR3/2		内外:ロクロナデ		
SK3022	4	陶	甕	信楽	口:26.4	微砂粒少		外面:にぶい赤褐7.5YR4/3 内面:赤黒7.5R2/1		内外:ロクロナデ		信楽?

第107図　SK3022出土遺物実測図・観察表



第108図　SK3028平面・土層図



第109図　SK3028出土遺物実測図

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SK3028	1	陶	碗	肥前	底:4.3	細	灰褐7.5YR4/2	オリーブ黄5Y6/3			大橋Ⅱ期	
SK3028	2	陶	皿	肥前	口:12.8 底:4.8	細	灰N6/0	灰10Y6/1			大橋Ⅱ期	見込み、高台に砂目、内外に溶着痕
SK3028	3	陶	瓶	肥前	口:5.0	細	灰白N7/0	灰10Y6/1				
SK3028	4	陶	皿	肥前	口:26.6 高:7.6 底:8.0	細	灰褐7.5YR6/1	褐灰10YR5/1	鉄絵:	外面・外底:ケズリ	大橋I-2期	
SK3028	5	陶	皿	肥前	口:26.4	細	にぶい橙7.5YR7/3	オリーブ灰10Y6/2				内外面白釉有
SK3028	6	土師質	坏		底:5.0	細	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		外面:ロクロナデ、静止糸切り 内面:ロクロナデ		
SK3028	7	土師質	皿		口:8.0 高:1.9 底:4.6	雲母	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		内外:ロクロナデ 底部:回転糸切り		口縁部内外に煤付着
SK3028	8	土師質	皿		口:17.7 高:2.3 底:10.6	細	灰白10YR8/2	外面:煤・黒褐2.5Y3/1		内外:ロクロナデ 外底:指押さえ 内底:ナデ		関西系 内外面に被熱痕

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SK3028	9	軒丸瓦	―	2.5	―	砂礫	灰白N7/0	黒N2/0			良	巴 被熱

第110図　SK3028出土遺物観察表

SK3028（第108図）

E区，第3面で確認した土坑状の遺構である。検出した標高は0.82～0.87m，底面の標高は0.52m前後を測る。検出長は南北方向で約1.7m，東西方向で約1.4m前後を測る。南端部でSX3007を壊し，後出して確認された。

平面の形状は整った方形の形状である。断面の形状は箱状で，平坦な底面と急勾配の壁面をもつ。埋土は多層に分割されているが，基本的には下層部にやや褐色を帯びた堆積層が存在し，上層部は灰黄色土で充填されている。底面のほぼ中央部で，大皿（第109図4）が上向きに置かれた状態で出土している。出土遺物から17世紀前葉頃の所属時期が考えられる。

SK3028出土遺物（第109図）

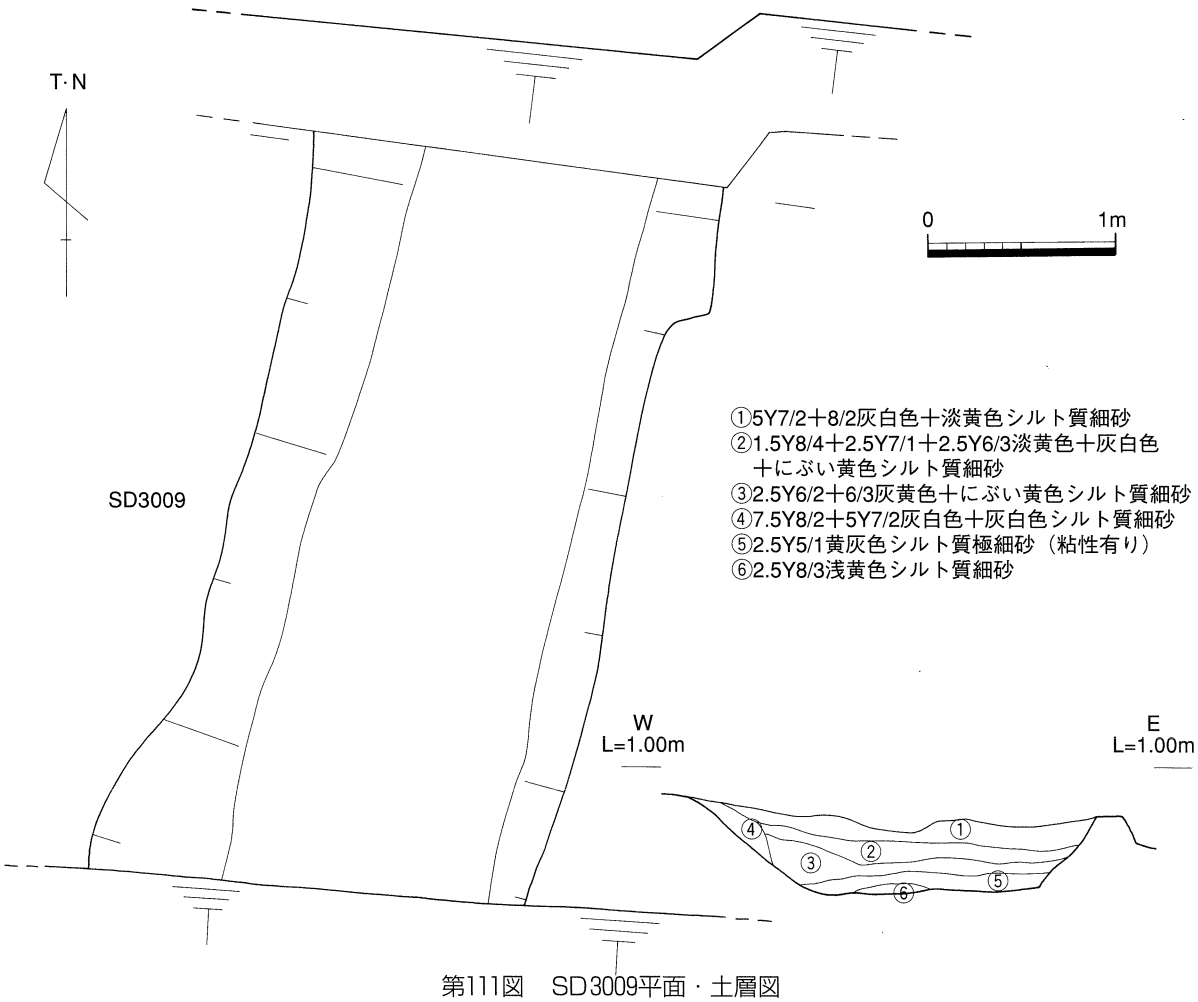
出土遺物はコンテナ1/2箱程の出土量であった。

1～5は肥前系陶器である。1は鉄釉の碗で，高台部が露胎となっている。2は砂目の皿である。胴位で屈曲し，口縁部は内湾ぎみに先細る。3は瓶類で，灰釉を施す。4は絵唐津の大皿である。灰釉を施し，内面に鉄絵を描く。5は，内湾気味に斜め上方へ伸びる鉢若しくは大皿である。口縁端部を強くナデし，端面及び内面に凹線が認められる。

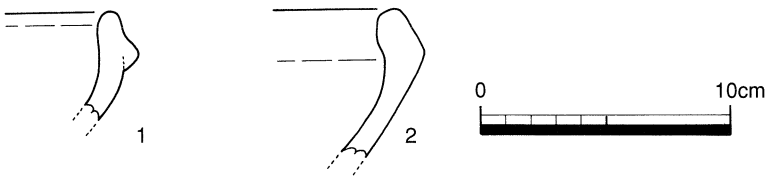
6～8は，土師質土器皿である。6の底部には，静止糸切り痕が認められる。7は胎土が橙色系で，底部が回転糸切りのものである。8は関西系のものと考えられる。見込に指押さえが顕著で，底面が薄く歪む。口縁部は厚く肥厚し，内面及び口縁外周部を横ナデにより仕上げる。外面部を中心に2次焼成痕が認められる。

SD3009（第６・111図）

Ｄ区西部，第３面で確認した南北方向の溝跡である。検出長は約4.0ｍ，検出幅は2.1～2.2ｍを測る。北端で調査対象外となり，南部は撹乱により壊される。また東岸部をＳＫ3022により切られる。主軸はＮ－10°－Ｅ前後を示す。検出した標高は0.56～0.87ｍ，底面の標高は0.37～0.46ｍを測り，やや北に下る。断面は船底形で，埋土はほぼ水平状の堆積層で充填される。また撹乱



第111図　SD3009平面・土層図



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調１(胎土)	色調２(釉薬、内外色調)	色調３(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SD3009	1	土師質	土鍋			砂粒		外面：橙7.5YR7/6 内面：浅黄橙10YR8/4		内外：ロクロナデ		
SD3009	2	土師質	把手付鍋			砂粒		外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：橙5YR7/8		内外：ロクロナデ		

第112図　SD3009出土遺物実測図・観察表

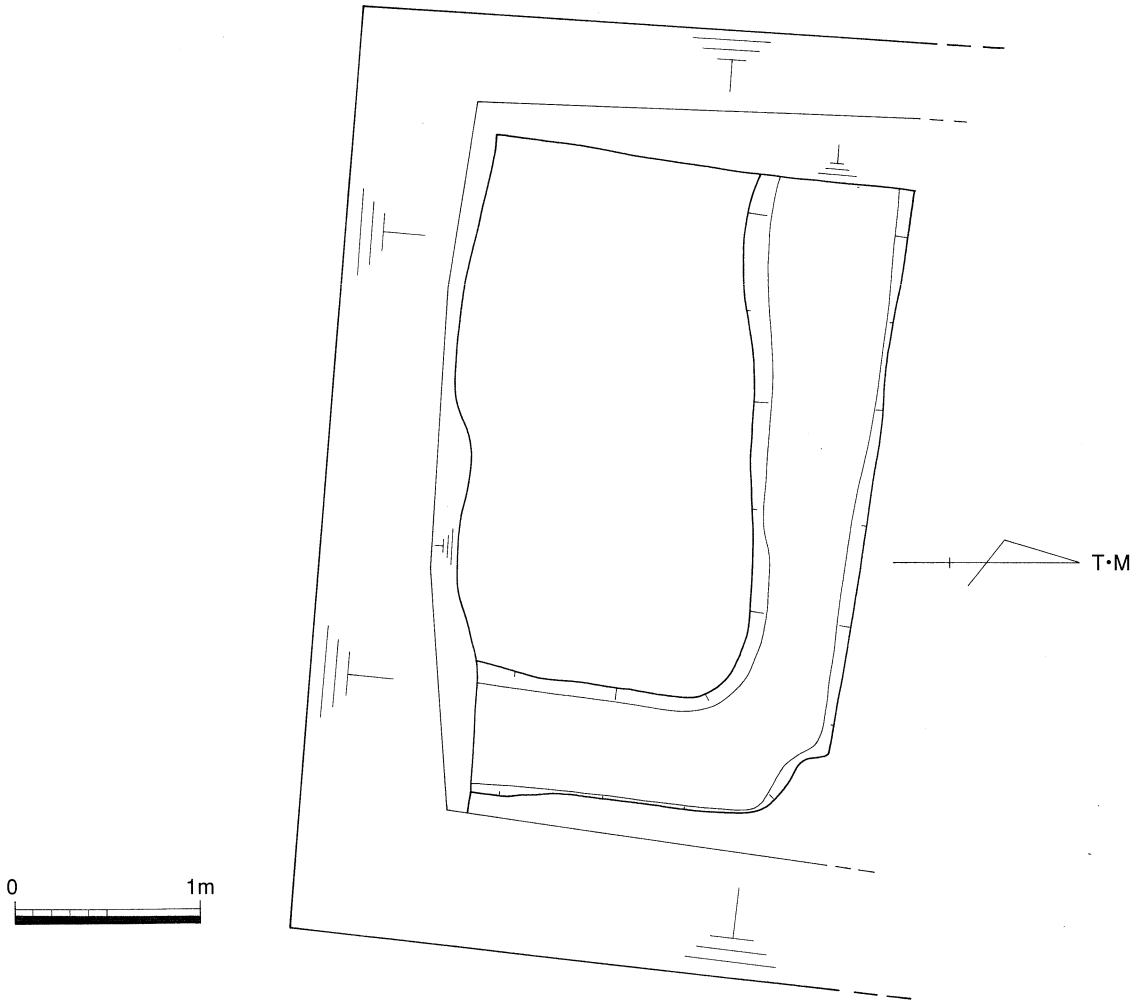
により壊され，南方向のＥ区東端部へ伸びて認められる。西肩部のみ検出でき，大半が調査対象地外となるため詳細は不明であるが，ＳＸ3007に直交する位置関係になっている。所属時期は，自然層を基盤として開削されていることやＳＸ3007との関連から，17世紀初頭以前の所産と推定される。

ＳＤ3009出土遺物（第112図）

出土遺物は，土器片が数点のみである。１・２は，土師質土器鍋類の口縁部である。

ＳＤ3010（第113図）

Ｅ区南部，第３面で確認したＬ字形の溝跡である。検出した標高は0.85ｍ，底面の標高は0.59～0.75ｍ前後を測る。東西方向には底面の標高差が少なく，南方向へ急に下がっている。検出長は東西方向で約5.2ｍ，南北方向で約3.5ｍとなり，検出幅は約0.5～0.8ｍを測る。主軸方位はＮ－82.5°－Ｗを示す。遺物も認められず詳細な時期は不明であるが，ＳＤ2003に先行する層序から，17世紀中葉以前の所産に推定される。



第113図　ＳＤ3010平面図

上水施設

SD3004，3006，3011（第114～118図）

第３面，Ａ・Ｃ区で確認した上水道施設である。SD3004は，屋敷内を東西方向（Ｎ－94°－Ｅ）に掘削したもので，箱枡１を起点に西方及び東方へと配水している。西方向のものは，北へ折れSE3003に繋がる。東方向は調査範囲外へと伸びる。SD3006は，道路から屋敷内への引き込みとなる箱枡２より北方向（Ｎ－２°－Ｅ）となる箱枡１へと配水している。SD3011は，道路下に設置されたもので東から西の方向（Ｎ－94°－Ｅ）となる箱枡２へと配水している。

検出した総延長距離は，SD3004が約37.5ｍ，SD3006は約12ｍ，SD3011は約７ｍである。検出幅は最大で約1.4ｍを測る。検出した標高は0.1～１ｍで，Ｃ区ではSX3001の底面及びSX3002の上面で検出している。樋は竹製で，SD3004の西半部を中心に一部遺存していた。他の区間では痕跡程度にしか確認できなかったが，箱枡及び継手の接続部より竹樋であったと推察される。

樋底面の高低差を枡及び継手の接続部により復元すると，意外に比高差は少なく，数cm程度の比高差で配水している。箱枡は，１・２とも地下に埋設されたもので，箱枡１が内法で約80cm四方×高さ40cm，箱枡２は約40cm四方×高さ20cmとなり，屋敷内のものが大きい。双方とも枡は板材を箱形に組立て釘止めをしたもので，箱枡１の蓋は一枚板ではなく，細板を並べ蓋としている。接合部には，槙皮等の防水処理は認められなかった。また検出時には，蓋の上に人頭大の石が置かれた状態で出土している。

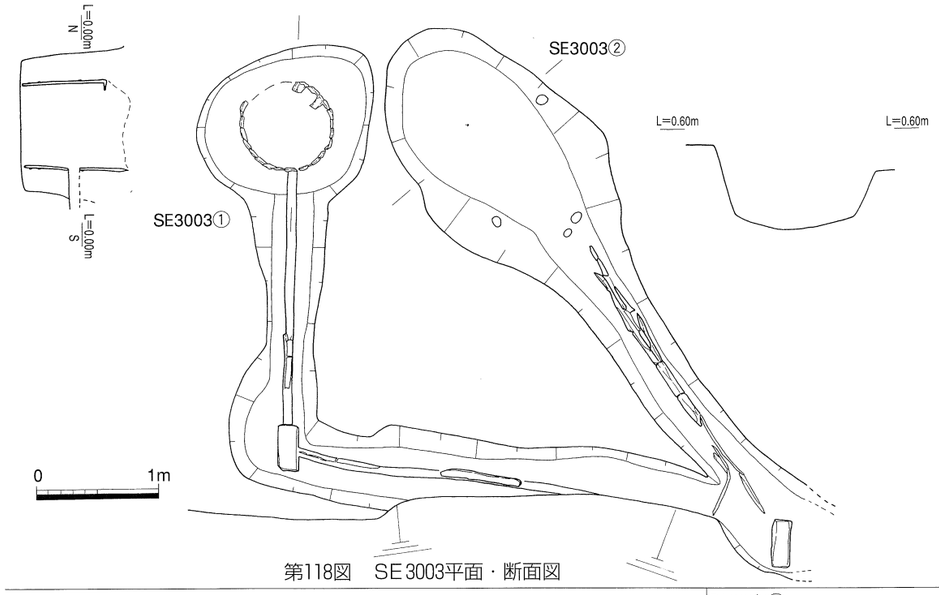
所属時期は，配水先のSE3003－①の存続時期やSB2001（門）との配置関係から，18世紀前葉～19世紀前葉の所産と考えられる。但し，SE3003－①に先行する可能性のあるSE3003－②の存在やSD2006（17世紀末葉）に先行する前後関係を示すこと，さらにSD3004の断面観察（第17図）からは，屋敷地の整備段階（17世紀中葉）に伴う整地とSD3004の埋設が関連するようにも認められることから，本来の上水施設の設置は17世紀代に遡る可能性が考えられる。

SD3004，3006出土遺物（第119～121図）

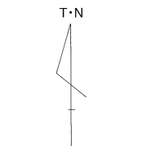
出土遺物は，少量でコンテナに1/4以下であった。１～６はSD3004の出土遺物である。１は肥前系陶器小坏で，高台部は露胎である。２は絵唐津向付である。見込には４箇所の胎土目及び鉄絵が認められる。３は肥前系磁器蓋である。４は瀬戸・美濃系陶器碗である。５・６は備前擂鉢である。７は軒丸瓦で，SD3006より出土した。

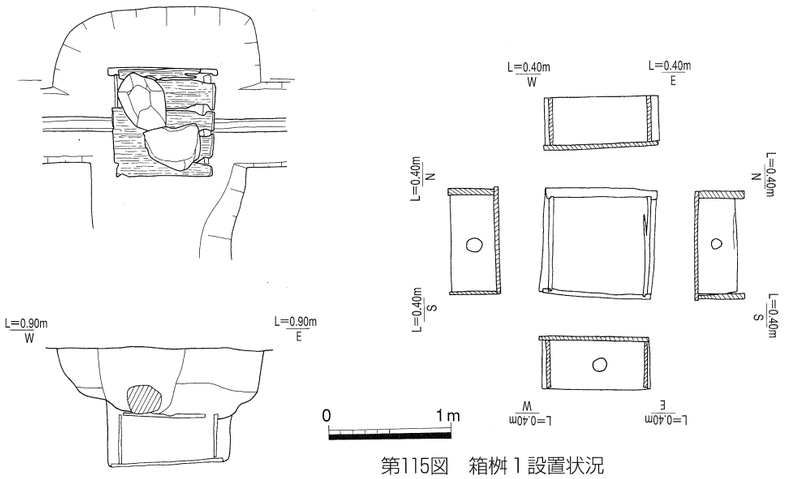
竹樋は遺存状態が悪く取り上げ不可能であったが，その他については取り上げを行い継手及び木桶の接続部材を図化した。

８～12は竹樋の継手である。８～11が，SD3004より出土した。12は，SD3006の出土品である。小口に鋸，両面に鉋痕を留めるものが多い。接続部は両面からノミにより，円形に空けている。９は小振りで底面には釘痕が見られ，転用材を用いたものかもしれない。11は樋の屈曲部に当たる継手で，側面と正面側から円孔が空けられる。12は柾目に取られる。13はSE3003－①の桶材である。竹樋との接続部に円孔が認められる。

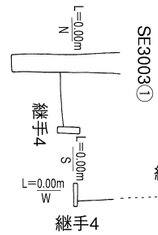


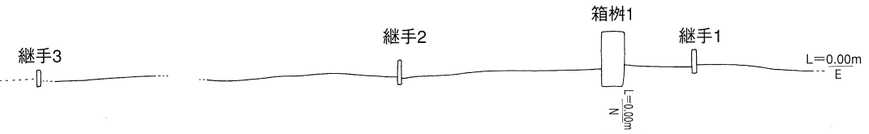
第118図　SE 3003平面・断面図

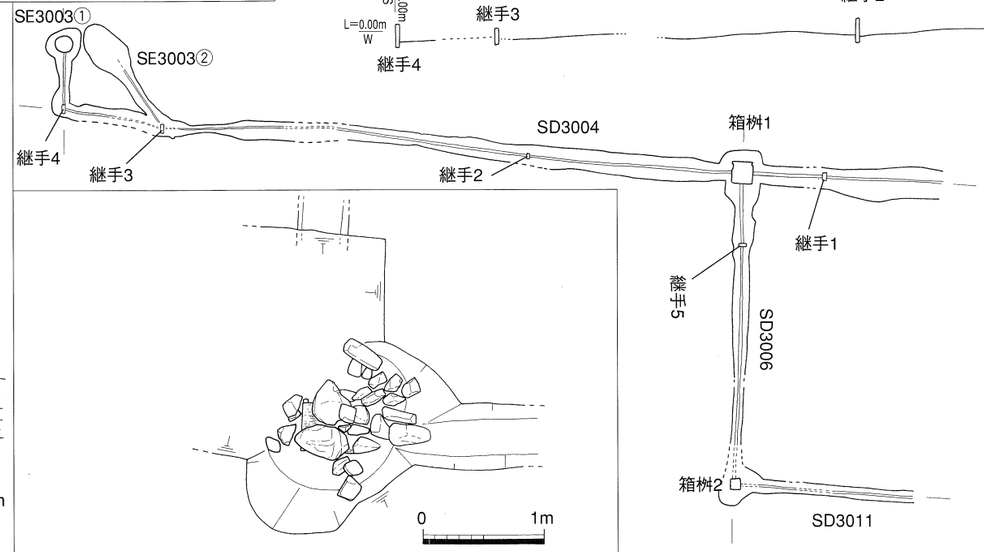


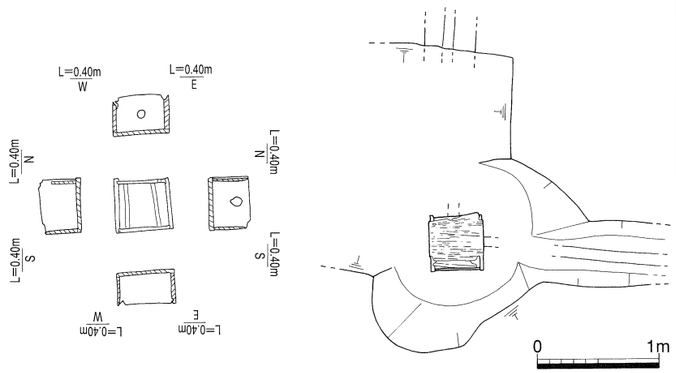


第115図　箱桝１設置状況





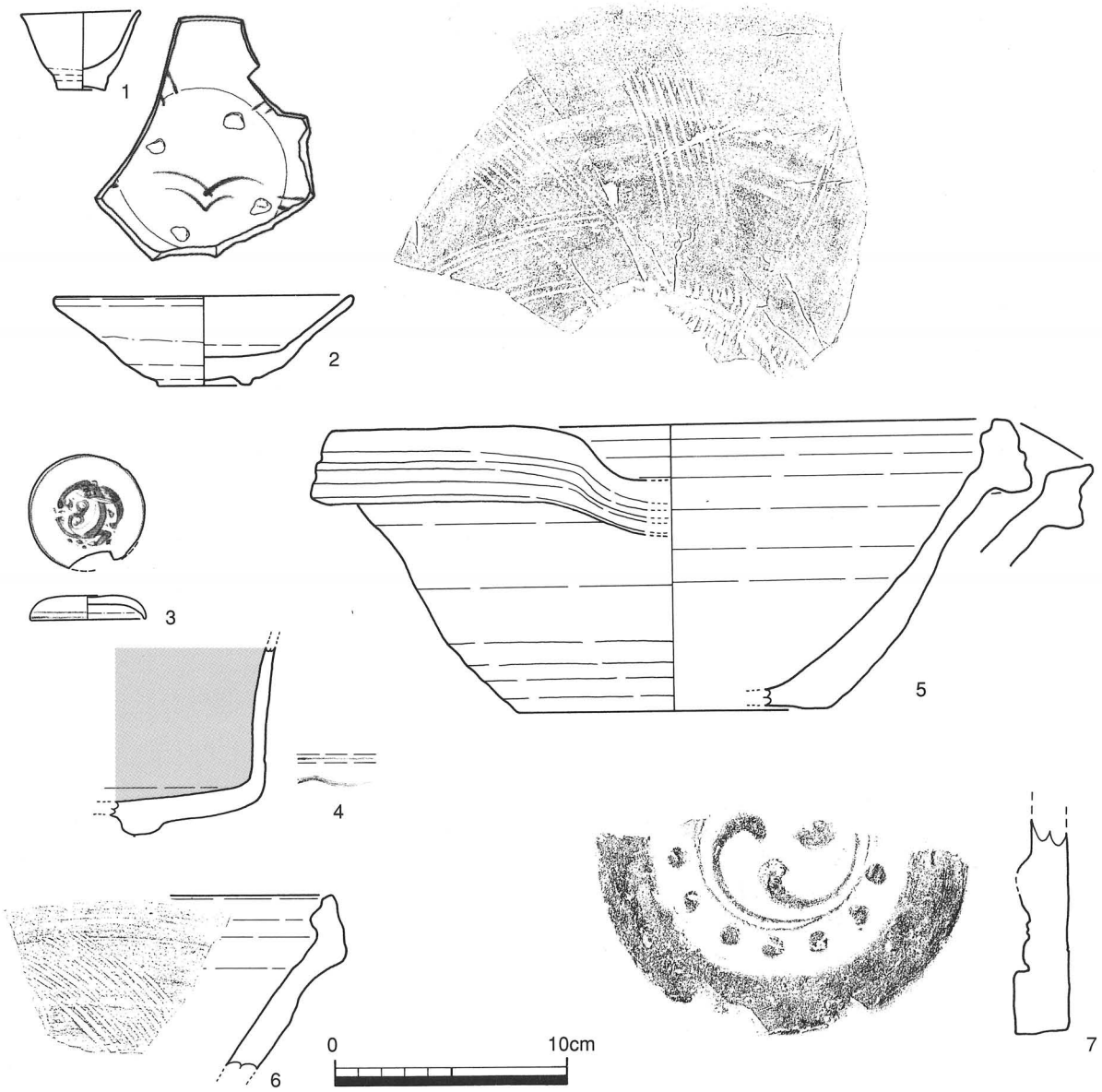




第117図　箱桝２設置状況

第116図　箱桝２検出状況

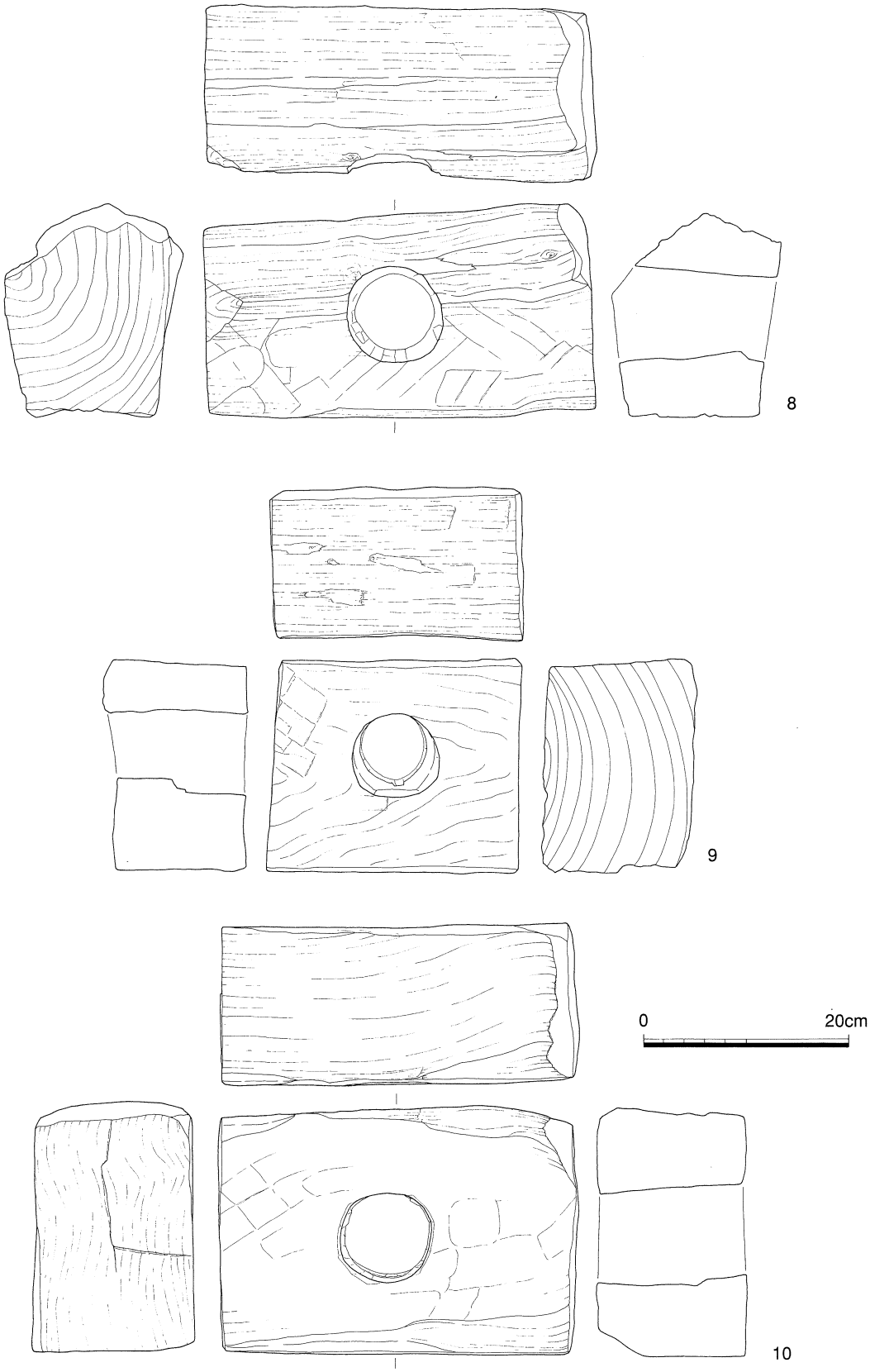
第114図　上水施設平面・断面図



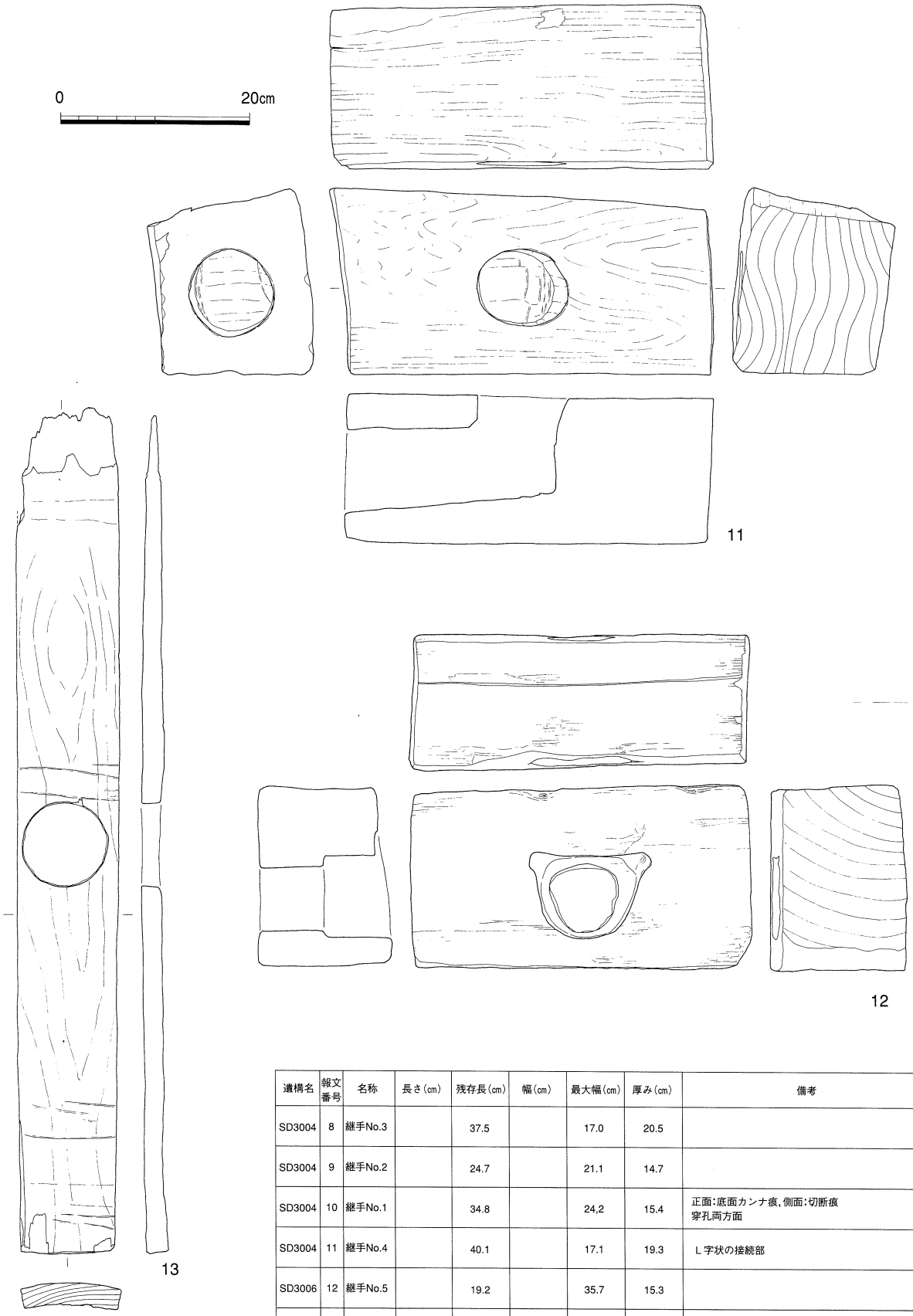
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SD3004	1	磁	小坏	肥前	口:5.1 高:3.4 底:2.0	細	灰白10YR8/2	淡黄2.5Y8/3				
SD3004	2	磁	皿	肥前	口:12.6 高:3.8 底:4.0	細	灰白10YR8/2	にぶい黄橙10YR6/3	鉄絵:		大橋I-2期	内面見込みに胎土目4ヶ所
SD3004	3	磁	蓋	肥前	底:4.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SD3004	4	陶	碗	瀬・美		細	灰白N8/0	明オリーブ灰2.5GY7/1				
SD3004	5	磁	擂鉢	備前	口:28.9 高:12.3 底:13.3	細		外面:赤10R4/6 内面:赤褐10R4/3			近世Ⅱ期	高台畳付に砂粒付着
SD3004	6	磁	擂鉢	備前		細	暗赤7.5R3/4	極暗赤褐2.5YR2/4			近世Ⅱ期	

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SD3006	7	軒丸瓦	—	—	—	砂礫少	灰白N7/0	灰白N5/0			良	巴

第119図　上水道出土遺物実測図・観察表（その1）



第120図　上水道出土遺物実測図（その２）



遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考
SD3004	8	継手No.3		37.5		17.0	20.5	
SD3004	9	継手No.2		24.7		21.1	14.7	
SD3004	10	継手No.1		34.8		24,2	15.4	正面:底面カンナ痕,側面:切断痕 穿孔両方面
SD3004	11	継手No.4		40.1		17.1	19.3	L字状の接続部
SD3006	12	継手No.5		19.2		35.7	15.3	
SD3006	13	井戸枠		68.0		10.4	2.6	

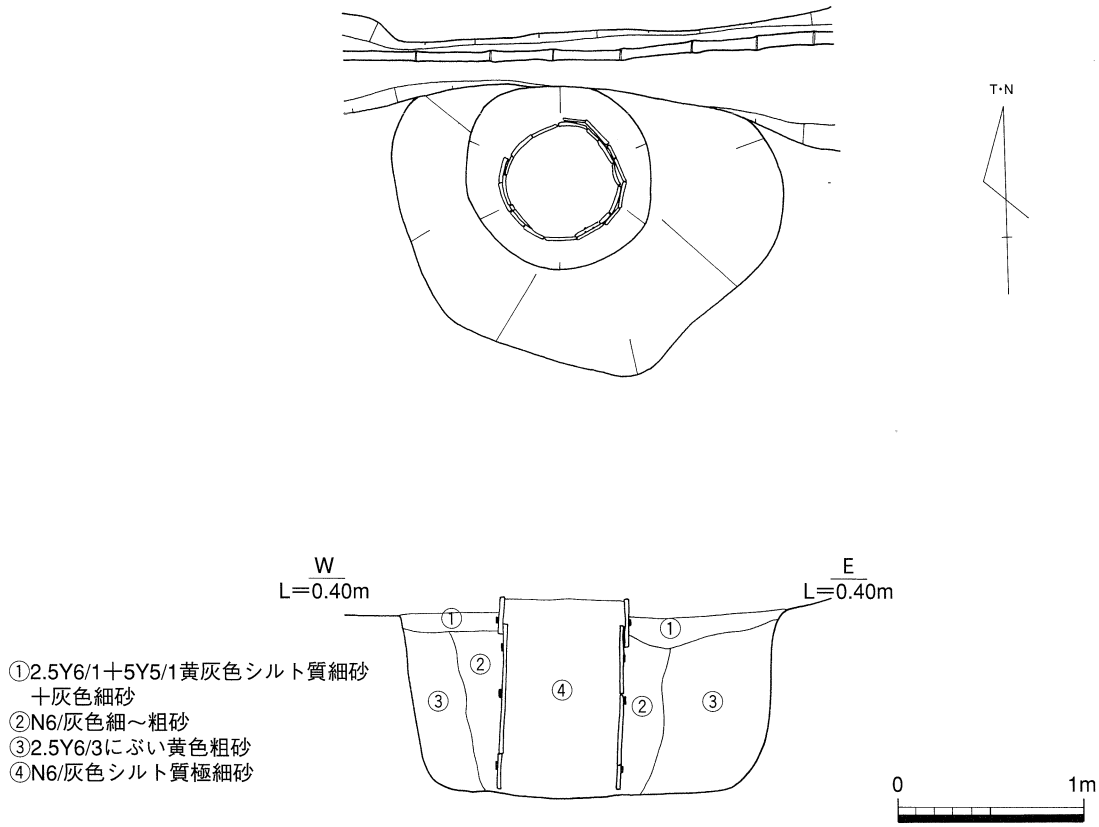
第121図　上水道出土遺物実測図・観察表（その３）

SE 3002（第122図）

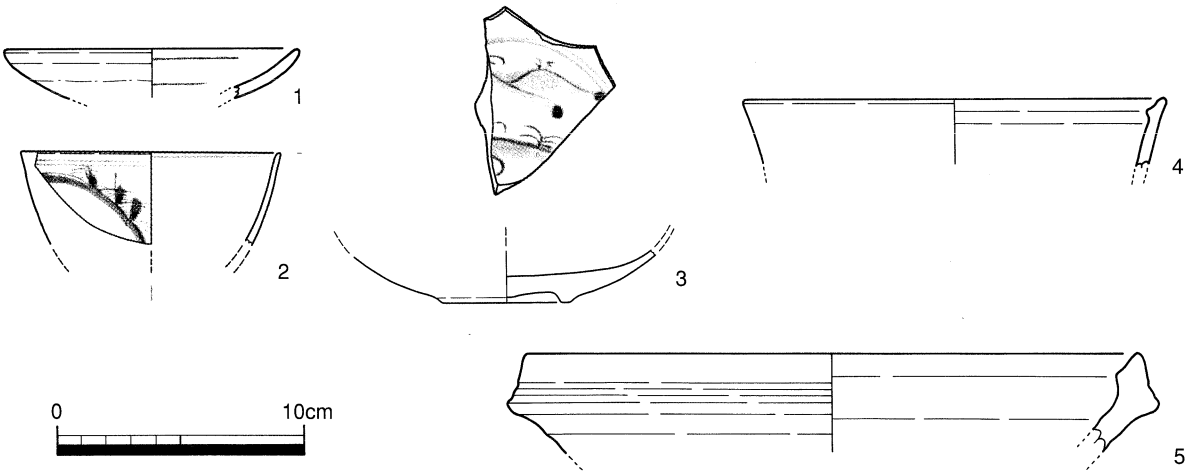
C区，SX3001の底面で確認した井戸である。検出した標高は0.21～0.28m，底面の標高は－0.8m前後を測る。検出長は東西方向で約2.1m，南北方向で約2mを測る。平面の形状は円形で，井側は2段の木桶である。湧水は下段の中位で認められた。上段の桶はSX3001下層部で確認され，その底面で平面プランを検出した。検出時では，重複関係のあるSD3004（竹樋）に後出する円形の遺構であり，木桶を中心に据えた段堀り状の井戸として認められた。しかし①，②層掘削時に基盤層と考えた砂礫層（③層）は，掘り方の埋土と分かり，③層を切り込むSD3004が検出された。SD3004との横断面を作成していないため明確性には欠けるが，SE3002が先に開削され，後出してSD3004が設置される。この後，井側の付替え等が行われたと推察している。上水道との前後関係が不明瞭で本来の設置時期が不明となったが，各遺構が接して設置されているにもかかわらず，井側，樋とも壊された状況が認められないことから，同時期に機能していたと推定される。所属時期は，出土遺物より17世紀中葉以降で，SX3001が埋没する19世紀前葉の所産と考えられる。

SE 3002 出土遺物（第123図）

出土遺物は少量であった。1は肥前系陶器皿である。内面に簡略な鉄絵を描く。2は肥前系磁器碗。3は肥前系磁器皿で，初期伊万里と考えられる。4は産地不明の陶器花生。同形品或は同一個体と考えられる固体がSX3004（第67図11）に認められる。5は，備前擂鉢である。



第122図　SE 3002平面・土層図



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SE3002	1	陶	皿	肥前	口:11.5	細	にぶい橙7.5YR7/4	灰白N8/0	鉄絵:		大橋Ⅲ期	
SE3002 上水道	2	磁	碗	肥前	口:10.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅲ期	
SE3002	3	磁	皿底部	肥前	口:4.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色		大橋Ⅱ期	初期伊万里 高台畳付に砂粒付着
SE3002 上水道	4	陶	口縁部		口:16.7	細	暗赤褐2.5YR3/4	外面:黒N2/0 内面:にぶい黄2.5Y6/4				
SE3002 上水道	5	陶	擂鉢	備前	口:24.4	細		外面:赤褐10R4/4 内面:赤10R5/6		内外:ロクロナデ		

第123図　SE3002出土遺物実測図・観察表

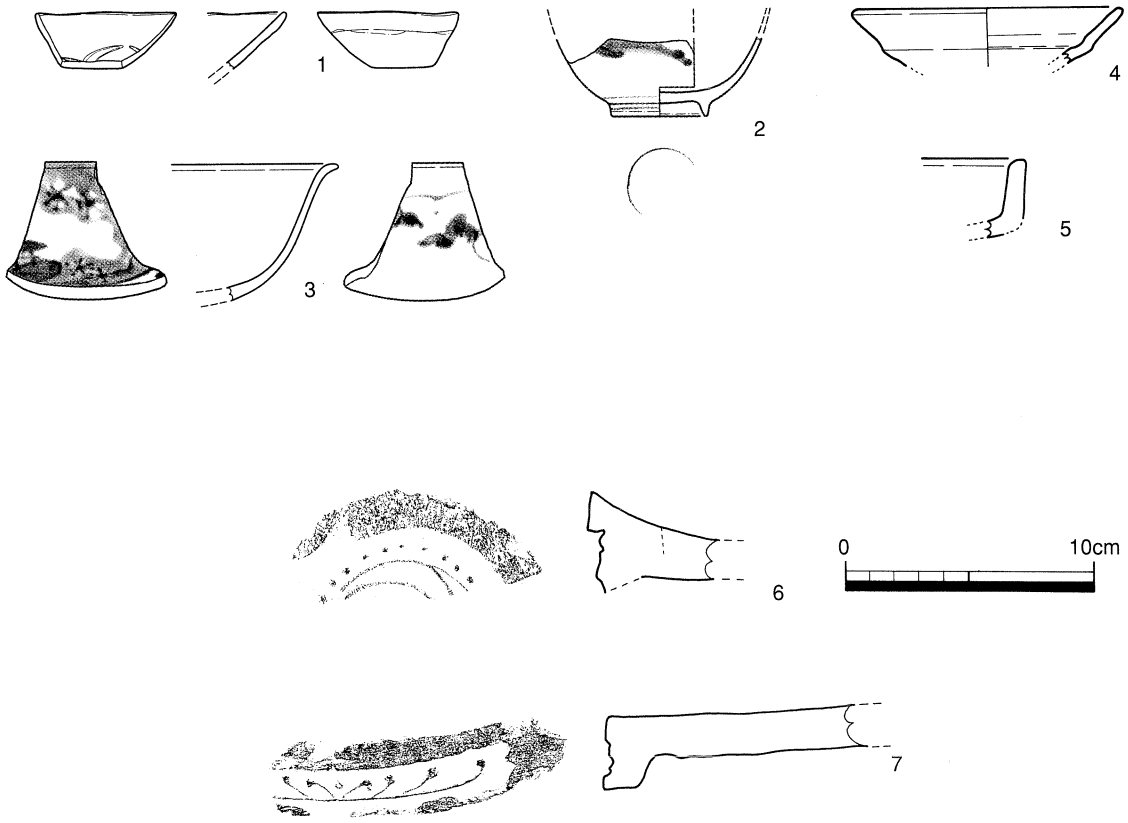
SE3003（第118図）

D区の東端部，第3面で確認した2基の上水道に伴う井戸である。西側をSE3003－①，東側をSE3003－②とした。検出した標高は0.22～0.55m，底面の標高はSE3003－①が－0.5m前後，SE3003－②が－0.2m前後を測り，双方とも湧水が認められた。掘り方の規模は，SE3003－①が約1.4m，SE3003－②が約1.3mの円形と考えられるが，SE3003－②はSD3004との境が不明瞭でやや楕円形のプランである。双方ともSD3004（上水道）に連続し認められるが，継手の向きや井側の遺存状況からSE3003－①が後出，或いは長期間使用されたと考えられる。SE3003－①は木桶が一段遺存しており，板材の中位を円形に刳り貫き，竹樋と接続している。また底板が存在せず湧水が十分得られる状況からは，上水と湧水の双方を水源とした可能性が考えられる。SE3003－②には井側は遺存せず，掘り方の壁面及びSD3004接続箇所に杭が打たれていた。

双方とも元来，池状遺構と推定されるSX3001（SX2008）の西端部に位置し，その関連が推察される。SE3003－①のみ出土遺物が認められ，所属時期はこれにより18世紀前葉～19世紀代の所産と考えられる。池状遺構との関連からすれば，同遺構が廃棄される19世紀前葉までの存続時期が推定される。

SE 3003出土遺物（第124図）

1は肥前系陶器皿で，銅緑釉を施す。2は肥前系磁器碗である。高台部は，やや幅が狭く低いもので，断面がU字形となっている。3は肥前系磁器鉢で，漆による焼継痕が認められる。4は土師質土器皿である。5は関西系焙烙の口縁部と考えられる。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	製作年代	備考
SE3003	1	陶	皿口縁部	肥前		細	灰白10YR7/1	外口・内：暗オリーブ灰2.5GY3/1、外下：灰黄2.5Y6/2			大橋Ⅲ期	
SE3003掘方	2	磁	碗底部	関西系？	底：3.7	微	灰白色	内外：透明釉	呉須：コバルト		大橋Ⅲ期	
SE3003掘方	3	磁	鉢	肥前		微	灰白色	内外：透明釉	呉須：淡・暗青色		大橋Ⅲ期	
SE3003	4	土師質	皿		口：10.5	細	にぶい黄橙10YR7/4	内外：にぶい黄橙10YR7/4		内外：ロクロナデ		
SE3003井戸内	5	土師質	焙烙口縁部			微砂粒	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		内面：ロクロナデ		関西系焙烙

遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ（現存長）	厚さ	幅（現存幅）		断面	器面	内面	外面		
SP3163	6	軒丸瓦	―	1.6	―	砂礫	灰白2.5GY8/1	灰N4/0		板ナデ	良	巴
SP3163	7	軒平瓦	11.0	1.6	13.6	砂礫	灰白2.5Y7/1	暗灰N3/0	―	―	良	被熱？

第124図　SE 3003・SP 3163出土遺物実測図・観察表

SP3163（第６図）

Ｃ区西部，第３面で確認したピットである。検出した標高は0.85ｍ前後，底面の標高は0.5ｍ前後を測る。径約0.5ｍの円形である。

SP3163出土遺物（第124図）

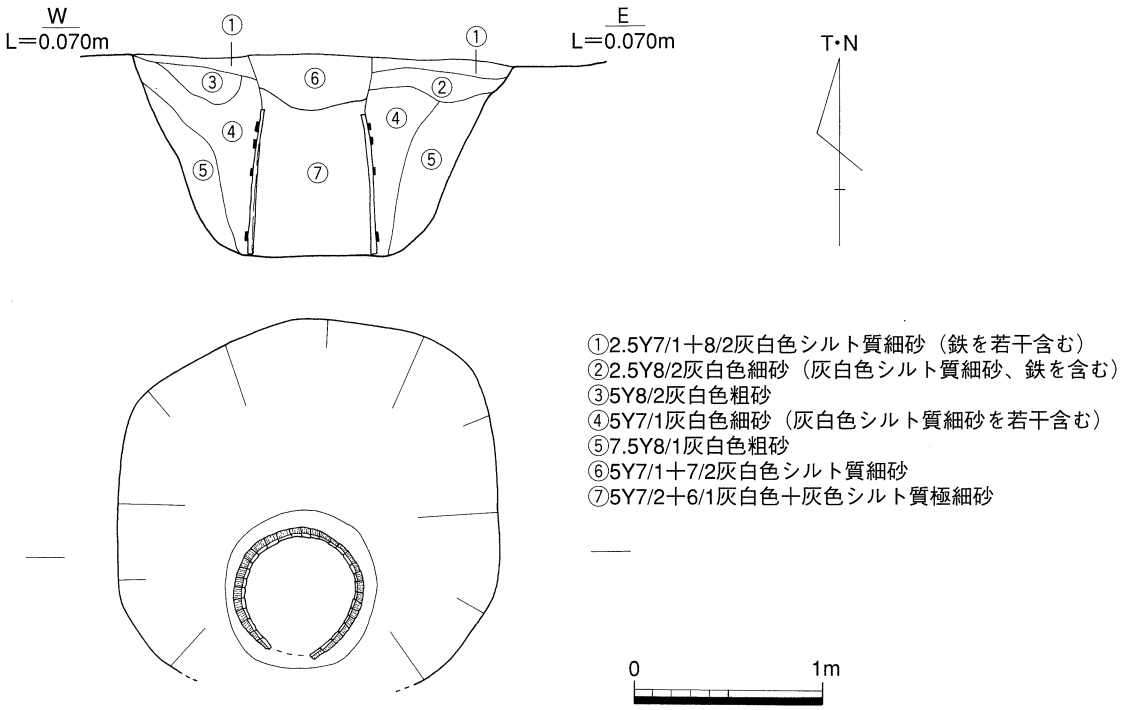
６は軒丸瓦。７は軒平瓦である。

SE3001（第125図）

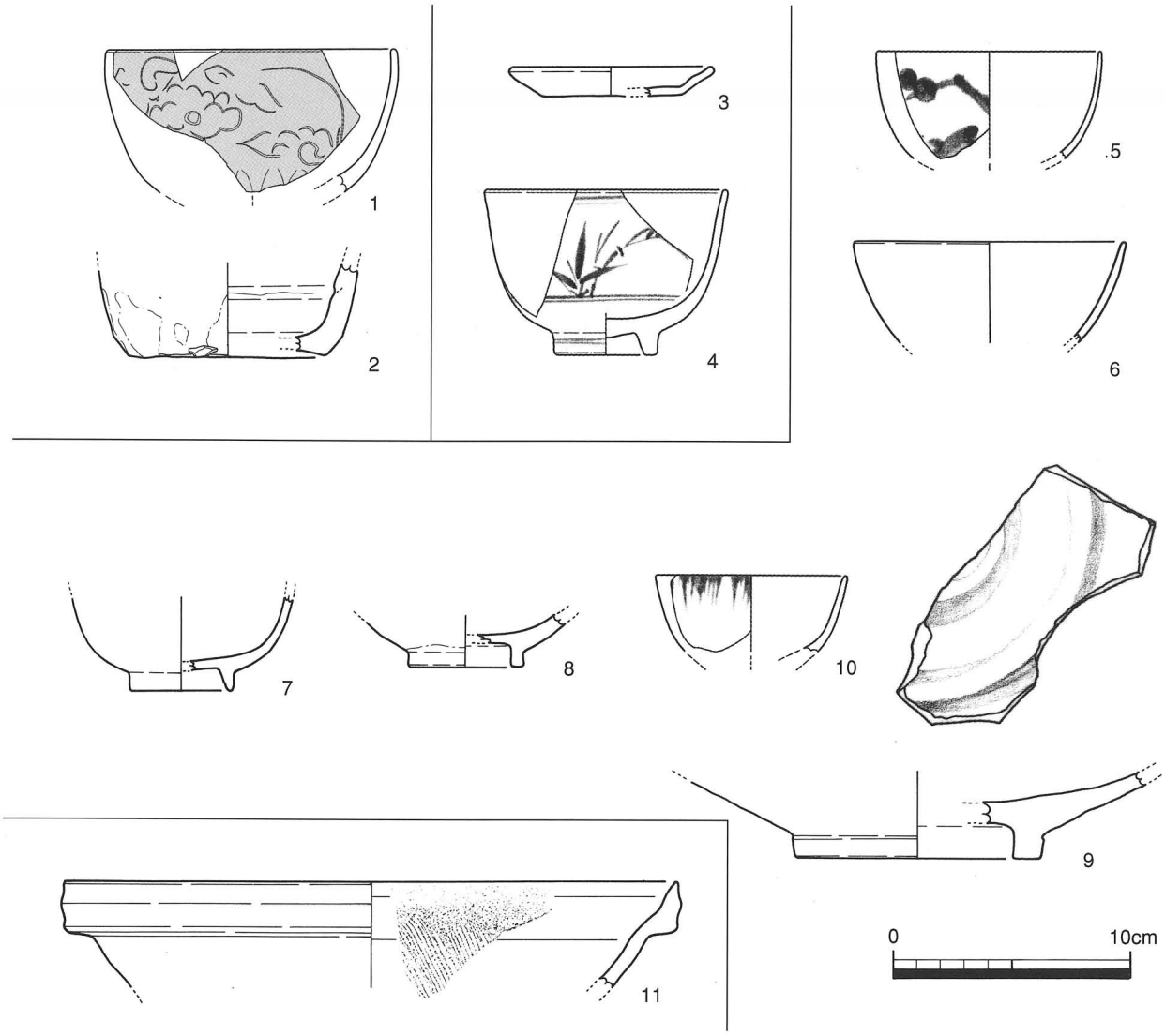
Ａ区，第４面で確認した井戸である。検出した標高は0.48～0.54ｍ，底面の標高は－0.5ｍ前後を測る。検出長は東西方向で約２ｍ，南北方向で約２ｍを測る。南端部は試掘坑により壊される。平面の形状は，円形若しくは隅丸方形である。木桶の井側は，掘り方の中心より南部に設置される。断面は掘り方が擂鉢状で，④・⑤層で井側を留める。⑥層は抜き取り痕と考えられ，少なくとも２段の井側を有していたと推定される。SX4001より後出し，埋土上面に共通の整地（17世紀中葉比定）が覆うことから，同時期の廃絶が考えられる。先行するSX4001の所属時期（17世紀前半）や遺物がほぼ皆無な状況から，短期間の存続時期が推定される。

SE3001出土遺物（第126図）

出土遺物は，数点のみであった。１は中国産青磁である。２は備前陶器の底部である。



第125図　SE3001平面・土層図



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SE3001 掘方	1	磁	碗	中国	口:12.0	微	灰白色	内外:明緑灰	内外:明緑灰	外面:線刻,鎬	13～14c	漆による焼継ぎ痕
SE3001 掘方	2	陶	底部	備前	底:8.3	微砂粒無	灰白2.5Y7/1	青黒10BG1.7/1				
SD3001	3	土師質	皿		口:8.2 高:1.3 底:5.7	細		外面:灰白5YR8/2 内面:にぶい黄橙10YR7/2		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面に煤付着,被熱痕
SD3001	4	磁	碗	肥前	口:10.5 高:6.95 底:4.1	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色	外面:竹	大橋Ⅱ-2期	
SP3328	5	磁	碗	肥前	口:9.35	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明青色			
SP3328	6	磁	碗	肥前	口:11.2	細	灰白N8/0	白				色絵素地?
SE3006	7	陶	碗	肥前	底:4.2	細	灰白2.5Y7/1	赤黒10R1.7/1				
SE3006	8	陶	皿	肥前	底:4.7	細	灰黄2.5Y7/2	浅黄5Y7/4		外底:ケズリ		京焼風
SE3006	9	陶	皿	肥前	底:10.2	微	にぶい赤褐2.5YR4/4	白		外面:ケズリ	大橋Ⅳ期	
SE3006	10	磁	碗	肥前	口:8.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:雨降り文	大橋Ⅳ期	
SP3006	11	陶	擂鉢	備前	口:25.5	微砂粒	暗赤灰10R3/1	暗赤灰10R3/1		内外:ロクロナデ 外面:自然釉		

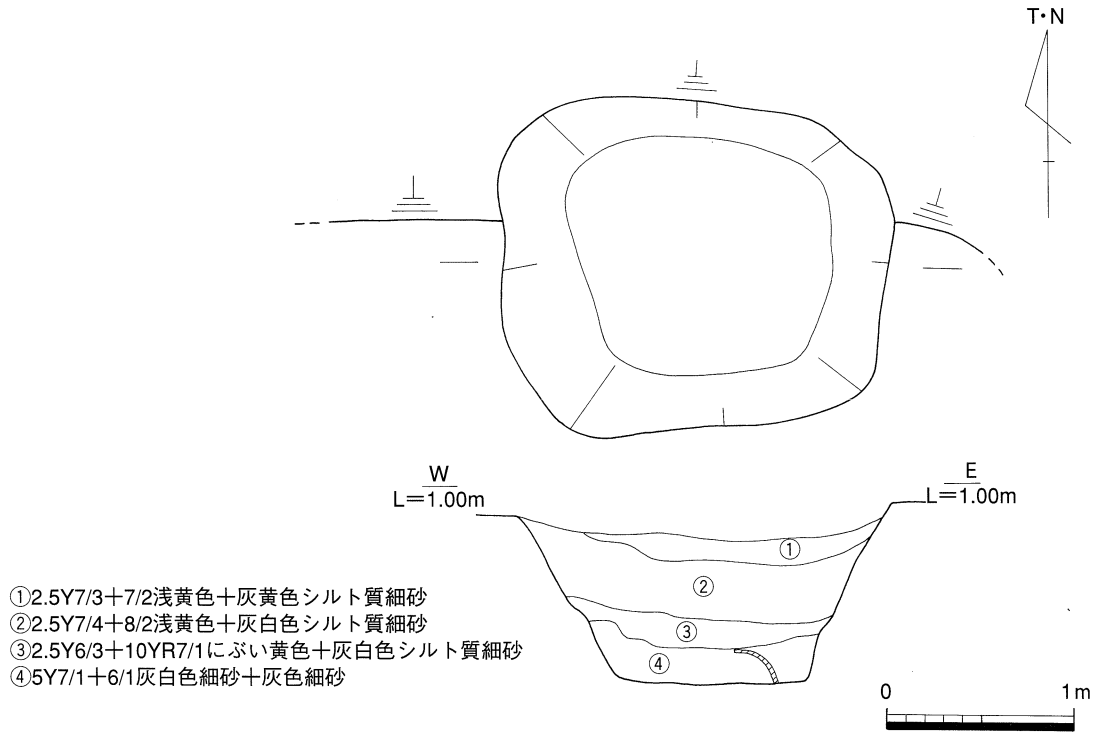
第126図　SE3001・SD3001・SP3328・SE3006出土遺物実測図・観察表

SE 3006（第127図）

A区の北端部，第３面で確認した井戸状の遺構である。検出した標高は0.80～0.89m，底面の標高は－0.2m前後を測り，17世紀中葉に比定される整地を基盤としている。検出長は，東西方向で約2.1m，南北方向で約1.7mを測る。平面は隅丸方形となるが，北半は撹乱面及び上位面で確認されたSX2006に壊されている。湧水は，底面付近で認められた。断面形状は底面がほぼ平坦で，器壁は③層付近で小さな段部を有し，斜め上方に伸びる。埋土は，ほぼ水平状に堆積している。所属時期は，出土遺物より17世紀後半～18世紀前半と考えられる。

SE 3006出土遺物（第126図）

遺物はコンテナに1/4程度出土した。７・８は，肥前系陶器碗の底部である。９は肥前系陶器の底部である。10は肥前系磁器碗で，雨降り文が認められる。



第127図　SE 3006平面・土層図

SP 3328（第６図）

A区東部，第３面で17世紀中葉に比定される整地を基盤とし検出されたピットである。検出した標高は1.00m前後，底面の標高は0.85m前後を測る。径約0.14mの円形である。

SP 3328出土遺物（第126図）

５・６は，肥前系磁器碗である。

SP3006（第６図）

Ａ区北端部，第３面で17世紀中葉に比定される整地を基盤とし検出されたピットである。検出した標高は0.88ｍ前後，底面の標高は0.68ｍ前後を測る。南北方向に約0.5ｍ，東西方向に約0.4ｍを測り，形状は楕円形である。

ＳＰ3006出土遺物（第126図）

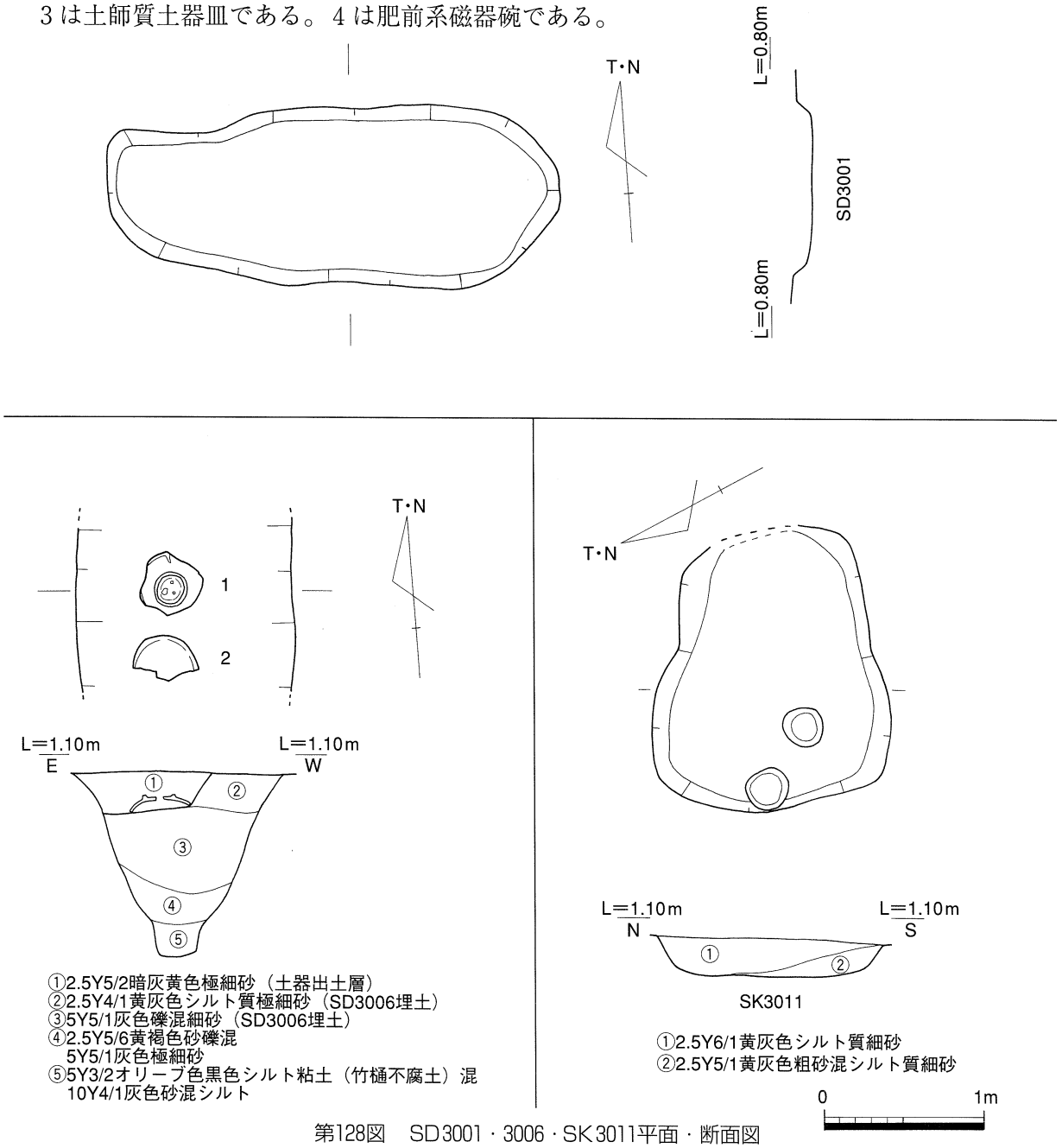
11は備前擂鉢である。

SD3001（第128図）

Ｂ区南東隅，第３面で17世紀中葉に比定される整地を基盤としで検出した溝状の遺構である。検出した標高は0.61～0.68ｍ前後，底面の標高は0.55ｍ前後を測る。

ＳＤ3001出土遺物（第126図）

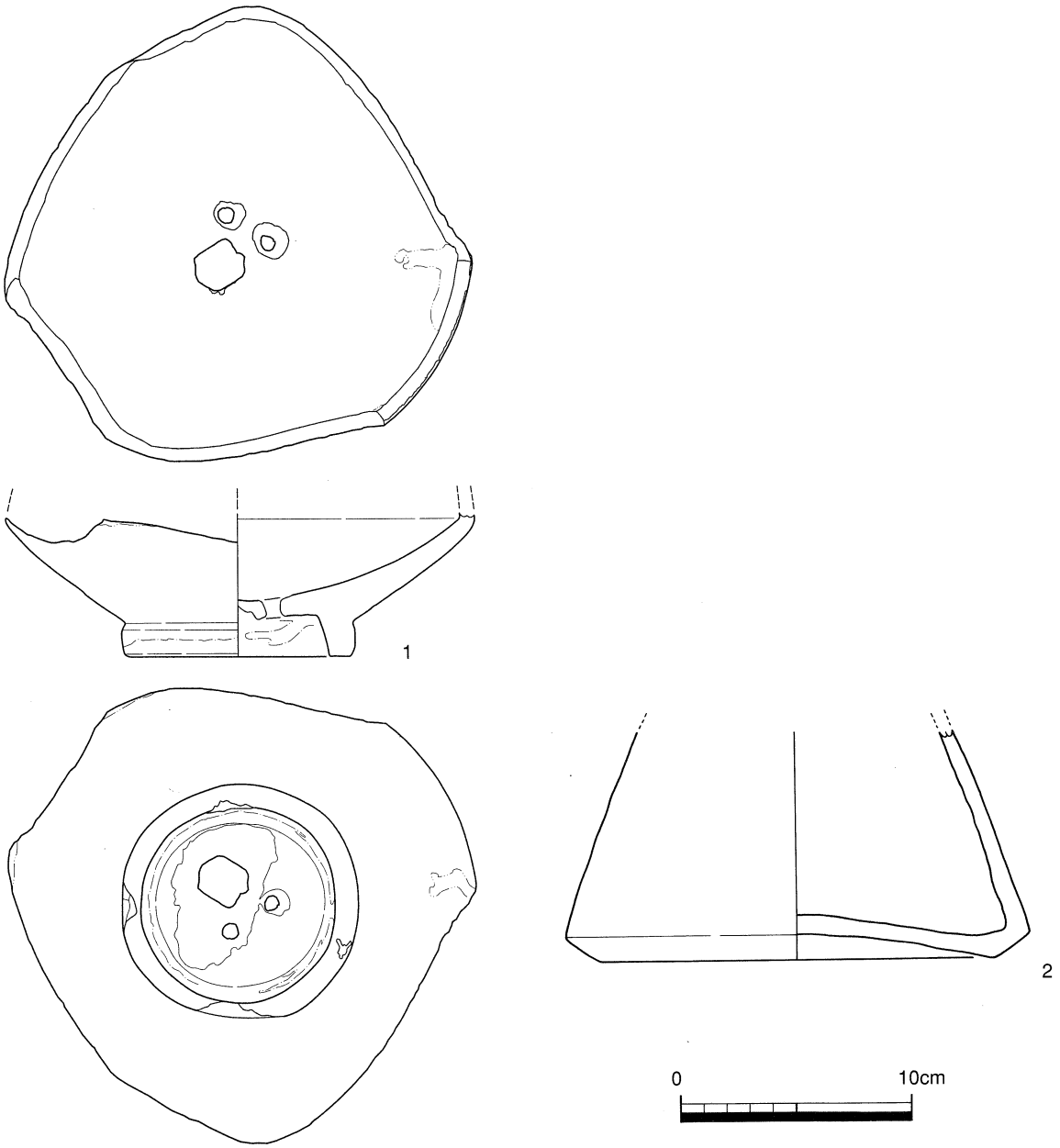
３は土師質土器皿である。４は肥前系磁器碗である。



第128図　SD3001・3006・SK3011平面・断面図

SD3006上層部埋納遺物（第128・129図）

SD3006上層部検出中に確認された。下位の埋土となる固く締まった砂礫層の上面に，鉢形の陶器が伏せられた状態で確認された。北側の陶器の底部には，穿孔が認められる。性格は不明で，上水設置時或は改修時の所産と推定されるが，上位面のSB2001（門）の中央部に位置するP－4の直下に位置し，その関連が推察される。所属時期は出土遺物から，18世紀前葉頃の所産と考



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	製作年代	備考
SD3006	1	陶	鉢底部	肥前	底:9.3	細	赤10R4/8	内外:白2.5Y8/1		外面:直線的な刷毛目	大橋Ⅳ期	刷毛目唐津,底部に2ヶ所　穿孔有
SD3006	2	陶	底部	備前	底:16.7	細	暗赤褐10R3/3	赤10R4/6		内外:ロクロナデ 外底:ナデ		

第129図　SD3006上層部埋納遺構遺物実測図・観察表

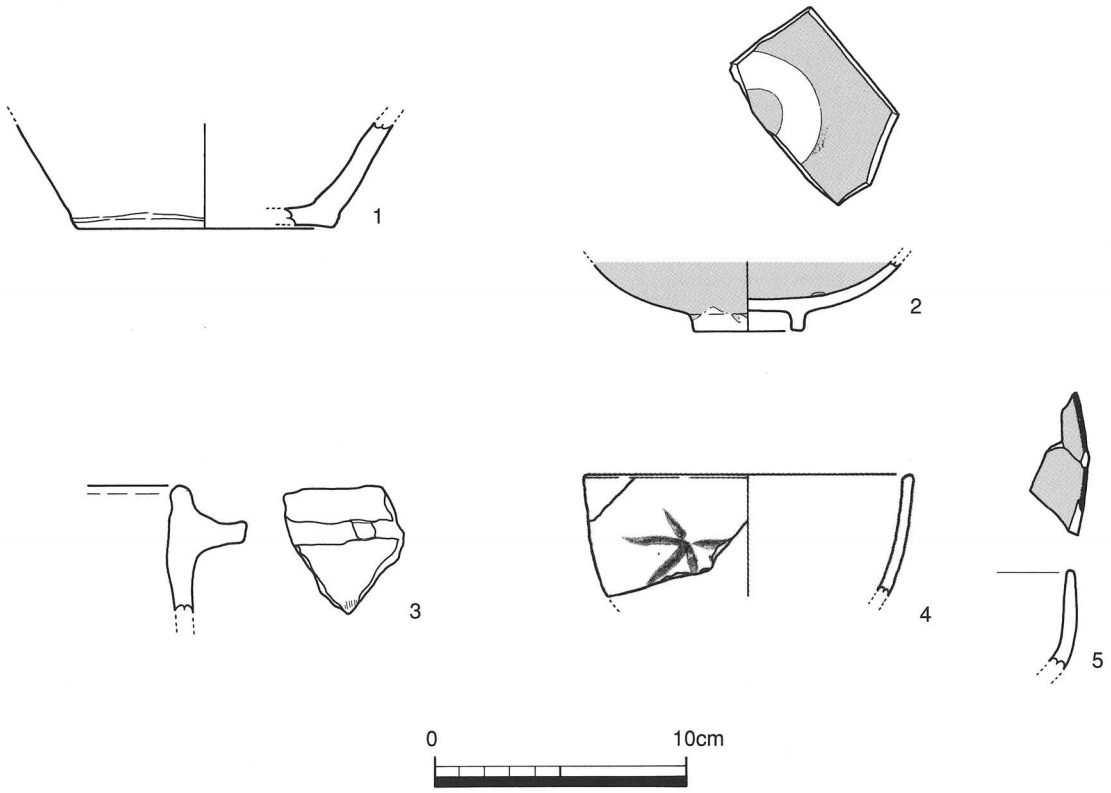
えられる。１は肥前系陶器で鉢形に推定される。内面鉄釉で，内外面上端に白土が認められる。高台外側の削り落としは見られない。高台内には焼成後の穿孔が３箇所認められる。２は備前の花生と考えられる。器壁は薄く，外面は塗り土のため暗赤褐色を呈する。

SK 3011（第128図）

Ｃ区北端部，第３面で17世紀中葉に比定される整地を基盤とし検出された遺構である。検出した標高は0.67～0.88ｍ前後，底面の標高は0.64ｍ前後を測る。南北方向で約1.3ｍ，東西方向で約1.6ｍを測り，平面は不整形な方形である。底面にピットが認められる。

SK 3011出土遺物（第130図）

２は肥前系磁器青磁皿である。



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調１(胎土)	色調２(釉薬、内外色調)	色調３(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SP3318	1	須	壺		底:10.1	細	灰N6/0	灰N6/0		内外:ロクロナデ		
SK3011	2	磁	皿	肥前	底:4,2	細	白	明緑灰5G7/1			大橋Ⅲ期	青磁,見込みの一部に砂目
SP3258	3	土師質	羽釜			石英・長石多	灰白7.5YR8/2	灰白7.5YR8/2				
SP3249	4	陶	碗		口:12.7	細	灰白2.5Y8/2	白	鉄絵			京焼？
SP3249	5	磁	皿			細	白	明緑灰10GY7/1				青磁 多角形皿？

第130図　SP3318・SK3011・SP3258・3249出土遺物実測図・観察表

SP3318（第６図）

Ｃ区中央部，第３面ＳＸ3002底面で検出したピットである。検出した標高は0.43ｍ前後，底面の標高は0.27ｍ前後を測る。径約0.3ｍの円形である。

SP3318出土遺物（第130図）

１は須恵器壺底部である。

SP3258（第６図）

Ｄ区西端部，第３面で自然堆積層を基盤として検出したピットである。検出した標高は0.85ｍ前後，底面標高は0.59ｍ前後を測る。径約0.24ｍの円形である。

SP3258出土遺物（第130図）

３は土師質土器羽釜口縁部である。

SP3249（第６図）

Ｄ区北端部，第３面で検出したピットである。検出した標高は0.55ｍ前後，底面の標高は0.41ｍ前後を測る。北部が調査対象外であるが，径約0.3ｍの円形と考えられる。

SP3249出土遺物（第130図）

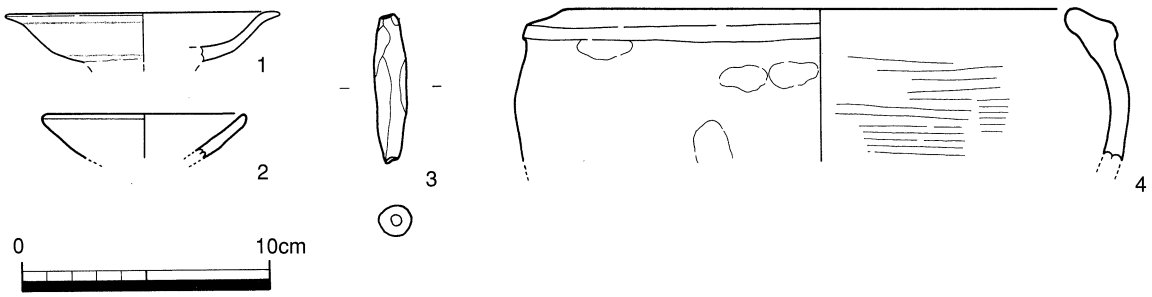
４は産地不明の陶器碗。５は青磁皿の口縁部である。口錆が施される。

SE3007（第132図）

Ｆ区の南部で確認した井戸状の遺構である。検出した標高は0.86～0.98ｍ，底面の標高は－0.15ｍ前後を測る。検出長は東西方向で約1.6ｍ，南北方向で約2.9ｍを測る。西半が調査対象外であるが，円形の平面形状と考えられる。埋土の堆積状況は，下半の屈曲部まで複雑な堆積を示し，上方では水平状に堆積している。上位面でＳＤ2011が開削されるが，この間に整地層と考えられる30層が認められ，ある程度の時期差が想定される。所属時期は，上位面との関連及び若干ながら出土した遺物より17世紀中葉までの所産と考えられる。

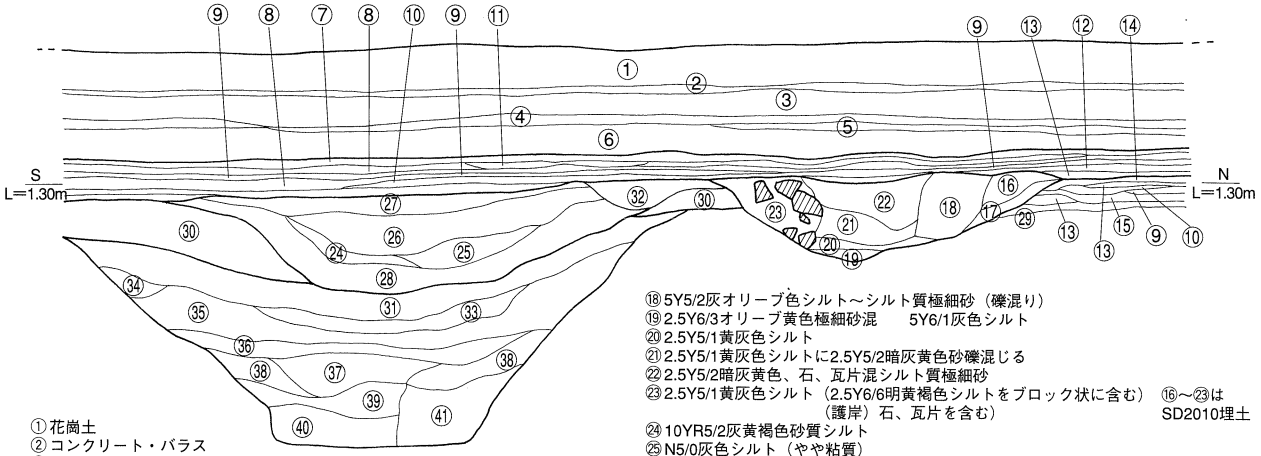
SE3007出土遺物（第131図）

１は漳州窯系青花皿。２は土師質土器皿。３は管状の土錘。４は土師質土器把手鍋である。

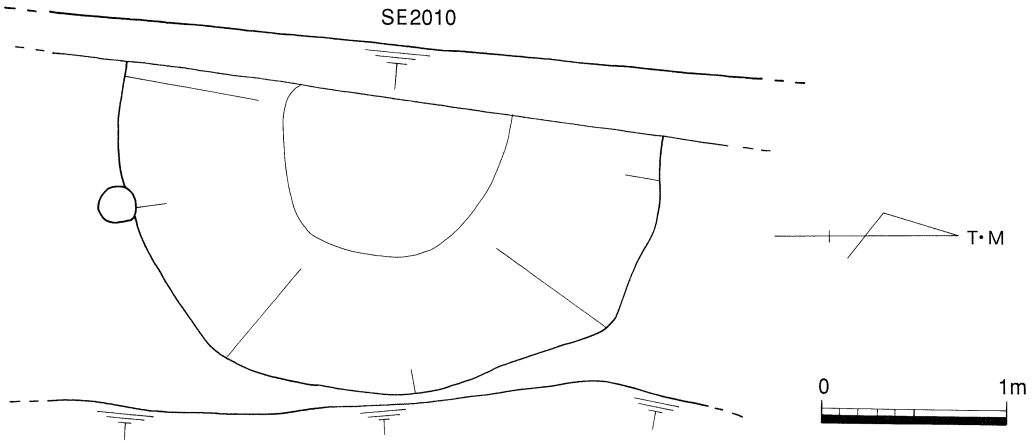


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調１(胎土)	色調２(釉薬、内外色調)	色調３(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SE3007	1	磁	皿	中国	口:10.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			漳州窯
SE3007	2	土師質	皿		口:8.0	微	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		内外:ロクロナデ		灯明皿
SE3007	3	土師質	土錘		口:5.9 巾:1.2 厚:1.2	微砂粒	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6				
SE3007	4	土師質	把手付鍋		口:20.1	微砂粒	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3		内外:ロクロナデ,外面:煤付着,指押さえ,内面:ハケメ		

第131図　SE3007出土遺物実測図・観察表



①花崗土
②コンクリート・バラス
③2.5Y5/1灰色小石混シルト（コンクリート塊を含む）
④アスファルト（ジャリ）
⑤10Y5/2オリーブ灰色礫混細砂（一部焼土層を含む）
⑥5Y4/1灰色シルト～シルト質粘土（5Y6/4オリーブ黄色土をブロック状に含む）
⑦2.5Y4/1黄灰色石・瓦片混シルト
⑧2.5Y6/4にぶい黄色細砂
⑨5Y3/1オリーブ黒色石混シルト～シルト質粘土
⑩5Y3/2オリーブ黒色シルト
⑪5Y3/1オリーブ黒色シルト質粘土（焼土・炭化物を含む）
⑫2.5Y6/4にぶい黄色細砂混　2.5Y5/1黄灰色シルト～シルト質粘土
⑬2.5Y6/4にぶい黄色砂礫
⑭5Y6/2灰オリーブ色細砂　⑦～⑮は道路整地層
⑮5Y6/2灰オリーブ色砂礫
⑯2.5Y6/2灰黄色砂礫混　5Y6/2灰オリーブ色シルト質極細砂
⑰2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
⑱5Y5/2灰オリーブ色シルト～シルト質極細砂（礫混り）
⑲2.5Y6/3オリーブ黄色極細砂混　5Y6/1灰色シルト
⑳2.5Y5/1黄灰色シルト
㉑2.5Y5/1黄灰色シルトに2.5Y5/2暗灰黄色砂礫混じる
㉒2.5Y5/2暗灰黄色、石、瓦片混シルト質極細砂
㉓2.5Y5/1黄灰色シルト（2.5Y6/6明黄褐色シルトをブロック状に含む）（護岸）石、瓦片を含む）　⑯～㉓はSD2010埋土
㉔10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
㉕N5/0灰色シルト（やや粘質）
㉖2.5Y5/2暗灰黄色シルト質極細砂（2.5Y6/6明黄褐色土をブロック状に含む）
㉗2.5Y4/1黄灰色シルト（炭化物を少量含む）
㉘10YR5/2灰黄褐色シルト質極細砂
㉙2.5Y5/2暗灰黄色シルト質極細砂
㉚2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂
㉛2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂（2.5Y7/1灰白細砂をまばらに含む）
㉜2.5Y5/1黄灰色細砂
㉝2.5Y5/1黄灰色シルト質極細砂
㉞2.5Y7/2灰黄色シルト質極細砂
㉟2.5Y5/2暗灰黄色シルト質極細砂　2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂を若干含む
㊱10YR4/1褐灰色シルト質極細砂（粘性あり）
㊲2.5Y6/1＋5Y8/1黄灰色シルト質極細砂＋灰白色細砂
㊳5Y8/1＋5Y8/3灰白色＋淡黄色粗砂
㊴10Y7/1灰白色細～粗砂
㊵10Y7/1灰白色粗砂
㊶10Y7/1＋2.5GY6/1灰白色＋オリーブ灰色粗砂



第132図　SE3007平面・土層図

SX2008・3001（第133・134図）

C区，第2面（SX2008）及び第3面（SX3001）で検出された遺構で，C区中央部に存在した窪み状の遺構を2面にわたって確認したものである。検出した標高は，SX2008が0.63～1.12m，SX3001が0.41～0.69mを測る。底面の標高は，SX2008が0.33～0.41m，SX3001が0.22～0.36mを測る。検出長は東西方向で約13.4m，南北方向で約6.3mである。平面の形状は，西半がやや不整形な長方形で，東半部では南北方向に広く北東方向へと伸びる。

第2面検出時（SX2008）は，埋土の上半が土壁及び瓦片を含んだ堆積層で，下半では多量の瓦，陶磁器が集中して認められ廃棄土坑と想定された。底面は黒褐色を呈した堆積層となり，これを下位に想定していた遺構（SX3002）の埋土とし第2面を終了した。しかし第3面検出時において，西半と東半で埋土が異なることがわかり，また西半部で井側が露出したため別遺構（SX3001）とした。結果SX3001については，上位のSX2008より南に若干広くなるが，基本的にはSX2008の下層部と同様の遺物を多量に含んだ堆積物で充填されており，底面でSE3002，続いてSD3004（竹樋）が検出された。東半では黒褐色土（SX3002埋土）上面で遺構検出を行い，SD3004を検出した。C区中央部に認められる窪地については，以上の様な経過で遺構を確認している。下記の杭列も含めてSX2008・3001と同じ遺構に推定されるが，SX2008の底面が不明瞭なため別番号としている。

所属時期は出土遺物から19世紀前葉までの所産に考えられるが，下記のように底面に杭列を伴い，池等の長期間にわたり開口した施設にも推定される。底面部で検出されたSE3002の所属時期や屋敷の変遷から17世紀中葉が上限に考えられる。

杭列（第134図）

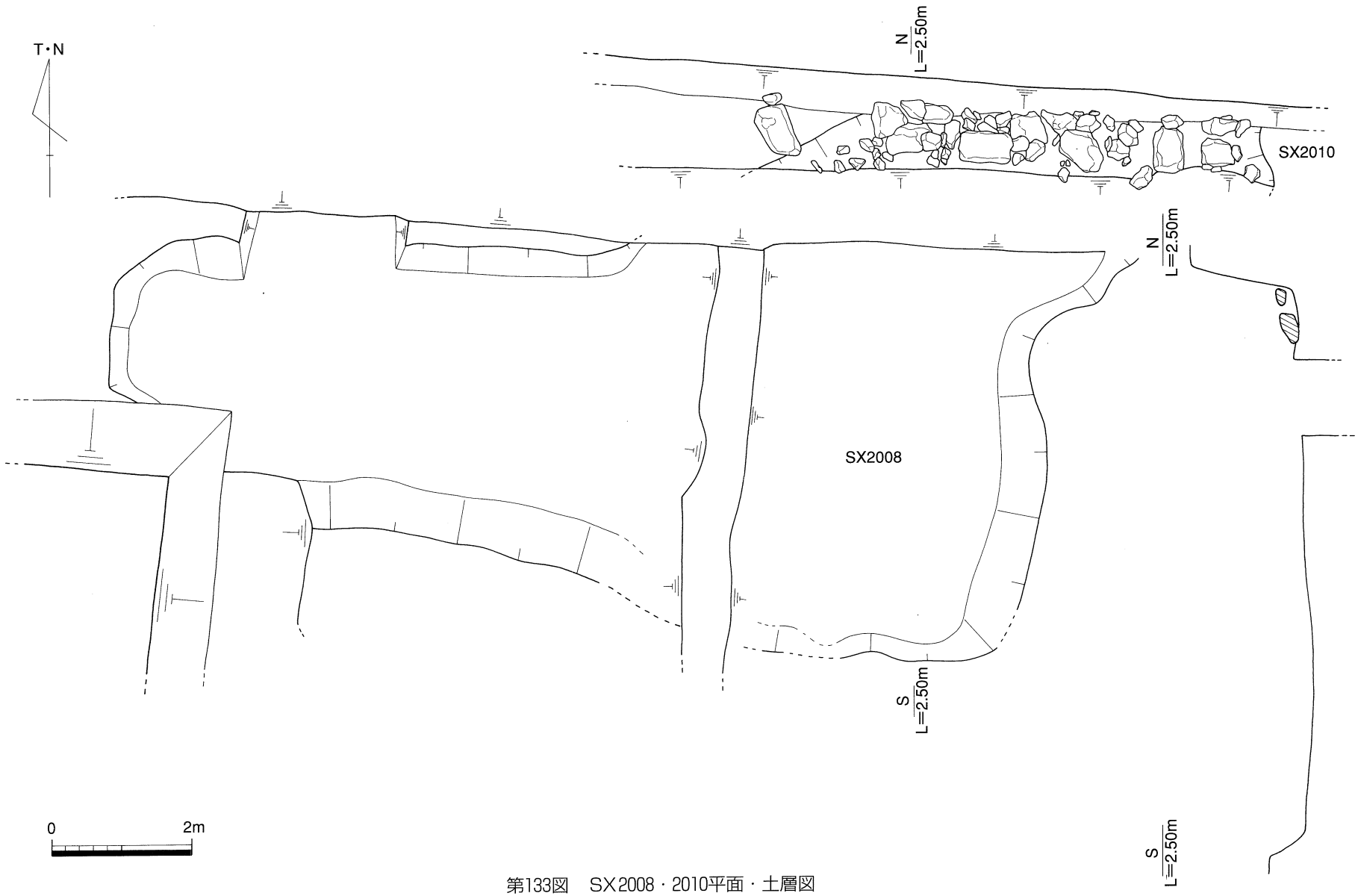
SX3001・3002で確認された杭列である。径が20cm弱のもので，数十cm程度の長さで遺存していた。当初，SX3002に打ち込まれた杭については平面で当遺構のプランと大きく異なり，どの遺構に伴うものか判断できなかった。調査終了後，全体に平面の分布からSX2008の縁辺部に巡ることが分かり，当大形廃棄土坑との関連が想定され，池状の施設が考えられることになった。SX3002で認められた杭を土層図に反映すると，SX2008の埋土に属さず，大半がSX3002の埋土に打ち込まれた状態となる。よってSX3002の埋没以後でSX2008の埋没以前の所産と推定される。また平面の分布でSX2008の東部で南に外れる一群も認められ，改修の可能性が推定される。

SX2008・3001出土遺物（第135～187図）

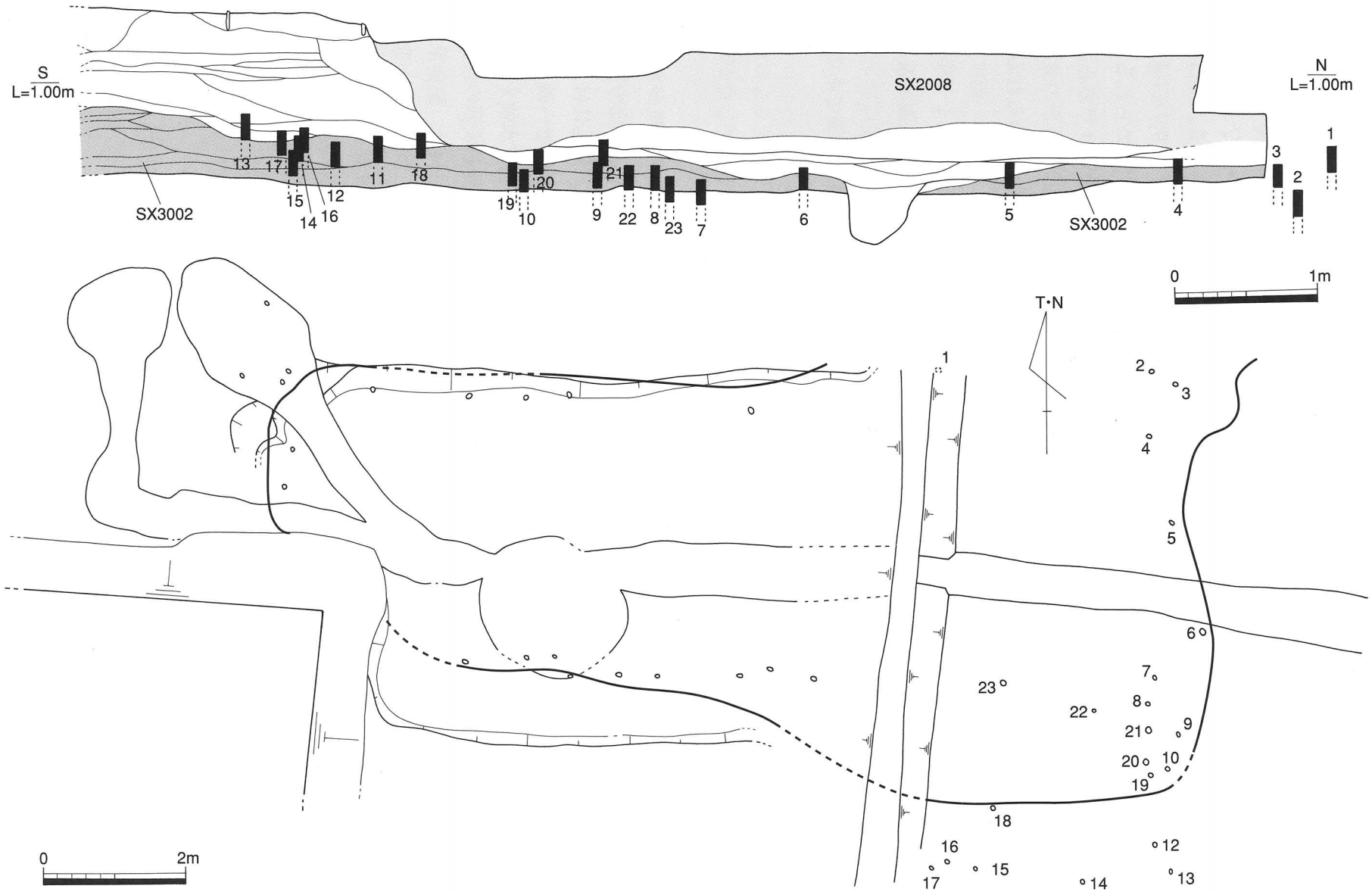
多量の瓦，陶磁器が出土している。SX2008・3001で陶磁器のみでもコンテナ100箱以上の出土量があり，瓦はこれ以上の出土量が認められた（瓦の取り上げについては一部のみとした）。その他では，大形の土器片，石材，漆喰片等が認められている。SX2008とSX3001の出土遺物については，接合関係を有するものが多く，基本的に大きな差異が認められないことから，同じ図版で掲載している。（観察表では別途表示）。出土遺物には，僅かながら17世紀代の所産のものが認められるが，主体となるのは18世紀後葉以降のもので，少量認められる肥前系磁器広東碗や京・信楽系灯明皿，瀬戸・美濃系磁器等があり，19世紀前葉頃までの所産と考えられる。

1～11は肥前系陶器碗（2を除く）である。京焼風陶器碗（1），呉器手碗（9），陶胎染付碗（3・4・7・10・11）が認められる。

12～16は，肥前系陶器皿（13を除く）である。12は見込に印花文を施す。14・15は京焼風の皿である。14は型打成形で，見込に梅を描く。15の高台内には，判読不明だが墨書が認められる。



第133図　SX2008・2010平面・土層図



第134図　SX3001・杭列平面・断面図

16の見込には，蛇ノ目釉剥ぎが認められる。

17～19・21は，肥前系陶器鉢である。17は内面に波状の刷毛目を施し，見込に蛇ノ目釉剥ぎを行う。高台部は高く，内側の削り込みも深い。18は，口縁部がT字状に内外へと突出し，体部に段を有し屈曲するもので，火入のような器形である。外面には銅緑釉を用い波状となる刷毛装飾が認められる。19・21は，片口鉢である。体部は緩やかに内湾しながら外方へ伸び，玉縁状若しくは外方へ突出する口縁に至る。内外に白土による直線的な刷毛装飾が認められる。20は瓶類。碁笥底で，外面に直線的な刷毛装飾を施す。22は甕である。内外に突出するT字状の口縁を有し，胴部外面に2条の縄状突帯及び沈線を廻らす。内面に粗い格子目状の叩き痕が認められる。

23～152は肥前系磁器（95を除く）である。23～73は碗。23・25・28は青磁染付である。朝顔形のもので，見込には二重圏線及び印判による五弁花が認められる。24・26は，筒形の青磁染付。24は，見込に二重圏線及び五弁花，高台内には二重方形枠に渦「福」の銘款が認められる。27・29も青磁染付。丸碗で口縁内面に四方襷文が認められる。30・31・33・34・35・43・46は，くらわんか碗である。33・43・46は見込蛇ノ目釉剥ぎで，釉剥ぎ部と高台畳付にはアルミナ砂の付着が認められる。34・35は同形のもので，外面に丸文，内面に四方襷文，見込に二重圏線及び五弁花文が見られる。36・38は外面に二重網目，見込に菊花を描く。37・39・41は外面にコンニャク印判で，野菜等を絵付する。44は雨降り文の碗である。45・48・49は，撥高台の碗である。50・53・56は，腰の張る丸碗である。

52・56・57の外面に輪繋ぎ文が認められるが，碗以外にも蓋，皿で同様の文を描くものが多く出土している。食器セットにあつらえた家紋と考え，大膳家に縁のあるものと検討したが現状では不明である。

54は，薄手の半球碗である。58は，大振りの碗。SK2085出土のものと接合関係がある。外面に亀甲繋ぎ，見込には環状松竹梅文が描かれる。59～68は，小広東碗である。外面の文様には，丸（61），楼閣山水（63・68），不賊（59），壽字（60），捻（67）があり，見込には，崩れ寿文（59），花炎文（66）等が見られる。69・71・72は，広東碗である。70は朝顔形の碗。74～95は猪口，小坏の類。76は蛇ノ目凹形高台の猪口である。外面に三方配置の窓絵で水仙を描く。窓の外側を蛸唐草と櫛歯連弁文で埋める。81・82は色絵が認められる。94は型押し成形の紅猪口。95は瀬戸・美濃系磁器である。外面及び見込に異体文字が認められる。96～114は，肥前系磁器皿である。97の五弁花は，コンニャク印判による。98・99は同様の形態だが，98は器壁が厚く，文様を線描きのみで施す。100は見込に蛇ノ目釉剥ぎを行い，アルミナ砂が付着する。くらわんか手のものである。102は薄手の上質のもので，色絵の痕跡が残る。103は折縁の小皿。口縁内面を呉須で縁取り，見込に山水を描く。104～114（112を除く）は，蛇ノ目凹形高台（低）の皿及び深手の皿である。見込に輪繋ぎ（104～106），三方割銀杏（107～110）を描くものが特徴的に見られる。112は，型打成形の輪花皿である。見込に環状松竹梅文を描く。113・114は青磁染付である。

115～140は肥前系磁器の蓋である。115・117～119は青磁染付の蓋。116～119は，朝顔形碗の蓋。121には色絵が施される。125～127は輪繋ぎ文の蓋。128は摘み部（高台）がハの字に開き，腰が張る。130は外面に蛸唐草と櫛歯連弁文，見込に環状松竹梅文を描く。131～133は広東碗の蓋。131～140は口縁にかえりを持ち，アーチ状の摘みを有する。

141～143は仏飯器である。高台内の抉りは少ない。144・145・148は瓶類。146の鉢は，高台

に櫛歯文，裏文様に花唐草，内面に大きく牡丹を描く。147は大形の壺頸部で，寿の変字が大きく描かれる。149も大形品で，口縁が受け口状に外反し端部はT形となる。腰がやや括れる器形で，底部に焼成後の穿孔が認められる。見込に水仙が描かれる。152も大形のもので，口縁は大きく開く。底部外面に蝶の連続文が見られる。

153～177は，瀬戸・美濃系陶器である。153は天目碗である。154は長の（湯呑類）である。155の平碗は，呉須により下絵付けを行う。156～157は灰釉の碗である。158～160は腰錆碗。161～165は刷毛目碗である。168は灰釉の大皿。底部は無釉で，見込には目痕が認められる。169は口縁が垂下し，外面に鉄釉，内面は鉄，灰釉を掛ける。171は捏鉢。口縁が垂下ぎみで外方へ突出する。高台部無釉で，見込には重ね焼痕とみられる円形の目痕が5箇所認められる。172は水甕で，口縁部は内側に突出し，外面には陽刻を施す。鉄・緑釉を流し，内外面に灰釉を掛ける。高台部無釉で内面に墨書が見られる。見込には目痕が2箇所認められる。173～177は（植木）鉢である。底部は無釉で，高台にアーチ状の切込みが認められる。底面中央に円孔を穿つ。

178～200は京・信楽系陶器である。178～188は色絵の半球形碗である。色は赤，緑の他，藍色が加わるものや，金により縁取りされたものも認められる。196は平碗。198～200は小杉碗。191・201は，白化粧を行い透明色の釉を掛ける。191は黒で「盃」を，201は赤，緑色で変形字銘を描く。195は楽系の軟質施釉陶器碗である。197は高台内に「ぬし」？の墨書が見られる。202は京・信楽系陶器の灯明皿。口縁内面に「い」の字が烙印されたボタン状の貼付け部と対面に櫛描文が認められる。3箇所のピン痕が残る。203・204は受け皿。内面のみ施釉する。203の受け部の開口は1箇所のみである。205は，水指若しくはチロリである。上半が透明色，下半を柿色の釉で施釉される。206の口縁部は，大振りの碗形に復元される。外面に鎬が暗文状に入り，呉須，鉄錆による下絵が認められる。207～209は土瓶である。207は，灰オリーブ色の緻密な胎土で，透明色の釉で内外を施釉する。底部は無釉で粒状の（三足）脚を有する。

208・209は軟質施釉陶器である。黄灰色を呈し，やや粗製の胎土を用いる。外面上半部まで施釉し，下半は無釉で被熱痕が認められる。212は京・信楽系陶器甕。T字状に拡張された口縁部で長胴のものである。底面を除き内外面が施釉され，内面が灰オリーブ色，外面が柿色を呈する。頸部から鉄釉が流されている。210は陶器火入である。口縁部及び見込みに被熱痕が認められる。外面は黄褐色を呈し，刻印が認められる。備前産か。211は鉢形の陶器である。口縁の大半が打ち欠かれ，底部に穿孔が認められる。

213～243は備前である。213は皿形製品の底部で，内面に擂目状に鋭い沈線が放射状に施される。214～224は灯明皿である。法量差により，大，小の2種類が認められる。いずれも外面にケズリ調整が認められ，内面は塗土を行う。221は，灰色を呈する須恵器焼（還元焼成）である。225～240は受け皿である。法量差により，大，小の2種類が認められる。内面は塗土を行う。完存するもので，受け部の開口部は3箇所認められる。241は人形徳利。242は小坏或いはミニチュア。

243～250は陶器水指と蓋である。251～255は陶器擂鉢である。堺・明石（251，253～255），備前（252）産と考えられる。

256～258は，理兵衛焼に想定される京焼系の製品である。256は器壁の薄い磁器質のもので，緻密な胎土を用い灰白色の釉を内外に施釉する。高台脇から高台内にかけては無釉で，高台内中央に渦状痕，左には破風高（高松藩主より預かると伝えられる）の刻印が認められる。257は碗の胴部片と考えられ，磁器質の256と同様の胎土，釉調である。外面には，藍色の絵付で大膳家

紋（中陰四つ葵）と考えられる丸の文と赤色の絵付が認められる。258は緻密な胎土を用いるが，上記のもに比べるとやや陶質と見られ，器面には貫入が認められる。外面，藍色に金の縁取りで家紋が絵付される。

259～266は，軟質施釉陶器である。交趾風となる緑，黄，褐色の特徴的な釉を用い，陽刻で器面を埋め尽くす等の型成形を多用する焼物。在地産と伝わる源内焼及び源内焼系（陶浜焼，屋島焼等）の製品と考えられる。皿，蓋物，小形のカップ状の製品が認められる。267～270は，在地産と想定される京焼系の陶器である。いずれも緻密な胎土を用いる。267は火入で，外面に箆彫が施される。内面上半まで鉄釉を掛け，その後外面に灰オリーブ色の釉を施す。高台内は無釉である。268も火入とした。外面に黒褐色の釉を施す。269・270は，把手部と考えられる。269は透明色となる釉の下地に白，緑色の釉流しが認められる。270は体部内面が無釉で，把手部及び外面に灰釉を施す手桶である。

271～276は軟質施釉陶器である。271は蓋で，上面に緑釉を施す。272は赤楽系のもので，型物の香合か。276は瓶類。273は施釉陶器把手付鍋である。透明の釉色で，胎土は精良で黄灰色を呈する。無釉の底部は，粒状の（三足）脚を伴い被熱痕が認められる。見込にはピン痕が見られる。274・275も施釉陶器把手付鍋。胎土は精緻で，内外に柿色の釉を施す。277は軟質施釉陶器蓋で，交趾風の黄釉が内外に施釉されている。珉平焼の可能性が考えられる。278は京・信楽系鬢水入れで，底面に墨書が認められる。283は京・信楽系陶器の段重である。

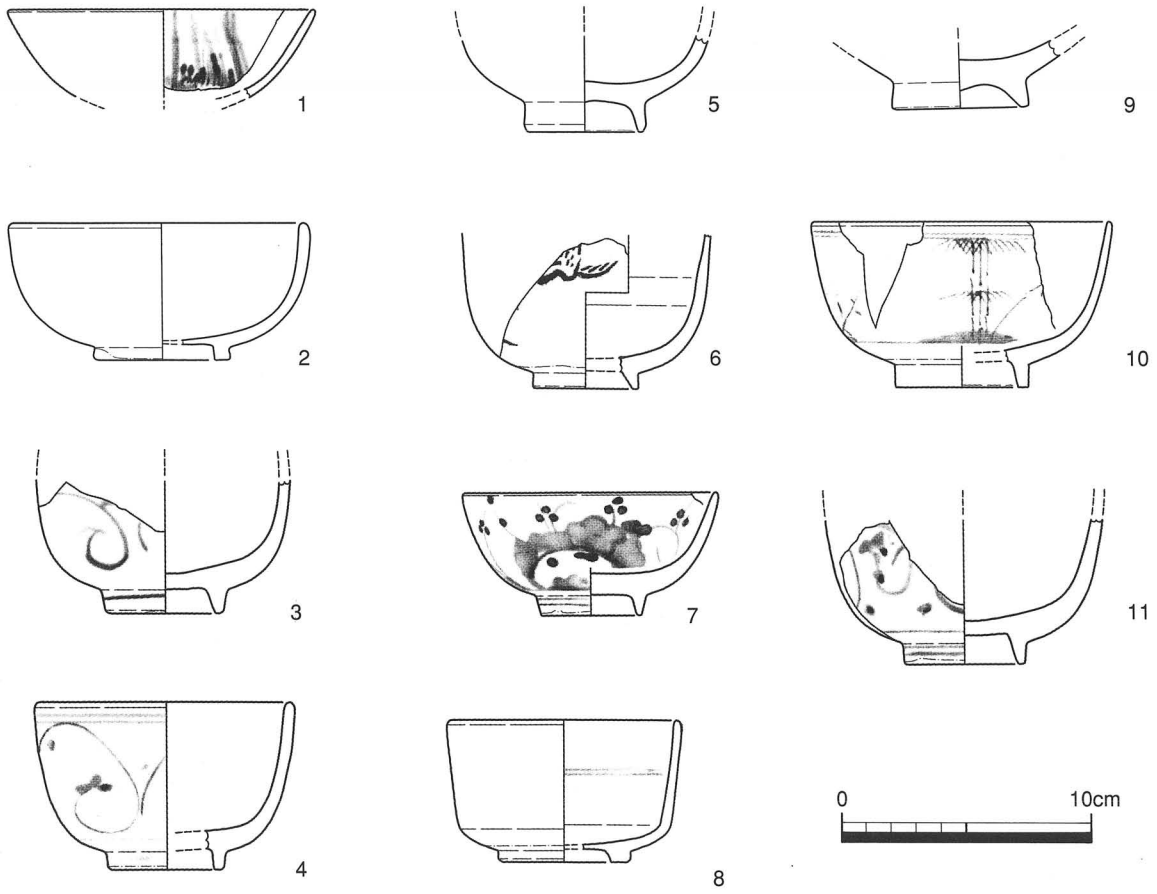
286～297は焼塩壺である。板作り成形のもの（286～294）と轆轤成形のもの（295～257）がある。特徴的な胎土に，橙色系で金雲母が目立つもの（286・288～291）がある。板作り成形の器形は，292を除き，全体に細身で口縁の受け部が小さく見られる。286は焼成が良好で外面に墨書が認められる。292には，「泉州麻生」の刻印（1750年代まで）が認められる。295～297は江戸在地産と見られ，地方の出土例は稀とされる。

298～306は焼塩壺蓋で，いずれも天井部に布目痕を残す。胎土中に金雲母を含むものに，302・306・308がある。

309～316は，土師質土器皿である。309は，鈍い橙色の精緻な胎土を用いる。外面に磨き調整が施され，内面に2次焼成痕が残る。底部中央部に焼成後の穿孔が認められる。310は橙色系の胎土で，底部に回転糸切り痕が残る。口縁部に2次焼成痕が認められ，灯明皿として使用されたと考えられる。311は橙色系の精良な胎土を用いる。外面下半は回転箆削りで，器高は低く緩やかに口縁に至る。312は口縁が外傾する小皿。橙色系の胎土で，底部は回転糸切りである。313・314は口縁が大きく外傾する大振りの皿である。橙色系の胎土で，底部は回転糸切りである。315も橙色系の胎土で，底部は回転糸切り。器高が高く，口縁が長く外傾する。

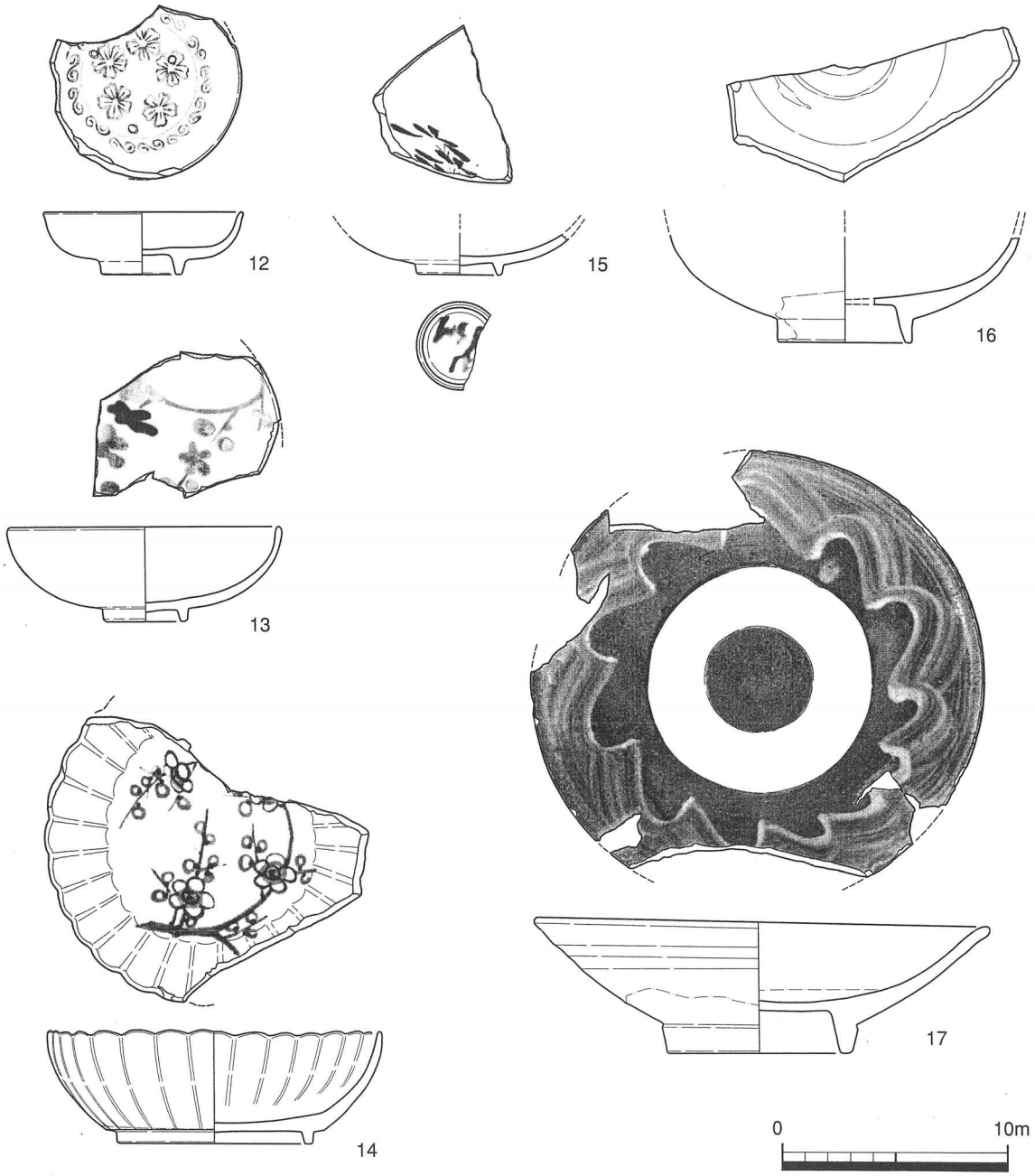
317は土師質土器の底部で，3足となる脚を有する。外面に磨き調整を加え，底部には墨書が認められる。318は，土師質の焜炉類。胎土は比較的精良で，外面には赤土が塗られる。円筒形を呈し，前方に突出した窓部を有する。図化したものでは口縁部までが短くなっているが，口縁はこれよりも上方に伸びる可能性がある。窓の下には円孔が2箇所に穿かれるが，右側は貫通していない。底部，筒状の脚端部に抉りが認められる。319は，十能である。

320～322は在地産の瓦質焙烙である。321・322の内耳は貫通していない。323は関西系の焙烙である。やや内傾する口縁部に対面2箇所の穿孔があるが，孔は貫通していない。



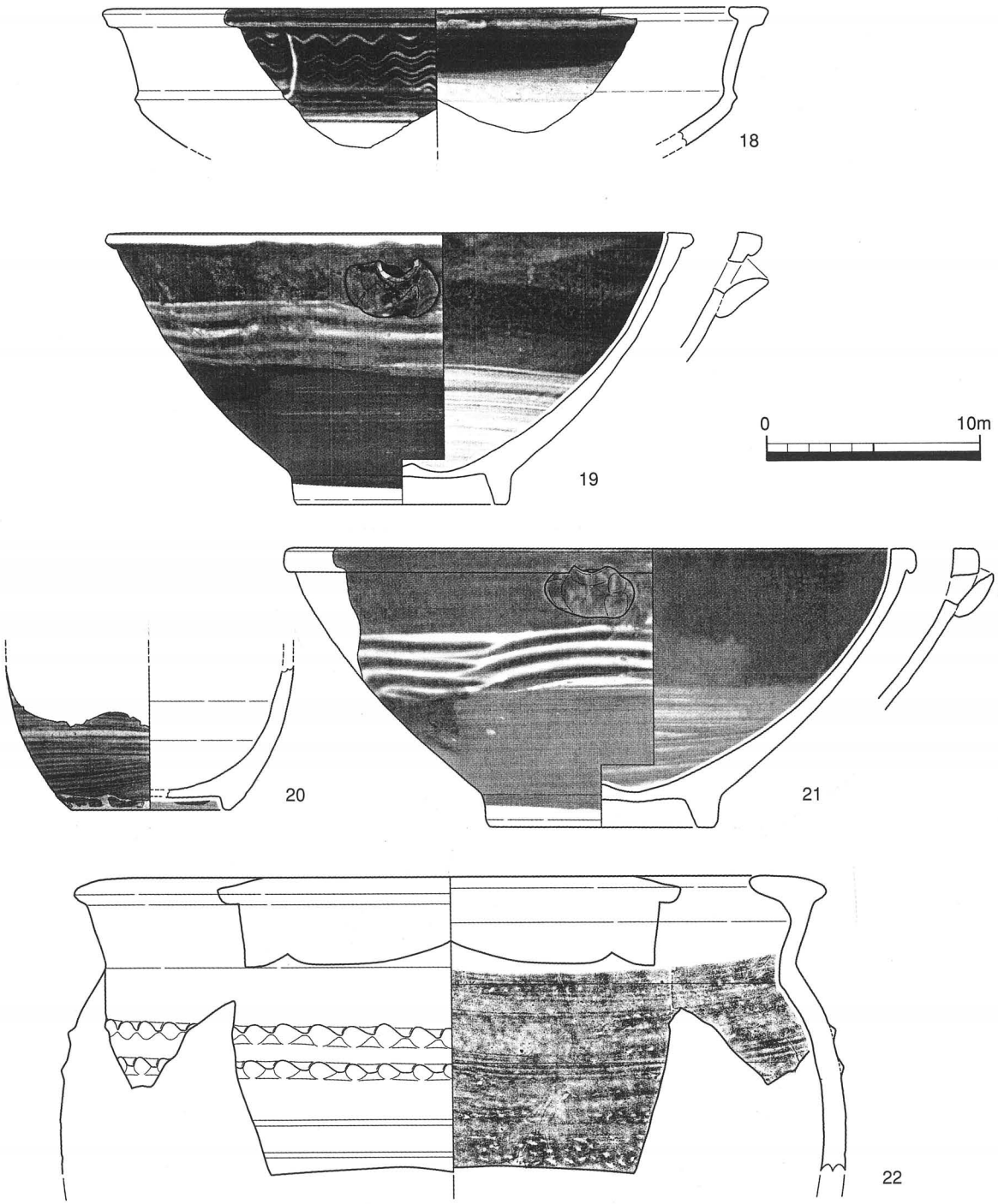
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	1	磁	碗	肥前	口:12.05	細	灰白7.5Y8/1	内外:灰白2.5Y8/2	呉須:暗青灰5BG4/1	内面:楼閣山水	大橋Ⅲ期	京焼風
SX2008	2	陶	碗	肥前	口:11.55 高:5.4 底:5.0	細	灰白2.5Y7/1	内外:オリーブ灰2.5GY6/1			大橋Ⅲ期	見込みにピン痕有
SX3001	3	陶	碗	肥前	底:4.2	細	灰N5/1	内外:透明釉	呉須:暗オリーブ灰 2.5GY4/1			陶胎染付
SX2008	4	陶	染付碗	肥前	口:10.0 高:6.6 底:4.3	細	灰白5Y7/1	内外:灰白10Y7/1	呉須:暗オリーブ灰 2.5GY4/1			陶胎染体
SX2008	5	陶	碗底部	肥前	底:4.45	細	浅黄2.5Y7/3	内外:浅黄2.5Y7/4			大橋Ⅲ期	呉器手 高台内に砂粒付着
SX3001	6	磁	碗	肥前	底:4.0	細	灰白N7/1	内外:暗赤褐5YR3/4				
SX2008	7	陶	染付碗	肥前	口:10.0 高:4.85 底:3.85	細	灰白10YR7/1	内外:灰白2.5Y7/1	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	陶胎染体
SX2008	8	陶	碗	肥前	口:8.9 高:5.6 底:5.0	細	灰白2.5GY7/1	内外:灰オリーブ5Y6/2	鉄絵:黒褐10YR3/2		大橋Ⅲ期	筒形碗
SX3001	9	磁	碗	肥前	底:4.9	細	にぶい黄橙10YR7/2	内外:にぶい黄2.5Y6/3			大橋Ⅲ期	呉器手
SX2008	10	陶	染付碗	肥前	口:11.75 高:6.55 底:5.2	細	灰白5Y7/1	内外:透明釉	呉須:淡青色 上絵:白	外面:竹・梅	大橋Ⅳ期	陶胎染体
SX2008	11	陶	染付碗	肥前	底:4.6	細	黄灰色2.5Y5/1	内外:灰10Y6/1	呉須:暗オリーブ灰 2.5GY4/1,暗赤灰 10BG4/1		大橋Ⅳ期	陶胎染体

第135図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その1）



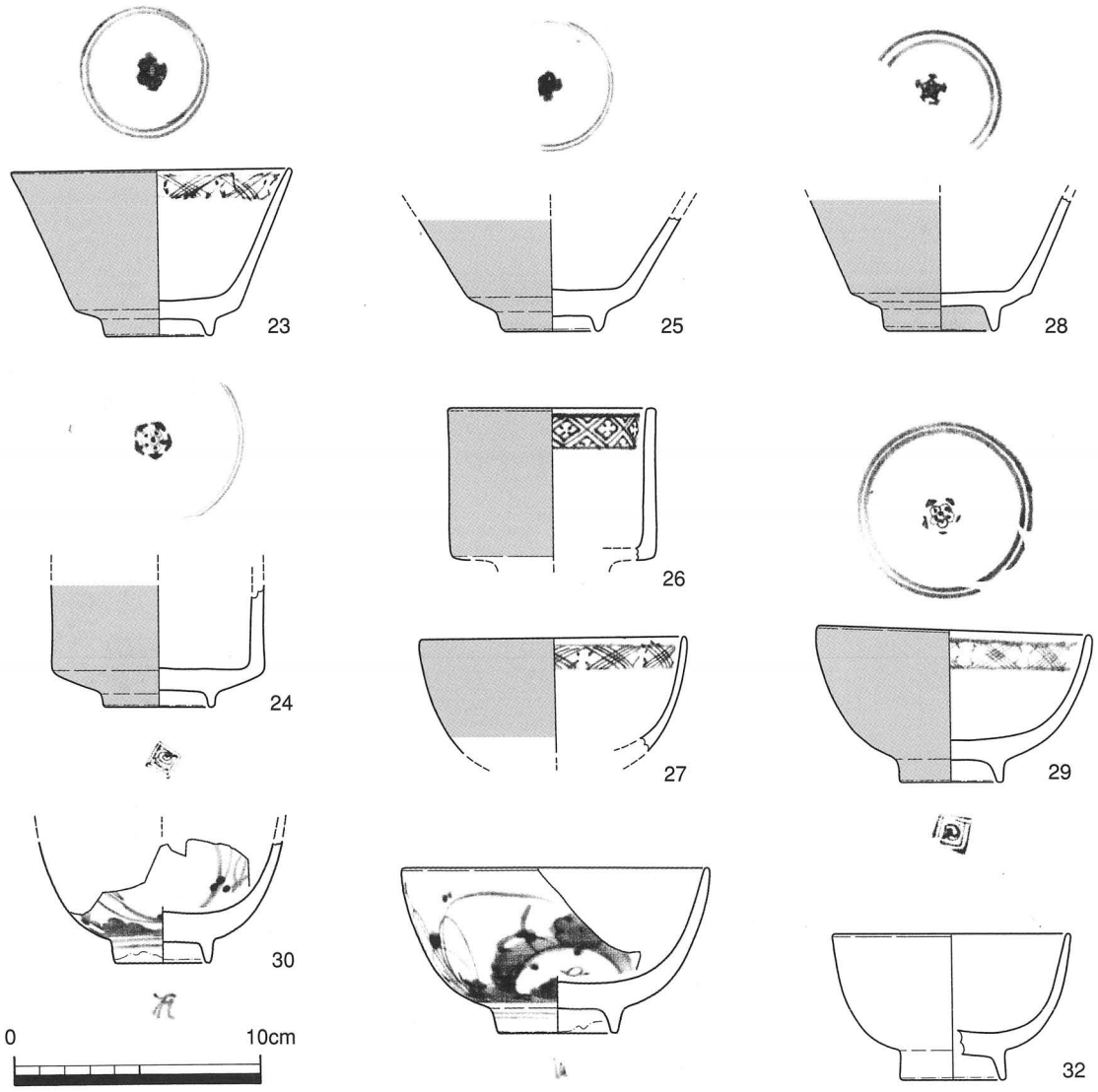
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	12	陶	皿	肥前	口:8.70 高:2.75 底:3.50	細	赤灰2.5YR4/1	内外:黒褐2.5Y3/2		内面:三島	大橋Ⅲ期	見込みに胎土目三ヶ所
SX3001	13	磁	皿	肥前	口:11.85 高:4.15 底:3.45	細	灰白5Y7/1	内外:にぶい黄2.5Y6/3	上絵:金・赤			
SX2008	14	陶	皿	肥前	口:14.60 高:4.90 底:8.50	細	灰白10YR8/2	内外:灰白10Y7/1	鉄絵:オリーブ黒 5Y3/2,灰N5.1	内面:梅花		型打成形
SX3001	15	磁	皿	肥前	底:3.6	細	灰白5Y8/1	内外:灰オリーブ5Y6/2	鉄絵:黒2.5Y2/1			京焼風 底部に墨書有
SX3001	16	磁	鉢	肥前	底:5.7	細	灰N5/1	内外:灰オリーブ7.5Y4/2		見込みに蛇の目釉剥	大橋Ⅲ期	
SX2008	17	陶	皿	肥前	口:20.1 高:5.90 底:8.00	細	赤褐10R5/4	内外:灰黄褐10YR4/2		内面:蛇の目釉剥,波状の刷毛目	大橋Ⅳ期	刷毛目皿

第136図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その2）



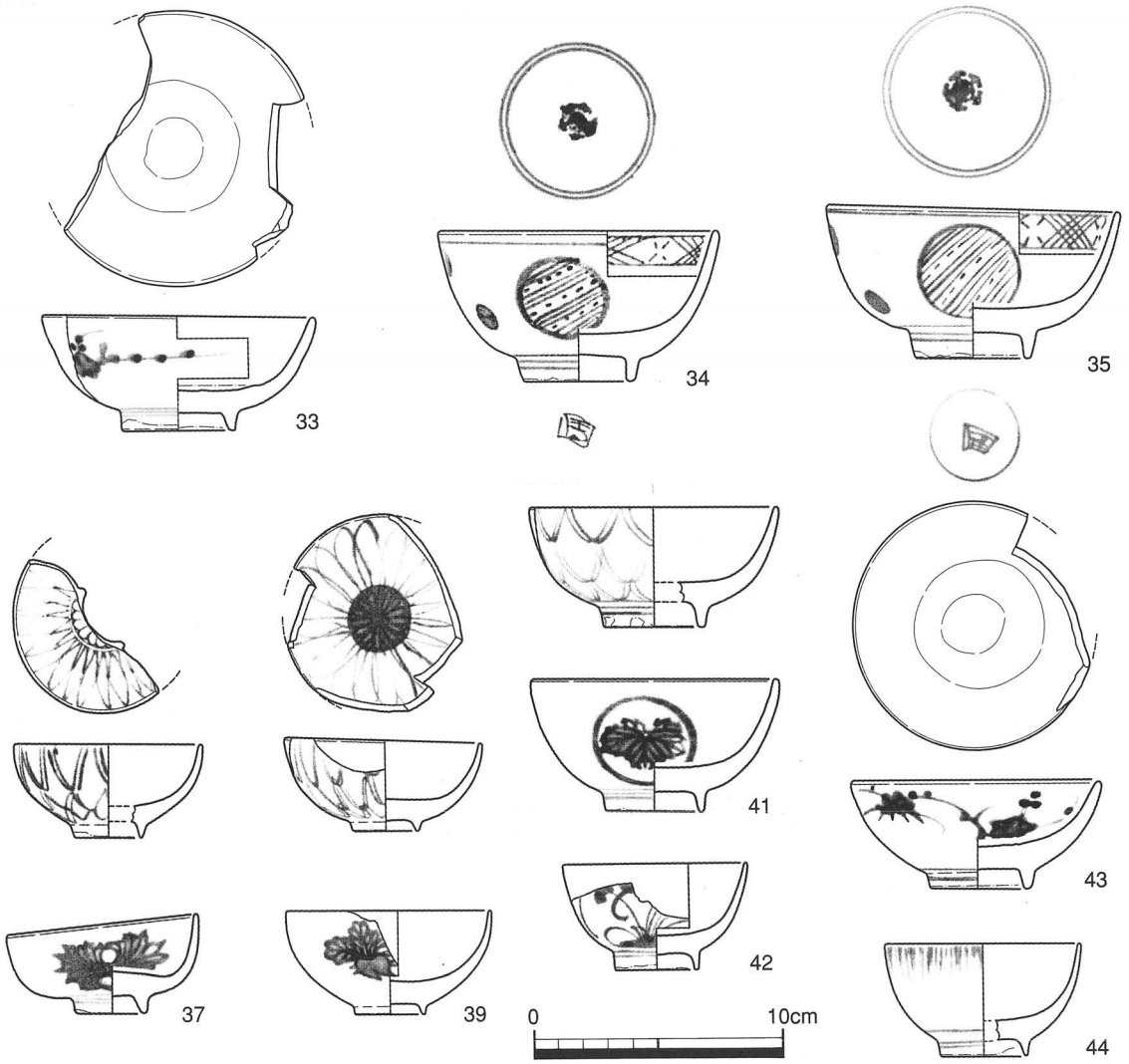
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	18	陶	鉢	肥前	口:30.1	細	褐灰10YR6/1	内外:灰オリーブ7.5Y4/2 (深緑・淡緑・明青)		外面:波状		
SX2008	19	陶	片口鉢	肥前		細	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい黄褐10YR4/3		内外:直線的な刷毛目	大橋Ⅳ期	
SX2008	20	陶	瓶	肥前	底:7.40	細	赤褐10R5/4	外面:暗褐10YR3/3		外面:直線的な刷毛目		底部に砂粒付着
SX2008	21	陶	片口鉢	肥前	口:28.8 高:12.8 底:10.4	細	赤10Y5/6	内外:暗褐7.5YR2/3		内外:直線的な刷毛目	大橋Ⅳ期	
SX2008	22	陶	甕	肥前		細	暗赤10R3/4	外面:暗赤褐10R3/2 内面:暗赤10R3/4		外面:縄状突帯 内面:粗い格子	17c 前半?	

第137図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その3）



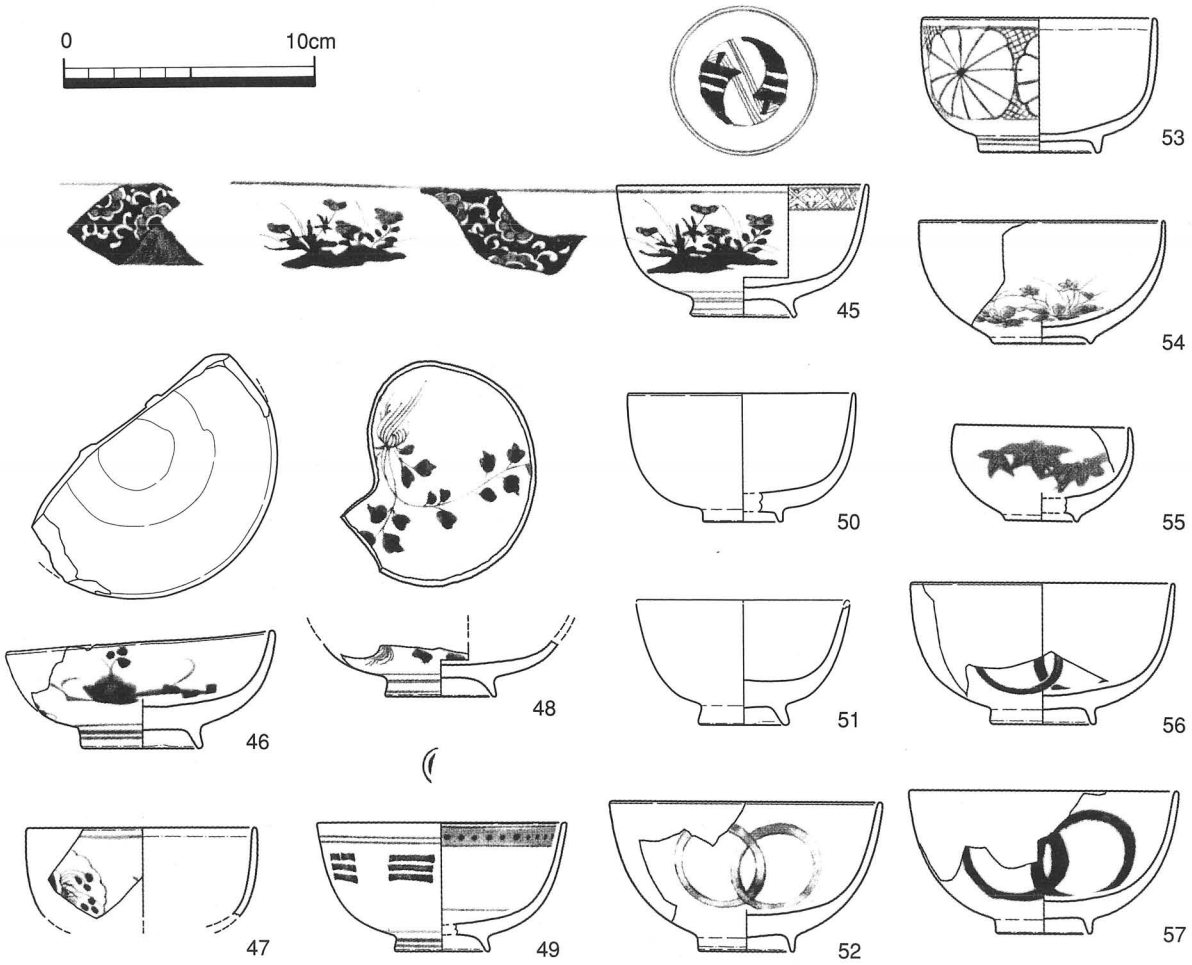
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	23	磁	碗	肥前	口:11.15 高:6.65 底:4.2	微	灰白色	外面:緑灰7.5GY6/1 内面:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷、五弁花(コンニャク印判)	大橋Ⅳ期	高台畳付に砂粒付着
SX2008	24	磁	碗	肥前	底:4.30	微	灰白色	内面:透明釉 外面:明緑灰10G7/1	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	青磁染付 底部に銘款有
SX2008	25	磁	碗	肥前	底:3.70	微	灰白色	内面:透明釉 外面:オリーブ灰5GY6/1	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	青磁染付 高台内に砂粒付着
SX2008	26	磁	碗	肥前	口:8.0	微	灰白色	外面:明緑灰10GY7/1	呉須:明・暗青色	内面:四方襷	大橋Ⅳ期	青磁染付
SX2008	27	磁	碗	肥前	口:10.60	微	灰白色	内面:透明釉 外面:オリーブ灰5GY6/1	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷	大橋Ⅳ期	青磁染付
SX3001	28	磁	碗	肥前	口:4.2	微	灰白色	外面:オリーブ灰5GY7/1 内面:透明釉	呉須:淡青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	
SX3001	29	磁	碗	肥前	口:10.9 高:6.35 底:3.95	微	灰白色	外面:緑灰7.5GY6/1 内面:明緑灰7.5GY7/1	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷　五弁花	大橋Ⅳ期	高台内側に銘款、高台畳付に砂粒付着
SX2008	30	磁	碗	肥前	底:3.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	高台内にアルミナ砂付着、銘款有
SX3001	31	磁	碗	肥前	口:12.35 高:6.6 底:4.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	くらわんか碗
SX2008	32	磁	碗	肥前	口:9.4 高:5.9 底:4.0	微	灰白色	外面:灰白5GY8/1 内面:灰白10Y8/1				

第138図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その4）



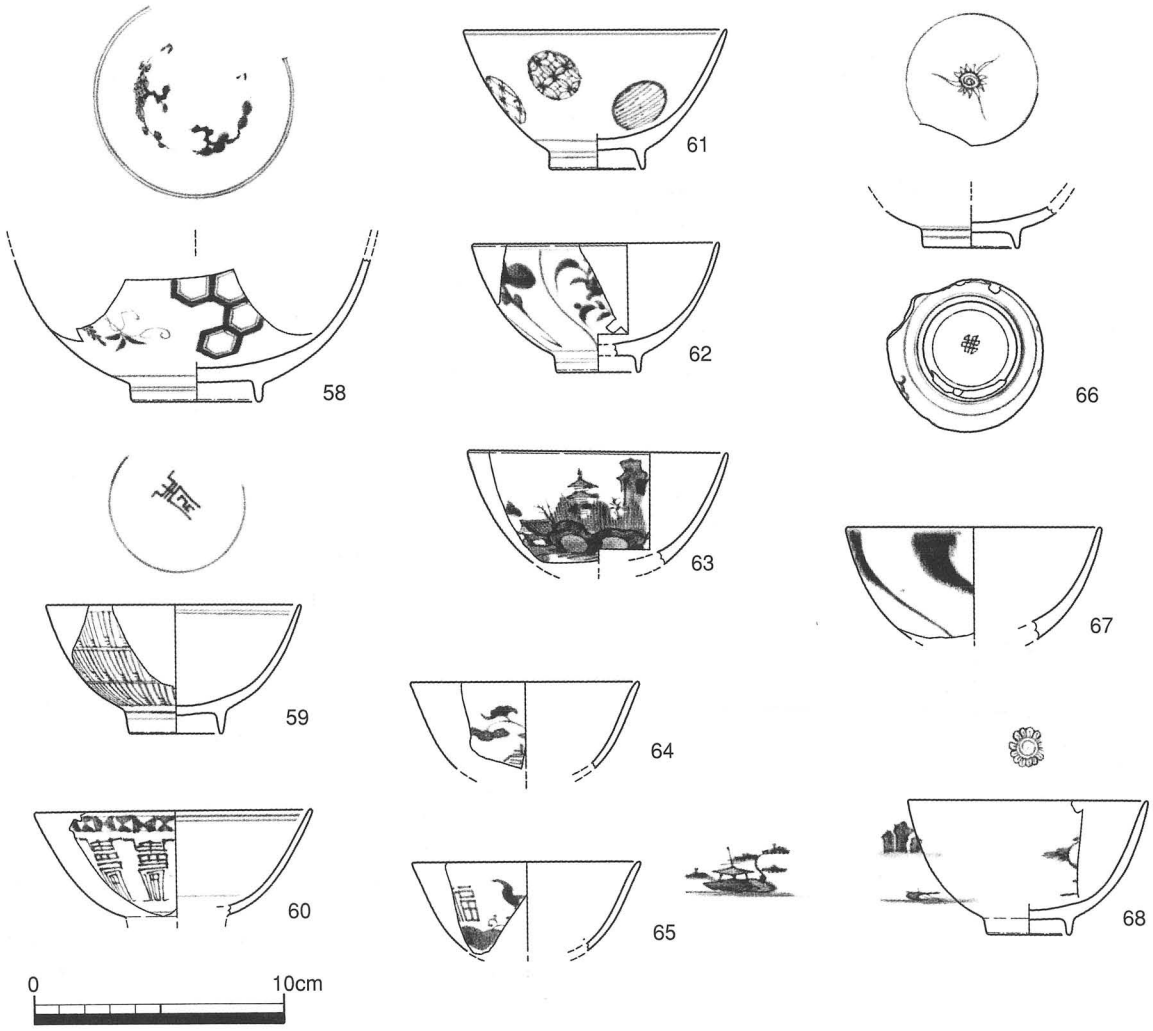
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	33	磁	碗	肥前	口:10.06 器高:4.40 底:4.50	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	見込:蛇の目釉剥	大橋Ⅳ期	高台にアルミナ砂付着
SX2008	34	磁	碗	肥前	口:11.1 高:5.95 底:4.25	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	内面:四方襷　五弁花	大橋Ⅳ期	底部に銘款,底部にアルミナ砂付着
SX2008	35	磁	碗	肥前	口:11.6 高:6.05 底:4.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷　五弁花	大橋Ⅳ期	底部に銘款,底部にアルミナ砂付着
SX2008	36	磁	碗	肥前	口:7.45 高:3.7 底:2.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:二重網目	大橋Ⅳ期	
SX2008	37	磁	碗	肥前	口:7.55 高:3.95 底:2.65	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色			高台畳付にアルミナ砂付着
SX2008	38	磁	碗	肥前	口:7.75 高:3.45 底:2.55	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:二重網目 内面:花	大橋Ⅳ期	高台内にアルミナ砂付着
SX2008	39	磁	碗	肥前	口:8.1 高:4.1 底:2.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・明青色	かぶ		小丸碗
SX2008	40	磁	碗	肥前	口:9.8 高:4.7 底:3.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	高台畳付にアルミナ砂付着
SX2008	41	磁	碗	肥前	口:9.7 高:5.2 底:3.75	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・明青色	外面:桐		底部畳付にアルミナ砂付着
SX2008	42	磁	碗	肥前	口:72.50 高:42.00 底:3.20	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:草花		
SX2008	43	磁	碗	肥前	口:9.9 高:4.4 底:3.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:草花 内面:蛇の目釉剥	大橋Ⅳ期	
SX2008	44	磁	碗	肥前	口:7.8 高:4.45 底:3.4	微	灰白色	外面:明緑灰10GY8/1 内面:灰白5GY8/1	呉須:淡・暗青色	外面:雨降り文	大橋Ⅳ期	

第139図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その5）



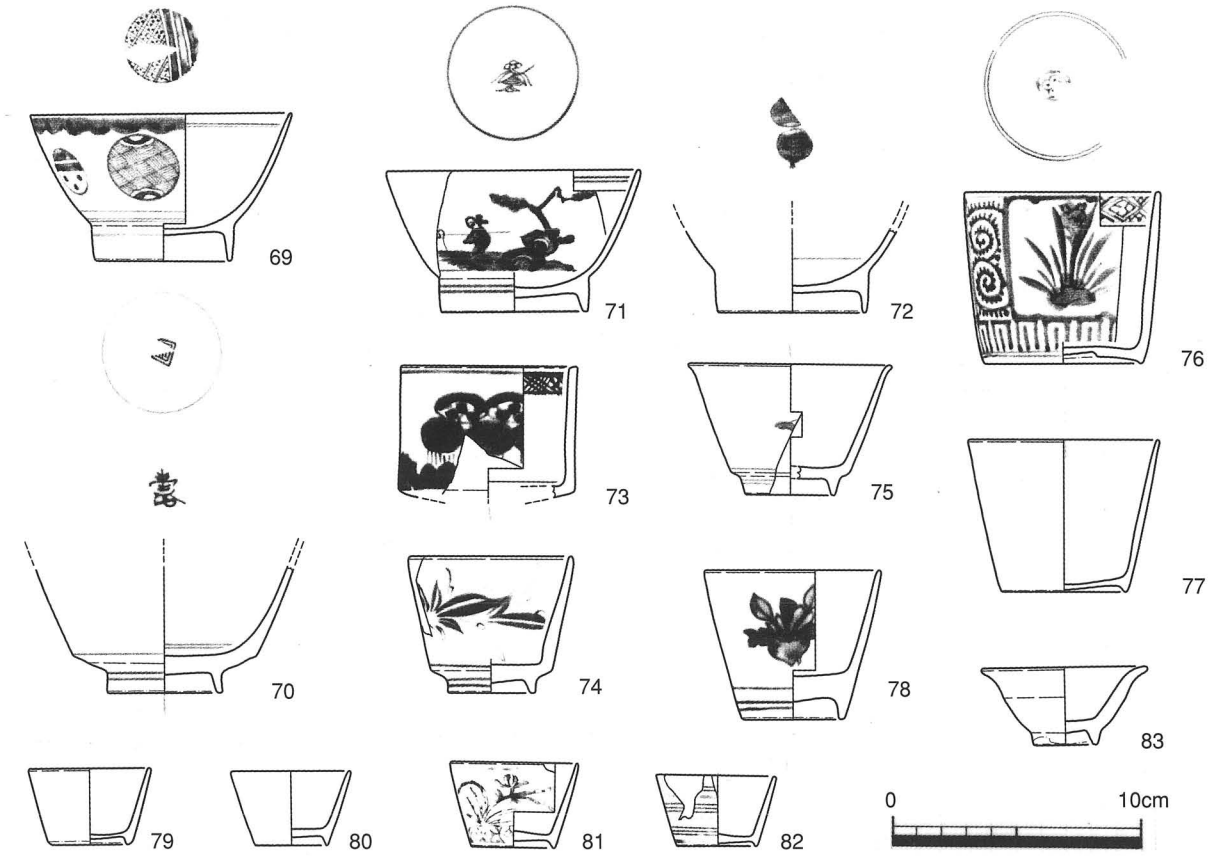
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	45	磁	碗	肥前	口:9.95 高:5.25 底:4.1	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色	外面:草花 内面:四方襷	大橋Ⅳ期	バチ高台
SX2008	46	磁	碗	肥前	口:10.55 高:4.7 底:4.55	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:蛇の目釉剥(アルミナ砂)	大橋Ⅳ期	蛇の目釉剥,高台畳付アルミナ砂付着
SX2008	47	磁	碗	肥前	口:9.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色			
SX2008	48	磁	碗底部	肥前	底:4.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・明青色	内面:花木	大橋Ⅳ期	バチ高台
SX2008	49	磁	碗	肥前	口:9.9 高:5.1 底:3.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:草花		
SX2008	50	磁	碗	肥前	口:8.5 器高:5.25 底:3.1	微	灰白色	外面:灰白5GY8/1 内面:灰白10Y8/1				
SX3001	51	磁	碗	肥前	底:3.4	微	灰白色	内外:灰白5GY8/1				
SX2008	52	磁	碗	肥前	口:10.7 高:5.9 底:3.8	微	灰白N8/1	内外:灰白N8/1	呉須:暗青色			
SX2008	53	磁	碗	肥前	口:9.2 高:5.3 底:4.55	微	灰白5Y8/1	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	陶胎染体 蓋有
SX3001	54	磁	碗	肥前	口:9.7 高:4.85 底:3.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:草木	大橋Ⅳ期	
SX2008	55	磁	碗	肥前	口:6.9 高:3.75 底:2.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:笹(コンニャク印刷)	大橋Ⅳ期	
SX2008	56	磁	碗	肥前	口:10.40 高:5.60 底:4.00	微	灰白N8/1	内外:灰白N8/1	呉須:暗青色			
SX2008	57	磁	碗	肥前	口:10.55 高:5.6 底:3.6		灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			

第140図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その6）



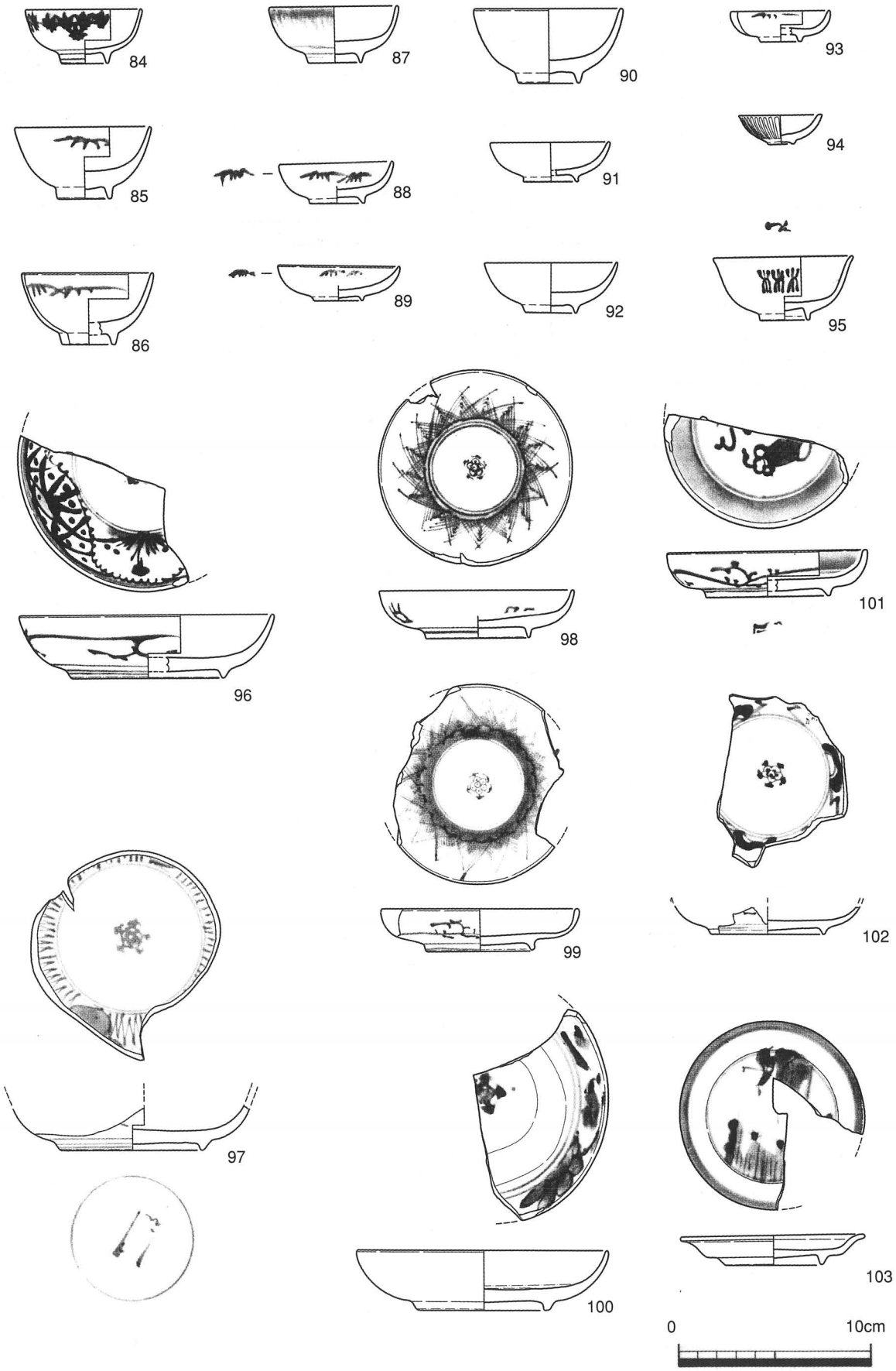
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	58	磁	碗	肥前	底:5.05	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		18 c後半～	
SX2008	59	磁	碗	肥前	口:10.1 高:5.05 底:3.65	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色		1770年代～	小広東碗
SX2008	60	磁	碗	肥前	口:11.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		1770年代～	小広東碗
SX2008	61	磁	碗	肥前	口:10.4 高:5.5 底:3.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色		1770年代～	小広東碗
SX3001	62	磁	碗	肥前	口:9.75 高:5.1 底:3.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		1770年代～	小広東碗
SX2008	63	磁	碗	肥前	口:10.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:楼閣山水	大橋Ⅳ期	
SX2008	64	磁	碗	肥前	口:9.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	65	磁	碗	肥前	口:9.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	
SX3001	66	磁	碗底部	肥前	底:3.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色		1770年代～	小広東碗
SX2008	67	磁	碗	肥前	口:10.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:ねじ花	大橋Ⅳ期	小広東碗
SX2008	68	磁	碗	肥前	口:9.45 高:5.3 底:3.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	小広東碗

第141図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その7）

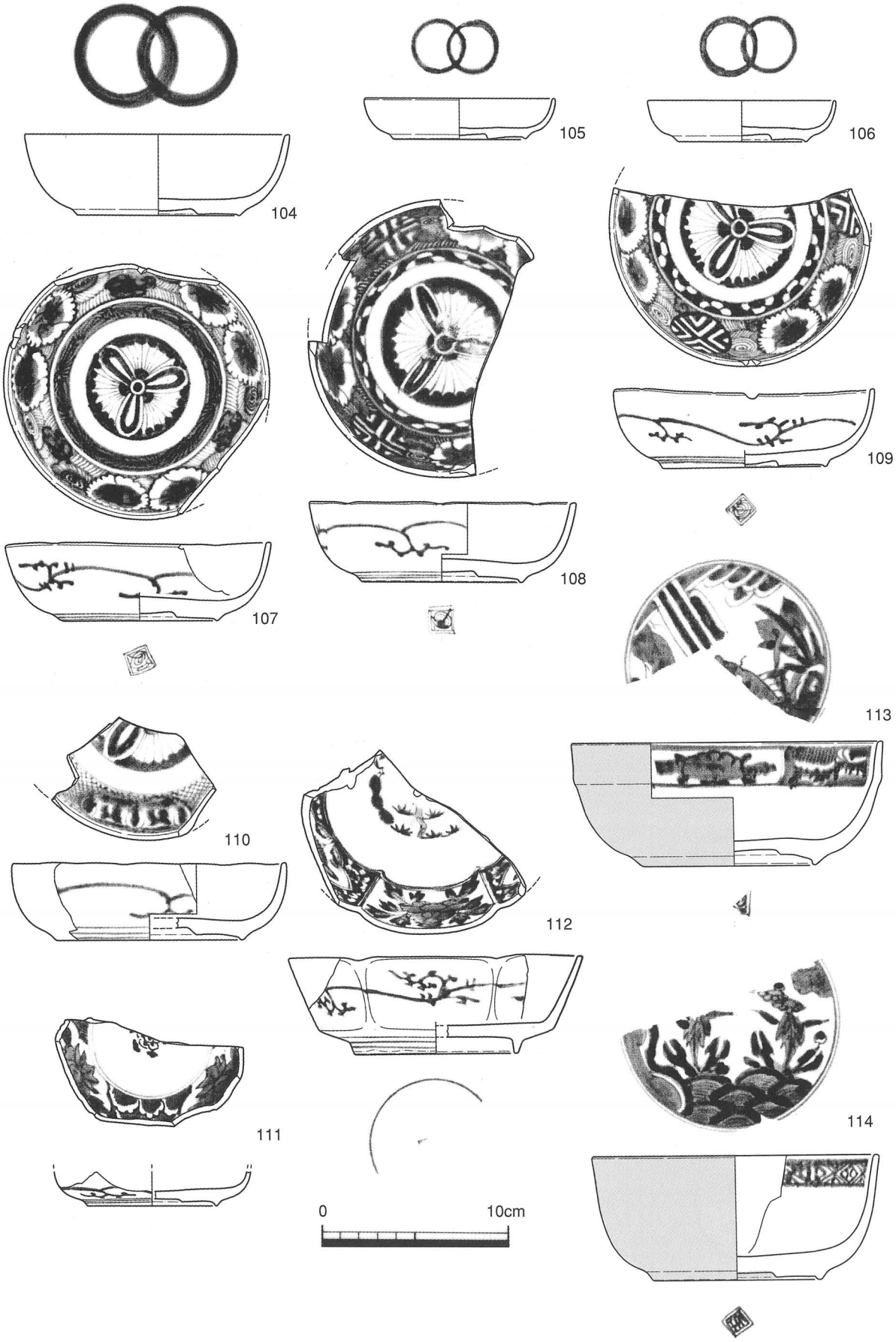


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	69	磁	碗	肥前	口:10.35 高:5.75 底:5.75	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		1780年代 ～	広東碗
SX2008	70	磁	碗	肥前	底:4.40	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	71	磁	碗	肥前	口:10.00 高:5.55 底:5.75	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		1780年代 ～	小広東碗
SX2008	72	磁	底部	肥前	底:5.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色	内面:栗	1780年代 ～	広東碗
SX2008	73	磁	碗	肥前	口:6.90	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	内面:四方襷	大橋Ⅳ期	
SX2008	74	磁	碗	肥前	口:6.40 高:5.40 底:3.30	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SX2008	75	磁	小坏	肥前	口:8.0 高:5.1 底:3.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色			
SX2008	76	磁	猪口	肥前	口:7.70 高:6.75 底:6.20	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色			
SX2008	77	磁	猪口	肥前	口:7.50 高:6.00 底:4.90	微	灰白色	内外:灰白10Y8/1			大橋Ⅳ期	
SX2008	78	磁	猪口	肥前	口:6.95 高:5.90 底:3.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:かぶ		
SX2008	79	磁	小坏	肥前	口:4.75 高:3.0 底:3,0	微	灰白色	内外:灰白10Y8/1			1780～ 1820年代	
SX2008	80	磁	小坏	肥前	口:4.65 高:2.95 底:2.8	微	灰白色	内外:灰白N8/1			1780～ 1820年代	
SX2008	81	磁	小坏	肥前	口:5.1 高:3.35 底:3.3	微	灰白色	内外:灰白N8/1	上絵:金・赤・黄		1780～ 1820年代	
SX2008	82	磁	小坏	肥前	口:4.7 高:2.85 底:3.1	微	灰白色	内外:灰白N7/1	上絵:赤		1780～ 1820年代	
SX2008	83	磁	小坏	肥前	口:6.4 高:2.4 底:2.4	微	灰白色	内外:灰白10Y8/1			1780～ 1820年代	

第142図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その８）



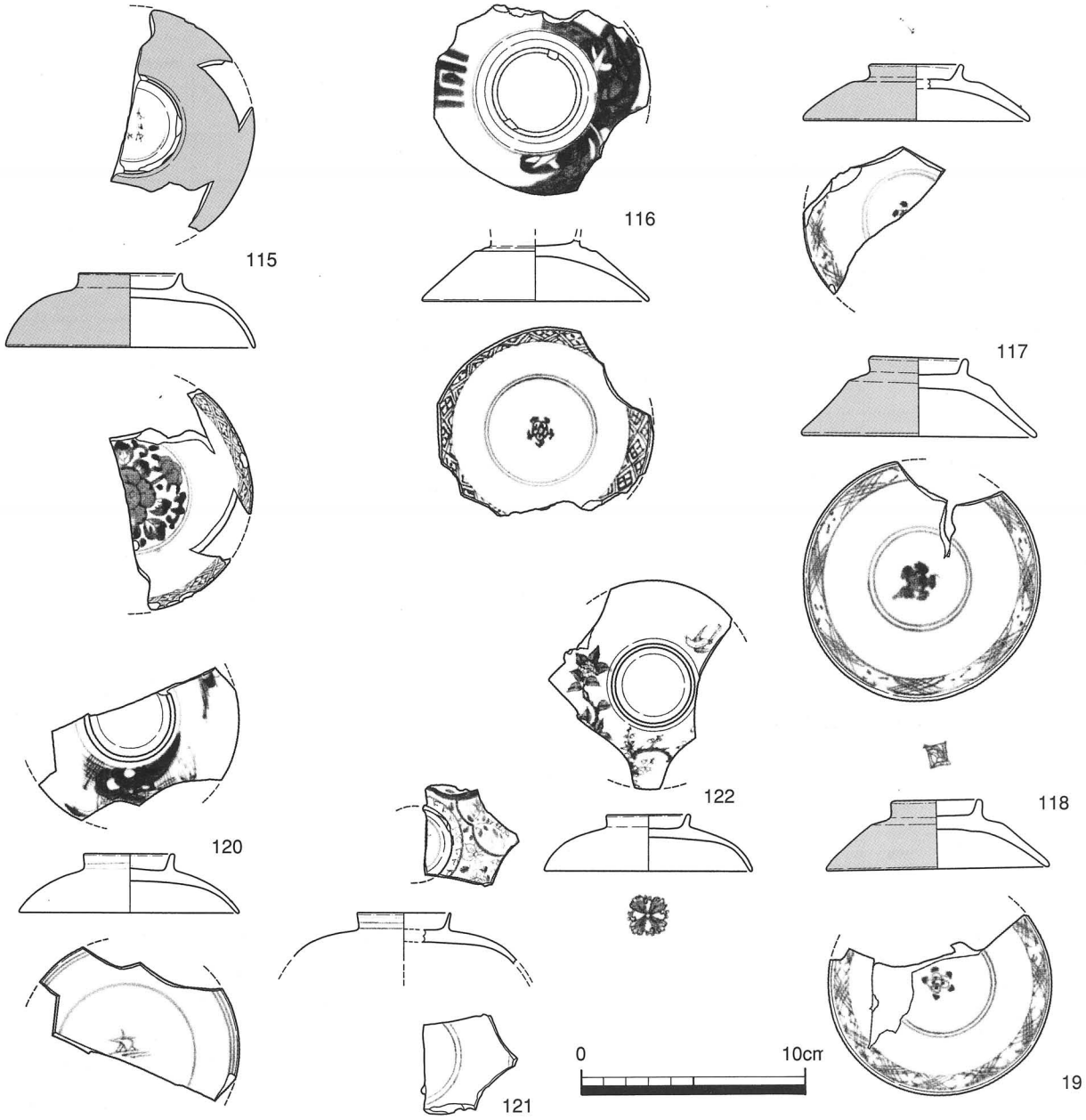
第143図　SX2008出土遺物実測図（その９）



第144図　SX2008出土遺物実測図（その10）

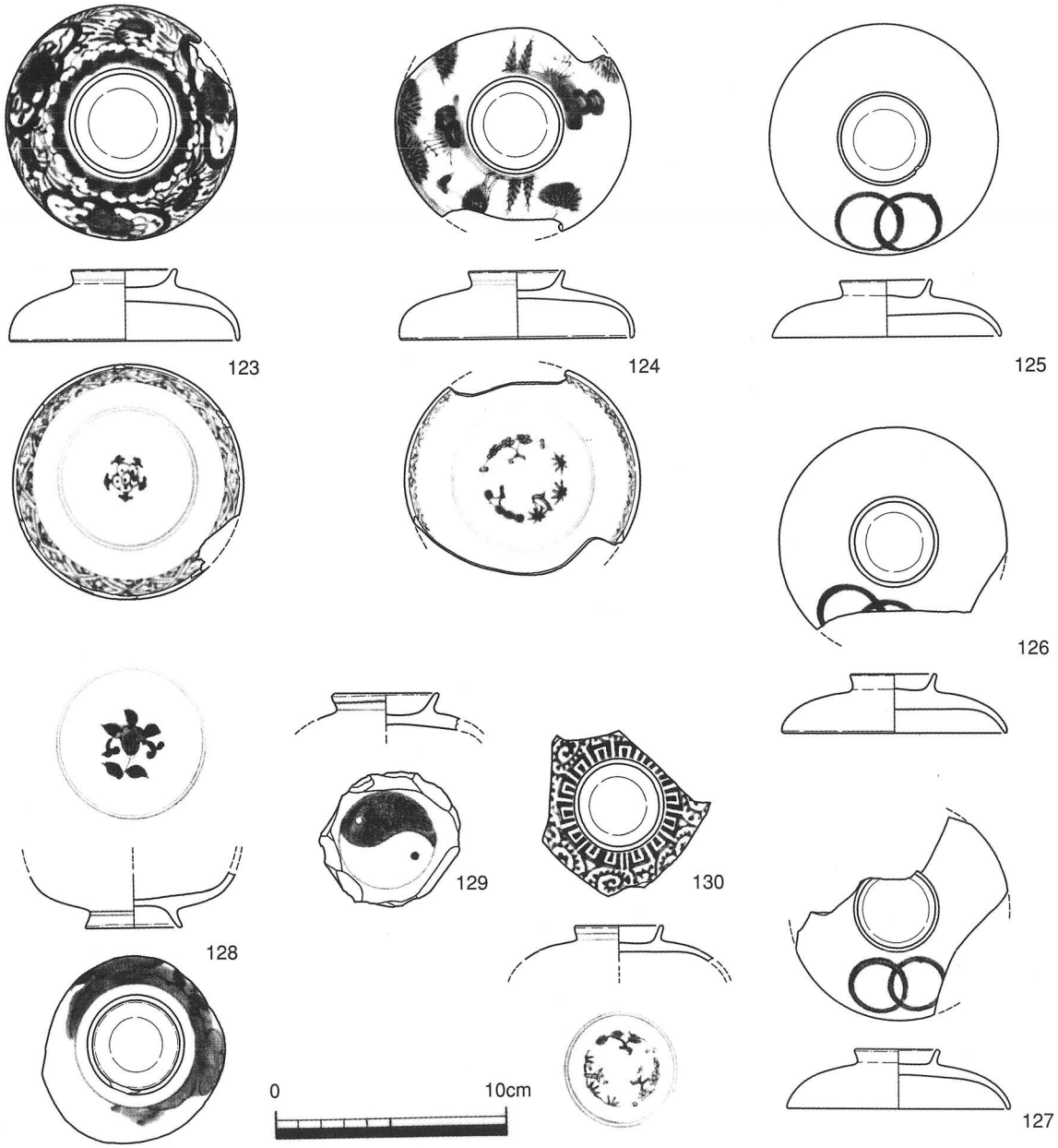
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	84	磁	小坏		口:5.9 高:2.75 底:2.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色	外面:紅葉(コンニャク印刷)	大橋Ⅳ期	
SX3001	85	磁	小坏		口:6.9 高:3.65 底:2.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	86	磁	碗		口:6.65 高:3.6 底:2.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:笹	大橋Ⅳ期	
SX3001	87	磁	皿		口:6.6 高:2.85 底:2.7	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:雨降り文	大橋Ⅳ期	
SX3001	88	磁	小坏		口:5.75 高:2.1 底:2.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	笹	大橋Ⅳ期	
SX2008	89	磁	小坏		口:6.15 高:1.8 底:2.45	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗オリーブ灰 2.5GY4/1	外面:笹	大橋Ⅳ期	
SX2008	90	磁	碗		口:7.6 高:3.8 底:3.05	微	灰白色	内外:灰白N8/1			大橋Ⅳ期	
SX2008	91	磁	小坏		口:6.15 高:2.0 底:2.7	微	灰白色	内外:灰白10Y8/1			大橋Ⅳ期	
SX2008	92	磁	小坏		口:6.8 高:2.6 底:2.6	微	灰白色	内外:透明釉			大橋Ⅳ期	
SX2008	93	磁	小坏		口:5.0 高:1.55 底:2.05	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:笹	大橋Ⅳ期	
SX3001	94	磁	紅皿		口:4.3 高:1.5 底:1.2	微	灰白色	内外:灰白N8/1		外面:鎬	大橋Ⅳ期	
SX2008	95	磁	小坏		口:7.1 高:3.2 底:2.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:コバルト			口紅
SX3001	96	磁	皿	肥前	口:13.0 高:3.25 底:7.80	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:唐草	大橋Ⅳ期	
SX3001	97	磁	底部	肥前	底:7.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	青磁染付
SX2008	98	磁	小皿		口:9.95 高:2.5 底:5.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	
SX2008	99	磁	小皿		口:10.0 高:2.2 底:5.3	微	灰白色	内外:灰白5GY8/1	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花	大橋Ⅳ期	
SX2008	100	磁	皿	肥前	口:12.85 高:3.05 底:6.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:五弁花,蛇の目釉剥(アルミナ砂)	大橋Ⅳ期	
SX3001	101	磁	皿	肥前	口:10.25 高:2.30 底:6.30	微	灰白色	外面:透明釉　内面:明緑灰10GY7/1 透明釉	呉須:明青色	外面:唐草		青磁染付 高台内に銘款
SX2008	102	磁	小皿	肥前	底:5.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・淡・暗青色 上絵:金	内面:五弁花		
SX2008	103	磁	小皿		口:9.3 高:1.6 底:4.9	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SX2008	104	磁	皿		口:13.9 高:4.2 底:8.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			蛇の目凹形高台
SX2008	105	磁	皿		口:10.00 高:2.15 底:7.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			蛇の目凹型高台部にアルミナ砂付着
SX2008	106	磁	皿		口:9.95 高:6.9 底:6.75	微	灰白色	内外:透明釉	呉須・暗オリーブ灰 2.5GY3/1			蛇の目凹型高台部にアルミナ砂付着
SX2008	107	磁	皿		口:14.0 高:4.1 底:8.1	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	蛇の目凹形高台底部に銘款有
SX2008	108	磁	皿	肥前	口:14.35 高:4.15 底:8.4	微	灰白色	内外:灰白5GY8/1	呉須:暗青色	外面:唐草	大橋Ⅳ期	高台高台内に銘款
SX2008	109	磁	皿		口:13.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	蛇の目凹形高台 高台内に銘款有
SX3001	110	磁	皿		口:14.5 高:4.05 底:9.8	微	灰白色	内外:明緑灰10GY8/1	呉須:明・暗青色	外面:唐草	大橋Ⅳ期	蛇の目凹形高台
SX3001	111	磁	皿	肥前	底:6.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	蛇の目凹形高台		
SX2008	112	磁	鉢	肥前	口:15.45 高:5.1 底:8.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:唐草	大橋Ⅳ期	高台内に銘款 輪花,型打
SX2008	113	磁	鉢	肥前	口:16.4 高:6.5 底:9.0	微	灰白色	外面:明緑灰10GY7/1 内面:明緑灰10GY8/1	呉須:淡・暗青色			高台内に銘款
SX3001	114	磁	鉢	肥前	口:15.1 高:6.55 底:8.85	微	灰白色	外面:明緑灰7.5GY7/1 内面:透明釉	呉須::明・暗青色	内面:四方欅		高台内に銘款 蛇の目凹形高台

第145図　SX2008出土遺物観察表



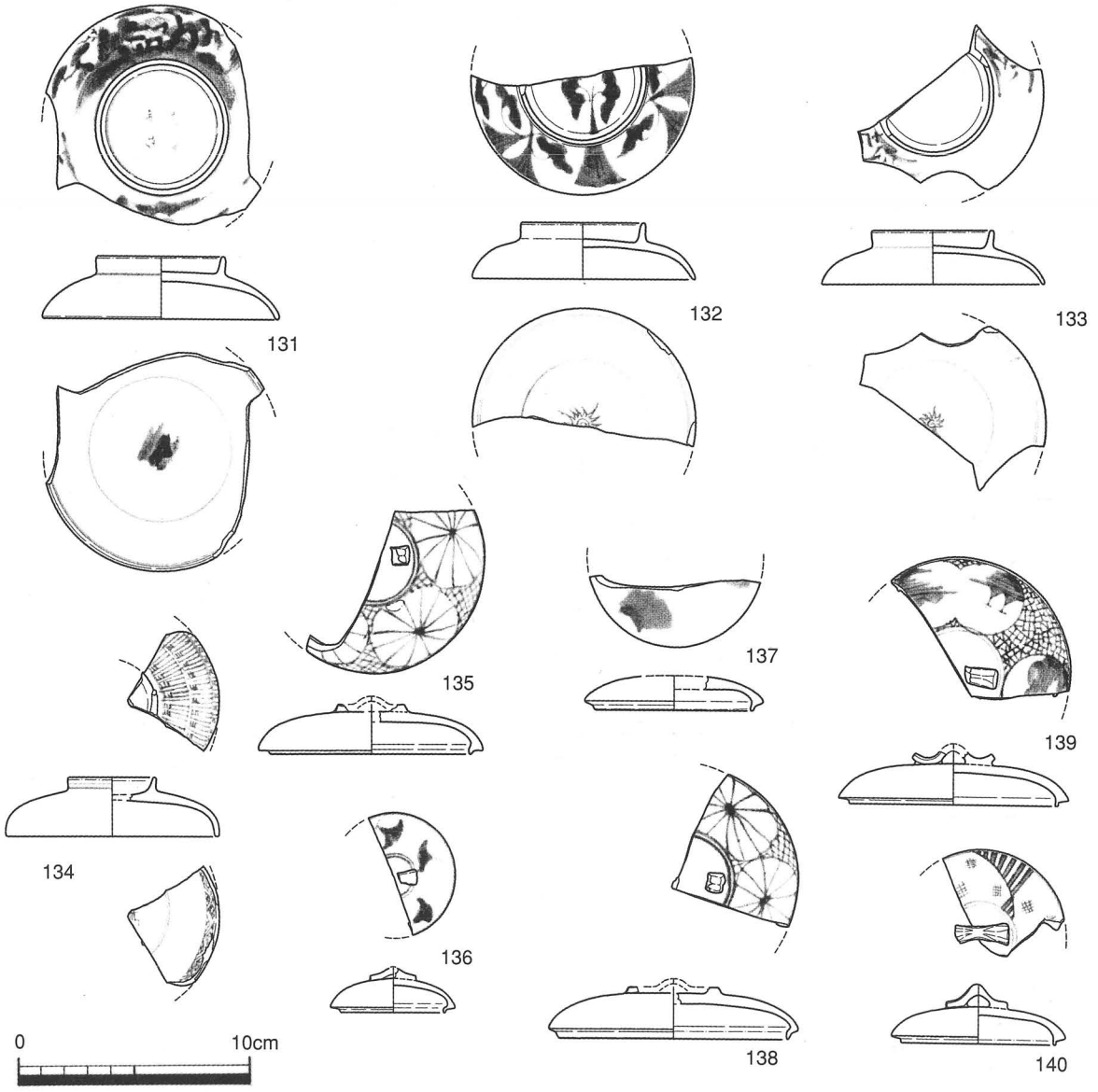
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	115	磁	染付蓋		つまみ部:4.50 高:3.30 底:11.0	微	灰白色	内面:透明釉 外面:緑灰5GY6/1	呉須:淡・暗青色	内面:口銹 四方襷	大橋Ⅳ期	青磁染付 底部に銘款有
SX3001	116	磁	染付蓋	肥前	底:10.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷 五弁花		
SX3001	117	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.95 高:2.5 底:9.95	微	灰白色	外面:明オリーブ灰5GY7/1 内面:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷 五弁花	大橋Ⅳ期	高台内に銘款
SX2008	118	磁	染付蓋		つまみ部:4.20 高:3.50 底:10.20	微	灰白色	外面:明オリーブ灰5GY7/1	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷 五弁花	大橋Ⅳ期	青磁染付
SX3001	119	磁	染付蓋		つまみ部:3.7 高:3.05 底:3.05	微	灰白色	外面:灰オリーブ7.5Y6/2 内面:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷 五弁花	大橋Ⅳ期	青 高台内に銘款
SX2008	120	磁	染付蓋		つまみ部:3.95 高:2.6 底:9.80	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	121	磁	染付蓋		つまみ部:4.05	微	灰白色	内外:透明釉	上絵:青・赤・黄・緑・黒			
SX2008	122	磁	染付蓋		つまみ部:3.60 高:2.50 底:9.10	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色	外面:花鳥	大橋Ⅳ期	

第146図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その11）



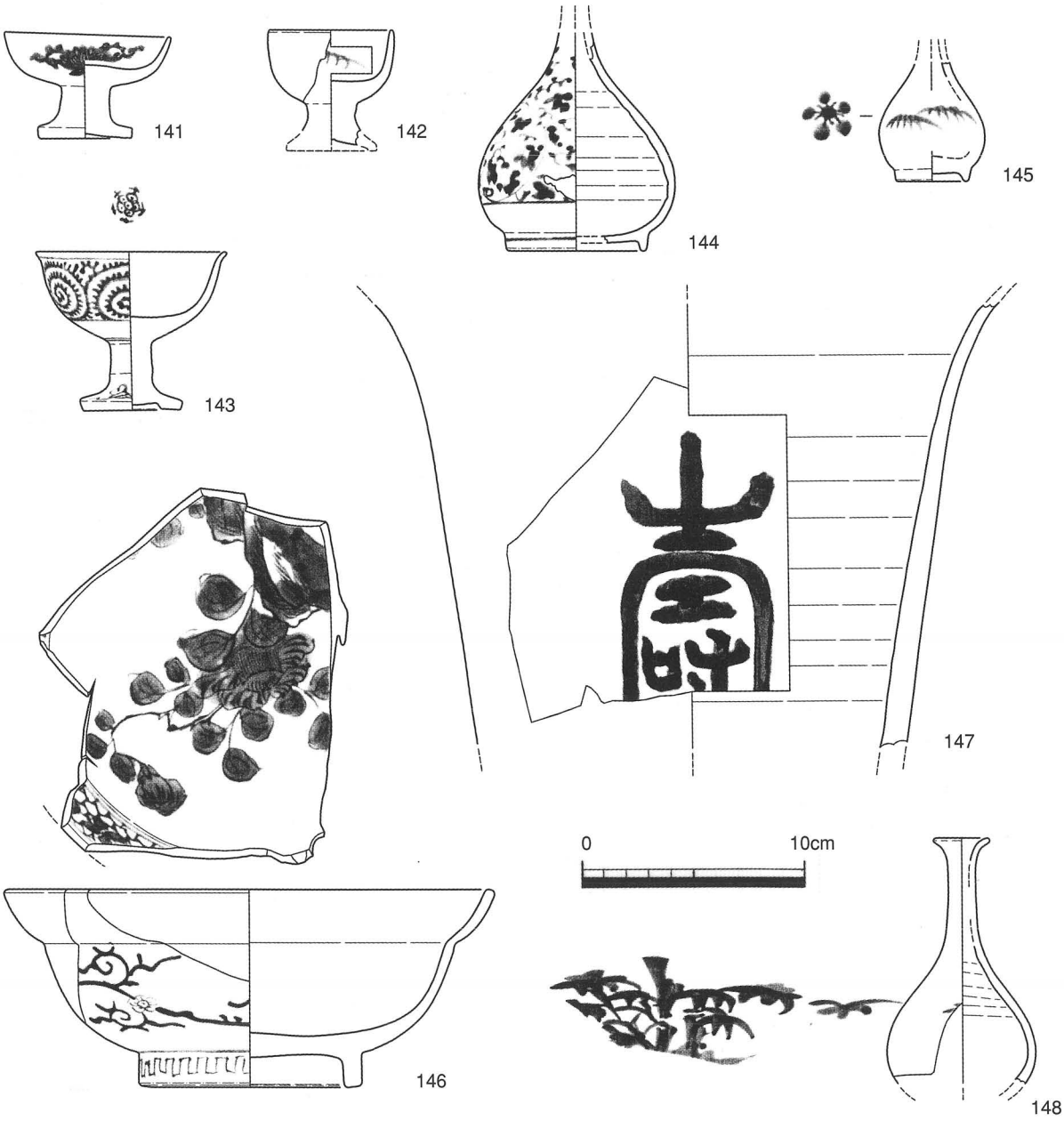
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	123	磁	蓋	肥前	つまみ部:4.50 高:3.05 底:9.80	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷 五弁花	大橋Ⅳ期	
SX2008	124	磁	蓋	肥前	つまみ部:4.00 高:2.90 底:10.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	環状松竹梅 四方襷文	大橋Ⅳ期	
SX2008	125	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.3 高:2.4 底:9.2	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色			
SX3001	126	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.6 底:9.55	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SX2008	127	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.55 高:2.55 底:9.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			
SX3001	128	磁	碗底部	肥前	底:4.1	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	129	磁	碗底部	肥前	底:4.4	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	130	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.8	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:蛸唐草 内面:環状松竹梅	大橋Ⅳ期	

第147図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その12）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	131	磁	蓋	肥前	つまみ部:5.50 高:2.65 底:10.00	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	底部に銘款有
SX2008	132	磁	蓋	肥前	つまみ部:5.20 高:2.40 底:9.50	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・明青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	133	磁	蓋	肥前	つまみ部:5.1 高:2.25 底:9.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	134	磁	蓋	肥前	つまみ部:3.65 底:9.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	内面:四方襷	大橋Ⅳ期	
SX2008	135	磁	蓋	肥前	最大径:9.6 底:8.5	微	灰白色	外面:明緑灰10GY8/1 内面:2.5GY1/1	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	136	磁	蓋	肥前	最大径:5.30 底:4.40	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:いちょう	大橋Ⅳ期	
SX3001	137	磁	蓋	肥前	最大径:7.6 底:6.6	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色			コンニャク印判
SX2008	138	磁	蓋	肥前	最大径:10.6 底:9.7	微	灰白5Y8/1	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	陶胎染体
SX2008	139	磁	蓋	肥前	最大径:9.85 底:8.90	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色		大橋Ⅳ期	
SX2008	140	磁	蓋	肥前	最大径:7.55 高:2.55 底:6.50	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色			

第148図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その13）

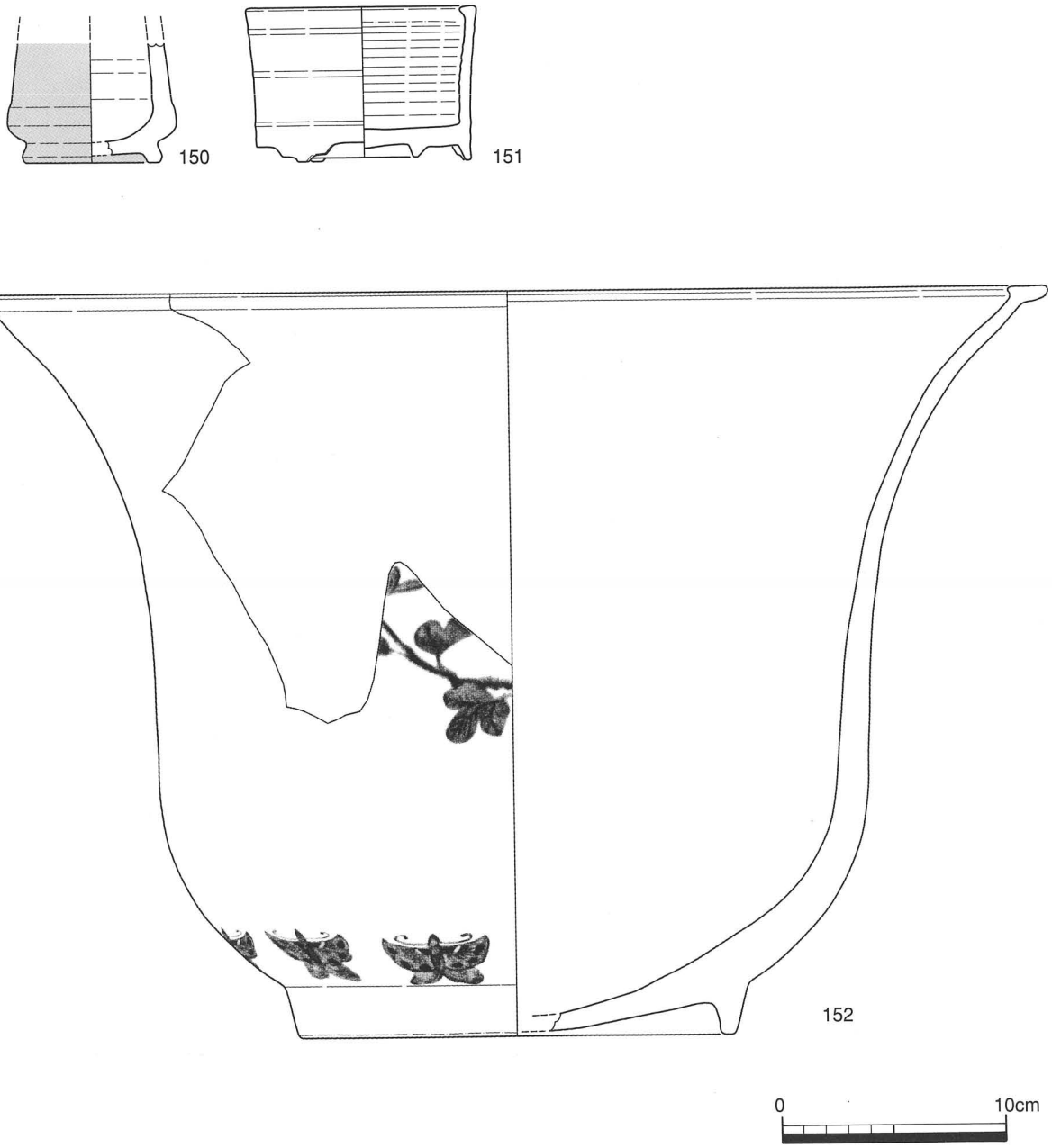


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	141	磁	染付仏飯具		口:7.4 高:4.7 底:4.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	外面:蓮	大橋Ⅳ期	
SX3001	142	磁	染付仏飯具		口:5.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡青色	外面:笹	大橋Ⅳ期	
SX2008	143	磁	染付仏飯具		口:8.4 高:7.0 底:4.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色	外面:蛸唐草 内面:五弁花	大橋Ⅳ期	
SX2008	144	磁	染付瓶		底:6.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色		大橋Ⅳ期	高台内に砂粒付着
SX2008	145	磁	染付瓶		底:3.0	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色	外面:笹・梅		
SX2008	146	磁	染付鉢		口:21.50 高:8.75 底:8.70	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・明青色			
SX2008	147	磁				微	灰白色	内外:透明釉	呉須:明・暗青色			
SX3001	148	磁	染付花生		口:2.3	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:暗青色	内面:竹		

第149図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その14）

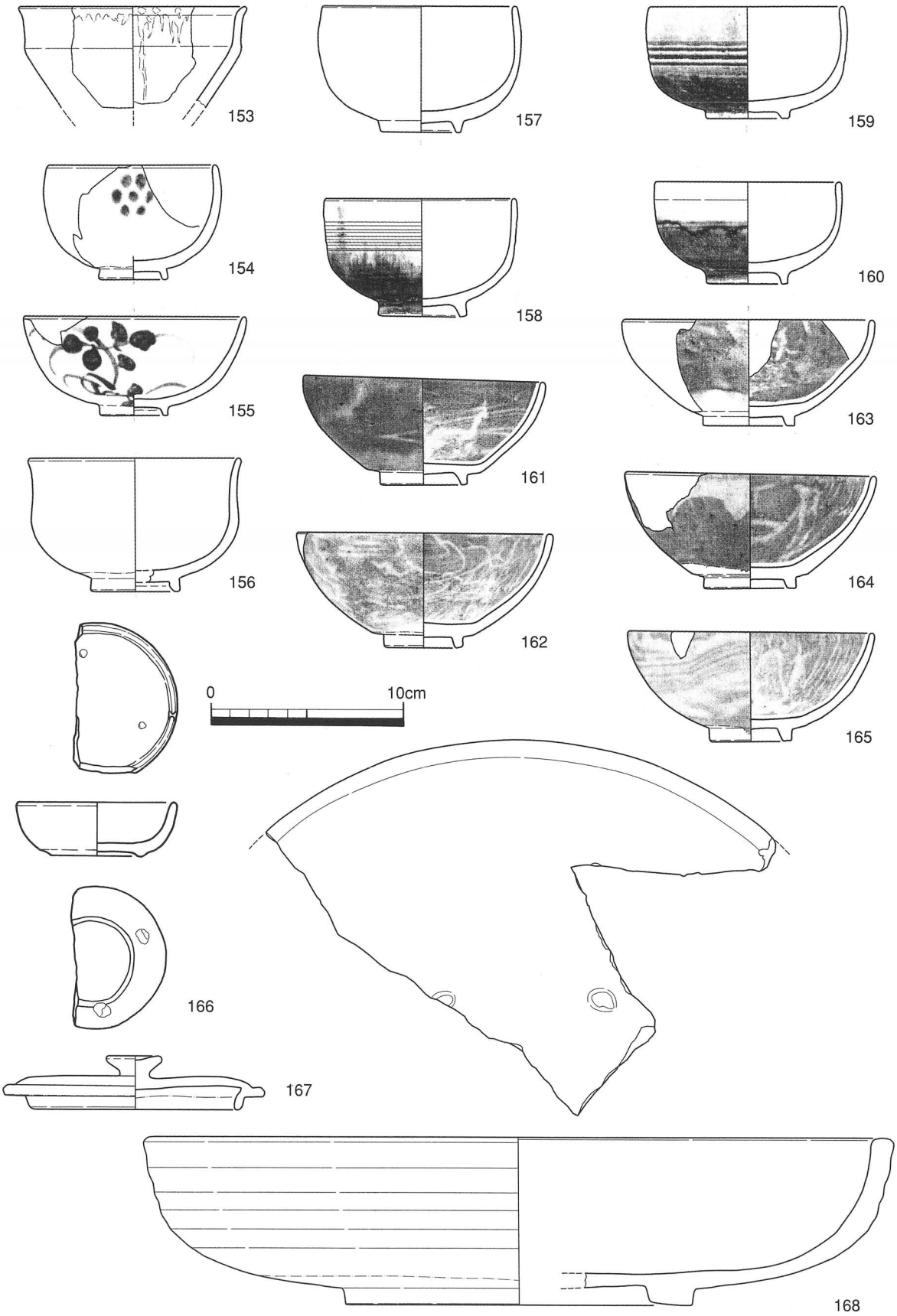
第150図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その15）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	製作年代	備考
SX2008	149	磁	壺		口:19.0 底:14.5	微	灰白色	内外:透明釉	呉須:淡・暗青色			底部に穿孔

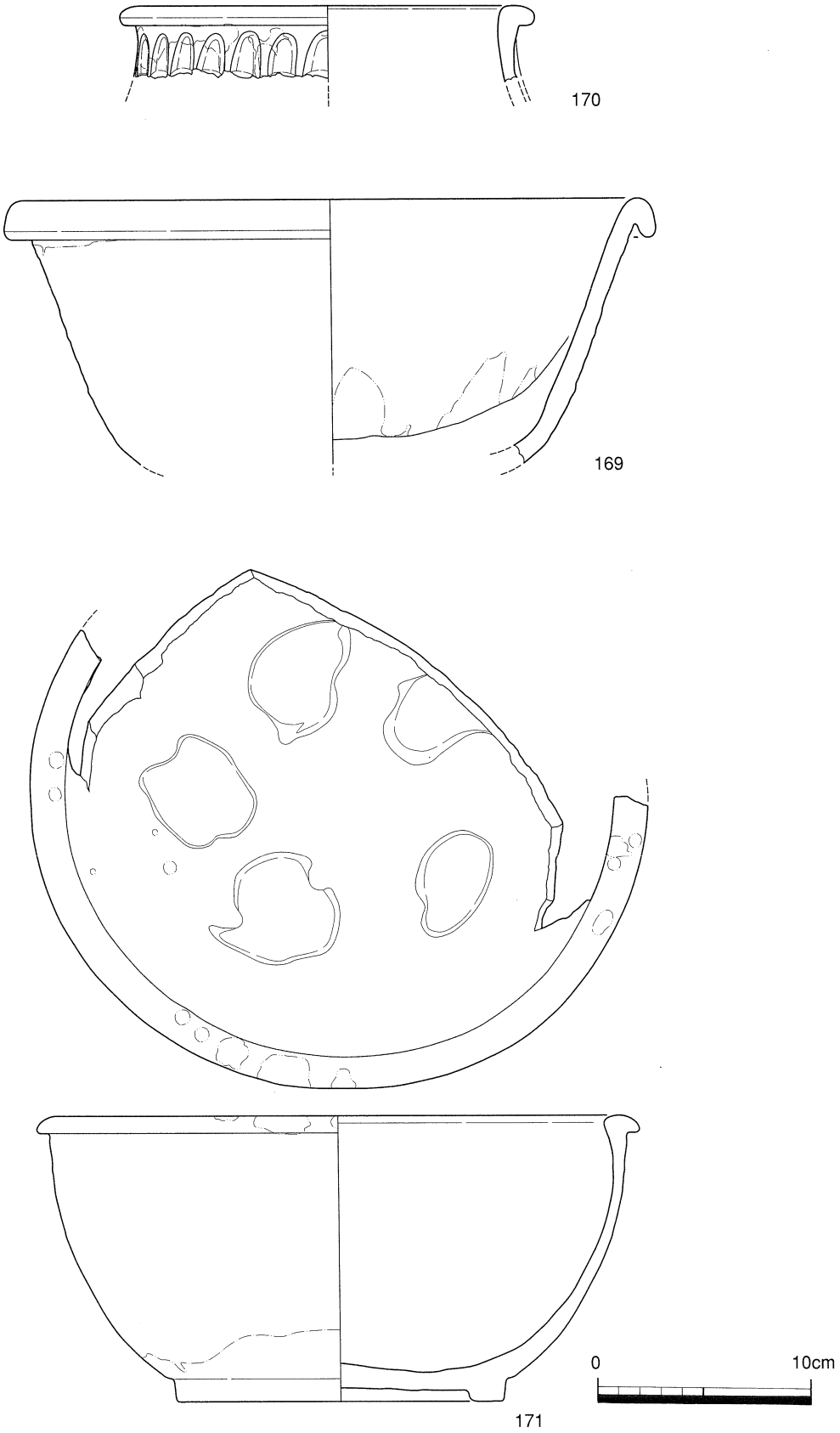


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	150	磁	香炉		底:5.9	微	灰6/1～にぶい橙5YR6/3	外面:オリーブ灰2.5GY6/1			大橋Ⅲ期	
SX2008	151	磁	火入		口:9.8 高:6.8 底:9.5	微	灰白色	内外:灰白10Y8/1			大橋Ⅳ期	内面に2次焼成の痕跡
SX2008	152	磁	壺口縁部		口:48.0 高:32.5 底:19.2							

第151図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その16）



第152図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その17）



第153図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その18）

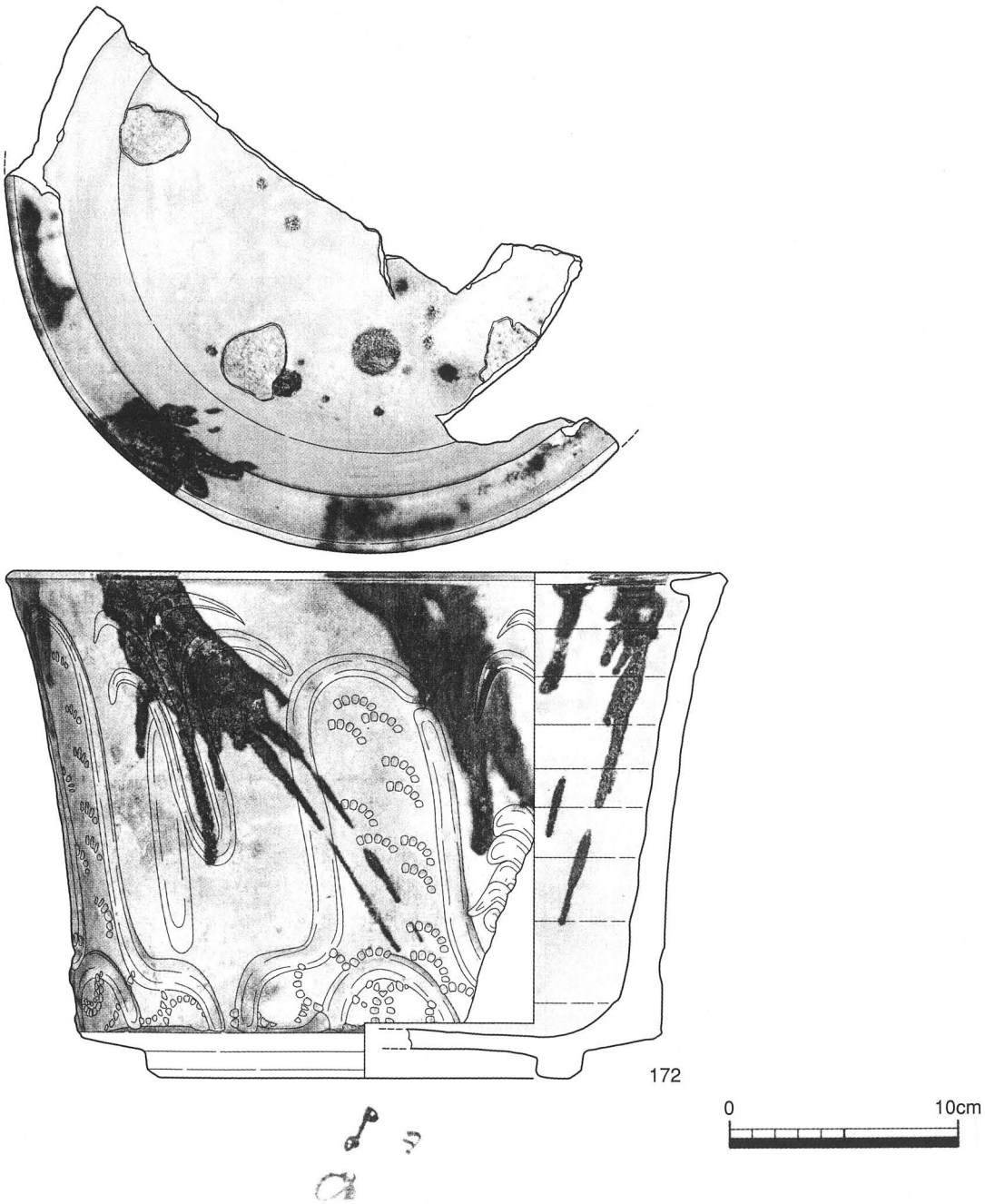
324・325は瓦質土器茶釜である。体部上半に沈線文及び如意頭，雷文の陽刻が施される。器面に銀色の剥離材が認められ，型成形によると考えられる。326・328は，瓦質土器羽釜である。

327は土師質の製品である。下半に穿孔が認められ，焜炉類の付属品或は内部構造の付属物と考えられる。

330～333は焜炉類で，いずれも上面円形となり外面に白土を薄く塗る。330は口縁内面に上面三角形となる扁平な内部突起を有する。内部構造の火床部には円孔が認められる。331・332は，3足の板状脚部を有し，体部に窓を設ける。内面に粗い刷毛調整が施され，332には内部施設との接合痕が認められる。334は目皿である。335・336も焜炉類。方形の器形で，円形の開口部をもつ。口縁内面に内部突起が認められ，4足と推定される脚を有する。335の正面には，長方形の窓が認められる。336は刻印が認められる。器面には磨き調整の他，銀色の剥離材が見られ型成形と考えられる。

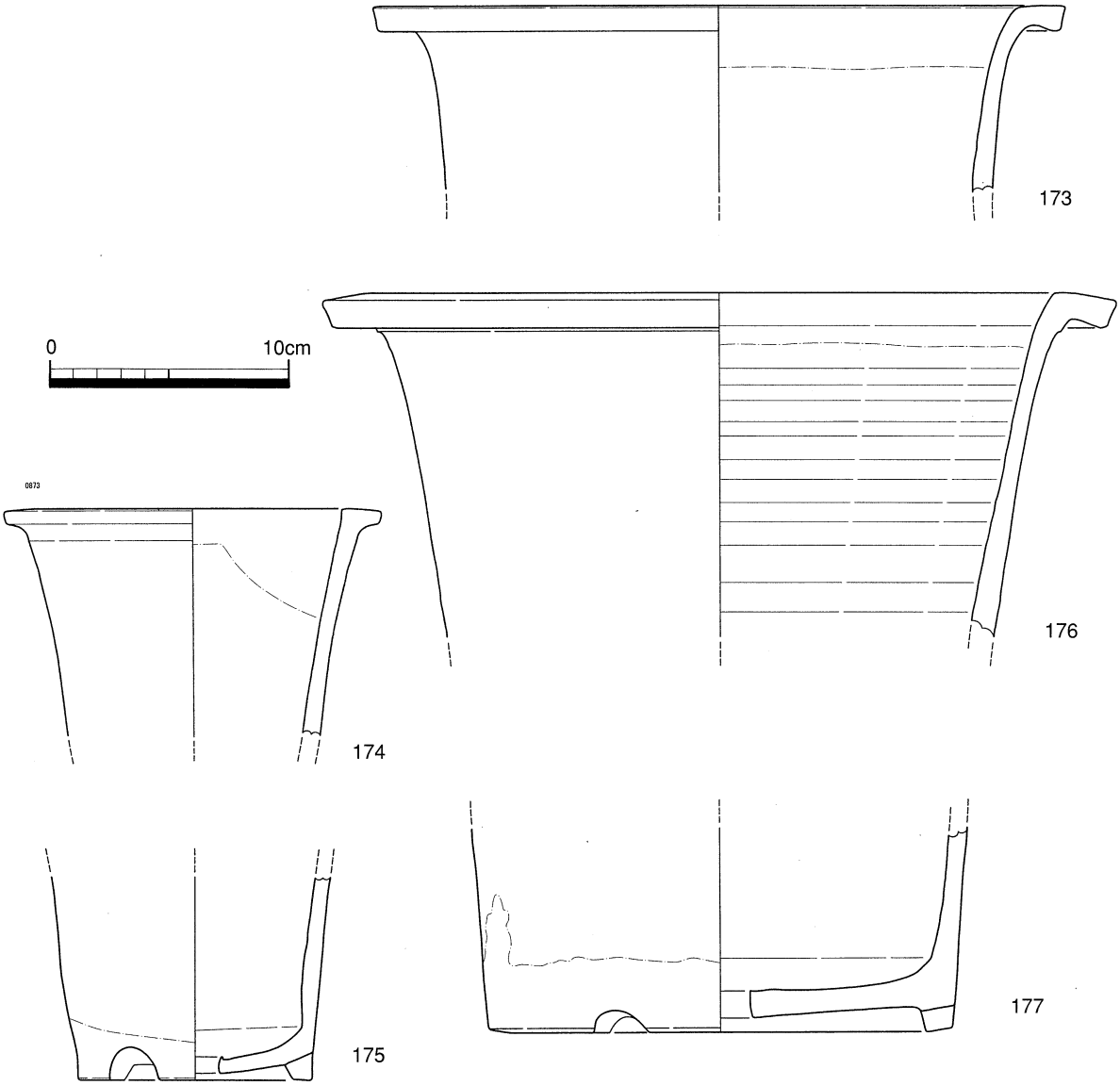
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須,上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	153	陶	碗	瀬・美	口:11.70	細	灰白5Y7/1	内外:暗赤褐2.5YR3/4 極暗赤褐10R2/2				天目碗
SX2008	154	陶	碗	瀬・美	口:8.7 高:5.9 底:3.35	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y8/2	呉須:暗緑灰10G3/1			陶胎染付
SX2008	155	陶	碗	瀬・美	口:11.40 高:5.05 底:3.30	細	灰白2.5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	呉須:暗青灰5B3/1			陶胎染付
SX2008	156	陶	碗	瀬・美	口:10.90 高:6.90 底:4.40	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白5Y8/2				
SX2008	157	陶	碗	瀬・美	口:9.40 高:5.25 底:4.20	細	灰白2.5Y7/1	外面:極暗赤褐5YR2/3 内・外口縁部:灰白10Y7/2				腰錆碗
SX3001	158	陶	碗	瀬・美	口:10.0 高:5.75 底:4.1	細	灰白5Y8/1	内・外口縁:灰白5Y7/2	外体:極暗赤褐5YR2/4			腰錆碗 櫛描状沈線
SX2008	159	陶	碗	瀬・美		細	灰白2.5Y8/2	外面:極暗赤褐5YR2/3 内・外口縁部:灰白10Y7/2				腰錆碗
SX3001	160	陶	碗	瀬・美	口:10.0 高:6.5 底:4.1	細	灰黄色2.5Y7/2	内外:灰オリーブ5Y6/2				
SX3001	161	陶	碗	瀬・美	口:12.85 高:5.45 底:4.6	細	にぶい橙7.5YR7/3	内外:透明釉		内外:白泥による打刷毛		刷毛目碗
SX2008	162	陶	碗	瀬・美	口:12.35 高:5.45 底:4.30	細	灰白2.5Y8/2	内外:オリーブ黄5Y6/3		内外:打刷毛		刷毛目碗
SX2008	163	陶	碗	瀬・美	口:12.55 高:5.65 底:4.05	細	浅黄2.5Y7/3	内外:浅黄2.5Y7/3		内外:刷毛目		刷毛目碗
SX2008	164	陶	碗	瀬・美	口:13.00 高:5.85 底:4.60	細	灰白2.5Y8/2	内外:浅黄2.5Y7/3				刷毛目碗
SX2008	165	陶	碗	瀬・美	口:13.10 高:5.90 底:4.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:浅黄2.5Y7/3		内外:打刷毛		刷毛目碗
SX3002	166	陶	皿	瀬・美	口:8.1 高:2.7 底:4.8	細	灰白2.5Y8/1	明オリーブ灰2.5GY7/1				見込みにピン痕,外面底部に胎土目
SX2008	167	陶	蓋	瀬・美	最大径:13.60 高:2.80 底:10.60	細	灰白5Y8/1	内外:灰白2.5Y8/2				
SX2008	168	陶	鉢	瀬・美	口:39.00 高:8.70 底:17.8	細	灰白5Y8/1	内外:浅黄5Y7/3				見込みに胎土目二ヶ所
SX2008	169	陶	鉢	瀬・美	口:29.00	細	灰白10YR7/1	外面:暗赤褐5YR3/3 内面・外口縁端部:灰白5Y7/2				
SX2008	170	陶	瓶掛	瀬・美	口:19.50	細	灰白2.5Y8/2	内外:極暗赤褐2.5YR2/2				
SX2008	171	陶	鉢	瀬・美	口:28.4 高:13.4 底:15.4	細	灰白5Y8/1	内外:浅黄5Y7/3	口縁上面・内の一部: 淡・濃緑			見込みに見目5ヶ所

第154図　SX2008出土遺物観察表



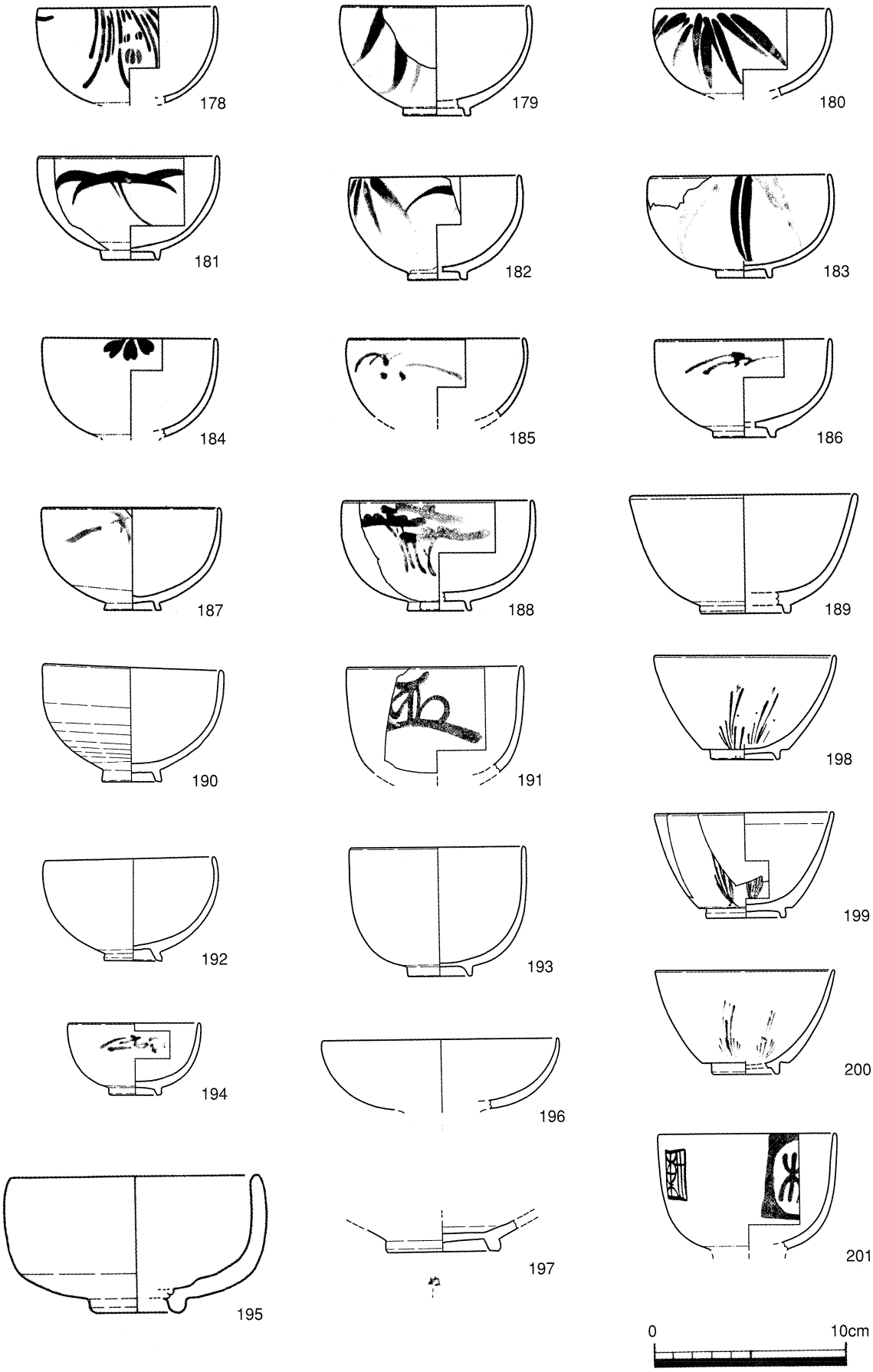
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	172	陶	水甕		口:30.85 高:21.9 底:17.85	細	灰白5Y8/2	内外:明オリーブ灰2.5GY7/1	釉掛:緑、黒7.5YR2/1			高台内に墨書有

第155図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その19）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3002	173	陶	甕口縁部		口:29.0	細	灰白5Y8/1	内外:浅黄5Y7/3				
SX2008	174	陶	植木鉢		口:15.8	細	灰白5Y8/1	内外:オリーブ灰10Y6/2				
SX2008	175	陶	植木鉢		底:9.70	細	灰白5Y8/1	外面:灰オリーブ5Y6/2				
SX2008	176	陶	植木鉢		口:33.20	細	灰白5Y7/1	内外:オリーブ灰10Y6/2				
SX2008	177	陶	植木鉢		底:19.4	細	灰白2.5Y8/2	外面:浅黄5Y7/3				

第156図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その20）



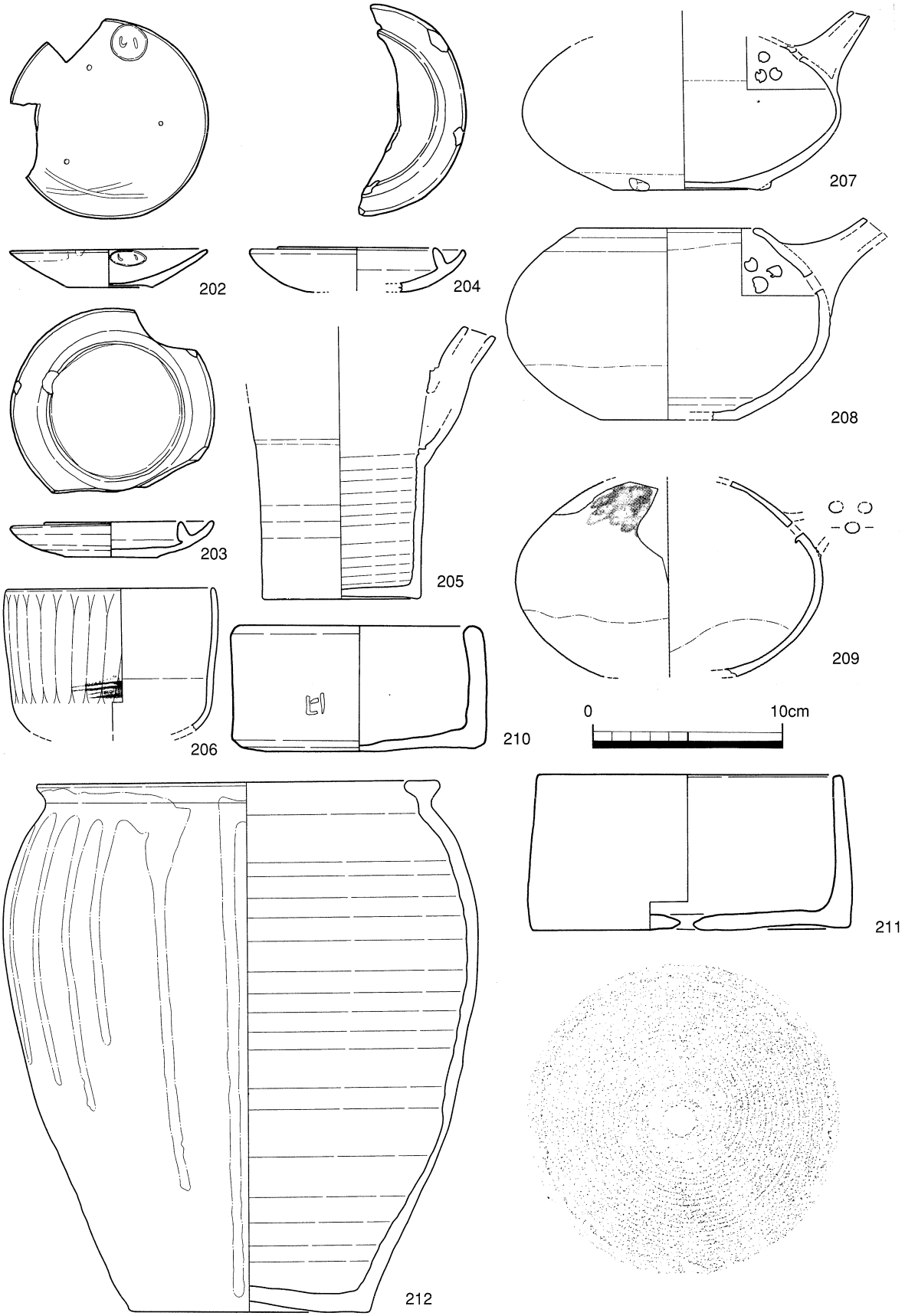
第157図　SX2008出土遺物実測図（その21）

337～354は玩具，小物類である。中空となり，剥離材を用いた型合せによるものが多く認められる。356は砥石である。360～361は金属製品である。釘（360），煙管吸口部（357～359），蓋（361）がある。

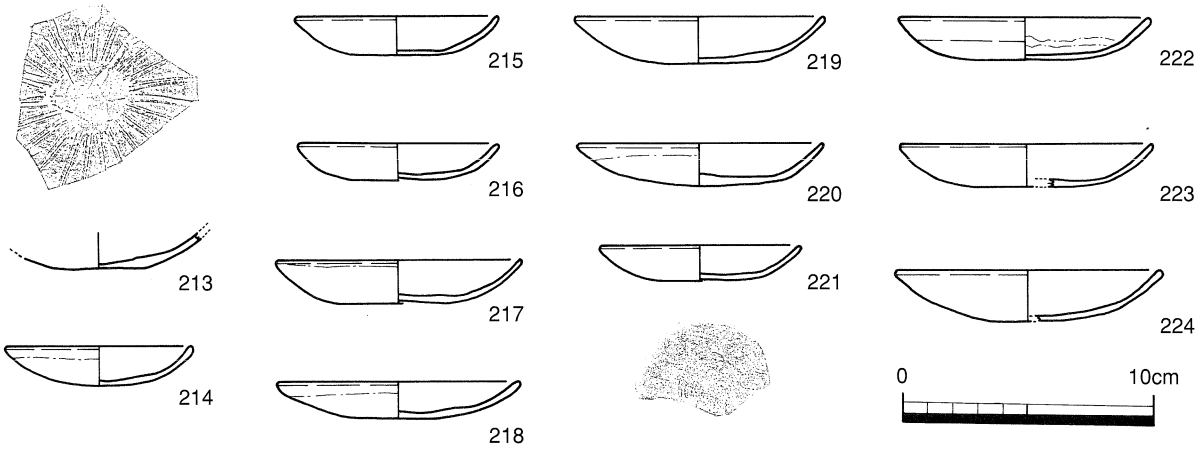
362・363は陶器の底部である。橙色と灰白色の交胎で，外面に磨き調整を加える。362は碁笥底，363は切込みの脚を有する。364は鞴の羽口部である。366～372は木製品である。373～384は瓦で，一部のみ掲載した。

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	製作年代	備考
SX2008	178	陶	碗	京・信	口:9.20	細	灰白2.5Y8/2	内外:浅黄2.5Y8/3	上絵:赤・緑・金			
SX2008	179	陶	碗	京・信	口:9.65 高:5.60 底:3.35	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	上絵:赤・金	外面:笹		
SX3001	180	磁	碗	京・信	口:8.9	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白5Y8/2	色絵:黒・緑・赤			
SX2008	181	陶	碗	京・信	口:9.30 高:5.30 底:3.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:浅黄2.5Y8/3	上絵:赤	外面:笹		
SX2008	182	陶	碗	京・信	口:8.70 高:5.30 底:3.00	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	上絵:赤・緑・金	外面:笹		
SX2008	183	陶	碗	京・信	口:9.20 高:5.35 底:2.75	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	上絵:赤・金	外面:笹		
SX2008	184	陶	碗	京・信	口:9.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰黄2.5Y7/2	上絵:赤	外面:さくら		
SX2008	185	陶	碗	京・信	口:9.00	細	灰白5Y8/1	内外:浅黄5Y7/3	鉄絵:黒褐2.5Y3/2			
SX2008	186	陶	碗	京・信	口:9.00 高:5.05 底:3.10	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	鉄絵:オリーブ黒5Y3/2			
SX2008	187	陶	碗	京・信	口:9.10 高:5.25 底:3.00	細	灰白2.5Y8/1	内外:灰白5Y7/1	鉄絵:オリーブ黒5Y3/2			
SX2008	188	陶	碗	京・信	口:9.7 高:5.65 底:3.2	細	灰白5Y8/1	内外:灰白5Y7/2	上絵:緑・青・金			
SX2008	189	陶	碗	京・信	口:11.60 高:6.10 底:4.50	細	にぶい黄橙10YR7/3	内外:オリーブ灰10Y5/2				
SX2008	190	陶	碗	京・信	口:9.25 高:5.70 底:3.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白10Y7/1				
SX2008	191	陶	碗	京・信	口:9.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白2.5Y8/1	上絵:黒			
SX2008	192	陶	碗	京・信	口:8.75 高:5.40 底:3.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白5Y8/2				
SX2008	193	陶	碗	京・信	口:9.00 高:6.65 底:6.20	細	灰白5Y8/1	内外:灰白10Y7/1				
SX2008	194	陶	碗	京・信	口:6.80 高:3.70 底:2.40	細	灰白N8/1	内外:明オリーブ灰2.5GY7/1	鉄絵:黒褐10YR3/2			
SX3001	195	陶	碗		口:12.7 高:6.95 底:4.4	微砂粒	にぶい赤7.5R4/4	にぶい赤7.5R4/4			16ｃ末～ 17ｃ初	楽系
SX3001	196	磁	碗	京・信	口:12.2	細	灰白2.5Y7/1	内外:灰オリーブ5Y6/2				
SX2008	197	陶	碗	京・信	底:5.70	細	灰白5Y7/1	内面:灰白5Y7/2				見込みにピン痕有， 底部に墨書有「ぬし」
SX2008	198	陶	碗	京・信	口:9.3 高:5.35 底:3.3	細	灰白2.5Y8/1	内外:灰白5Y8/2	呉須・暗オリーブ灰 2.5GY3/1，明青色			小杉茶碗
SX2008	199	陶	碗	京・信	口:9.10 高:5.40 底:4.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:浅黄2.5Y7/3	呉須:黒褐2.5Y3/1	外面:小杉		小杉茶碗
SX2008	200	陶	碗	京・信	口:9.20 高:5.35 底:3.10	細	灰白5Y8/1	内外:灰白2.5GY8/1	呉須・暗オリーブ灰 2.5GY8/1，明青色	外面:小杉		小杉茶碗
SX2008	201	陶	碗	京・信	口:9.00	細	灰白2.5Y8/2	内外:灰白2.5Y8/1	上絵:赤・緑			

第158図　SX2008出土遺物観察表

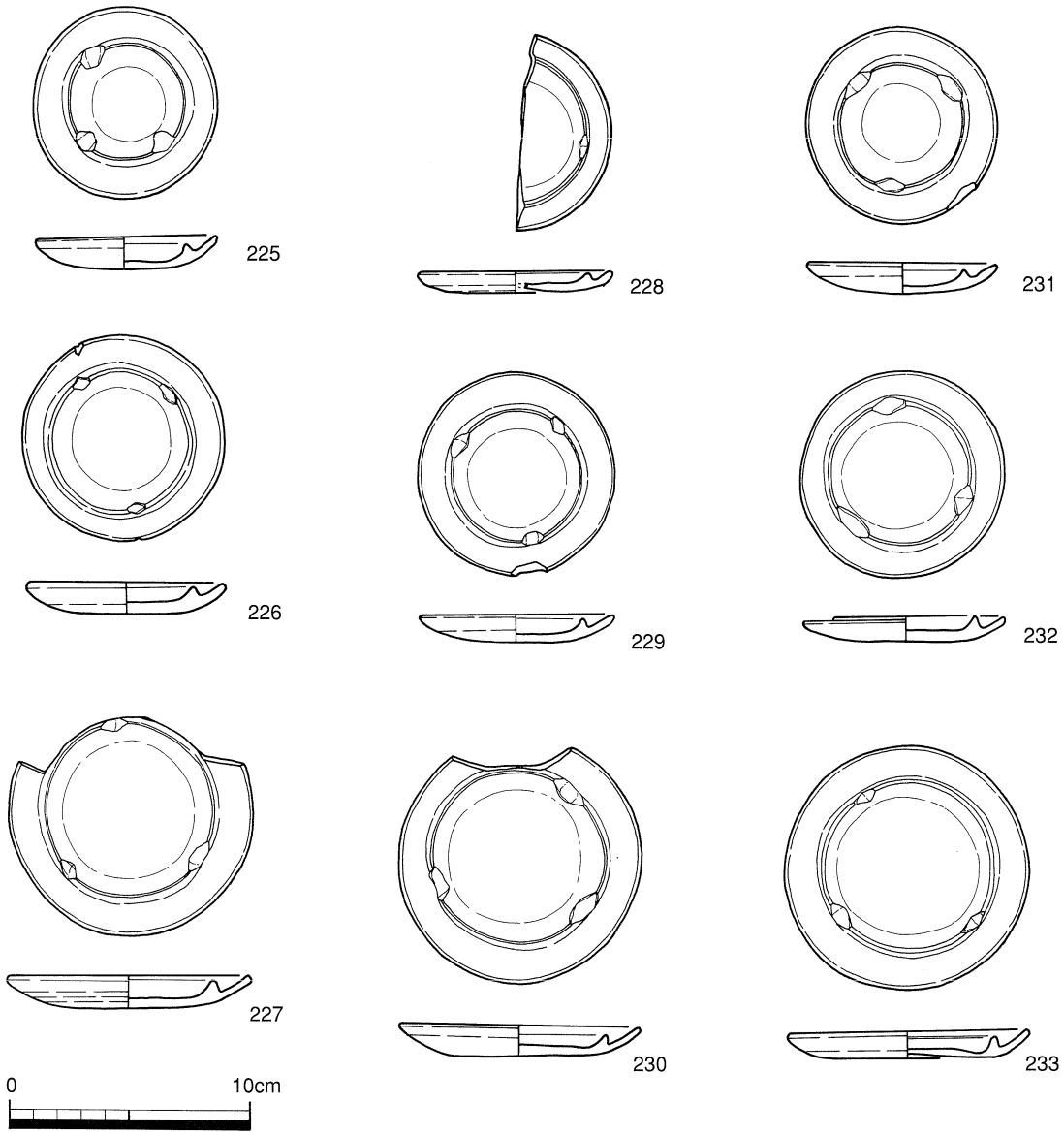


第159図　SX2008出土遺物実測図（その22）



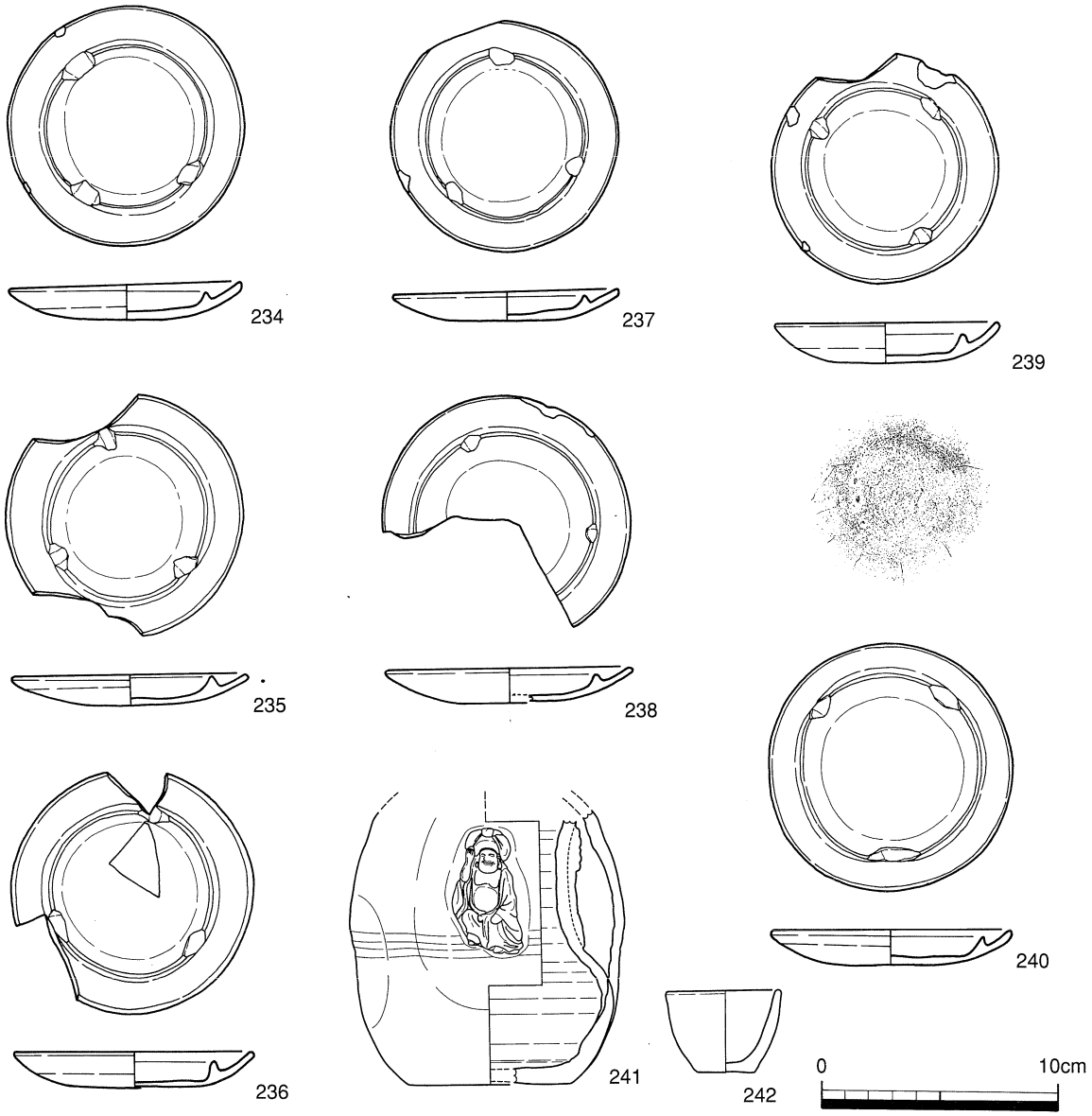
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	202	陶	灯明皿	瀬・美	口:10.0 高:2.0 底:4.3	細	灰白10Y8/2	灰N7/0		外口縁部:ロクロナデ 外底:ヘラケズリ		
SX2008	203	陶	灯明皿	京・信	口:10.2 高:4.7 底:1.9	細	灰白2.5Y8/2	浅黄2.5Y8/3				
SX2008	204	陶	灯明皿	京・信	口:10.8	細		外面:にぶい褐7.5YR5/3 内面:明赤褐10R3/2		内・外口縁部:ロクロナデ 外下半:ヘラケズリ		
SX2008	205	陶	水指	京・信	底:8.00	細	灰白5Y7/2	外上半:灰白10Y7/2 外下半:暗赤褐5YR3/6				
SX2008	206	陶	碗	京・信	口:10.50	細	灰白5Y8/1	内外:オリーブ黄5Y6/3	絵:黒2.5Y2/1,暗緑灰5G4/1			
SX2008	207	陶	土瓶	京・信		細	灰白2.5Y7/1	内外:明オリーブ灰2.5GTY7/1				
SX2008	208	陶	土瓶		口:10.90 高:9.90	細	浅黄橙7.5YR8/4	内外:灰オリーブ5Y6/2				外面に2次焼成の痕跡
SX2008	209	陶	土瓶		最大径 :15.90	細	灰白2.5Y8/2	内外:淡黄5Y8/3	上絵:淡緑			
SX2008	210	陶	鉢		口:11.9 高:6.5 底:12.1	砂粒		外面:明褐7.5YR5/6 内面:明赤褐2.5YR5/6		内外:ロクロナデ 外底:ケズリ		
SX2008	211	陶	鉢	信楽	口:15.0 高:8.0 底:16.5	細		外面:赤橙10R6/8 内面:橙5YR7/6		外面下半:ケズリ 外底:ハケメ 内面:ロクロナデ		植木鉢に転用
SX2008	212	陶	甕	京・信	口:21.0 高:27.4 底:12.6	細	黄灰2.5Y6/1	外面:暗赤褐5YR3/4 内面:灰オリーブ7.5Y5/2	釉掛:黒5Y2/1			
SX2008	213	陶	灯明皿	備前	底:3.9	細	にぶい赤7.5R4/4	にぶい赤7.5R4/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内面に放射状の条痕
SX2008	214	陶	灯明皿	備前	口:7.4 高:1.5 底:1.7	細		外面:赤橙10R6/6 内面:赤褐10R5/4		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:ケズリ		口縁内外の一部に煤付着
SX2008	215	陶	灯明皿	備前	口:8.0 高:1.5 底:3.6	細		外面:灰赤7.5R6/2 内面:にぶい赤褐7.5R5/3		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:ケズリ		口縁内外に煤付着
SX2008	216	陶	灯明皿	備前	口:7.8 高:1.4 底:3.6	細		外面:赤10R5/6 内面:赤褐10R4/4		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:ケズリ		口縁内外の一部に煤付着
SX2008	217	陶	灯明皿	備前	口:4.6 高:1.7 底:4.2	細		外面:にぶい橙2.5YR6/3 内面:にぶい赤褐2.5YR5/3		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:ケズリ		口縁部内外の一部に煤付着
SX2008	218	陶	灯明皿	備前	口:9.6 高:1.4 底:3.3	細		外面:灰赤2.5YR5/2 内面:暗赤灰10R4/1		外底:ケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		口縁内外の一部に煤付着
SX2008	219	陶	灯明皿	備前	口:9.9 高:1.8 底:2.2	細		外面:赤褐10R5/4 内面:赤褐10R5/4		外底:ケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		内面釉
SX2008	220	陶	灯明皿	備前	口:9.8 高:1.7 底:4.9	細		外面:赤灰7.5R5/1 内面:暗赤灰7.5R4/1		外底:ケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		内面釉
SX2008	221	陶	灯明皿	備前	口:8.0 高:1.4 底:3.2	細	灰5Y6/1	灰5Y6/1		内・外口縁部:ロクロナデ 内面:ケズリ,回転糸切り		口縁内外に煤付着
SX2008	222	陶	灯明皿	備前	口:9.9 高:1.7 底:3.7	細		外面:赤褐10R5/4 内面:赤褐10R4/3		外口縁部:ロクロナデ 外底:ケズリ		口縁部内外に煤付着
SX3001	223	陶	灯明皿	備前	口:10.0 高:1.7 底:4.2	細	にぶい赤褐2.5YR5/4	にぶい赤褐2.5YR5/4		内外:ロクロナデ 外底・外面下半:ケズリ		口縁部内外面に煤付着,内面釉
SX2008	224	陶	灯明皿	備前	口:10.4 高:2.0 底:3.0	細		外面:にぶい橙2.5YR6/4 内面:赤10R5/6	呉須・暗オリーブ灰2.5GY8/1,明青色	外底:ケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		内面釉

第160図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その23）



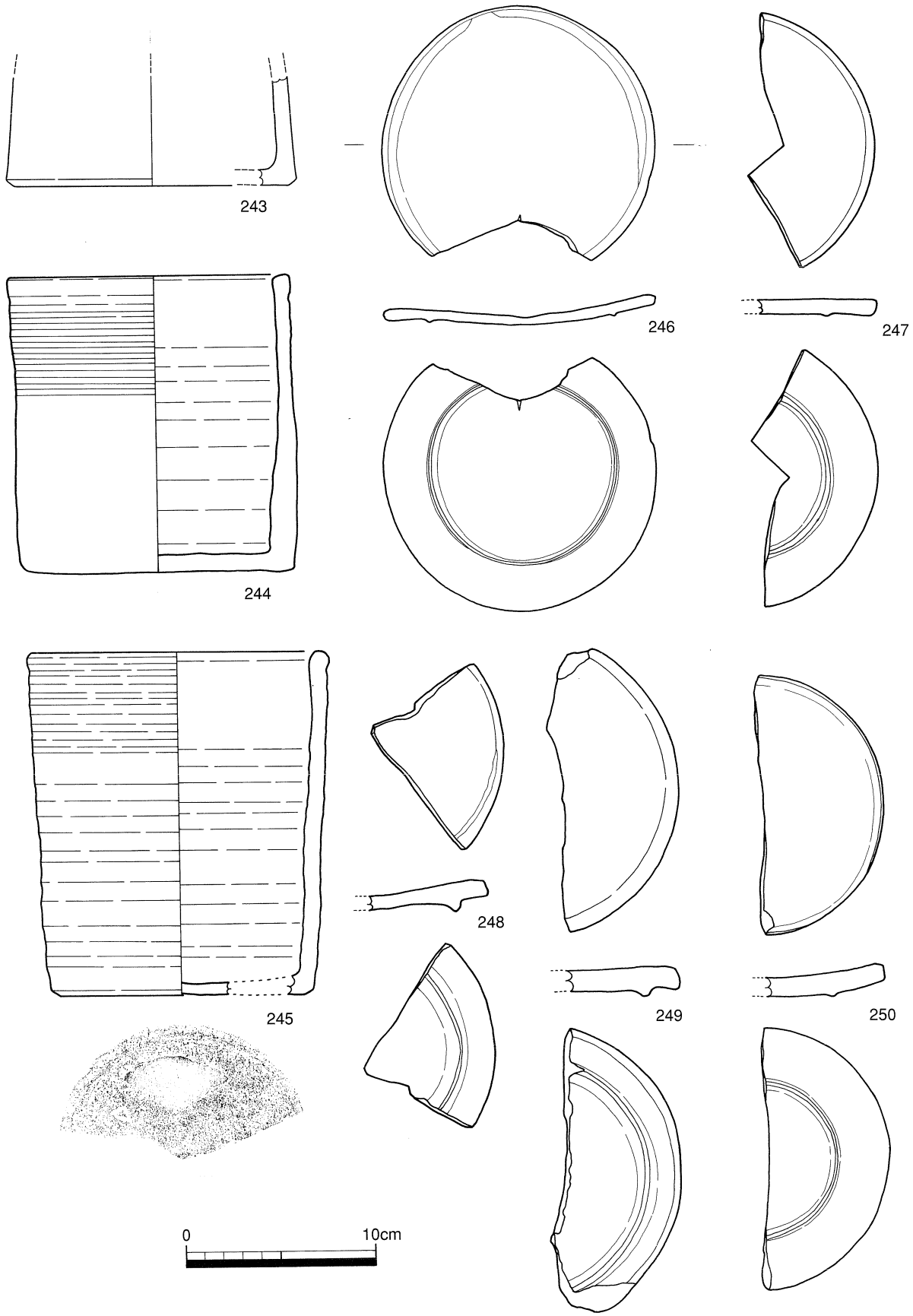
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	225	陶	灯明皿	備前	口:7.3、高1.4	細	赤褐10R4/4	赤褐10R4/4		外底:ヘラケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		
SX2008	226	陶	灯明皿	備前	口:8.0、高1.2	細	赤10R5/8	赤10R5/8		外底:ヘラケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		
SX2008	227	陶	灯明皿	備前	口:9.8、高1.4	細	赤7.5R4/6	赤7.5R4/6		外底:ヘラケズリ 以外:ロクロナデ		
SX3001	228	陶	灯明皿	備前	口:8.0、高0.8	細	暗赤褐7.5R3/3	暗赤褐7.5R3/3		内外:ロクロナデ 外底:回転ヘラケズリ		
SX2008	229	陶	灯明皿	備前	口:7.9、高1.2	細	暗赤7.5R3/6	暗赤7.5R3/6		外底:ヘラケズリ、回転糸切り 内・外口縁部:ロクロナデ		
SX2008	230	陶	灯明皿	備前	口:9.7、高1.3	細	赤褐10R4/4	赤褐10R4/4		外底:ヘラケズリ、回転糸切り 内・外口縁部:ロクロナデ		口縁内外の一部に煤付着
SX2008	231	陶	灯明皿	備前	口:7.6、高1.3	細	赤10R5/8	赤10R5/8				内面の一部に塗土?なし
SX2008	232	陶	灯明皿	備前	口:8.1、高1.1	細	赤褐10R4/3	赤褐10R4/3		外底:ヘラケズリ、回転糸切り 内・外口縁部:ロクロナデ		口縁の一部釉なし
SX2008	233	陶	灯明皿	備前	口:10.0、高1.1	細		外面:暗赤10R3/6 内面:暗赤10R3/4		外底:ヘラケズリ 以外:ロクロナデ		

第161図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その24）

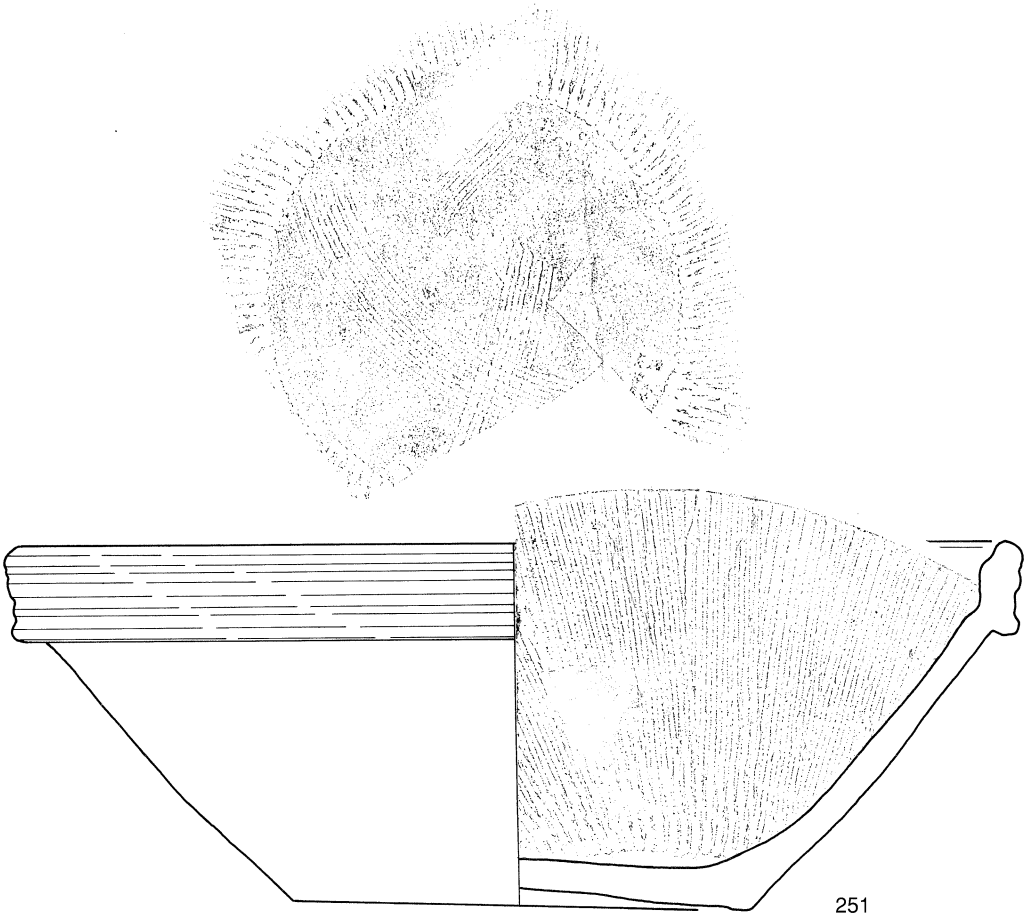


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	234	陶	灯明皿	備前	口:9.7、高1.6	細	赤7.5R4/6	赤7.5R4/6		外底:ヘラケズリ、回転糸切り 内・外口縁部:ロクロナデ		
SX2008	235	陶	灯明皿	備前	口:9.7、高1.3	細	赤7.5R4/6	赤7.5R4/6		外底:ヘラケズリ 以外:ロクロナデ		
SX2008	236	陶	灯明皿	備前	口:9.9、高1.5	細	赤10R4/6	赤10R4/6		外底:ヘラケズリ 以外:ロクロナデ		
SX2008	237	陶	灯明皿	備前	口:9.4、高1.3	細	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい褐7.5YR5/3		外底:ヘラケズリ 以外:ロクロナデ 内底:仕上げナデ		
SX3001	238	陶	灯明皿	備前	口:10.1、高1.4	細	灰赤7.5R4/2	灰赤7.5R4/2		内外:ロクロナデ 外底・外面下半:ケズリ		
SX2008	239	陶	灯明皿	備前	口:9.2、高1.6	細	赤7.5R4/6	赤7.5R4/6		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX2008	240	陶	灯明皿	備前	口:10.0、高1.5	細	赤褐10R4/4	赤褐10R4/4		外底:ヘラケズリ 内・外口縁部:ロクロナデ		口縁内外の一部に煤付着
SX2008	241	陶	人形徳利	備前	底:6.80	細	明赤褐2.5YR5/6	外面:にぶい赤褐5YR4/4 内面:明赤褐2.5YR5/6				
SX2008	242	陶	小坏	備前	口:4.70、高3.50 底:2.40	細	橙5YR6/6	橙5YR6/6		底部:回転糸切り		

第162図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その25）



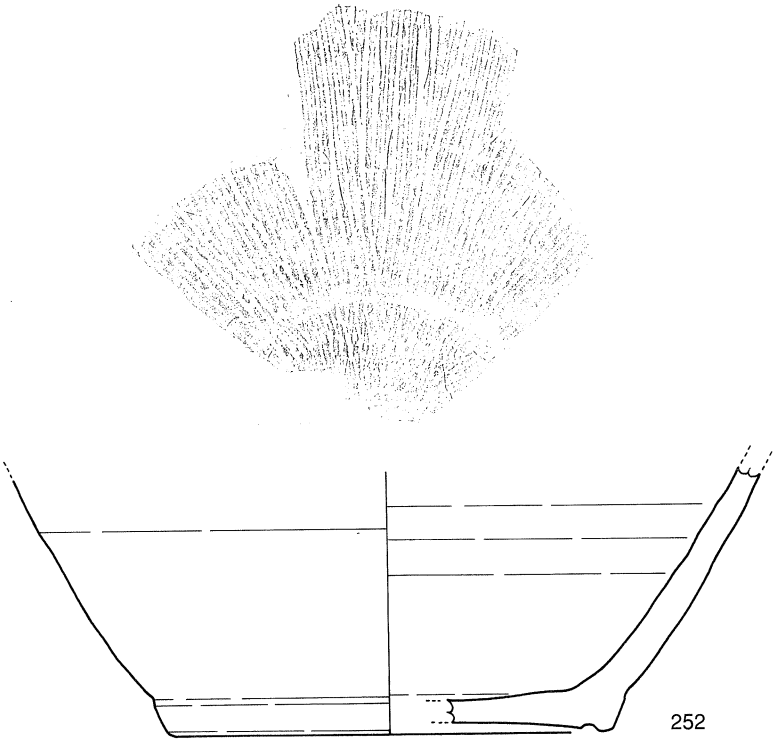
第163図　SX2008出土遺物実測図（その26）

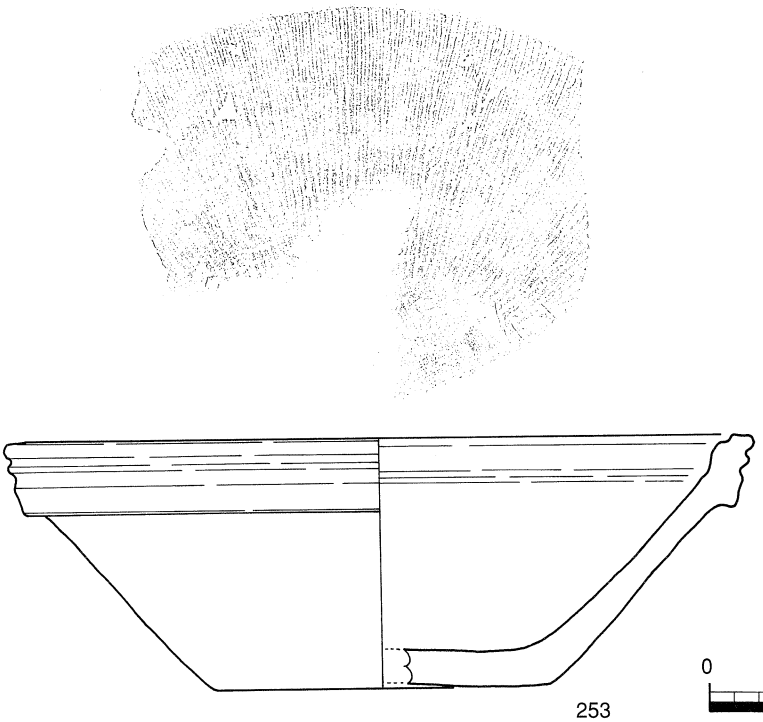


0　10cm

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	243	陶	鉢	備前	底:15.00	細	灰N4/1	外面:暗赤褐5YR3/2 内面:暗赤褐10R3/3～橙7.5YR6/6				
SX2008	244	陶	鉢	備前	口:12.6 高:15.4 底:14.1	細	にぶい赤褐2.5YR4/4	にぶい赤褐2.5YR4/4		内外:ロクロナデ		内面に煤付着
SX3001	245	陶	鉢	備前	口:14.3 高:17.8 底:12.8	砂粒少		外面:暗赤7.5R3/4 内面:暗赤10R3/6				
SX2008	246	陶	蓋	備前	最大径:14.2 最大厚:0.4～0.6	微砂粒		外面:灰褐7.5YR4/2 内面:にぶい赤褐2.5YR4/4		外・上縁部:ヘラ状工具による調整,内面:ロクロナデ		
SX2008	247	陶	蓋	備前		細		外面:赤褐2.5YR4/6 内面:赤10R5/8				内面に少量の砂付着
SX2008	248	陶	蓋	備前		黒色粒	にぶい褐7.5YR6/3	にぶい褐7.5YR6/3				
SX2008	249	陶	蓋	備前		細	にぶい褐7.5YR5/3	にぶい褐7.5YR5/3		内外:ロクロナデ		
SX2008	250	陶	蓋	備前		細	にぶい赤褐5YR5/3	にぶい赤褐5YR5/3		外・上縁部:ヘラ状工具による調整,外面:ヘラケズリ		備前？
SX2008	251	陶	擂鉢	堺・明石	口:39.4 高:14.4 底:18.3	微砂粒		内外:極暗赤褐10R2/3				

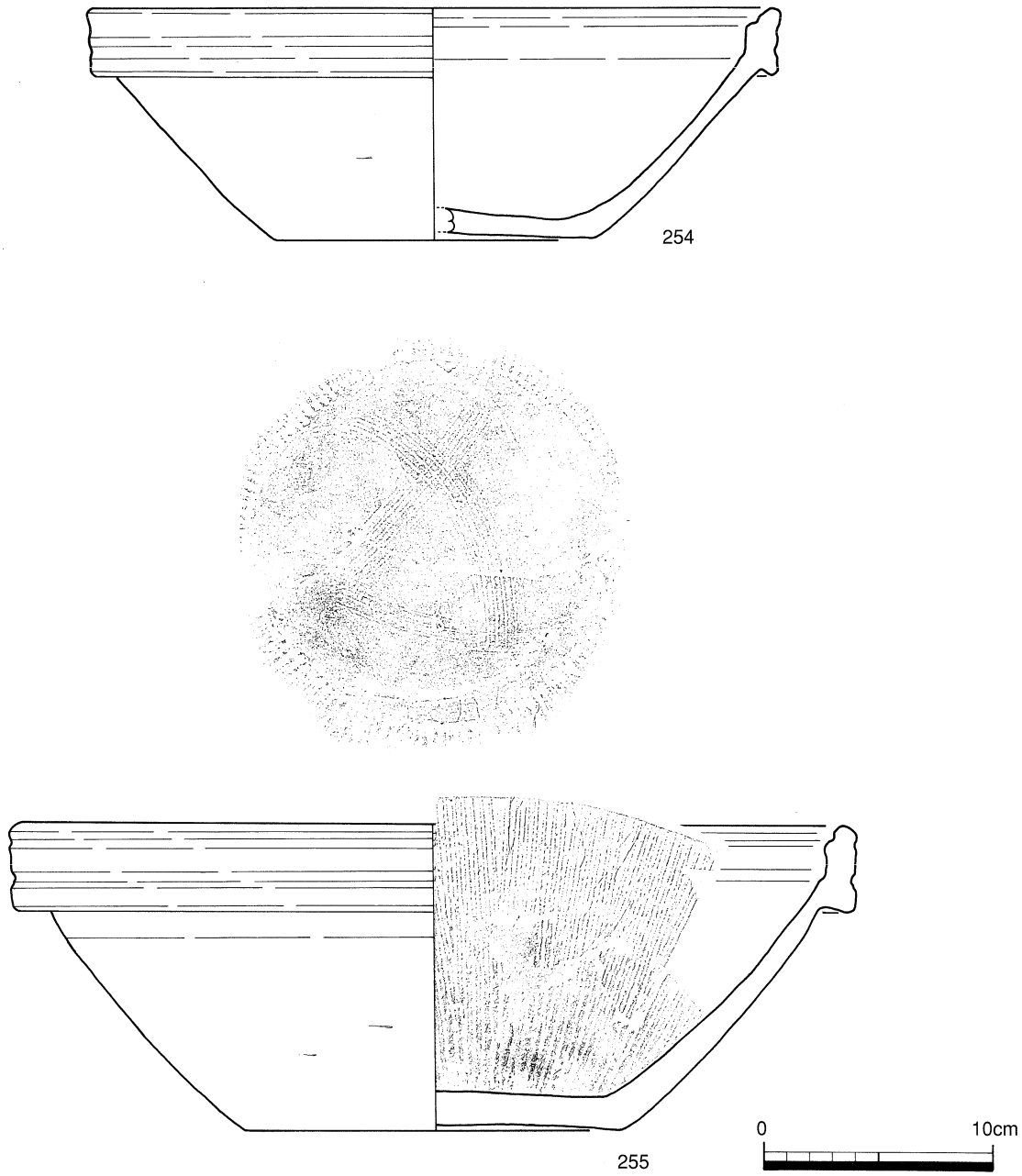
第164図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その27）





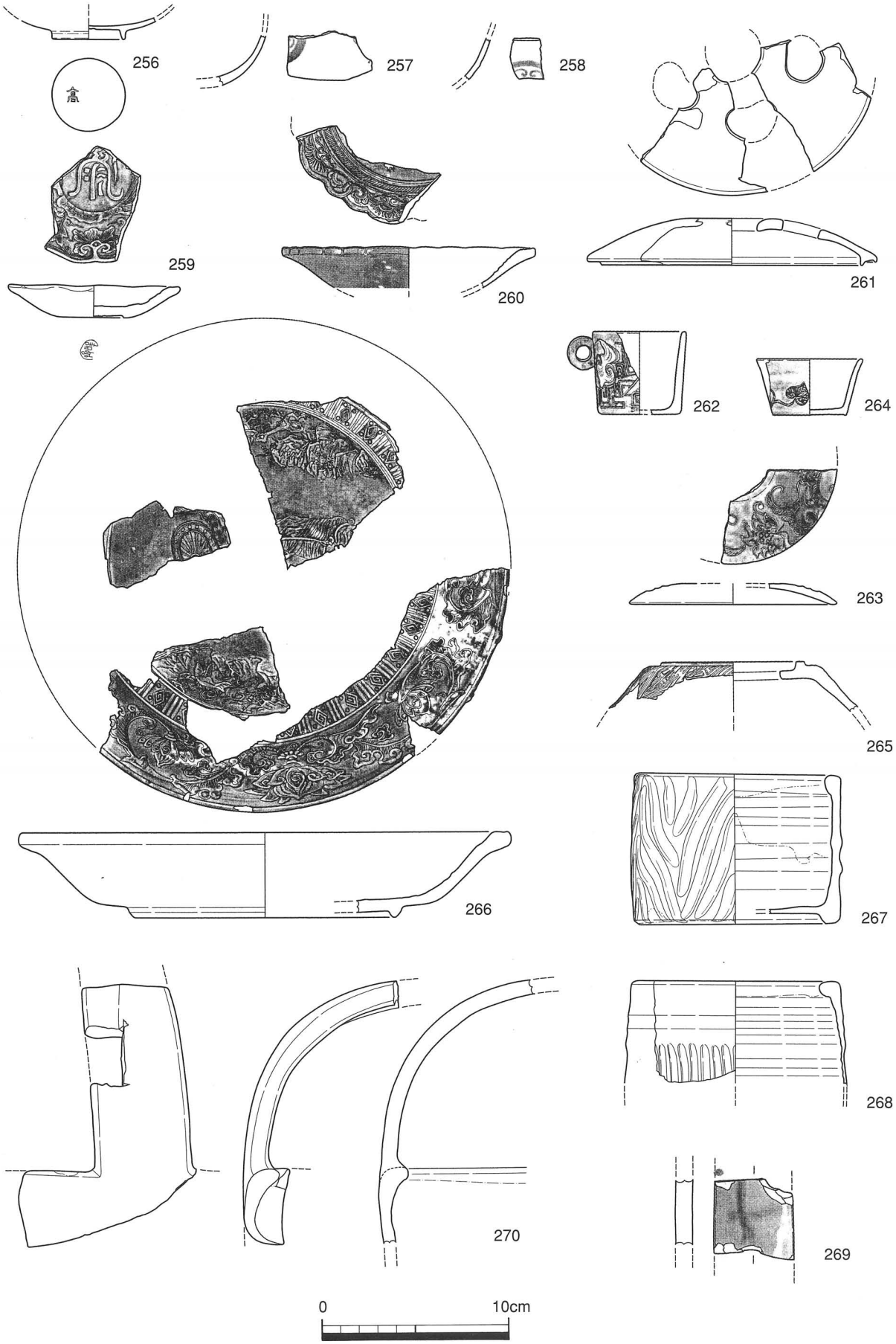
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	252	陶	擂鉢	堺・明石	底:15.7	石・長多	赤10R4/6	赤10R4/6		外面:ロクロナデ		
SX3001	253	陶	擂鉢	堺・明石	口:28.3 高:9.85 底:13.6	石・長多		外面:にぶい赤褐2.5YR4/3 内面:橙2.5YR6/8		内外・外面下半:ロクロナデ		

第165図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その28）

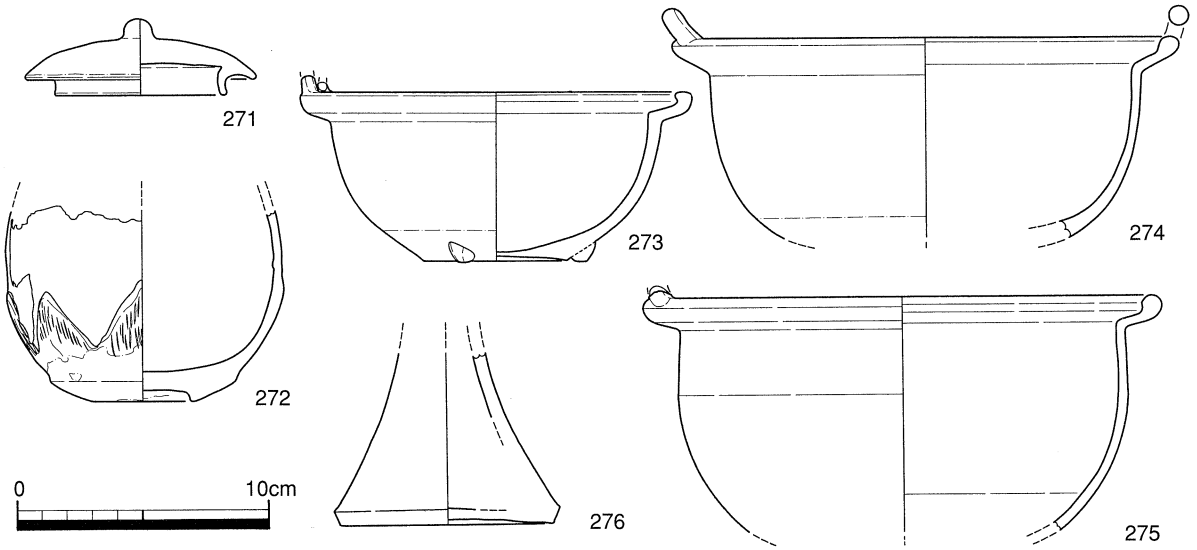


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	254	陶	擂鉢	堺・明石	口:28.5 高:10.0 底:13.6	砂粒	暗赤7.5R3/4	暗赤7.5R3/4		内外口縁部:ロクロナデ 外面:ナデ:ケズリ		内外に被熱痕
SX2008	255	陶	擂鉢	堺・明石	口:35.7 高:13.2 底:16.4	微砂粒		内外:赤10R4/8				堺・明石産

第166図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その29）

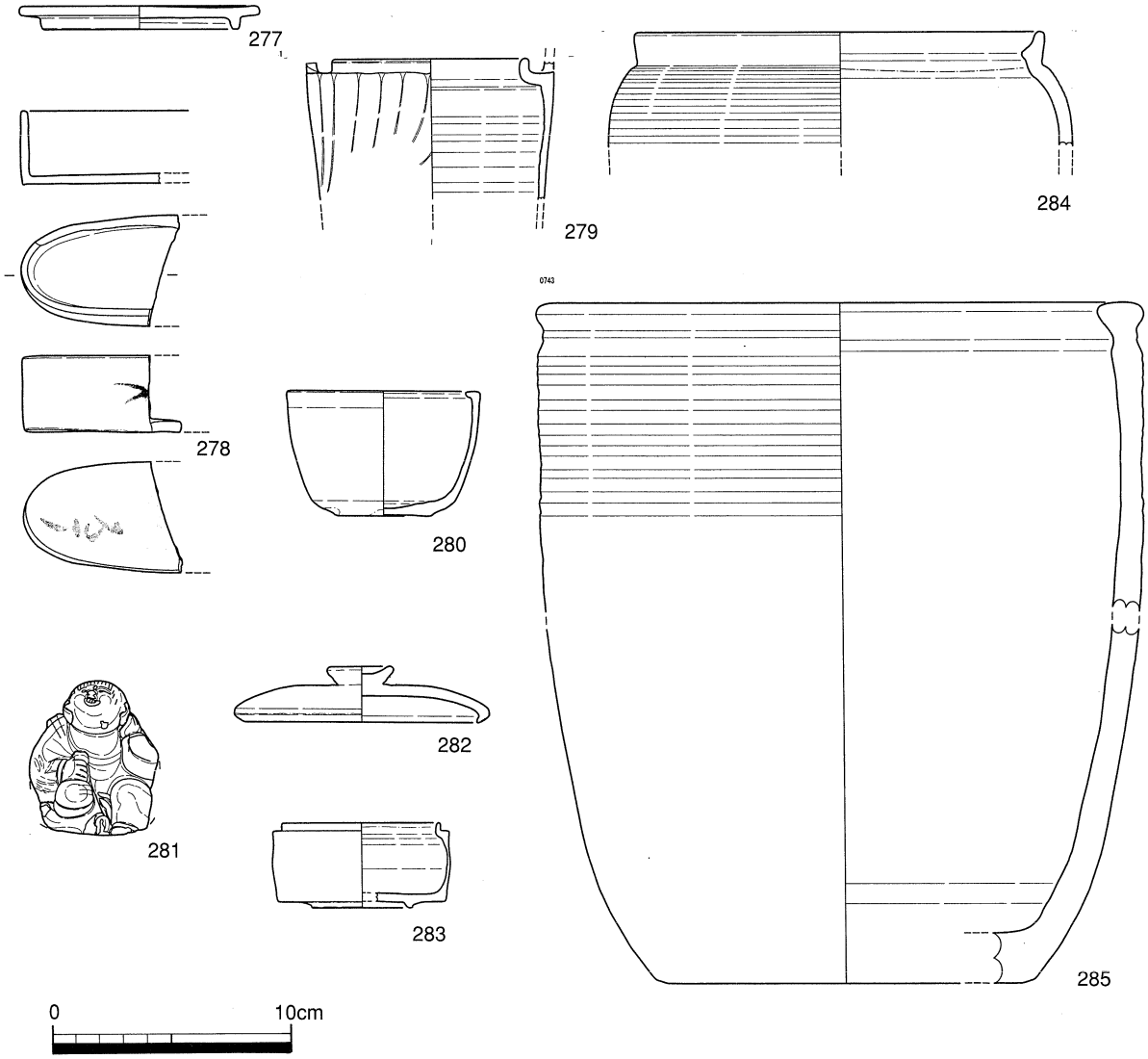


第167図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その30）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	256	磁	碗底部		器高:1.15 底:3.70	細	灰白色	内外:灰白N8/1				底部に「破風高」刻印有
SX2008	257	陶	破片			細	灰白5Y7/1	内外:透明釉	上絵:紺・茶	外面:家紋		理兵衛焼?
SX2008	258	陶	破片			細	灰白5Y8/1	内外:灰黄2.5Y7/2	上絵:紺・金	外面:家紋		理兵衛焼?
SX2008	259	陶	皿		口:9.10 高:1.70 底:3.20	中	灰白2.5Y8/1	内外:明黄褐10YR6/8～暗赤褐5YR3/4		内面:陽刻		源内焼 底部に刻印有
SX2008	260	陶	皿		口:13.50	細	黄灰2.5Y6/1	内外:オリーブ褐2.5Y4/4		内面:陽刻		
SX2008	261	陶	蓋		最大径:15.40 高:2.50 底:13.70	細	灰白10YR8/2	外面:緑				
SX2008	262	陶	餌入		口:4.80 高:4.40 底:4.20	中	灰白2.5Y8/1	外面:明緑 内面:淡黄2.5Y8/4	上絵:金?	外面:陽刻		
SX3001	263	陶	蓋		底:10.8	細	灰白5Y8/1	内外:黄褐2.5Y5/6～暗赤褐5YR3/6(黄緑)		外面:陽刻		源内焼
SX2008	264	陶	餌入		口:5.50 高:3.00 底:3.80	中	灰白10YR8/2	外面:淡明緑 内面:淡黄2.5Y8/3		外面:陽刻		
SX2008	265	陶	皿		底:7.60	中	灰白2.5Y8/1	天井部:黄5Y7/8 外面:明緑、淡黄2.5Y8/3	上絵:金・茶	外面:陽刻		
SX3001	266	陶	皿		口:26.20 高:4.55 底:13.80	細	灰白2.5Y8/2	内外:明緑				源内焼
SX2008	267	陶	火入			細	灰白10YR7/1	内外:極暗赤褐2.5YR2/2 オリーブ灰10Y6/2 内上半:極暗赤褐2.5YR2/2				口縁端部に敲打痕有
SX2008	268	陶	火入		口:11.00	細	灰白2.5Y8/1	内外:黒褐5YR2/1				
SX2008	269	陶	把手?			細	灰白10YR7/1	内外:灰オリーブ7.5Y6/2	釉掛:明緑、灰白5Y8/2			理兵衛焼?
SX2008	270	陶	把手			細	把手部:灰白2.5Y7/1 体部:橙5YR6/6	把手部・外面:灰白7.5Y7/2				
SX2008	271	陶	蓋		最大径:9.10 高:3.05 底:6.60	細	淡黄2.5Y8/3	外面:明緑				
SX2008	272	陶	碗		底:4.00	細	灰白2.5Y8/1	内外:暗赤褐2.5YR5/8				
SX2008	273	陶	把手付鍋		口:15.50 高:6.70 底:5.60	細	灰白2.5Y8/2	外面:灰黄褐10YR5/2 内面:浅黄2.5Y7/4				被熱痕有
SX2008	274	陶	把手付鍋		口:10.00	細	灰白5Y7/1	内外:暗赤褐5YR3/4				
SX2008	275	陶	把手付鍋		口:19.60	細	灰白5Y7/1	内外:暗赤褐5YR3/4				
SX2008	276	陶	花生		最大径:8.9 底:8.4	細	灰白2.5Y8/2	外面:淡黄5Y8/3、灰白10Y7/2				

第168図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その31）

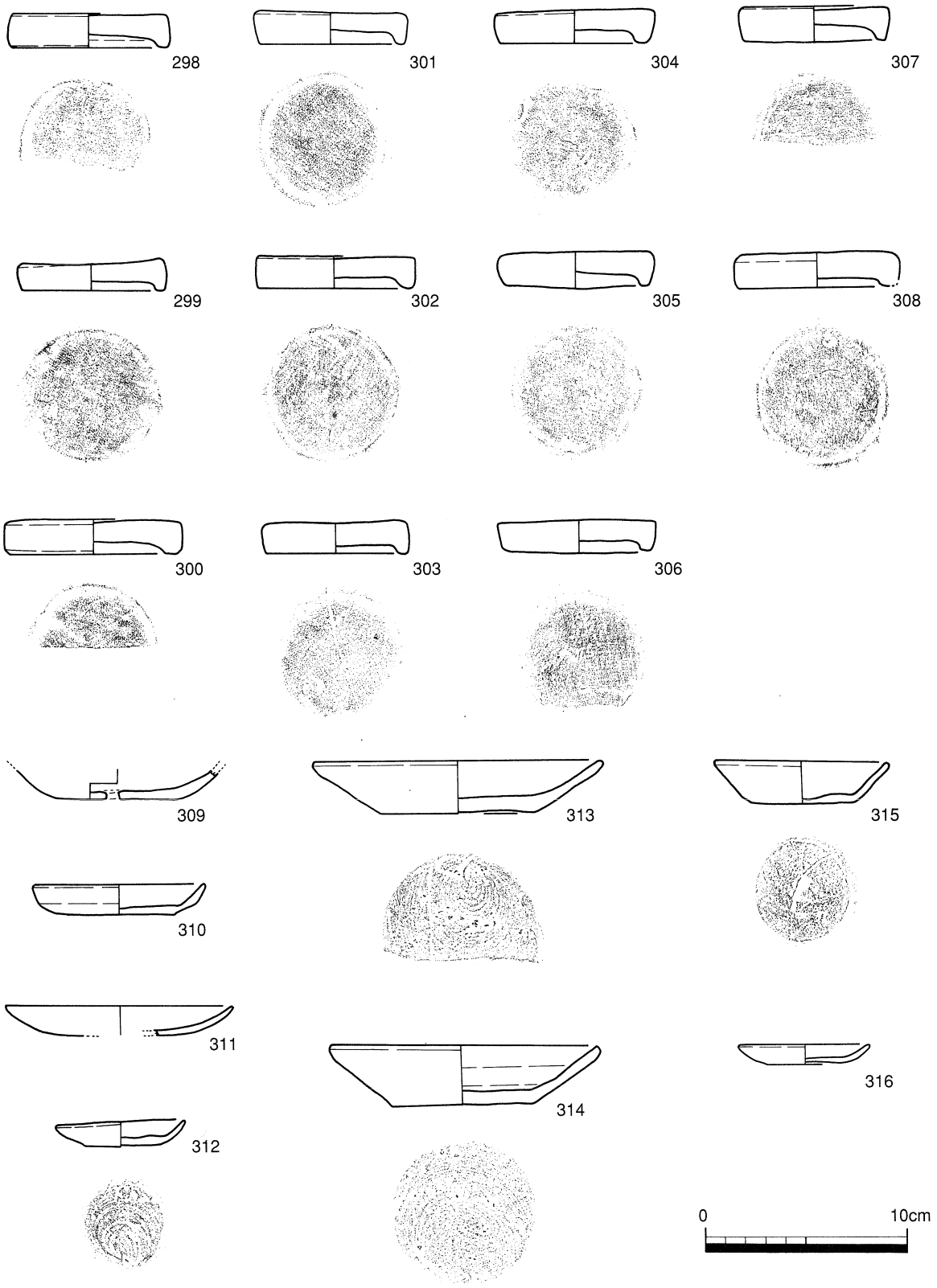


遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	277	陶	蓋	琨平	最大径:10.0 高:0.96 底:8.0	細	灰白2.5Y8/2					
SX2008	278	陶	髪水入れ	京・信	器高:3.00	細	黄灰2.5Y6/1	内外:灰オリーブ5Y6/2	鉄絵:オリーブ黒5Y3/2			底部に墨書「ステ」?
SX2008	279	陶	火入		口:8.00	細	灰白2.5Y8/2	外面:灰白10Y7/2				
SX2008	280	陶	香炉		口:8.00 高:5.10 底:4.90	細	灰白2.5Y8/2	外面:淡黄2.5Y8/3				
SX2008	281	陶	水滴			細	灰白2.5Y7/1	外面:灰白10Y7/1	とっくり部:黒10YR2/1			
SX2008	282	陶	蓋		最大径:10.5 器高:2.3 底:9.5	細	浅黄橙7.5YR8/3	外面:暗赤褐5YR3/3				
SX2008	283	陶	段重	京・信	口:6.40 高:3.50 底:4.00	細	灰5Y6/1	内外:灰白10Y7/2				
SX2008	284	陶	甕		口:16.6	細	橙2.5YR6/8	外・内口縁部:赤褐10R4/3				
SX2008	285	陶	水滴		口:23.7 高:27.3 底:14.2	細	赤褐10R4/4	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4 内面:赤褐10R4/4		外面:沈線		

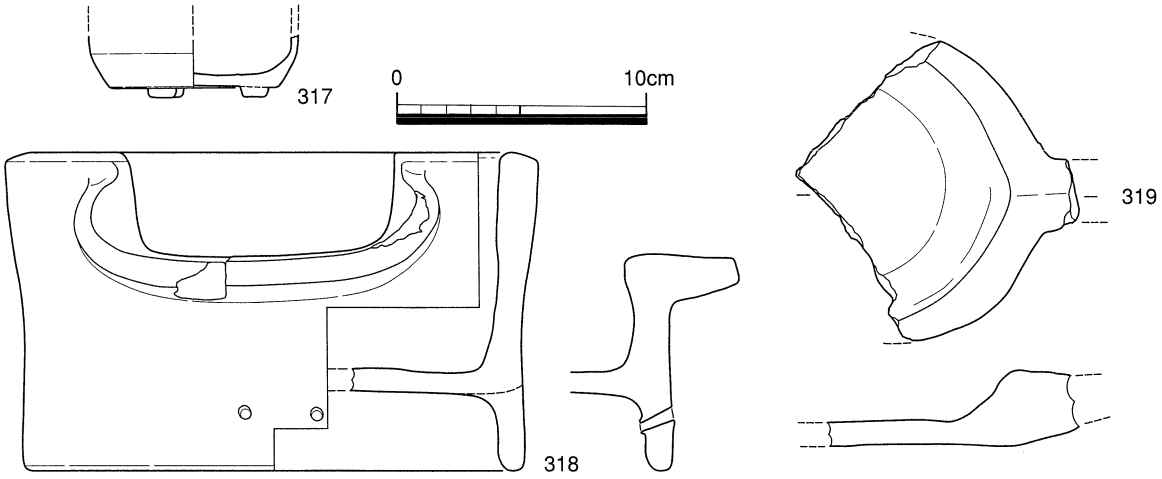
第169図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その32）

遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	286	土師質	焼塩壷		口:5.4 高:7.2 底:6.0	微砂粒	橙5YR7/8	橙5YR7/8		外面:ナデ 内面:布目痕		板づくり,関西系,墨書有り・判読不能
SX2008	287	土師質	焼塩壷		口:5.6 高:8.2 底:4.8	砂粒・赤色粒	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内面:布目痕 外底:板状痕		在地 板づくり
SX2008	288	土師質	焼塩壷		口:7.4 高:7.2 底:5.1	金雲母	橙5YR7/8	橙5YR7/8		外面:板状押さえ 内面:布目痕 外底:板状痕		関西系
SX2008	289	土師質	焼塩壷		口:5.3 高:8.3 底:5.3	金雲母	橙5YR7/6	橙5YR7/6		口縁部:ナデ 内面:布目痕		関西系 板づくり
SX2008	290	土師質	焼塩壷		口:5.2 高:7.4 底:4.8	微砂粒・金	橙5YR7/6	橙5YR7/6		内面:布目痕		接合痕認める 関西系,板づくり
SX2008	291	土師質	焼塩壷		口:4.6 高:7.4 底:4.5	金雲母	橙5YR6/6	橙5YR6/6		外面:板状痕 内面:布目痕		関西系
SX2008	292	土師質	焼塩壷	貝塚	口:6.0 高:7.2 底:5.8	赤色粒	淡橙5YR8/4	淡橙5YR8/4		外面:ロクロナデ 内面:ナデ,布目痕		二重枠「泉州麻生」刻印
SX2008	293	土師質	焼塩壷		口:5.1 高:7.0 底:4.8	石・長・金	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4		内面:布目痕		在地,板づくり 接合痕認める
SX2008	294	土師質	焼塩壷		口:5.1 高:7.3 底:4.7	石・長・金	橙5YR7/6	橙5YR7/6		内面:布目痕 板状押さえ		板づくり 接合痕認める
SX2008	295	土師質	焼塩壷	江戸	口:5.4 高:6.7 底:4.8	細	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		ロクロ成形
SX3002	296	土師質	焼塩壷	江戸	底:5.0	砂粒少	橙5YR7/6	橙5YR7/6		外面:ナデ 外底:回転糸切り		ロクロ成形
SX2008	297	土師質	焼塩壷	江戸	口:5.4 高:6.9 底:5.5	微砂粒	橙5YR7/8	橙5YR7/8		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		ロクロ成形

第170図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その33）

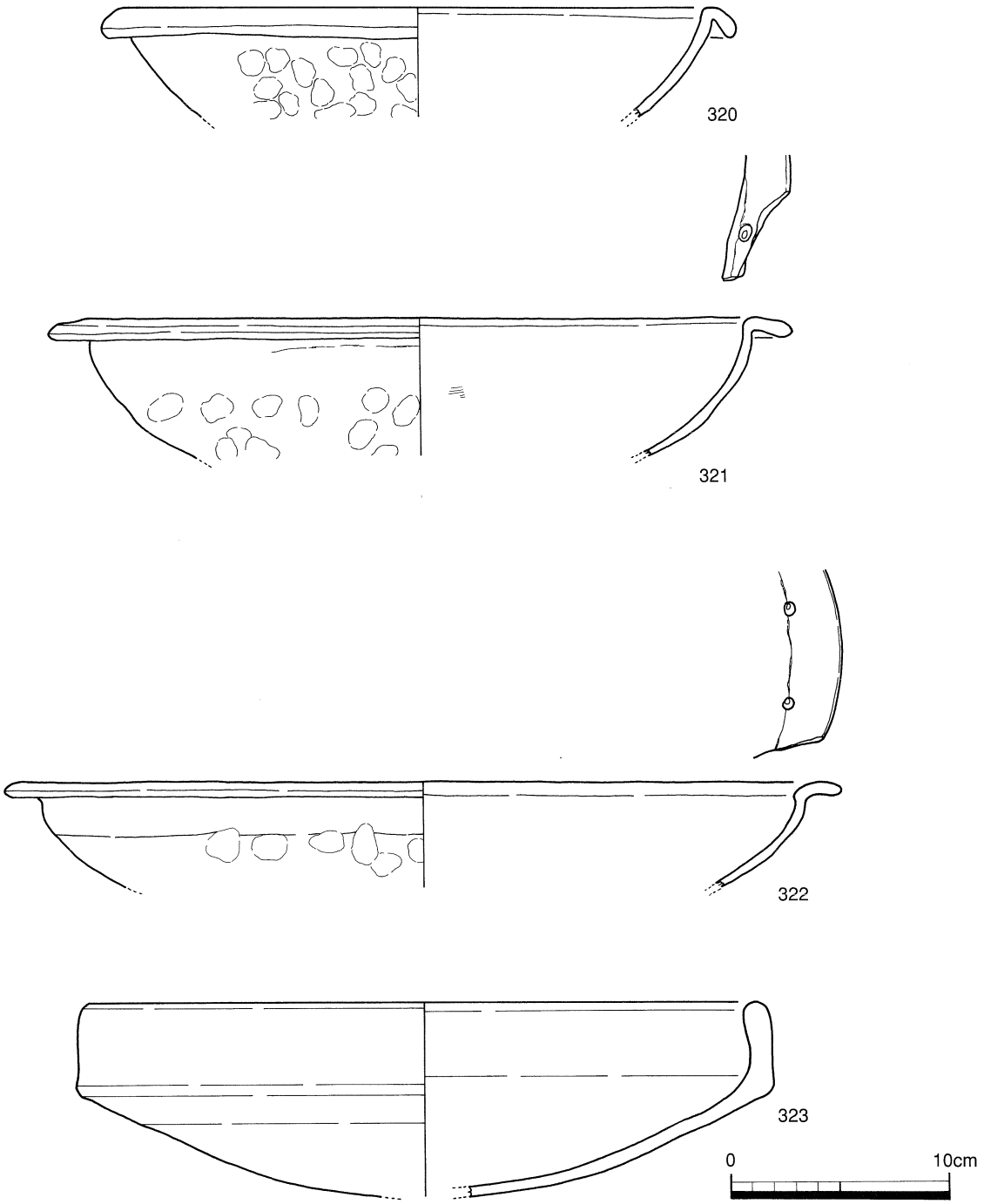


第171図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その34）



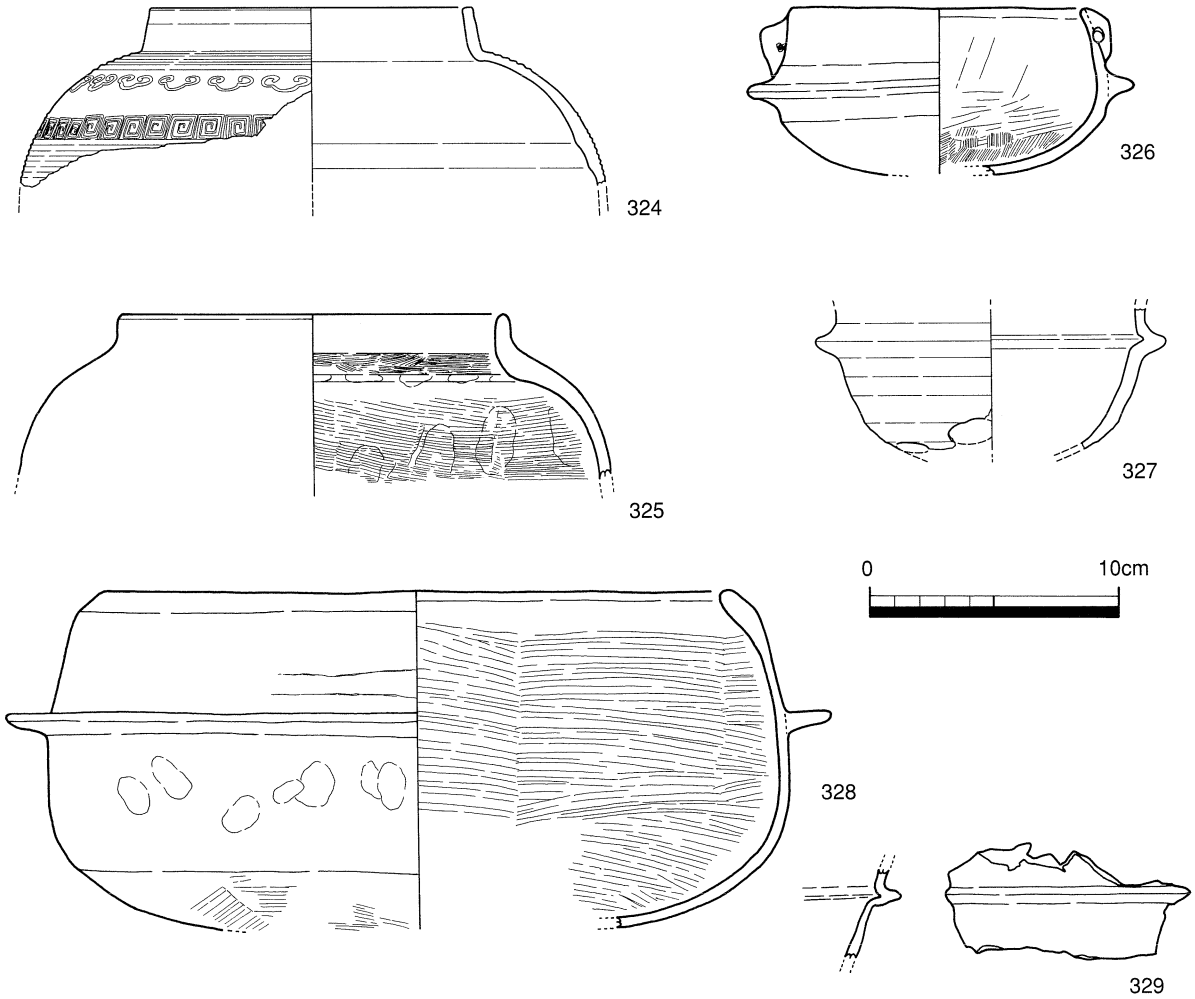
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	298	土師質	焼塩壷蓋		口:6.6、高:1.7	微砂粒	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内面:布目痕		
SX2008	299	土師質	焼塩壷蓋		口:6.6、高:1.6	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		在地
SX2008	300	土師質	焼塩壷蓋		口:6.9、高:1.7	微砂粒	橙2.5YR6/8	橙2.5YR6/8		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		
SX2008	301	土師質	焼塩壷蓋		口:6.6、高:1.6	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		関西系
SX2008	302	土師質	焼塩壷蓋		口:7.3、高:1.5	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		関西系
SX2008	303	土師質	焼塩壷蓋		口:6.2、高:1.6	微砂粒	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		在地
SX2008	304	土師質	焼塩壷蓋		口:6.2、高:1.7	微砂粒	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		在地
SX2008	305	土師質	焼塩壷蓋		口:7.1、高:1.8	微砂粒	橙5YR7/8	橙5YR7/8		外面天井部・外面:ナデ 内面天井部:布目痕		関西系
SX2008	306	土師質	焼塩壷蓋		口:6.4、高:1.5	微砂粒	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		外面天井部:ナデ 外面:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		関西系
SX2008	307	土師質	焼塩壷蓋		口:6.2、高:1.7	微砂粒	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4		外面・外面天井部:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		
SX2008	308	土師質	焼塩壷蓋		口:7.2、高:1.7	赤色粒	橙5YR7/6	橙5YR7/6		外面天井部:ナデ 外面:ロクロナデ 内面天井部:布目痕		関西系
SX2008	309	土師質	皿		底:5.8	精良	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		外底:回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ		内面と断面に煤付着、底部に穿孔
SX3001	310	土師質	皿		口:8.3、高:1.5 底:5.3	細	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		内外:磨滅(ロクロナデ) 外底:回転糸切り		口縁部に2次焼成の痕跡
SX2008	311	土師質	皿		口:11.2、高:1.4	中	橙2.5YR7/8	橙2.5YR7/8		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:ヘラケズリ		
SX2008	312	土師質	皿		口:6.3、高:1.4 底:3.7	赤色粒	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX2008	313	土師質	皿		口:14.0、高:2.5 底:7.6	微砂粒・赤色粒	橙5YR7/6	橙5YR7/6		内・外口縁部:ロクロナデ 外底:回転糸切り		内外面に煤付着
SX2008	314	土師質	皿		口:13.2、高:3.1 底:7.0	細	橙5YR7/8	橙5YR7/8		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX3001	315	土師質	皿		口:8.5、高:2.3 底:5.0	石・長・金	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		内外:ロクロナデ 外底:回転糸切り		
SX2008	316	陶	皿		口:8.0、高:1.4 底:3.2	細	灰5Y6/1	灰5Y6/1		内・外口縁部:ロクロナデ 内面:ケズリ、回転糸切り		口縁内外に煤付着
SX2008	317	土師質	香炉底部		底:3.40	細	赤褐5Y4/8			底部下半:ミガキ		底部に墨書有、判読不能
SX2008	318	土師質	焜炉上部片		口:19.0 高:12.6 底:19.0	微砂粒	にぶい橙7.5YR	外面:赤10R4/8 内面:にぶい橙7.5YR6/4				焚口周辺に二次焼成の痕跡
SX2008	319	土師質	十能			微砂粒少	暗赤褐5YR5/6	内外:暗赤褐5YR5/6				

第172図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その35）



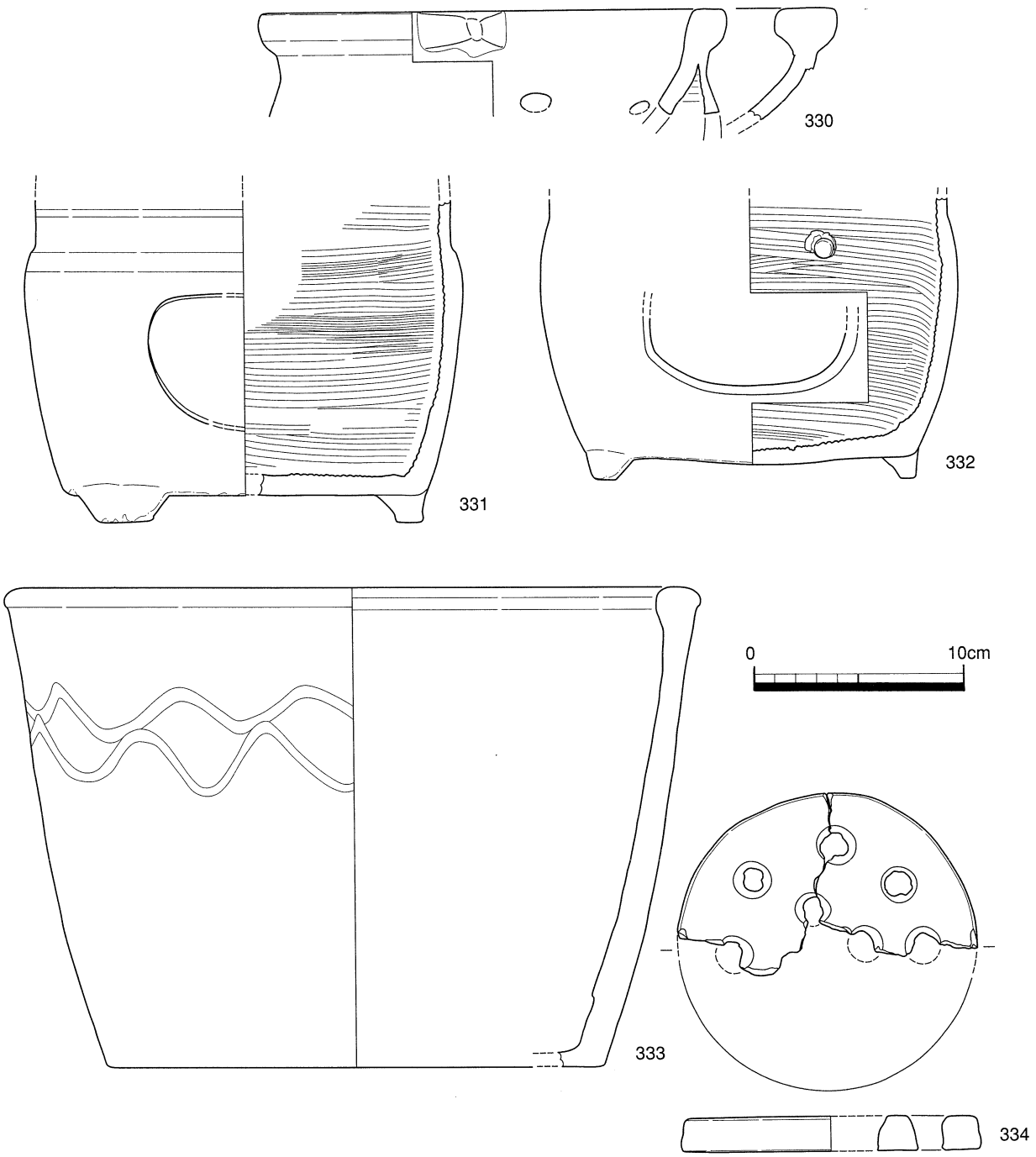
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	320	瓦質	焙烙		口:25.9	微砂粒	黒5Y2/1	黒5Y2/1		内外口縁・内面:ロクロナデ 外面:指押さえ、煤付着		
SX2008	321	瓦質	焙烙		口:30.6	微砂粒 無		外面:黄灰2.5Y4/1 内面:暗灰N3/0		内外口縁・内面:ロクロナデ 外面:指押さえ		
SX2008	322	瓦質	焙烙		口:36.8	微砂粒 少		外面:黒10YR2/1 内面:灰褐7.5YR5/2				
SX2008	323	土師質	焙烙	関西系	口:30.4 高:8.9	微砂粒・ 赤色粒	橙5YR7/6	橙5YR7/6		内底:ロクロナデ		内面に煤付着、口縁端部上面に穿孔2ヶ所

第173図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その36）



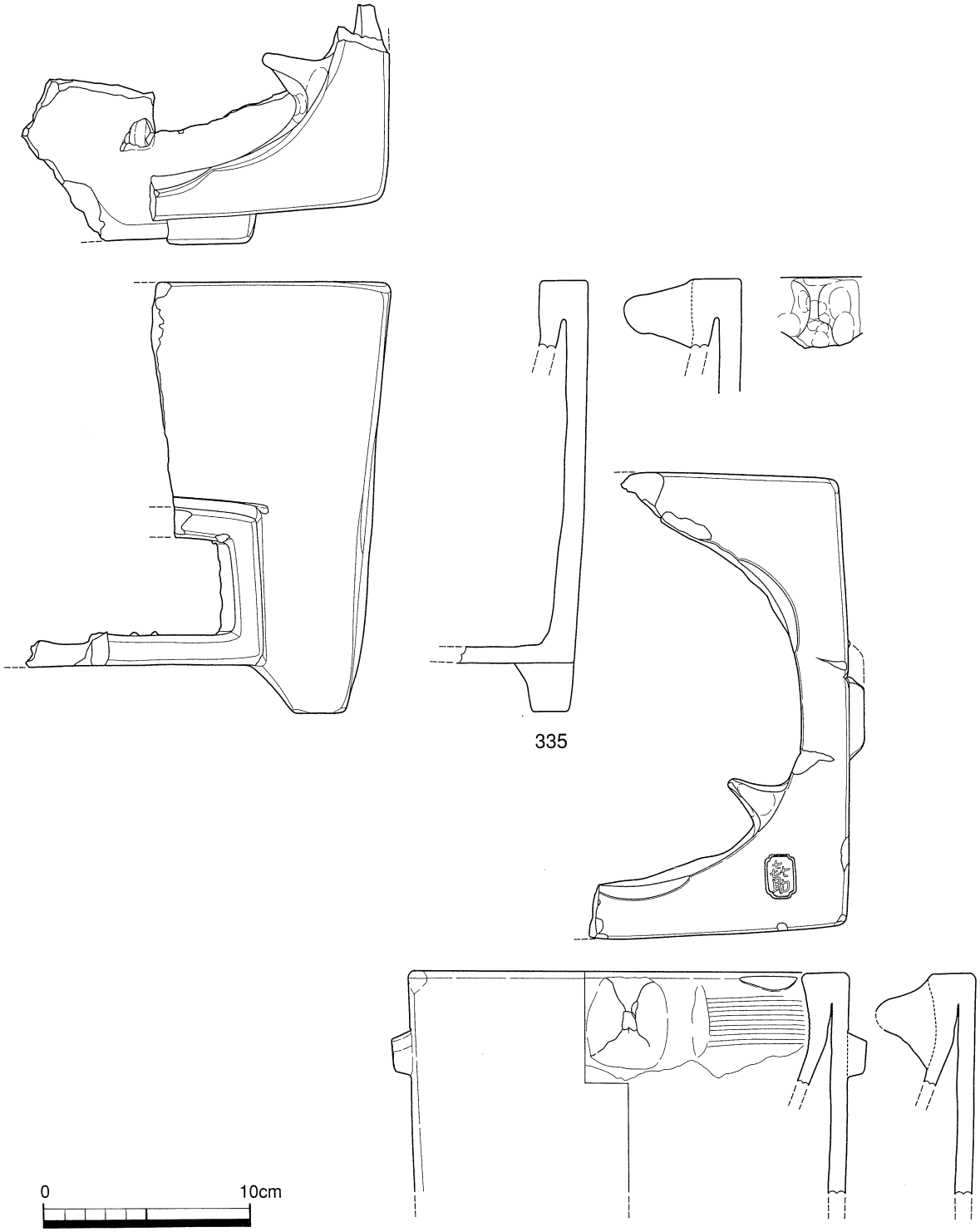
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	324	瓦質	茶釜		口:12.6	中	にぶい橙5YR7/4	外面:黒10YR1.7/1 内面:黒褐7.5YR3/1		外面:陽刻		
SX2008	325	瓦質	茶釜		口:15.0	微砂粒少		外面:褐灰5YR4/1 内面:黄灰2.5Y6/1		内面口縁・外面:ロクロナデ		煤付着
SX2008	326	瓦質	羽釜		口:11.5	石英・長石	黒5Y2/1	黒5Y2/1		外面:ナデ 内面:ナデハケメ		
SX2008	327	土師質	土鍋		最大径:14.00	微砂粒	にぶい褐7.5YR5/4	にぶい褐7.5YR5/4		外体下半:ケズリ		
SX2008	328	瓦質	羽釜		口:24.5	砂粒		外面:黄灰2.5Y4/1 内面:にぶい赤褐5YR5/4		外面:ハケメ、ロクロナデ、指押さえ 内面:ハケメ、ロクロナデ		
SX2008	329	土師質	土鍋			微砂粒	にぶい赤褐5YR5/4	にぶい赤褐5YR5/4		外面:ロクロナデ、ヘラケズリ 内面:ロクロナデ		穿孔1ヶ所

第174図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その37）



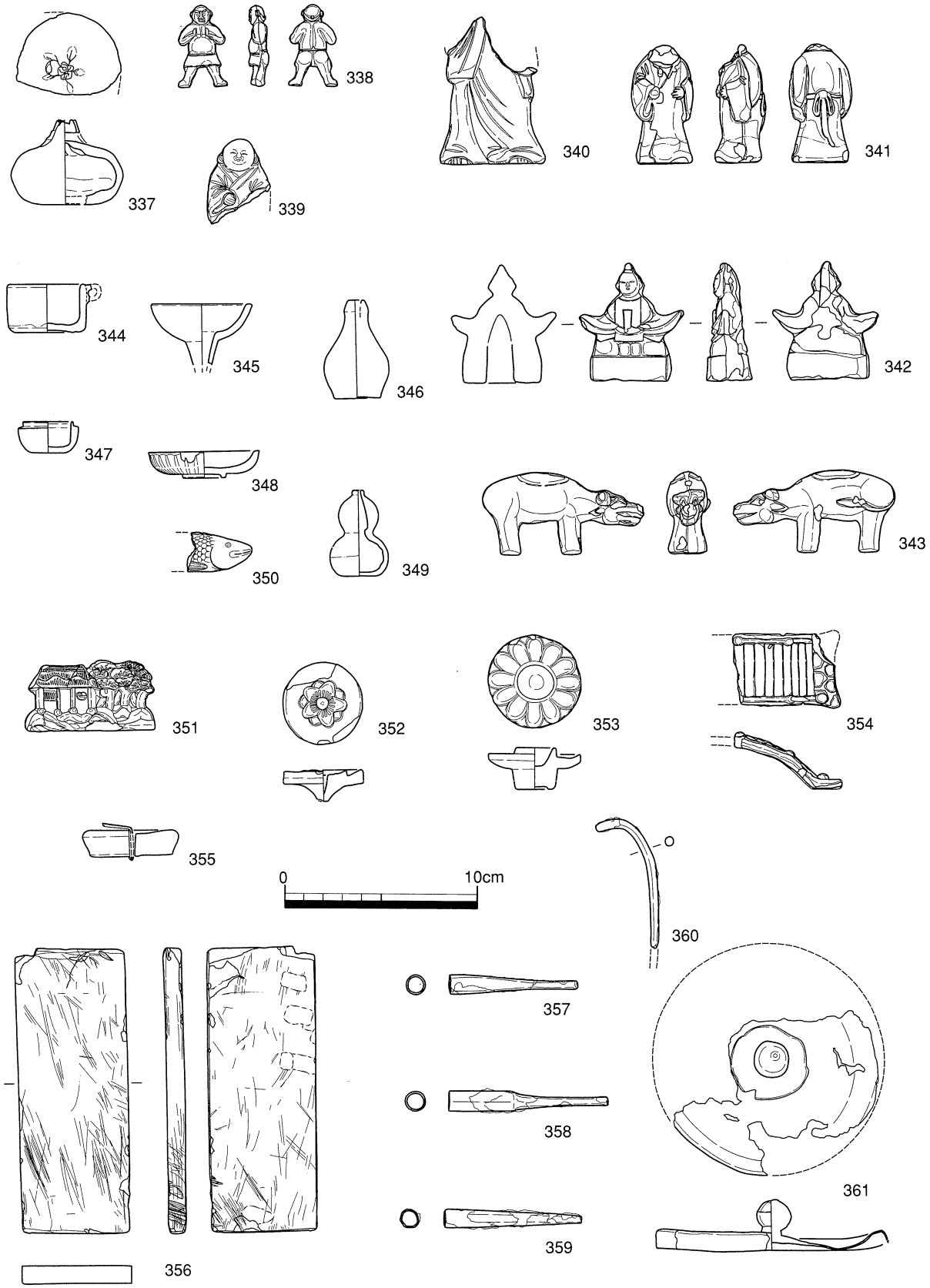
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	330	土師質	焜炉		口:20.60 高:4.95 底:20.00	微砂粒	にぶい褐7.5YR5/4	外面:灰白2.5Y8/1				
SX2008	331	土師質	焜炉		底:17.00	微砂粒	にぶい褐7.5YR6/3	外面:灰白10YR8/2				
SX2008	332	土師質	焜炉		底:15.00	微砂粒	にぶい褐7.5YR5/4	外面:浅黄2.5Y7/3 内面:にぶい褐7.5YR5/4				
SX2008	333	土師質	甕		口:33.4 高:22.65 底:23.6	微砂粒	にぶい褐7.5YR5/4	内外:にぶい褐7.5YR5/4		外面:波状文 内面:工具痕,板状ナデ		
SX2008	334	土師質	目皿		最大径:14.00 高:1.70	細	橙5YR6/6	橙5YR6/6				

第175図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その38）



遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	335	土師質	焼炉			微砂粒	橙5YR6/6	内外:橙5YR6/6		外底部:ハケメ,内面:ハケメ,指押さえ,指ナデ		
SX2008	336	土師質	焼炉		口:20.60	砂粒	橙5YR6/6	内外:橙5YR6/6				外面にキラコ付着「点助」銘有

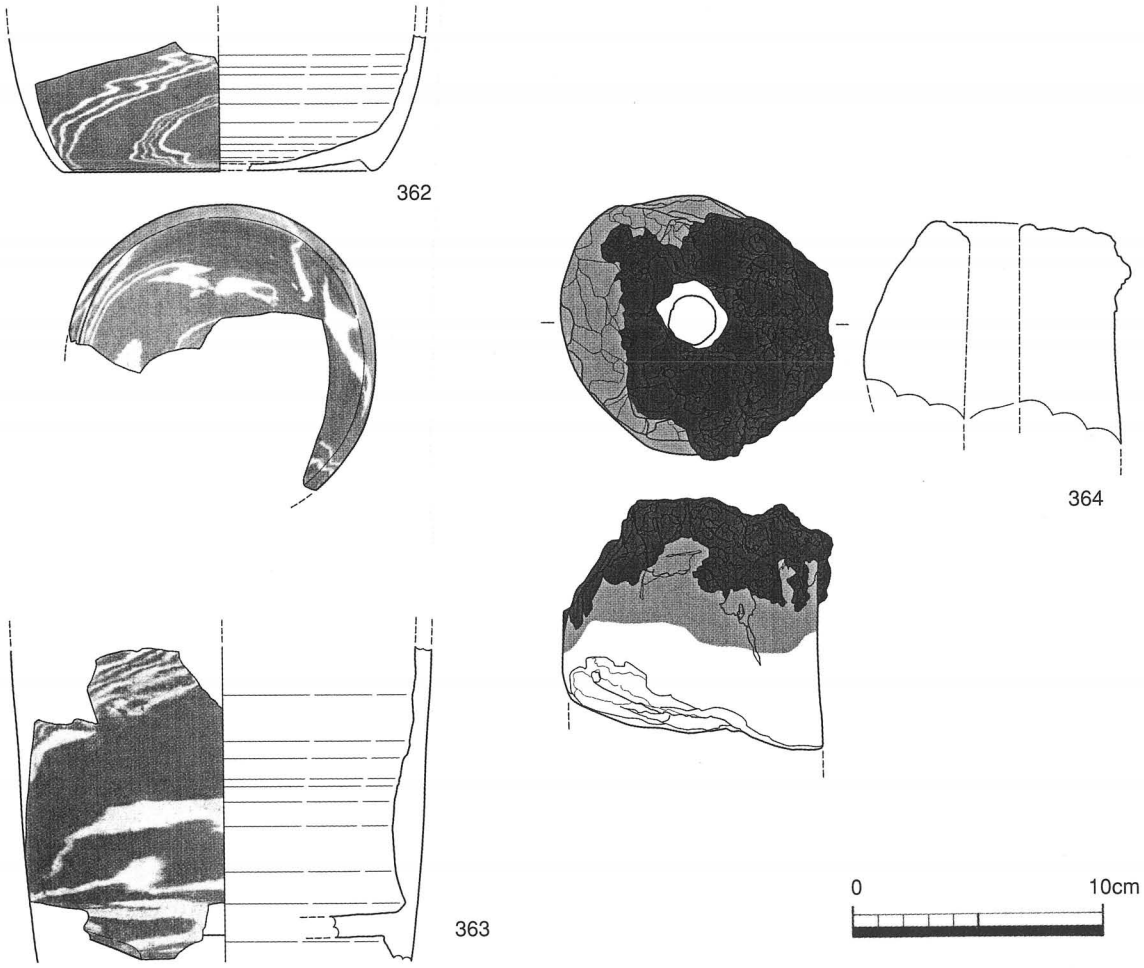
第176図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その39）



第177図　SX2008出土遺物実測図（その40）

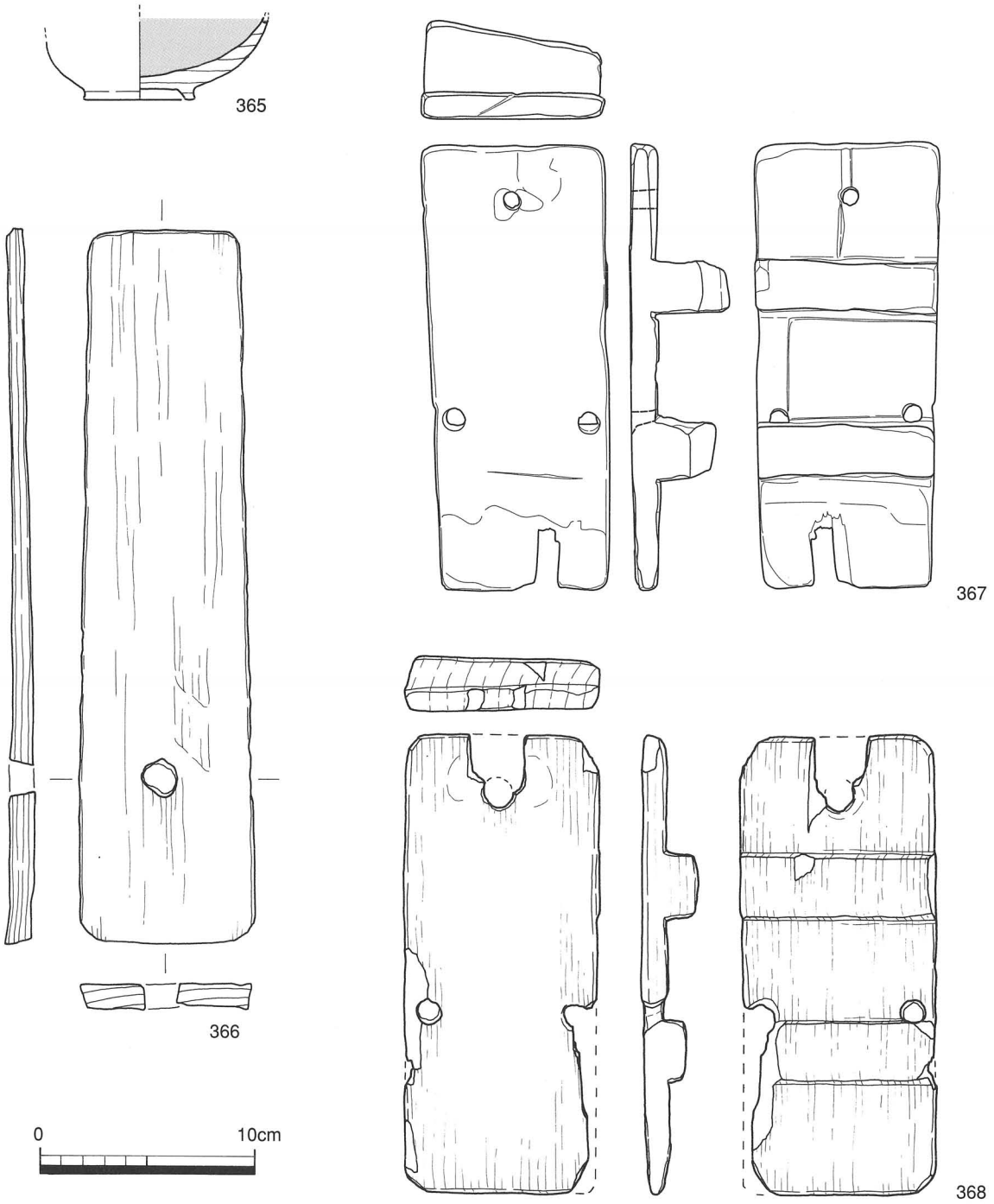
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX3001	337	土師質	土鈴		器高:4.35	細	にぶい黄橙10YR7/3					土鈴
SX2008	338	土師質	人形			細	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2				表面にキラコ付着 前後型合わせ
SX2008	339	土師質	人形			細	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2				白色顔料塗布?
SX2008	340	土師質	人形			細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3				白色顔料塗布?
SX2008	341	土師質	人形			細	灰白10YR8/2	にぶい黄橙10YR6/3				一部分,明緑塗布
SX2008	342	土師質	人形			微砂粒	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3				表面にキラコ付着 前後型合わせ
SX2008	343	土師質	人形			細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3				前後型合わせ 赤色顔料付着?
SX2008	344	陶	餌入		口:3.75 高:2.50 底:3.40	細	にぶい黄橙10YR7/2	内外:灰白10Y7/2				底部,回転糸切り
SX2008	345	土師質	土製品			細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3				キラコ付着
SX2008	346	土師質	ままごと道具		口:0.75 高:5.05 底:2.40	細	浅黄橙7.5Y8/4	浅黄橙7.5Y8/4		底部:回転ヘラ切り		
SX2008	347	磁	ままごと道具		口:2.50 高:1.60 底:1.65	微	灰白色	内外:灰白N8/1				
SX2008	348	陶	ままごと道具		口:5.80 高:1.35 底:2.00	中	灰白10YR8/2	内面一部:明緑				
SX2008	349	陶	ままごと道具		口:5.50 高:4.40 底:1.60	中	にぶい黄橙10YR7/3	外面:にぶい黄褐10YR5/3				
SX2008	350	土師質	人形			細	灰白7.5YR8/2	灰白7.5YR8/2				暗赤褐5YR3/2塗布?
SX2008	351	土師質	箱庭セット			細	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3				赤色顔料,塗布キラコ付着,前後型合わせ
SX2008	352	土師質	土製品		最大径 :4.10	中	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3				キラコ付着
SX2008	353	土師質	土製品		器高:2.15 底:1.80	細	橙5YR6/6	橙5YR6/6				キラコ付着
SX2008	354	土師質	箱庭セット			細	浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3				キラコ付着
SX2008	355	土師質	蓋		つまみ部:4.10 高:1.30 底:4.20	細	にぶい黄橙10YR7/3	内外:にぶい黄橙10YR7/3				青銅製の金具有
SX2008	356	石	砥石		長:14.6 短:5.7 厚:1.0							
SX3001	357	金属	煙管		最大長:6.6 最大幅:1.0 最大厚:0.1							銅製
SX3001	358	金属	煙管		最大長:8.2 最大幅:1.05 最大厚:0.1							
SX3001	359	金属	煙管		最大長:7.1 最大幅:1.0 最大厚:0.08							
SX2008	360	金属	釘		最大長:6.7							
SX2008	361	金属	蓋		最大径:12.0 高:2.7							銅製蓋

第178図　SX2008出土遺物観察表



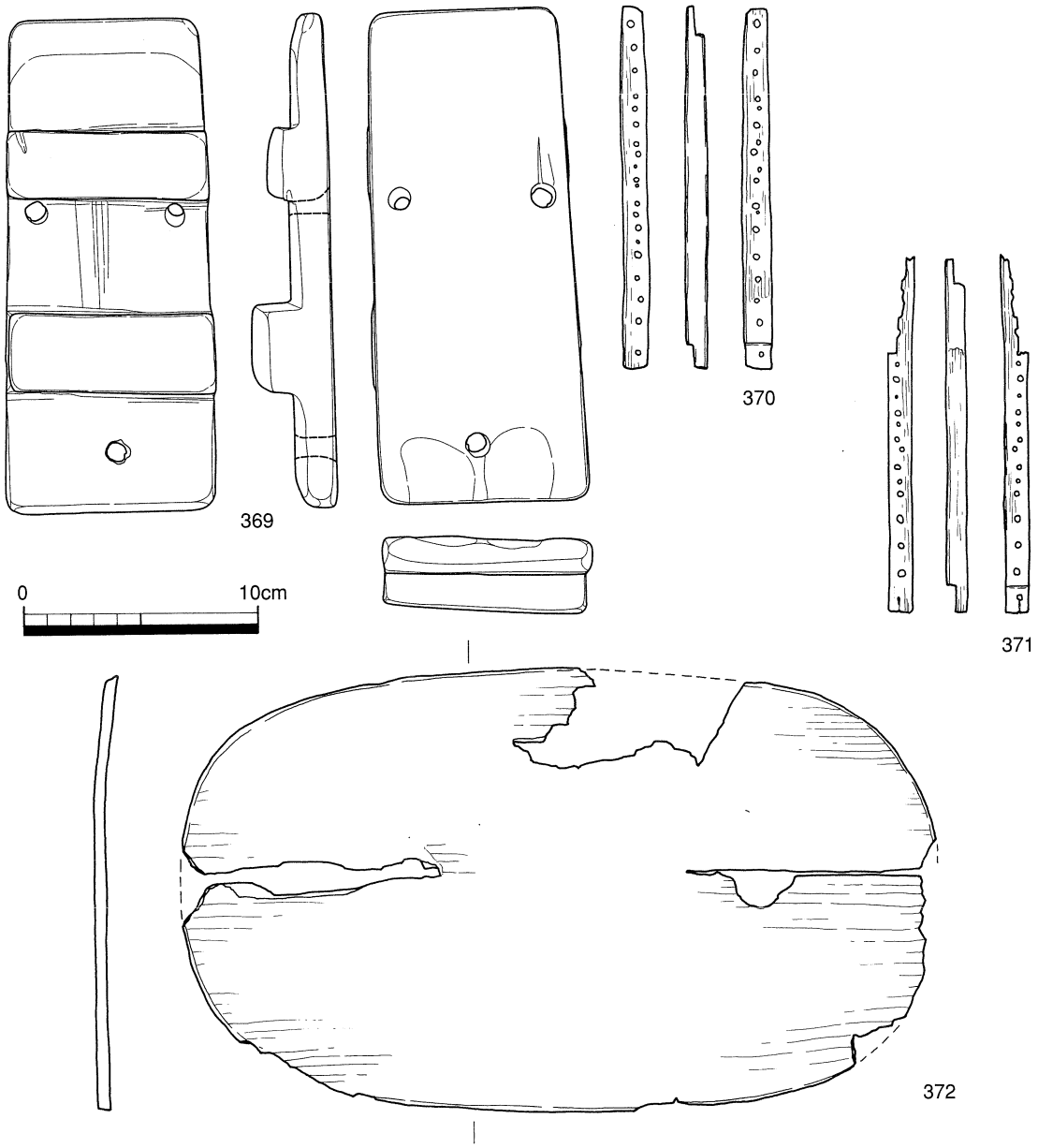
遺構名	報文番号	遺物種別	器種	産地	法量(cm)	胎土	色調1(胎土)	色調2(釉薬、内外色調)	色調3(呉須、上絵)	調整	製作年代	備考
SX2008	362	陶	底部		底:12.20	細	灰黄2.5Y7/2、赤褐5Y4/8	灰黄2.5Y7/2、赤褐5Y4/8		外面:ミガキ		
SX2008	363	陶	底部			細	灰黄2.5Y7/2、赤褐5Y4/8	灰黄2.5Y7/2、赤褐5Y4/8		外面:ミガキ		
SX2008	364	土師質	羽口			細	明赤褐5YR5/6	明赤褐5YR5/6				先端部は溶着のため変色

第179図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その41）



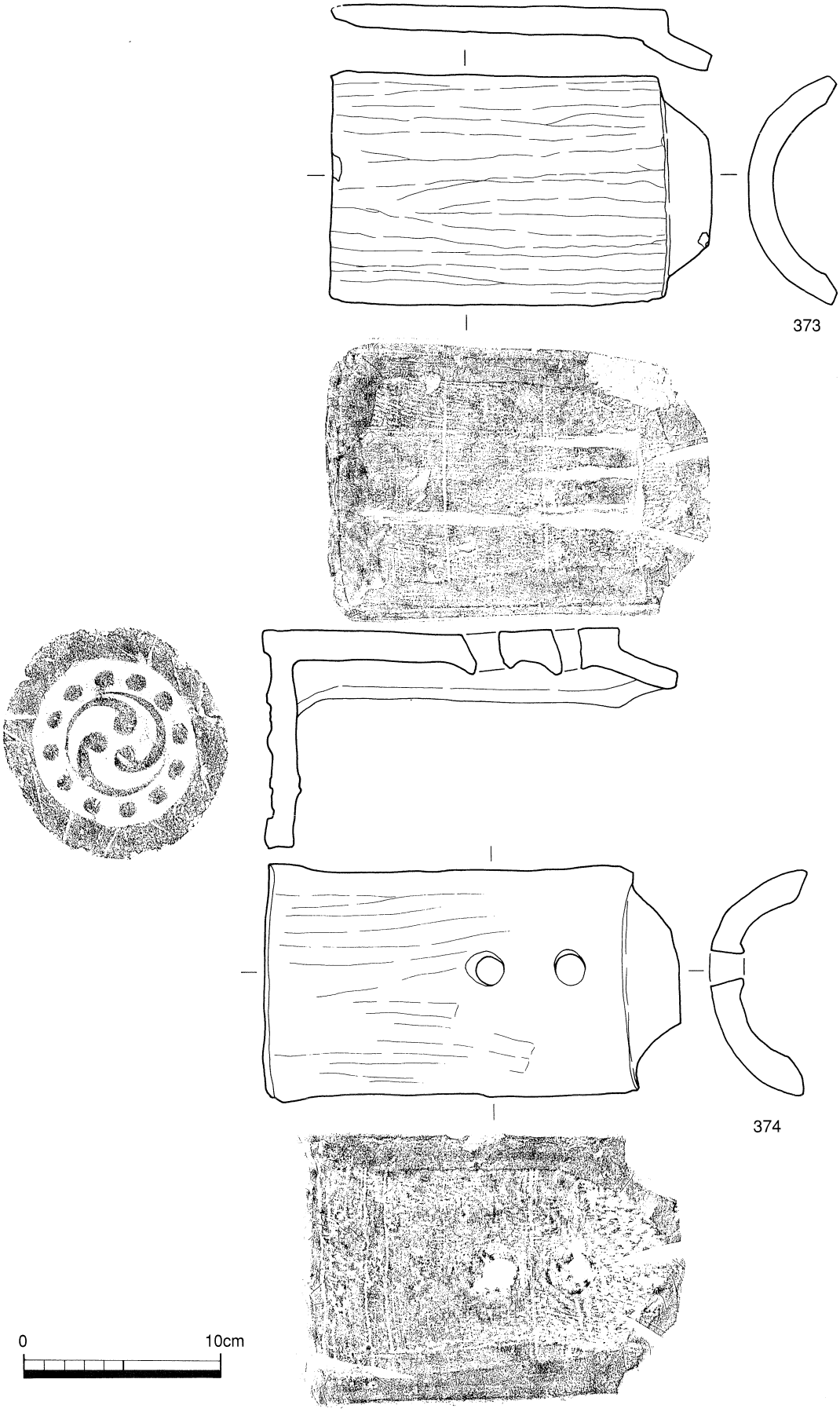
遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3001	365	椀	底:5.0					漆器:全体にひずみ 外面:赤漆,内面:黒漆	28
SX2008	366	木製品		32.5		8.1	1.1		
SX3001	367	下駄	20.5			8.5	4.5		
SX3001	368	下駄	21.1			8.9	2.5		

第180図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その42）

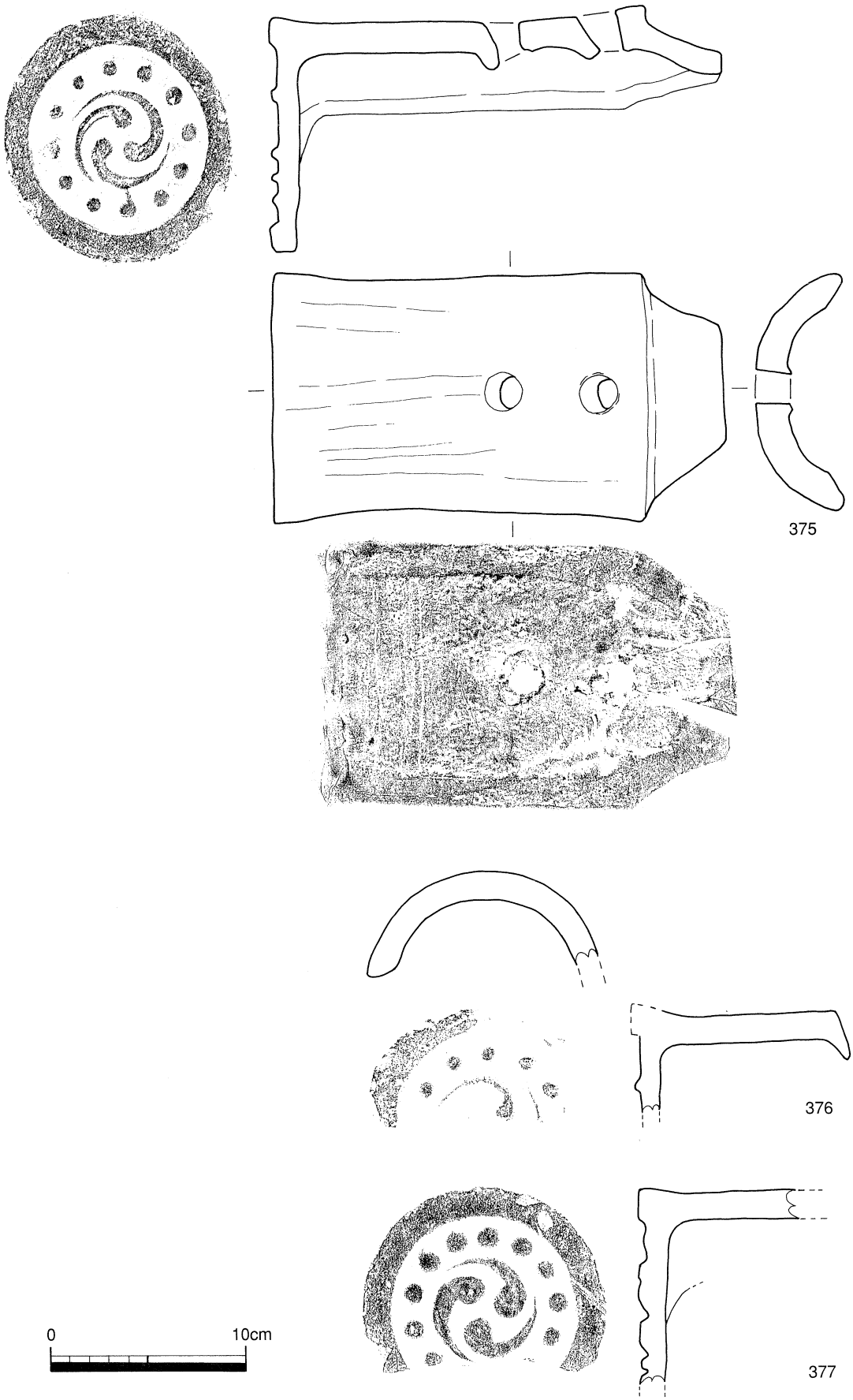


遺構名	報文番号	名称	長さ(cm)	残存長(cm)	幅(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	備考	サンプル番号
SX3001	369	下駄	20.8			9.0	3.2	連歯	
SX3001	370	木製品		15.3		1.2	1.0		
SX3001	371	木製品		15.0		1.0	1.0		
SX3001	372	木製品		32.1		18.4	0.6		

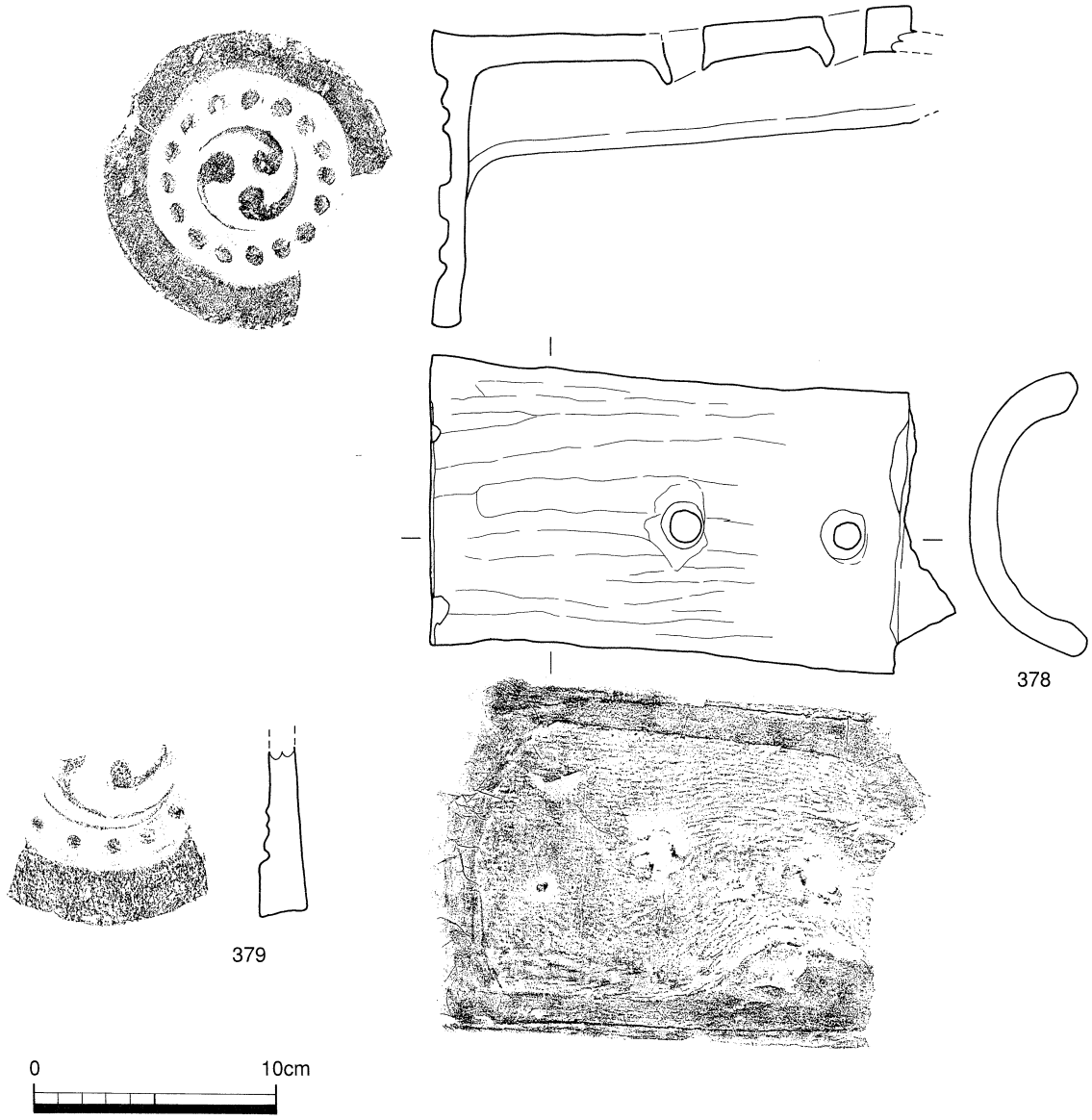
第181図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その43）



第182図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その44）

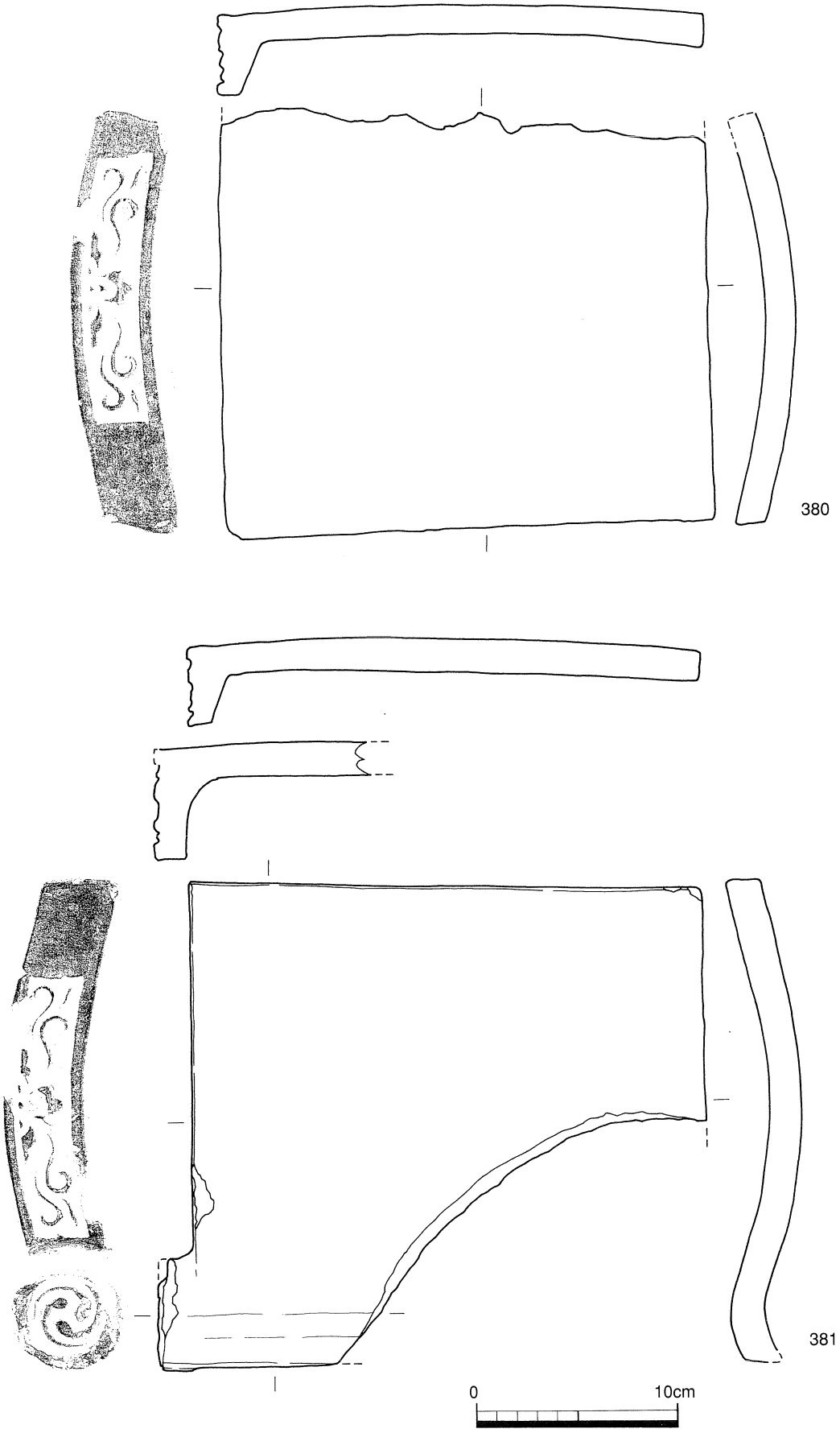


第183図　SX2008出土遺物実測図（その45）

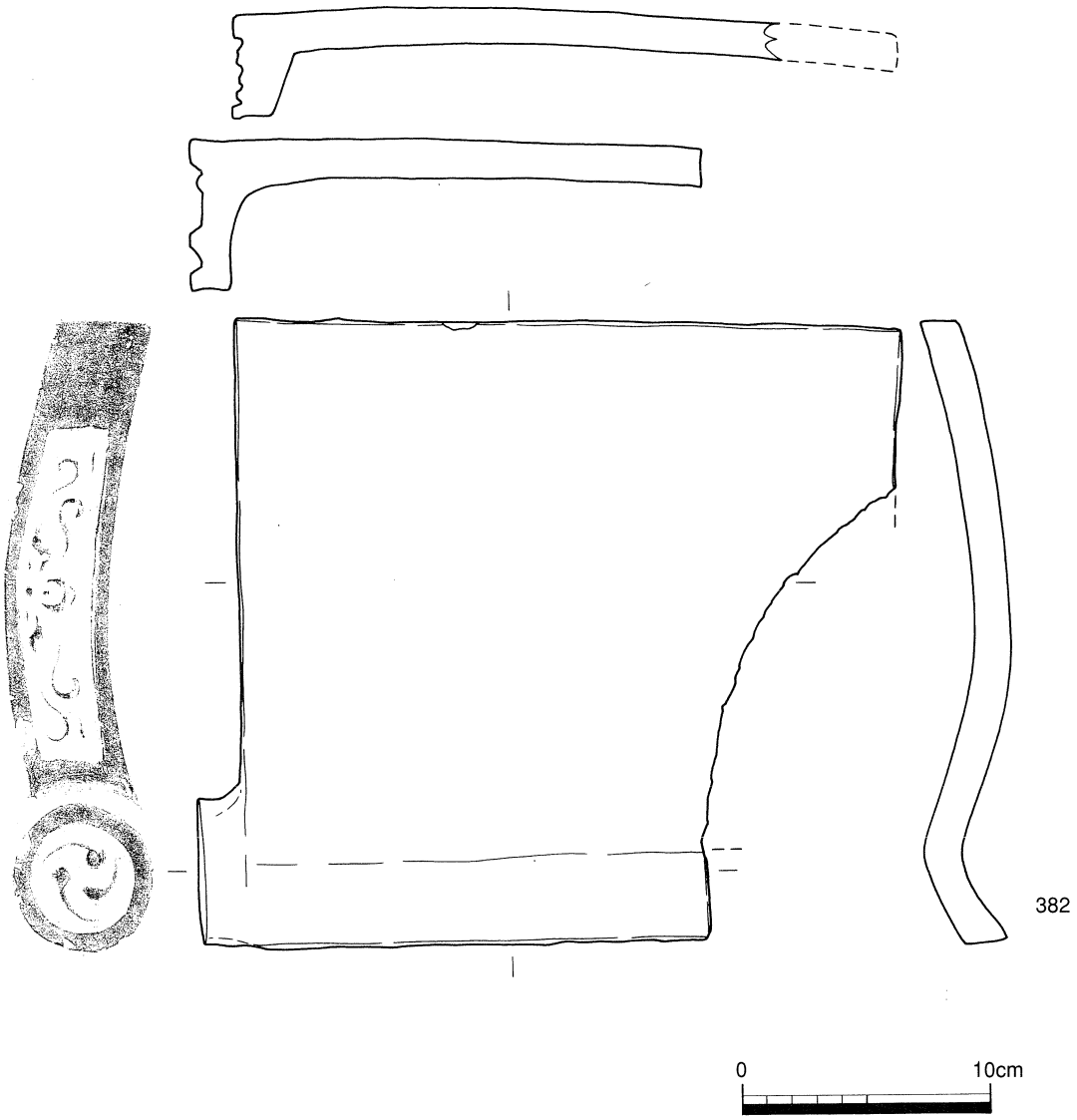


遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX2008	373	丸瓦	19.2	1.3	11.5	砂礫少	浅黄2.5Y7/2	暗灰N3/0	コビキB，ゴザ状痕 ヘラ状痕	板ナデ	良	
SX2008	374	軒丸瓦	21.2	1.7	12.0	砂礫少	灰白10Y8/1	灰N5/0	コビキB ゴザ状圧痕	板ナデ	良	巴 被熱
SX2008	375	軒丸瓦	22.9	1.6	12.5	砂礫少	灰白5Y7/1	にぶい黄橙 10YR6/3	コビキB ゴザ状圧痕	板ナデ	良	巴 被熱
SX3001	376	軒丸瓦	—	1.4	—	砂礫少	灰N6/0	灰白N7/0			良	巴 被熱
SX3001	377	軒丸瓦	8.0	1.5	—	砂礫少	灰N7/0	灰白N4/0			良	巴 キラコ付着
SX3001	378	軒丸瓦	19.9	1.2	11.6	砂礫少	灰N6/0	灰N4/0	ゴザ状圧痕 コビキB	板ナデ	良	巴，キラコ付着 被熱
SX2008	379	軒丸瓦	—	—	—	砂粒	灰N6/0	灰N4/0			良	巴

第184図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その46）

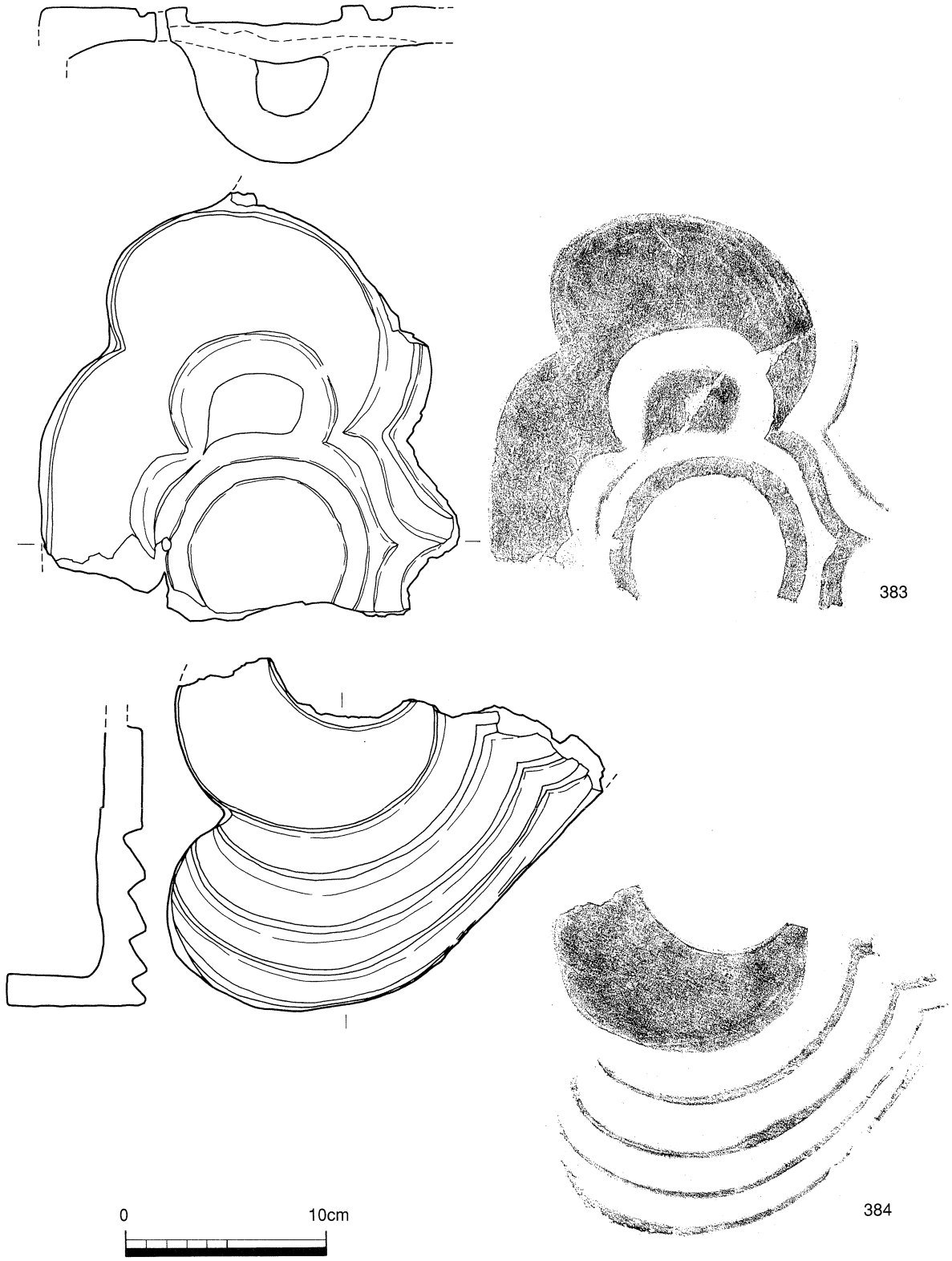


第185図　SX2008出土遺物実測図（その47）



遺構名	報文番号	遺物種別	法量(cm)			胎土	色調		調整		焼成	備考
			長さ(現存長)	厚さ	幅(現存幅)		断面	器面	内面	外面		
SX2008	380	軒平瓦	24.2	1.5	21.0	砂礫少	灰白N7/0	灰N4/0	—	—	良	キラコ付着
SX3001	381	軒桟瓦	25.4	1.8	23.7	砂礫少	灰白7/0	灰N4/0			良	被熱 キラコ
SX3001	382	軒桟瓦	26.5	1.6	24.8	砂礫少	灰白N7/0	灰白N7/0			良	被熱 キラコ
SX3001	383	鬼瓦	20.8	2.0	21.0	砂礫少	灰白2.5Y8/1	灰N5/0			良	被熱、キラコ付着 接合痕二ヶ所
SX3001	384	鬼瓦	21.6	2.4	17.4	砂礫少	灰白N7/0	灰N4/0			良	被熱 キラコ付着

第186図　SX2008出土遺物実測図・観察表（その48）



第187図　SX2008出土遺物実測図（その49）

SX2010（第188図）

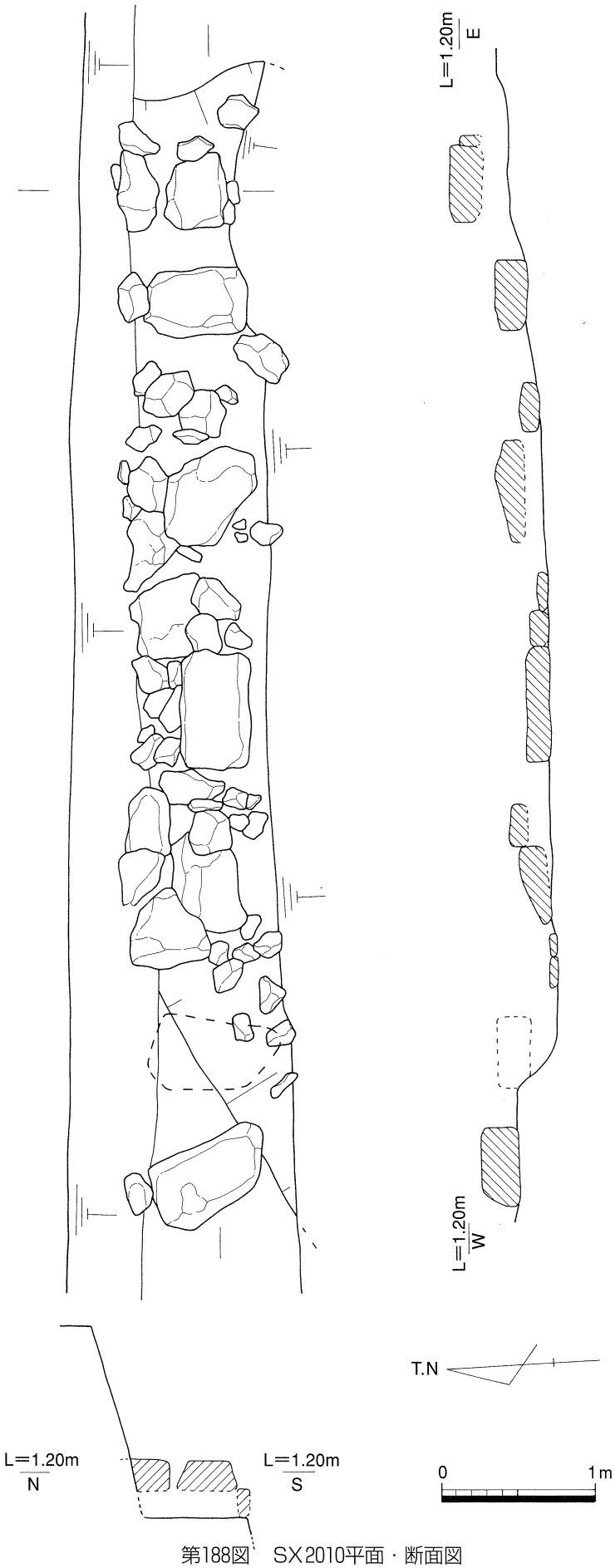
C区北端部第２面で，SX2008に北面して確認した集石状の遺構である。検出した標高は0.96m～1.28m前後を測る。

SX2008に面し，南方向へ傾斜しているため石材の崩落が大きい。調査時には確認しきれなかったが，大振りの石材が認められ，その平面の配置から３ないし４間の建物が想定される。主軸は，N－85°－Wの方位を示す。柱間は約1.2mと推定され，東面には庇があった可能性も考えられる。但し，礎石とするには上面の標高が揃っておらず，SB1001のような石を積み，割石で固定する土台状の構造であった可能性も想定される。

所属時期は，出土遺物及び検出状況からSX2008埋没時には廃絶していたと考えられ，18世紀代を中心とした所産と考えられる。

SX2010出土遺物（第189図）

瓦片のみ出土している。１～４は，軒丸瓦である。巴及び菊丸の瓦当が佐藤編年の様相５に該当し，18世紀前葉の所産と考えられる。



第188図　SX2010平面・断面図